

令和6年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A231007 環境デザイン I	快適な居住間をつくるための方法やポイントについて理解できる。熱の伝わりについて基礎的な事柄を理解できる。光環境の基礎的な事柄を理解できる。 快適で過ごしやすく、省エネを実現できる建築が求められている。これを実現するためには、光、熱、風、音などヒトが感覚的に捉えている要素を量的に把握して、快適性や環境の改善に役立てる必要がある。この講義では建築における暑さ寒さや熱の伝わり方、光の定量的表現や計算方法など環境形成の基礎について学習する。	建築における暑さ寒さや熱の伝わり方、光の定量的表現や計算方法など、パワーポイントや部分的に動画を用いるなどわかりやすい説明を心がけた。照度計を用いた、照度計測の体験なども行った。計算問題などは、回答時間を確保するとともに、丁寧な解説を行った。	省エネに関する知識、計算は、実務でも求められることから、多くの学生の理解が得られるよう対応したい。作業など手を動かして取り組める内容を工夫してゆきたい。	授業評価4.32 回答率75.0% 科目GPA1.81
A231018 木造設計演習	木造建築の設計方法の基礎を理解できる。軸組みの考え方を理解することができる。部材の役割について理解することができる。 木造住宅に用いられる仕口模型の制作を行い、仕組みや部材名称、部材寸法等を立体的、体感的に理解します。さらに木構造における木組み、納まりなどについて講述し、各図面のトレースを行いながら理解を深めます。	木造の軸組を作成する課題に取り組んだ。モデリングスタジオにて、木組みを制作するものであり、難しい部分、手間のかかる部分もあるが、積極的に取り組む様子が見受けられた。時間外で行ってもらう作業もあったが、ほとんどの学生が完成に至ることができた。	進度に個人差があることから、フォローをしながら、丁寧な指導を心がけてゆきたい。前半でのんびりし、期末で慌ただしく作業する傾向がみられることから、バランスのよい時間配分となるよう指導をしたい。	授業評価4.80 回答率28.6% 科目GPA2.71
A231025 卒業研究 I	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	学生それぞれの興味や取り組みたい事柄をプレゼンをしてもらいながら、卒業研究のテーマを定めていった。設定した研究や課題のテーマに関する資料収集、調査、制作などを行った。	学生個々での進度や取り組み状況に差が生じることから、それぞれの状況に応じてしっかりと取り組みができるよう配慮したい。全体に進みがのんびりしていることから、前半での積極的な作業を行うよう指導したい。	授業評価4.65 回答率50.0% 科目GPA3.00
A241001 建築概論	現行授業の目標 建築で学ぶ科目のつながりを理解できる。 建築学でのそれぞれの領域の科目構成を理解できる。 本学での建築学と、建築士資格での領域の構成対応について理解できる。 教育効果 多岐に渡る建築のさまざまな分野についてその内容や、それらの分野が互いにどのような関わりをもつのか、この科目を通して建築学の基礎を理解してもらいます。 建築は、多岐の要素が結びついているため、幅広い知識を身に付ける必要があります。大学教育において「建築学」を学ぶためには、入学した初期の段階で、その多岐に渡った要素についてよく理解し、将来を見据えていくことが重要となります。	教員2名で、半数回ずつ担当した。 建築学全体の科目間のつながりや、その中で学ぶ内容について、理解しやすくなるように工夫した。 建築学では何を学んでいくのか、また、建築家とその建築家が設計した建築を、学べるようにしている。 授業を通して、学生たちの学ぼうとする姿勢がよく伝わってきた。	授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていた。 また建築界で活躍している建築家の作品紹介の回では、建築家の意図や作品の特徴について、写真や図を多く使うように心がけ、見た目でもわかりやすいように工夫した。 今後は、質問や、興味のある内容について、学生からのコメントが出せるように課題プリントに記載できる欄を設けて対応した。	授業評価4.582 回答率86.2% 科目GPA3.68
A241001 建築概論	建築は、多岐の要素が結びついているため、幅広い知識を身に付ける必要があります。大学教育において「建築学」を学ぶためには、入学した初期の段階で、その多岐に渡った要素についてよく理解し、将来を見据えていくことが重要です。 そこで、建築学科の教員による輪講とし、各分野の内容や仕組みについて幅広く知ってもらい、これから建築の勉強を続けていく上でのステップとすることを目的としています。	建築学の入門的な位置付けの講義において、興味を持ちやすい内容や表現を心がけた。	以下は寺嶋担当分についての内容である。 授業評価は概ね良いため、内容・表現については大きな変更の必要はないと考える。 講義室3101のプロジェクトのルーメンが低いので、写真や映像が非常に見づらい点は、施設整備で改善していただきたい。	授業評価4.589 回答率86.2% 科目GPA新井先生が主担当のため未記入
A241002 住宅のづくり	目標 住宅建築の工法や構造などの専門用語を理解することができる。 建築物のありようを理解し、建築構法の作図をすることができる。 教育効果 戸建て住宅や集合住宅で用いられる各種の構法や建築的な特性を含めた概略を知り、建築物がどのようにつくられるかを理解することを目的とします。	建築物の各種構造（鋼構造・鉄筋コンクリート造構造・その他の構造）の特徴や各部の名称などについて、図・写真などを用いて具体的にわかりやすく解説を行った。また授業の後半には、世界の名作住宅を紹介し、住宅建築についての理解を深めることができた。	1年前期の講義であるため、知識だけでなく、住宅建築の見どころや楽しさを伝えるように心掛けていきたい。	授業評価4.607 回答率83.5% 科目GPA2.66
A241002 住宅のづくり	達成目標 住宅建築の工法や構造などの専門用語を理解することができる。 建築物のありようを理解し、建築構法の作図をすることができる。 教育効果 戸建て住宅や集合住宅で用いられる各種の構法や建築的な特性を含めた概略を知り、建築物がどのようにつくられるかを理解することを目的とします。	教員2名での講義授業であり、木造住宅についての講義を担当した。パワポでの講義を中心として行った。資料については、積極的に写真や図解を取り入れたうえで、重要ポイントをマークで示すなどの工夫を行い、学習のポイントをわかりやすく解説した。	授業中にメモをした受講ノートは試験時に持ち込み可としたため、学生は受講ノートへの記入作業が主となり、学生は講義を聴くゆとりがなかったものと思われる。また、メモを取る際には、写真や図については時間を要するため、補足プリントを配布するなど、改善が必要である。授業資料は事前にユニバで配信し、授業中にも確認できるように配慮したが、俯きスマホで資料を確認する学生も多く、今後は検討が必要である。	授業評価4.607 回答率83.5% 科目GPA2.66

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A241003 基礎製図 I	木造住宅の基本的な特性を習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。 学生のお大半は初めて製図を行うので「ベーシックコース」という「線の描き方」から始めるのだが、工業高校などの高校で建築設計製図の授業に関わってきた学生だけは既にそれが出来るため、その学生たちだけを集めた「アドバンスコース」というグループを作り、一戸建ての自由設計を指導した。	建築系工業高校の出身学生（図面が描け、模型も作れる）を対象にした自由設計課題を作成して設計してもらった。岡崎市内の実際の住宅地の敷地を設定し、一戸建てを設計するという課題だが、全員が手書き図面・模型ともしっかりと達成できた。	学校から歩いてはいけない距離の敷地だったので、googleのストリートビューや航空写真を見ながら敷地調査を行ってもらった。全員が高校で設計をして来ただけあり、なかなか良いオリティティになったと感じる。コンセプトを表す図版の表現方法の指導にもっと時間を使えるようにしていきたい。	授業評価4.539 回答率86.2% 科目GPA2.57
A241003 基礎製図 I	達成目標 木造住宅の基本的な特性を習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく知り、記述ができ、平面図・立面図・断面図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。 教育効果 建築図面の表現方法および木造住宅の特性（構造、材料）の基礎的理解を習得する。	エスキースを基本として建築製図の基礎を学ぶ授業であるが、入学前に建築関係の学習経験がある学生はアドバンスコースを選択し、未経験学生はベーシックコースとなる。ベーシックコースを担当し、基礎的な製図の書き方や道具の使い方を、個々の能力に合わせて指導ができた。	ベーシックコースにおいては、個々の能力の差は大きいと感じる。授業が進むにつれ、進度に個人差が生じることから、個別の指導が重要である。エスキースゆえに、単に見本を描きつつ作業になると製図の力には結びつかないが、一定数の学生についてはその傾向が認められる。単なる作業とならない応用課題も追加することが必要である。	授業評価4.539 回答率86.2% 科目GPA2.57
A241004 建築の歴史	達成目標 1. 建築の歴史的な流れを理解できる。 2. 建築様式の違いを理解できる。 3. 日本や海外の建築家と建築作品の組み合わせを正しく理解できる。 教育効果 建築史学は建築学の創立以来、歴史上のあらゆる様式を理解する上で必須の学問とされています。そこでまず、そうした学問的背景と現代社会における役割を理	資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直した。 また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫した。 学生も授業を通じて建築での歴史とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきた。	授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていた。 今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、自分で授業を通じて、成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価4.63 回答率86.4% 科目GPA3.58
A241006 建築計画 II	商業施設・大型店舗の立地性と施設構成・業種構成が理解され、モデルの構築と商業施設計画への応用が出来るまでを達成目標とします。	さまざまな学生が興味を持ちやすく、わかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。また、定期的に授業で使用した教科書の内容を問題化して出題することで、理解を深めに定着しやすようにした。 図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。	カリキュラム・ポリシーに基づいて建築計画での専門性をより高めることを目標とした。 授業内では毎回、ファンズワース邸、サヴォア邸、落水荘、サグラダファミリア、シーグラムビル、フィッシャー邸など世界の名建築を取り上げ、その建築の設計意図をいくつかクイズ形式で質問し、全学生に回答を書かせ、授業内で答えを解説していくという内容にしてみた。学生にとっては教科書を読むよりも頭を使うので面白いようだ。 教員にとっても非常に勉強になるので、名建築の質疑回答のパターンを増やしていきたい。	授業評価4.327 回答率80% 科目GPA2.78
A241008 建築設計演習 I	目標 建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。 教育効果 「建築」「空間」「家族」の関係について考察し、設計に反映できることを目的とします。	池のほりに祖母と夫婦、子供が暮らす二世帯住宅を設計する課題である。教員4名により4グループに分かれ、学生一人ひとりの能力や、進捗状況に応じて指導を行った。自然環境と住まい、人と人との関係性について考えることができた。	エスキースにおいて、一方向の指導ではなく、学生同士がディスカッションし、楽しみながら作品のクオリティを高めしていく環境づくりをしていきたい。	授業評価4.420 回答率71.4% 科目GPA2.50
A241008 建築設計演習 I	建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。	案を決めるにあたって、通常は最も自身が気に入った1案を煮詰めていくのが一般的な方法だが、実際の実務設計では自分の気に入った案が施主に受け入れられることばかりではなく、自身の考えを変えなければならない場面もたくさんある。そのため、本授業では[簡単な配置平面スケッチ+断面スケッチ]を3案考えさせ、その中のどれをなぜ選択して進めるのか、を各学生と打合せしながら設計を進めていった。 1つの課題に対して、なるべくようなアイデアが思いついた方が素晴らしいので、学生にとって良い訓練になったのではないかと考えている。	手書きで図面を仕上げる規定だったので、CAD・Photoshop・イラレ・3DなどのPC作業はできなかったのだが、コンセプトを表す図版の表現方法の指導にもっと時間を使えるようにしていきたい。 また、模型表現をもっと細かく指導できるように、共通事項を決められないかが今後の課題だと思っている。	授業評価 回答率71.4% 科目GPA4.420
A241009 建築CAD I	具体例に沿いながら、CADの基本的な操作方法を習得するとともに、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身につけることを目標とする。 CADシステムを用いて建築設計図面の作図方法を学習し、図面の精度、表現力を高める授業である。具体的に住宅や事務所等の建築について2次元CADによる平・立・断面図等を作成し、さらに作成したデータの加工・編集、プレゼンテーションまでの学習することが期待される。	教員1名で2クラスを受け持ち同様の授業を実施している。必修科目のため受講人数は36名、履修生は積極的に取り組んでくれた。 当初は画面で逐次作業手順を説明し、作業に慣れた時期から、授業開始時に課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法をとした。 学生からの質問や不明点については、全員で問題を共有し、逐次説明を行い素早く解消できたと考える。 毎回の提出物のチェックも行い、間違いを指摘し修正するという作業を繰り返すことで、学生の正確なCAD技術や知識の向上に寄与できた。	科目GPAは2023年度の2.03と比較し低かった。授業評価に関しては、昨年度の4.552より低く、回収率から十分に達成目標を達することができた状況と判断することは難しい。 もう1つのクラスと比較すると授業評価が低いが、科目GPAが0.9程度低いことが要因と考えられる。 CADが不得意な学生にはSAに集中的にフォローさせるなどの方法をとった。操作手順などを適切なタイミングで説明できるように心がけるようにしたい。	授業評価4.267 回答率66.7% 科目GPA2.00

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A241010 建築CAD I	具体例に沿いながら、CADの基本的操作方法を習得するとともに、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身につけることを目標とする。 CADシステムを用いて建築設計図面の作図方法を学習し、図面の精度、表現力を高める授業である。具体的に住宅や事務所等の建築について2次元CADによる平・立・断面図等を作成し、さらに作成したデータの加工・編集、プレゼンテーションまでの学習することが期待される。	教員1名で2クラスを受け持ち同様の授業を実施している。必修科目のため受講人数は29名、履修生は積極的に取り組んでくれた。 当初は画面で逐次作業手順を説明し、作業に慣れた時期から、授業開始時に課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法とした。 学生からの質問や不明点については、全員で問題を共有し、逐次説明を行い素早く解消できたと考える。 毎回の提出物のチェックも行い、間違いを指摘し修正するという作業を繰り返すことで、学生の正確なCAD技術や知識の向上に寄与できた。	科目GPAは2023年度の1.92と比較し高かった。授業評価に関しては回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考えられる。 CADが不得意な学生にはSAに集中的にフォローさせるなどの方法をとったが、昨年度より授業評価が下がった。操作手順などを適切なタイミングで説明できるように心がけるようにしたい。	授業評価4.357 回答率79.3% 科目GPA2.86
A241011 建築材料	建築材料に求められる特性を理解するとともに、各種建築材料の製造法と特性について学びます。授業で取り上げる、無垢材、木質材料、石材、コンクリート、ガラス、金属、プラスチック、接着剤・塗料、焼成材料、エコ材料などは、特に良い建築を設計するために、正しく建築材料の特性の理解することが必要となります。□ 1. 建築物の材料に要求される事柄を整理する 2. 建築材料の評価法について理解する 3. 建築材料の使い方について理解する	教科書に基づき建築材料についての講義を行ったが、具体的な建物についての紹介を多くした方が興味をもって取り組めるように考え、追加して進めた。 また、材料のトレンド情報「ミラノサローネ」情報も入れたり、最新の店舗デザインの説明も加えるなど行った。	実物サンプルなどの確認が学内では難しいため、材料メーカー様に商品をお借りするなどの工夫をして内容をわかりやすくしたいと思う。	授業評価4.421 回答率70.1% 科目GPA3.15
A241012 インテリアデザイン I	「生活」と「もの」、「人」と「空間」の関係についての基礎を学び、住空間の機能、デザインスタイル、色彩、基本手法などの住空間におけるインテリアデザインを理解することを本講義の目的とします。	住空間をベースにインテリアデザインを理解する入門的な内容である。 教科書指定のある科目だが、適宜実例を紹介しながら、具体的に理解できるように内容・表現となるように務めた。	インテリアに興味を持たない学生の集中力が継続しないように感じた。 内容は過不足ないものになっていると考えているが、必修科目のため、そのような学生が主体的に学ぶ姿勢になるように、その表現・伝達方法を検討する。	授業評価4.271 回答率78.5% 科目GPA2.24
A241013 建築構造力学	断面の特性や不静定構造物の応力、変形を計算することができる。 多種多様な構造物（建築物）の力の流れを理解できる。	対面式の講義を実施した。スライドおよびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を毎回行った。UNIPAによる授業資料配信により解説を行い、演習時間を十分に確保することができた。	授業課題や定期試験を含めてこの点を見直した結果、学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベル間の乖離が緩和された。	授業評価4.4 回答率73.8% 科目GPA2.38
A241014 建築設備	空調、給排水、防災、電気各設備について講述し、演習課題を通じてより実践的な技術を習得します。 建築設備の構成について基本的な事柄を理解できる。 電気設備、給排水衛生設備などの専門用語を理解することができる。 設備計画を行う上でのポイントを理解できる。	空調計画についての理解が難しいと考え、空調メーカー様の具体例を入れて話をいただいたが、科学的な理解が、難しいようだった。 住宅の事例による空調・照明・設備などの課題提出については熱心に取り組む学生とそうでない学生に分かれ、自ら学ぶ姿勢の育成が必要だと感じた。 課題について設計事務所の方に作成をしていただいたものを提出し、完璧なはずだと言いつつ張ってきたり、一部の学生の主張で混乱したが、自ら学べる姿勢を伝えていきたい。	具体的な理解ができるように説明を工夫したい。照明については施設を使用することや、実際の見本を準備するなどしていきたいと思う。	授業評価4.281 回答率35.5% 科目GPA2.75
A241015 複合構造	鉄筋コンクリート構造などの材料的複合構造の特徴・特質と部材の設計方法の概略を理解できる。 部材の構造計算方法を理解し、計算することができる。 複数の構造システムを用いた複合構造の構造設計を理解できる。	対面式の授業を実施した。スライドおよびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。UNIPAを用いて授業資料の解説を実施し、学生との質疑応答を授業で実施することにより学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。	授業運営方法を工夫した結果、期待した効果が得られた。次年度は更なる工夫を継続的に実施して行く。	授業評価4.0 回答率40.3% 科目GPA1.69
A241016 建築設計演習Ⅲ	立地環境や建物の構造を理解して、設計図面（配置図、平面図、立面図、断面図）作成でき 手法と、伝えることを習得することを目標とします。	「川辺に建つメディアテーク（図書館）」敷地は、東岡崎駅から歩いてすぐの、岡崎市が街歩き戦略で掲げる「Quruwa」戦略の経路上に位置し、乙川と国道1号に挟まれた場所。第1回目で現地調査を行った。 外で授業を行うといういろいろな大変なことがあるとわかったが、その分リアルな体験として敷地周辺を感じることができるので、今後も続けられたらと考えている。	去年の改善として、今年は第1回は大学で資料配布を行い、第2回目以降で印刷物を持参させて現地調査を行うこととした。また、去年のように1コマ目の出席でいたはずの学生が、2コマ目の出席で数名いなくなっており、もし事故などに合っていたら困ると感じたことを改善し、2コマ分の出席で必ず返事することを徹底させた。来年も現地調査を行う場合はそのようにしたい。	授業評価3.985 回答率4.48% 科目GPA2.66
A241018 木造設計演習 I	達成目標 木造建築の設計方法の基礎を理解できる。 軸組みの考え方を理解することができる。 部材の役割について理解することができる。 教育効果 木造住宅に用いられる仕口模型の制作を行い、仕組みや部材名称、部材寸法等を立体的、体感的に理解します。さらに木構造における木組み、納まりなどについて講述し、各図面のトレースを行いながら理解を深めます。	展開図の作成から始め、原寸の松材を使用して土壁の模型を制作する。単に木造住宅の加工方法を学ぶのではなく竹や土、木材などの素材の特徴を体感する機会としても工夫した課題である。加工度の良し悪しにとらわれずに素材と向き合い木構造の特徴や性質を学び取れるように指導を工夫した。	学生個々の進捗度合いに差が生じる場面が目立つため、個別の状況を確認しながらの指導が重要と感じる。 刃物を使った加工を伴うため、安全教育は特に重要である。進捗度合いよりも安全教育を重視した指導が必要である。	授業評価4.150 回答率28.6% 科目GPA2.71

令和6年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A241021 建築体感演習	<p>目標 歴史的評価の高い日本建築の様式、構造、材料、構法、スケール、装飾、使われ方、近代・現代の建築デザインなどについて、現地で観察や事前の解説を通じて、今後の建築を考えていく具体的で多様な視点を獲得することを目標とします。</p> <p>教育効果 日本の伝統的な建築や、近代・現代の建築、建築家の作品について、体験型学習などを通じて、建築への理解を深めることを目的とします。</p>	<p>5月に日帰りて博物館 明治村へ、9月には4泊5日で東京へ行き、近代・現代的な建築や街並みなどの見学をし、学生にとって貴重な体験を得ることができた。また学生による授業評価アンケートでは、高評価科目として表彰された。見学を予定していた建築物が多く、炎天下ということもあって体力的な負担が大きくなってしまった。</p>	<p>季節や気温を配慮し、見学する場所や作品数を検討する必要がある。</p>	<p>授業評価4.667 回答率60% 科目GPA2.47</p>
A241022 エクステリアデザイン	<p>建築（主に住宅建築）のエクステリアデザインに関する専門用語を理解することができる。 エクステリアデザインがどのようになっているか理解することができる。 外構計画のオーソドックスなプランを読み書きすることができる。</p>	<p>住宅プランニング、建築計画Ⅰなど先行する学習内容を踏まえつつ、さらに発展的な内容を学習する科目ながら、既習科目に対する学生の理解度にばらつきがあり、どの程度のレベルからおさらい的な内容を進めるかに試行錯誤した。また、Power Pointをつかった事例の解説・説明は、大半の学生が意識を集中することができないため、手を動かすワークを大幅に導入せざるを得ない。こうした状況への対応が、結果的に場当たりの授業進行になった面の否めず反省点となった。</p>	<p>講義内容からしても事例を通じた理解・学習は必須となるため、授業内容の整序を行い、ちゃんと学生が意識を持続させられるよう授業資料、課題内容を再編していきたい。こちらの手ごたえに反して、授業評価が高かったことに感謝しつつも、複雑な思いがある。満足度に学習効果が伴うように工夫をこらしていきたい。</p>	<p>授業評価4.21 回答率34.3% 科目GPA2.71</p>
A241023 インテリア設計演習Ⅰ	<p>住宅のインテリア設計に必要な間取りや動線などの計画について学び、各部屋の仕上材や家具、設備といったインテリアエレメントについても習得します。家族が住まうインテリアの設計やコーディネートのための基礎力を養うことを学習の目的とします。</p>	<p>インテリアやリノベーションといった近年注目の集まっている領域の演習科目である。履修学生にとっては、これらの領域を学ぶ初めての機会となるため、基礎的な内容を含みつつ実用的な設計手法を指導した。</p>	<p>選択科目であるため、設計に興味を持つ学生が履修していると理解し、それらの学生に対して適度な負担となるよう課題設計をしたが、設計に興味の薄い学生も一定数履修していたため、選択科目としてはミスマッチが起きていたと感じる。初回の課題説明時などを通して、履修者が適切に授業の目的を理解できるように検討する。</p>	<p>授業評価4.050 回答率26.7% 科目GPA1.87</p>
A241024 卒業研究Ⅰ	<p>達成目標 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>個々の情報収集の能力や、まとめる力を判断しながら、テーマをより深めるために、どのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。</p>	<p>授業評価は高く、受講ノートもしっかりと書き込みしている。 学生が疑問に感じたり、不明だったことをすぐにフィードバックできるようにした。 今後は、適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。</p>	<p>授業評価4.70 回答率66.7% 科目GPA3.83</p>
A241026 卒業研究Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 生活・地域・産業などに興味・関心をもち、調査・実践・体験などを通して問題発見をする。 論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。 建築に関わる社会的課題、先進技術、歴史と文化などについての理解を深める。 調査、体験、グループワークなどを通して良好なコミュニケーションや気づきを得る。 研究や創作のプロセスについて理解し、自らの問題意識を踏まえた課題設定を行う。 	<p>期日ギリギリで提出する履修生が多かったため、十分な発表のレクチャーができなかった。全員根は真面目なので指摘した部分については確実に調べたり、深めたりすることができた。後期に向けてテーマを絞ることができるようにアドバイスしていきたい。</p>	<p>計画を早めにして、研究の深まりを図るようにアドバイスしていきたい。こまめに話し合えるような工夫をし、個々の考えがきちんと固まるようにしていきたい。</p>	<p>授業評価4.4 回答率25% 科目GPA2.0</p>
A241027 卒業研究Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 生活・地域・産業などに興味・関心をもち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。 	<p>問題の見つけ方ができずに戸惑っている学生、何度も同じ説明をしてもわからない学生がいたが、仲間で理解しあい助け合うことで理解が深まったようだ。仲間の関係づくりを早期に起きない取り組み環境を作っていくと考えた。</p>	<p>授業外での対応が多く必要な学生が多く、ZOOMやメールを重ねた。また、早期対応が難しく、期限ギリギリになることで十分な指導ができなかったことが残念だった。早期にスケジュールを立てる指導も行いたいと考えている。</p>	<p>授業評価 回答率% 科目GPA3.5</p>
A241028 卒業研究Ⅰ	<p>目標 ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p> <p>教育効果 学生自身が研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養い、そのまともについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	<p>卒業設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、問題提起、コンセプトを整理し、資料収集、事例調査を行った。テーマの設定では、他学生の研究について発言する機会をできるだけ設け、自分の意見が言えるように促した。</p>	<p>自分の意見を伝えられるようになってきたが、議論には至っていない。学生自らが主体的に考え、学生同士でも積極的にディスカッションできる環境を整えていきたい。</p>	<p>授業評価4.800 回答率37.5% 科目GPA3.75</p>
A241029 卒業研究Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 生活・地域・産業などに興味・関心をもち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。 	<p>授業の性格上、個別指導となる。全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するとともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。</p>	<p>一部の研究テーマにおいて少し遅れが生じた。研究指導方法を再検討する必要がある。</p>	<p>授業評価 回答率% 科目GPA*受講人数の関係上非公開</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A241030 卒業研究 I	授業の中にディスカッションを行うことを通して、意見を相手に伝えられるようになることと、自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目標とする。 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定し、これを研究成果としてまとめるようにする授業である。テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力や、他の人に伝える力を養うことが期待される。	履修者数8名。履修者は概ね積極的に取り組んでくれた。 履修者により研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するよ 研究論文が得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。	科目GPAは昨年度の1.11と比較すると多少高い。授業評価は昨年度の4.667から比較すると多少低くなっているこれは、昨年度は回収率が33.3%だったか、今年度は50.0%になったためであると思われる。 研究論文が得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。	授業評価4.350 回答率50.0% 科目GPA1.50
A241031 卒業研究 I	・建築に関わる社会的課題、先進技術、歴史と文化などについての理解を深める。 ・調査、体験、グループワークなどを通して良好なコミュニケーションや気づきを得る。 ・研究や創作のプロセスについて理解し、自らの問題意識を踏まえた課題設定を行う。	初年度のゼミであったが、学生との対話を通して、適切に指導した。	授業評価は概ね良いため、内容・表現については大きな変更の必要はないと考える。	授業評価4.900 回答率25.0% 科目GPA3.25
A241032 卒業研究 I	達成目標 ①授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 ②建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。 ③所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。今年度は卒業設計を選択する学生が7人、卒業論文を選択する学生が1人となりました。みんな優秀な学生のため期待が持てる。	前期の卒業研究 I では、後期では卒業設計を選択したい学生にも能力向上を考えて全員に卒業論文形式でA4×2枚にまとめて提出してもらった。初期は敷地をどの町にするのか考えてもらい、その後はその都市の役所ホームページを解説・発表してもらい、課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となったと考えている。	4年生ということもあり、登校の日はこの授業しかない学生が多いため、欠席率が少し多く、欠席が多いとその分進みが遅い傾向にあり、卒業研究の質の向上に繋がらないので、どうやって登校させ授業に関わって行かせたらいいのかが今後の課題である。	授業評価4.333 回答率37.5% 科目GPA3.88
A241033 卒業研究 I	・生活・地域・産業などに興味・関心をもち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 ・論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。	学生個々の関心や進路希望先に沿って課題設定をともに行い、情報収集・整理から言語化、図表現などを実践する授業内容としてなんとか展開している。ただ、毎週、進捗報告からの打ち合わせ・指示のサイクルが極めて遅く、なかなか成果が積み上がっていかないのが現状である。さらなる具体的な指示、課題の細切れ化を行うことが肝要だと痛感した。	上記反省を活かしつつ、具体的な指示、課題の細切れ化、スケジュール管理の習得などを個々の学生に応じて対応していきたい。また、授業時間外学習の成果が現状ほとんどのぞめない状況のため、授業内・外での課題内容を差別化し、授業外では課題内容もアウトプット、提出期限もより明確になるような取り組みをしたい。	授業評価4.75 回答率44.4% 科目GPA2.00
A241034 卒業研究 I	達成目標 ・生活・地域・産業などに興味・関心をもち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 ・論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。 教育効果 ・建築に関わる社会的課題、先進技術、歴史と文化などについての理解を深める。 ・調査、体験、グループワークなどを通して良好なコミュニケーションや気づきを得る。 ・研究や創作のプロセスについて理解し、自らの問題意識を踏まえた課題設定を行う。	学生自ら社会的問題点を見つけ調査・研究のうえで具体的な解決策を形として提案できるように指導した。個人の研究や制作に限らず、他の学生の研究についても意見を発言する機会を設けた。	極力学生自らが考え問題定義をするように指導を心掛けたが、授業外学習や研究の成果は乏しい場面も多かった。1駒の時間内では、個々の進行状況確認程度の内容に留まることが多い。後期へのモチベーションに繋がるよう、個々の自主性を重視したのだが、ある程度は強引に方向性を示す必要性も感じた。	授業評価4.500 回答率33.3% 科目GPA3.33
A241035 不動産プロデュース	土地及び建物に関連する権利関係・法令上の制限（特に民法、宅地建物取引業、建築基準法）を理解し、不動産管理について理解することができる。	宅地建物取引業関連の内容とあわせて、不動産プロデュースに関する学習内容を加味してスタートした新カリキュラムであったが、実際問題として不動産分野に興味関心がある学生の履修は限定的で、卒業単位不足による履修が大半を占めた。4年次開講であると同時に、入学時からの単位大盤振る舞いが影響しているものと思われる。 対策として、質的な話題を抑制して、手を動かして学習する講義内容に変更したものの、十分な対応ができなかった。	本年度の反省を踏まえて、価値に関する話題は、なるべく事例紹介を通して伝えるようにし、その他の授業内容は、宅地建物取引業関連のシクロロがつきやすいワークを取り入れるなどして、実りのある学習時間となるよう改善を試みたい。 具体的には授業進行を3つに分け、①前週復習ドリル、②今週の学習内容解説、③教科書をもとにしたワークとすることで集中力をなるべく持続させ、かつ、学習内容の定着を図る。	授業評価4.33 回答率27.3% 科目GPA1.70

令和6年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A241036 住宅産業論	住宅産業に関連した専門用語やトピックスを理解することができる。 ハウスメーカーによる住宅がどのように生み出されているのか理解することができる。 これからの住宅産業の展望と課題について自分の意見を述べるすることができる。	本学科学生の多くが選択する進路先として住宅産業がある。そのため、本講義内容は就職後に大いに開わりつつも、実際には就職後には学ぶことが少ない内容を取り扱う科目として、重要な位置を占めると思われる。しかしながら、4年次開講であることもあって、受講学生の大半は、卒業単位不足による履修となっている。対策として、質的な話題を抑制して、手を動かして学習する講義内容に変更したものの、十分な対応ができなかった。	前年度の反省をもとに、より教科書に準拠した内容とし、予習・復習がしやすいようにするとともに、前週振りかえりや今週の要点まとめなどの課題を授業内にドリル・ワーク化することで、一定の集中力維持と学習内容定着を図ることができた。次年度ではここでの成果をもとに、さらに内容の改善をすすめたい。	授業評価4.24 回答率25.0% 科目GPA1.38
A241037 建築生産	建築生産、住宅産業などについての基礎的知識を理解することができる。 建築生産および管理にかかわる社会的環境と産業構造、歴史、関係業界と機能、生産プロセス、管理の領域と内容、ファシリティマネジメント (FM) などについて理解することができる。 講義で養った知識を建築の建築計画や建築生産に取り入れられるようにすることができる。	住宅のつくり、建築施工など先行する学習内容を踏まえつつ、さらに発展的な内容を学習する科目ながら、既習科目に対する学生の理解度にばらつきがあり、どの程度のレベルからおさらび的な内容を進めるかに試行錯誤した。また、Power Pointをつかった事例の解説・説明は、大半の学生が意識を集中することができないため、手を動かすワークを大幅に導入せざるを得ない。こうした状況への対応が、結果的に場当たりの授業進行になった面の否めず反省点となった。ただ、3年前期科目のため、質的な内容を含む講義を熱心に聴講できる学生もわずかながら存在するので、その層へ向けたアプローチも改善を要する。	講義内容からしても事例を通した理解・学習は必須となるため、授業内容の整序を行い、学生が意識を持続させられるよう授業資料、課題内容を再編していきたい。今回同様に8、14週にこれまでの内容の振り返りを実施して学習内容の定着度を再確認できるようにする。また、仮に大半の学生が開いていないとしても、質的な話題提供を享受できる層へ向けたアプローチも限定的ながらも組み込んでいく。	授業評価4.15 回答率36.8% 科目GPA1.92
A241105 建築計画 I	建築の計画・設計に必要なさまざまな知識を深め、基本的な用語、プロセス、方法、目的、種類、機能、条件などを理解できるようになることを授業の目的とします。関心の幅を広げ、建築計画と生活環境に興味を抱、問題の解決に必要な調査・研究がイメージできるようにすること、建築作品の多面的評価への関心を高めることも期待します。	建築学の入門的な学問で、手を動かしながら学ぶことのできる内容・表現を心がけた。 1年生に対して、若干、高負荷であるか様子を見ていたが、授業に出席している学生がついてこれられないほどの負担にはなっていないようである。	以下は寺嶋担当分についての内容である。 授業評価は概ね良いため、内容・表現については大きな変更の必要はないと考える。	授業評価4.444 回答率86.8% 科目GPA2.40
L221053 中国語A D	中国語の発音、基本的な文法を学習するとともに、実践的な状況、例えば「中華料理を食べる」をテーマに実践的な会話能力を磨きます。語彙力と表現力を養い、基礎会話能力を養成します。同時に、中国社会への理解を深めるとともに、中国語学習への意欲向上を図り、「中国語」の基礎固めを行います。中国語の発音構造や特徴を理解し、簡単な挨拶表現ができる。中国語の基礎的な会話を行うことができる。中国語の側面にある文化を学習し、中国社会への理解を深めることができる。	本講義では中国語の初学者を対象とし、文法の説明は最小限にとどめて、発音練習を中心に、中国語を多く聞き、たくさん話し、中国語への興味を育みながら楽しく学習させた。特に、日常の身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆっくりとしたペースで進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につけさせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用した。	履修者は60人で、38名は回答してくれた。2名特別配慮申請学生で、昨年での授業改善アンケートの結果より高い評価になり、GPAも高くなったことは喜ばし。昨年度の回答率も科目GPA授業評価4.44 回答率56% 科目GPA2.50すべてアップできたとの結果になった。今後受講者全員参加型の授業ができるように工夫していきたい。	授業評価4.695 回答率63.3% 科目GPA2.68
L241001 スタディスキルA1	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式にのっとりそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。	建築学科1年生が半分に分かれて受講する授業の一つで、32名対象であった。授業の進め方としては、教科書を活用しながらパワーポイントによる解説を行った後、授業ごとのテーマに沿った調べ学習等を行い、授業の末に課題を示し、オンラインによる提出とし、毎回評価した。達成目標については、授業直後における内容理解や達成度は一定程度以上であったと評価できたが、その成果が継続し、日常の学習や研究に色濃く結びついているかという点から評価すれば、十分に達成できたとは言いがたい状況であった。	毎回の課題の内容及び難易度について再度見直し、これまで以上に大学における学修の向上に資する授業にしていくための工夫を継続していく。	授業評価4.379 回答率87.5% 科目GPA1.00
L241002 スタディスキルA2	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式にのっとりそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。	建築学科1年生が半分に分かれて受講する授業の一つで、32名対象であった。授業の進め方としては、教科書を活用しながらパワーポイントによる解説を行った後、授業ごとのテーマに沿った調べ学習等を行い、授業の末に課題を示し、オンラインによる提出とし、毎回評価した。達成目標については、授業直後における内容理解や達成度は一定程度以上であったと評価できたが、その成果が継続し、日常の学習や研究に色濃く結びついているかという点から評価すれば、十分に達成できたとは言いがたい状況であった。	毎回の課題の内容及び難易度について再度見直し、これまで以上に大学における学修の向上に資する授業にしていくための工夫を継続していく。	授業評価4.450 回答率75.0% 科目GPA1.00
L241008 情報リテラシー A1	①情報倫理を身につけることができる。 ②簡単なビジネス文書を作成することができる。 ③簡単な表計算・グラフを作成することができる。	シラバスに記載されている内容の通り、授業を進行し、おおむね目標を達成することができた。一方、学生間での能力差が大きいが分かった。そのため、今後、個々人の能力に合わせた、個別最適な学習の一つのクラス内でのよう实施方式が課題である。	与えられた授業内容・課題をすぐに理解・解ける学生には、発展課題を用意する。与えられた教科書・教員の説明だけでは理解できない学生については、個別の質問時間を多く設け、また、補足説明資料を十分に用意するなどの対応を検討する。	授業評価4.547 回答率90.9% 科目GPA3.00

令和6年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L241015 心理学 A1, D1	心理学の基礎用語を理解することができる。 自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。 本講義では、幅広い心理学の領域の中から、日常生活に関係するテーマを多く、取り上げながら、心理学的なものの方を学ぶことを目的として授業を行っています。	受講者62名、このクラスの学生は熱心に関心してくるものも多かった。心理学は分野が広いので、全ての学生に興味ある分野を紹介することができていなかったと反省する。心理学の面白さは目のことだけでなく自分で調べていくことが大切である。いろいろな本の紹介していったが、興味を持ってくれた学生もいてやりがいがあった。ただ、留学生は文字が多いと理解ができにくい箇所がたくさんあったようである。日常使わない日本語もあり、習得に時間がかかると思われる。	今年度からテキストを変えてみた。昨年までのものはかなり文章が多かったが、視覚情報を多くし、わかりやすいものと考えたが、やはり、心理学用語は覚えてもらえない。このあたりは心して改善していきたい。	授業評価4.41 回答率63.6% 科目GPA0.8
L241016 心理学 A2, D2	心理学の基礎用語を理解することができる。 自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。 本講義では、幅広い心理学の領域の中から、日常生活に関係するテーマを多く、取り上げながら、心理学的なものの方を学ぶことを目的として授業を行っています。	受講者23名、比較のおとなしい感じのクラスである。自分からの意見をあまり発しないので苦労したが理解力があるのと比較的少人数であったことがよかったと考える。	個々に質問してくれる学生もいたが、うまく学生の関心を引くことはできていなかったと感じた。図表だけでなく動画も取り入れていこうと考えている。	授業評価4.42 回答率58.3% 科目GPA0.8
L241019 数学と社会 A	①数学的な手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。 ②現代の社会で用いられている数学的な手法の原理について説明できる。 ③数学的手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	インターネットを使って情報を送受信する際使用されている暗号を題材に、現実の社会で役立っている数学について説明した。受講生の理解を少しでも深めるため、元の文章を暗号文にする計算と暗号文を元の文章にもどす計算の計算練習を繰り返した。例年通り数学と社会Aの科目GPAは3クラスのうち最も高かったが、昨年度と比べると科目GPAが平準化された。	第10週～第13週に出題する計算練習の難易度は変えず、問題数を増やした。	授業評価3.82 回答率45.0% 科目GPA1.80
L241022 英語コミュニケーションA A1, D1	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではなく、幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組めるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は総合経営学科1年生49名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題（5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。また、毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験を受験し、約75%が学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。全体として真面目に取り組む学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。	80%以上の学生が高い評価をしてくれた。この科目には、造形学部建築学科とスマートデザイン学科1年生49人のうちで、85%以上の履修学生が合格した。	授業評価4.551 回答率83.7% 科目GPA2.51
L241024 英語コミュニケーションA A2, D2	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではなく、幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組めるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は総合経営学科1年生56名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題（5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。また、毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験を受験し、約75%が学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。全体として真面目に取り組む学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。	60%以上の学生が良い評価をしてくれた。この科目には、造形学部建築学科とスマートデザイン学科1年生58人のうち、70%以上の履修学生が合格した。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できクラスを目指したい。	授業評価4.212 回答率60.7% 科目GPA1.75

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L241028 英語コミュニケーションA	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組めるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は総合経営学科2, 3, 4年生61名で、全員が再履修であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題(5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。また、毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験を受験し、約75%が学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。全体として真面目に取り組む学生が多かったので、授業自体は進めやすかった。	半数以上の学生が比較的高い評価をしてくれた。この科目には、総合経営学科2年生～4年生61人のうち、60%以上の履修学生が合格した。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できクラスを目指したい。	授業評価4.381 回答率50.8% 科目GPA1.07
L241031 文章表現基本A	①語彙(成句・慣用表現を含む)、語法、文章のアウトラインの作成等の基本的な知識を身に付ける。 ②大学生として求められる日本語力と文章作成力を身に付け、表現できるようにする。 ③大学生生活や実社会において円滑で効果的なコミュニケーションを図るために必要な実用的な表現力を身に付ける。	授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組む。教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。 これまであまり経験していない文章の要約や文章の添削を通して、文章表現に対する抵抗感の緩和と言葉に対する感受性の醸成に一定程度の影響を与えることが出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートで完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価4.317 回答率57.1% 科目GPA0.80
L241035 日本語中級	基本的なやりとりを超える程度の日本語を運用することができる。日本語能力試験N2以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たちは中国、ベトナム、ネパール、インドネシア、モンゴル各出身者から構成されていた。特定の国に話題が集中しないように心がけた。また、語彙コントロールにも気を使った。難しいと思われる漢字語にはなるべく、ふりがなをつけた。学生たちの集中力は比較的高く、活気のある和やかな授業の雰囲気だったと思う。	前年度は学生2人だけであり、きめ細かい対応はできた。今年度は18人なので、その点では難しかった。どの国の学生にも達成感が与えられるような話題や例文を準備するように心がけた。	授業評価4.733 回答率66.7% 科目GPA2.44
L241036 日本語上級	日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たちは中国、ベトナム、ミャンマー、インドネシア、カンボジア各出身者から構成されていた。特定の国に話題が集中しないように心がけた。また、語彙コントロールにも気を使った。難しいと思われる漢字語にはなるべく、ふりがなをつけた。学生たちの集中力は比較的高く、穏やかで落ち着いた授業の雰囲気だったと思う。	前年度は学生2人だけであり、きめ細かい対応はできた。今年度は17人なので、その点では難しかった。口数こそ少ないものの意欲的な学生が多かったため、満足度を高められるような話題や例文を準備するように心がけた。	授業評価4.675 回答率47.1% 科目GPA2.94
L241037 現代日本の文化研究	レベルの高い日本語の文章に向き合い、その内容や論理展開についてより深く理解することができる。読解力の基礎となる語彙力と文法力を増強し応用力を養うことができる。現代日本の文化についての理解を深めることができる。以上3点を到達目標としている。上記の目標に沿うべく、現代日本の企業社会で使われる独特の日本語表現を学ぶことを教育効果としている。	学生たちは1年生、3年生、4年生。出身国は中国のみだった。口数の少ないおとなしい学生ばかりだったので、あまりストレスを与えないように心がけた。板書の時間が多くなった。ビジネス関係の日本語、日本と中国とのビジネス習慣の違いなどについて詳しく紹介し、丁寧に解説した。学生たちは全体的に真面目に取り組んでいたと思う。	留学生の出身国が一つだけの場合は、日本とその国のさまざまな違いについて触れると授業が盛り上がる。そのことを体験的に知っている。そのためにしっかりと事前準備を行った。	授業評価4.833 回答率60.0% 科目GPA2.50
L241038 スポーツA, D	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、通常出席者の達成目標は達成できたと考える。GPA2.4(ED6名含む)に比べ、達成評価4.6と高かったのは、振り返りには不可学生が欠席していたためと推測される。技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。決して運動能力の高い学生ばかりではなかったが、楽しみながら学んでもらえたと考えられる。	超欠3名のうち2名は10回以上の欠席、不可3名のうち、1名は配慮学生でほぼ欠で補完課題未提出、残りの2名は留学生で、再三の注意にもかかわらず時間外課題未提出(欠席5回)という状況。普通に出席した学生は、S9名、A3名、BC各1名という状況 受講ノート、課題、試験レポートで、高い評価を得る学生がほとんどであった。今後も達成目標が達せられる授業プログラムを心がけたい。	授業評価4.60 回答率75.8% 科目GPA2.40

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L241046 法学（日本国憲法）A, D	日本国憲法における基本的な知識について理解し、法的問題に際し適切な法的思考や解釈をすることができる。日本国憲法の基本精神を学び、条文の趣旨を正しく解釈することを目的とする。	日本国憲法を取り巻く基礎的内容を扱った。造形学部の学生が対象であり、まずは法学習の基礎を確認した上で、できるだけ多くの法律と身近な話題を用いて扱うようにした。単なる条文の理解や暗記ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の目的や意義の把握に努めた。具体例を提供して、法的論点の解説にも時間を割いた。毎回学んだことをまとめるべく、コメントをしっかりと記入している学生が多く、その内容からおおむね理解してくれたようである。判例の検討が難しいと思われるため、丁寧な説明を心掛けたい。	できるだけわかりやすい具体例を挙げて、広範な日本国憲法の分野につき論点を絞って丁寧な解説を心掛けた。日本国憲法を取り巻く論点の理解を深めるべく、資料や判例を提示しながらそれを分析し、最終的には自分の意見を持てるようにしていきたい。	授業評価4.481 回答率69.8% 科目GPA2.72
L241048 健康・運動の科学 A, D	達成目標 ①健康に関する様々な知識・考え方を理解できる。 ②自分にあった健康処方・運動処方をデザインできる。	課題は、前回授業の小テストを授業冒頭に行う形で、その内容が成果評価の筆記試験につながる形式としている。一部の学生を除き、普通に取り組んでいる学生は、それなりの評価が得られた。授業を休まず、課題（小テスト）に取り組んだ学生は、評価点も含め、達成目標に近づけたと考える。昨年度と比較して、達成評価も、GPAも高い状況であった。評価全体として、S, Aの比率も造形学部対象の科目としては順当な結果であった。	超欠5名のうち、4名はほぼ全欠。不可3名は再試未提出であった（S15, A9, B11, C8）。例年、欠席が最も評価に影響することは指導している。次回授業で実施する課題（小テスト）に関して準備しておくこと含め、丁寧に指導していきたい。欠席した場合でも、全員に補充課題で学修できるように配慮しているが、欠席をしてしまうと、その指導も難しい。興味を持って受講できるよう配慮していきたい。	授業評価4.48 回答率76.9% 科目GPA2.25
L241050 キャリアデザイン I A	人生のキャリアデザインを考え、学科の学びに関係した仕事について理解し、就職活動の準備をすることを目的とします。 自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。 自分軸を形成することができる。 自己に必要な知識や能力が認識できる。	本年度の学生は自己肯定感が強く、点数に拘り、なぜ点数が低いのかばかりで、本質的な内容に目を向けられない学生が多かった。 主張をする学生がモチベーションを下げていたため、他の学生の対応を個別に行うなどした。	就職活動の早期化に合わせ、またより建築学生に合わせた指導を行ってきたい。	授業評価4.428 回答率40.3% 科目GPA3.11
L241051 キャリアデザイン I	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価4.362 回答率44.8% 科目GPA2.81
L241054 倫理学A・D	倫理学の歴史やその思考方法を理解し、倫理的諸課題について思考し、判断し、表現できるようにする。	毎回の授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が様々な倫理的課題に関わる文章を読解したうえで、教授者が示した課題に対する意見や感想を、教授者がまとめる。次時の最初に、前時の内容の解説と受講者から出された意見や感想をまとめたものを受講者に示し、さらなる考察を深める形で展開した。 受講者から出される意見や感想等から判断し、書物の活字に触れる機会が少ない学生に対して、相当量の文章を読む機会となり、在り方生き方考える機会とすることが一定程度出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度がかなり高いものがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価4.314 回答率36.4% 科目GPA1.20
Q241002 教育行政 A, SD, B	現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連するさまざまな課題を理解する。 学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。	制度、教育法規の一時的な説明にならないよう、グループ討議、発表というアクティブラーニングを講義に取り入れるように工夫した。毎回の授業課題においては、授業の振り返りとして、200字程度の論述を課した。これらの工夫により、学生の思考、判断、表現力の向上が見られるようになった。	教員採用試験で課される内容が多く、学生に知識をつけさせる必要があることから、じゅうぶんなグループ討議の時間を取れなかったことから、教材の精選と構造化を図りグループ討議の時間を確保していきたい。	授業評価4.4 回答率100% 科目GPA3.1
Q241003 特別支援教育 A, SD, B	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒が授業において学習活動に参加し、生きる力を身につけることができるよう支援していくための知識や組織として動くことの大切さを学ぶことを目標とします。 特別支援教育の概要をつかみ、特別な支援の必要な幼児児童生徒に対して必要な障がい理解と指導に必要な「個別的教育支援計画」「自立活動」などについて学ぶ。また、特別支援教育は「チーム学校」として対応するため、組織や連携についても学んでいく。あわせてユニバーサルデザインの大切さも学びます。	真面目な学生が多く、各障がいに対する理解も深まったと感じている。振り返りでは身内に障害がある学生も多く熱心に聞いてくるものもあった。ただ、グループ分けがはっきりしてしまいグループ間の意見交流ができていなかったと反省している。回答率の低さからもこのあたりのことが反映されているのではないかと感じた。	個々の学生への対応は振り返りの課題に対して丁寧に答えていったつもりであるが、かえってこれが授業中の発問に対する答えにつながらなかった。動画を見た後の討論をもっと活発にできるよう工夫していきたい。	授業評価4.1 回答率36.7% 科目GPA2.0
Q243001 事前・事後指導 A, SD, B	教師として振舞い、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にする。外部の学校での実習に臨むために、教育実習生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことも目指す。	林先生の講義の補助が入った。教育実習に対する心構えはよくできていたと思われるが、自分なりの解釈で行動することも見受けられるので気をつけていきたい。	受講者3名、考え方の違いもあり、個々に話すことで理解を深めようと考えて接した。マナーの違い、教員としての心構えについても次からは積極的に意見交換していきたいと考える。	授業評価 回答率% 科目GPA

令和6年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
Q243001 事前・事後指導 A, SD, B	教師として振舞い、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にする。外部の学校での実習に臨むために、教育実習生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことも目指す。	学習指導案の作成、模擬授業の実施、担任としてのクラス業務の把握なども高いレベルで実施でき、学生もある程度の自信をもって教育実習の取り組みができた。また、実習中の流れと心得を実務、実践レベルでまとめたパワーポイントの教材の配信は学生に好評であった。	実際の学校現場を想定したロングタイム運営、生徒指導など授業以外の指導場面を取り入れた指導を取り入れていきたい。	授業評価5.0 回答率66.7% 科目GPA(通年)
Q243002 教育実習 A, SD, B	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。	教育実習の指導内容は実習校の先生にお任せの形となるが、研究授業で参観、反省会を通して、実習校の先生方の思いやご配慮を知ることができた。今後の指導に生かせるよう事前・事後指導の内容に盛り込んでいきたい。	授業評価 回答率% 科目GPA
Q243002 教育実習 A, SD, B	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。	教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図っていきたい。	授業評価 回答率0% 科目GPA(通年)
U221003 コミュニケーション・ スケッチA A	物理的、生理的側面から色彩を理解することができる。色彩の分類、整理、体系化について理解することができる。色彩の感情効果、生理的作用、配色原理を理解し、作品制作に活用することができる。	様々な平面造形作品から配色をサンプリングさせ、それをテキストの理解に基づき分析、考察させるという学習内容は、知識面のみではなく、作品を構想する力を養うのにも有効であると自負しています。当該科目では2016年度から動画教材を作成し副教材として使用しています。レポートについては、2021年度から内容を充実させ、さらにオンラインでの提出ができるように設定し、学生の利便性を向上させることができました。評価についても評価項目を細かく設定し、これにより学生が自身の達成度を知ると同時に振り返り学習が有効に行われるようになったと考えます。	随時情報発信可能なオンラインの利点を生かし、学生のレポート添削を通じて必要と思われる情報を随時発信していく必要があると考えていますが、現状の通教オンライン (UNIPA) にそうした機能がないため、別の方策を考えざるをえない状況というのが昨年度の改善目標であったが、システムの問題であるため簡単には改善できず本年度に至っています。	授業評価 回答率 科目GPA
U231007 インターンシップ	社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。	事前学習、インターンシップへの参加、事後学習を行った。事前学習では、ビジネスマナー、エントリーシートの書き方などに加え、企業の選定、日程調整などを行った。事後学習では、インターンシップ実習のまとめ、発表などを行った。意欲的に取り組む様子がみられた。	多くの受講生それぞれと面談を進めてゆくことから、待ち時間も多くなる傾向がある。有意義な時間となるよう工夫してゆきたい。	授業評価4.47 回答率21.4% 科目GPA
U231007 インターンシップ A	社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。	事前学習、インターンシップへの参加、事後学習を行った。事前学習では、ビジネスマナー、エントリーシートの書き方などに加え、企業の選定、日程調整などを行った。事後学習では、インターンシップ実習のまとめ、発表などを行った。意欲的に取り組む様子がみられた。	多くの受講生それぞれと面談を進めてゆくことから、待ち時間も多くなる傾向がある。有意義な時間となるよう工夫してゆきたい。	授業評価4.47 回答率21.4% 科目GPA
U241007 インターンシップ A	目標 社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 教育効果 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。	多くの企業でインターンシップが実施され、学生にとって貴重な体験を得ることができた。企業研究会では、多くの建築関係の企業に参加いただき、スムーズにインターンシップ実習先の決定ができた。	実習先決定後に、学生からインターンシップ担当者に確認の連絡するように周知しているが、「学生からの連絡がこない」とのクレームがあった。今後は連絡完了の報告をさせる必要がある。	授業評価3.978 回答率21.4% 科目GPA2.67
U241007 インターンシップ A	目標 社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 教育効果 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。	多くの企業でインターンシップが実施され、学生にとって貴重な体験を得ることができた。企業研究会では、多くの建築関係の企業に参加いただき、スムーズにインターンシップ実習先の決定ができた。	実習先決定後に、学生からインターンシップ担当者に確認の連絡するように周知しているが、「学生からの連絡がこない」とのクレームがあった。今後は連絡完了の報告をさせる必要がある。	授業評価3.978 回答率21.4% 科目GPA2.67

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U241008 福祉社会のクリエイション	「福祉社会の構築」という切り口で、福祉社会における現況と問題点、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習・理解し、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることを目標とする。 福祉社会を支える都市のハードから生活のソフトまでをどのように創造するかについて、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習し、全ての人々が過ごしやすい都市、生活空間を創造するための提案ができることが期待される。	課題提出は授業当日までとした。受講生は11名で、1～10回の講義後、11～13回でグループのテーマを決定し発表資料の作成、14回で発表会を実施した。受講人数が少なく、受講学生の学科に偏りがあったため、グループのメンバー構成は学生の話し合いで決定した。5グループ中2グループが異なる学科メンバーであった。5グループすべてが期日までに発表資料の提出がされ、すべてのグループが発表できた。他学科学生とのグループワークから学生は様々な考え方があることを学ぶことができたと考ええる。また、グループワークでの教員の指導が適切にできたためと思われる。	科目GPAは昨年度の2.23と比較し高かった。授業評価に関しては、昨年度の4.80と同等で高く、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。達成目標に対する授業評価を高めるには、グループワークでの教員のかかわりが収容であり、今後も学生の興味に沿ったアドバイスなど工夫したい。	授業評価4.76 回答率45.5% 科目GPA2.45
U241008 福祉社会のクリエイション	「福祉社会の構築」という切り口で、福祉社会における現況と問題点、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習・理解し、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることを目標とする。 福祉社会を支える都市のハードから生活のソフトまでをどのように創造するかについて、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習し、全ての人々が過ごしやすい都市、生活空間を創造するための提案ができることが期待される。	課題提出は授業当日までとした。受講生は11名で、1～10回の講義後、11～13回でグループのテーマを決定し発表資料の作成、14回で発表会を実施した。受講人数が少なく、受講学生の学科に偏りがあったため、グループのメンバー構成は学生の話し合いで決定した。5グループ中2グループが異なる学科メンバーであった。5グループすべてが期日までに発表資料の提出がされ、すべてのグループが発表できた。他学科学生とのグループワークから学生は様々な考え方があることを学ぶことができたと考ええる。また、グループワークでの教員の指導が適切にできたためと思われる。	科目GPAは昨年度の2.23と比較し高かった。授業評価に関しては、昨年度の4.80と同等で高く、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。達成目標に対する授業評価を高めるには、グループワークでの教員のかかわりが収容であり、今後も学生の興味に沿ったアドバイスなど工夫したい。	授業評価4.76 回答率45.5% 科目GPA2.45
U241009 地域クリエイションワーク	目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がり、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。	藤川学区こどもの家を利用するこどもたちにお絵描きをしてもらい、それをもとに学生がグループワークで木のおもちゃを制作を行った。またワークショップを実施し、制作した木のおもちゃで子どもたちに遊んでもらった。ワークショップの参加児童も年々増加し、地域交流の場として認知されつつあり、ものづくりに対する理解も深められた。	授業内では、制作時間が足りず、授業外の時間を使い、学生の指導や制作を行っているのが現状である。今後、開講コマを増やすなど制作時間を確保する必要がある。	授業評価4.542 回答率42.4% 科目GPA2.09
U241009 地域クリエイションワーク	達成目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がり、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。	藤川にある子どものお家に出向き、学生主体で子供たちに描いてもらった絵やアイデアをもとに、学生たちがグループワークで木の玩具を制作する。また、実際につくった玩具を使用したワークショップを実施し、子供たちに遊んでもらうための指導も行った。	モデリングスタジオを使用しての制作となるが、授業時間内での制作時間が確保し辛いのが現状である。制作を進めることが主となり、安全教育が不十分であることは反省点である。課題の改善も含めて制作時間の確保や指導方法の見直しが必要である。	授業評価4.542 回答率42.4% 科目GPA2.09
U241009 地域クリエイションワーク	目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がり、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。	藤川学区こどもの家を利用するこどもたちにお絵描きをしてもらい、それをもとに学生がグループワークで木のおもちゃを制作を行った。またワークショップを実施し、制作した木のおもちゃで子どもたちに遊んでもらった。ワークショップの参加児童も年々増加し、地域交流の場として認知されつつあり、ものづくりに対する理解も深められた。	授業内では、制作時間が足りず、授業外の時間を使い、学生の指導や制作を行っているのが現状である。今後、開講コマを増やすなど制作時間を確保する必要がある。	授業評価4.542 回答率42.4% 科目GPA2.09

令和6年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U241009 地域クリエイション ワーク	達成目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。 地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がり、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。	藤川にある子どもの家に向き、学生主体で子供たちに描いてもらった絵やアイデアをもとに、学生たちがグループワークで木の玩具を制作する。また、実際につくった玩具を使用したワークショップを実施し、子供たちに遊んでもらうための指導も行った。	モデリングスタジオを使用しての制作となるが、授業時間内での制作時間が確保し辛いのが現状である。制作を進めることが主となり、安全教育が不十分であることは反省点である。課題の改善も含めて制作時間の確保や指導方法の見直しが必要である。	授業評価4.542 回答率42.4% 科目GPA2.09
U241010 地域クリエイション基礎 高大連携	三河地域に関する伝統的なものづくり産業と現在の最先端技術の繋がりについて理解することができる。三河地域の伝統的なものづくりとその構造変化について理解することができる。	今年度は姉妹校組が減少してしまったが、その分提携校からの参加者が穴埋めしてくれたので、人数的には昨年度と変わりなかった。昨年度と比べるとおとなしい雰囲気だったが、学外授業のリニア・鉄道館見学は概ね好評だった。	数値的には昨年度とあまり変わりはない。2日目が各学科担当日になってから2年目で、今のところ学科間に人気のバラツキがあるようだが、もう少し回を重ねて熟成させていきたい。	高校生対象の授業のため授業評価アンケートの数値無し。 科目GPA2.76
U241011 日本の産業	日本のさまざまな産業が発展してきた歴史や社会的背景の理解を通して、専門分野と産業、社会との関係における課題発見力を身につけます。また産業が今後どのように変化していくのかを考察します。 □ 日本の産業の発展過程と特徴を理解することができる。 産業と社会との関係を理解することができる。 今後のあるべき日本の産業像を考察することができる。	本年度の学生はモチベーションも高く、内容に対する理解もあり、提案もよくできていた。 今枝先生が加わられたことでわかりやすい内容になっていたように感じた。	学生が自ら提案できる技術について話を進めていきたいと思う。建築やインテリアについては学科の特性が出すぎないように気付けたいと思う。	授業評価4.32 回答率70.2% 科目GPA3.63
U241011 日本の産業	日本のさまざまな産業が発展してきた歴史や社会的背景の理解を通して、専門分野と産業、社会との関係における課題発見力を身につけます。また産業が今後どのように変化していくのかを考察します。 □ 日本の産業の発展過程と特徴を理解することができる。 産業と社会との関係を理解することができる。 今後のあるべき日本の産業像を考察することができる。	本年度の学生はモチベーションも高く、内容に対する理解もあり、提案もよくできていた。 今枝先生が加わられたことでわかりやすい内容になっていたように感じた。	学生が自ら提案できる技術について話を進めていきたいと思う。建築やインテリアについては学科の特性が出すぎないように気付けたいと思う。	授業評価4.32 回答率70.2% 科目GPA3.63
U241012 未来産業ワーク	地域の産業における課題解決のための、ICT（情報通信技術）の新しい動きとの関連性と重要性について理解できるようになります。地域の新しい産業形成についての知識を有し、地域の新しい産業のあり方について提案することができるようになります。	16人が受講。インターネットのアプリケーションを対象とし、3人～5人から成るグループを作り、各グループにおいてディスカッション、調査などを行い、発表する形態をとった。第1回目のグループワークでは、車の自動運転、インスタグラム、X、SNSを取り上げ、第2回目では出会いサイト、生成AI、GPSアプリを取り上げた。各技術の現状、問題点、解決策を議論し、各講義の最初に、各自の調査内容を発表し、それらをもとに議論を進め、次に調査すべきことを明らかにして、分担を決めるようにしながら、進めるようにした。	グループによっては、各学生の負担に偏りがあるように見受けられたので、負担の分担がある程度平等になるように留意するようにしたい。また、成績にうまく反映するように工夫する必要がある。	授業評価4.733 回答率18.8% 科目GPA2.75
U241013 都市と移動手段のデザイン	達成目標 1. 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 2. 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 3. 新しい移動手段をプランニングすることができる。 教育効果 建築学科、スマートデザイン学科、総合経営学科のすべてに関連する内容です。教養の視点だけでなく広域的な視点で捉えながら、各分野との関連性を深めます。	教員2名で、半数回ずつ担当した。 毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行った。 評価は予想より高かった。この選択科目を受講した学生達は意欲的な学生が多く見られた。	授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていた。 今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、対話機会を増やし、授業を通じて、自分の成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価4.61 回答率62.5% 科目GPA3.15

令和6年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U241013 都市と移動手段のデザイン	<p>達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 2. 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 3. 新しい移動手段をプランニングすることができる。 <p>教育効果</p> <p>建築学科、スマートデザイン学科、総合経営学科のすべてに関連する内容です。教養の視点だけでなく広域的な視点で捉えながら、各分野との関連性を深めます。</p>	<p>教員2名で、半数回ずつ担当した。毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行った。評価は予想より高かった。この選択科目を受講した学生達は意欲的な学生が多く見られた。</p>	<p>授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていた。今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、対話機会を増やし、授業を通じて、自分の成長を実感させられるよう工夫したい。</p>	<p>授業評価4.61 回答率62.5% 科目GPA3.15</p>
U241016 インターンシップ（集中）B	<ol style="list-style-type: none"> ①社会で働くことの意味を考えられるようになる。 ②自己の職業適性を見つけることができる。 ③将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 	<p>初めて担当する科目であったが、前年度の担当者の協力でスムーズに授業を進めることができた。 先方に迷惑や失礼のないようなインターンシップにするため、それなりに覚悟を持った学生に選択させるよう、授業ガイダンスでは厳しい言葉で説明した。このことが功を奏したのか、特に問題なくすべてを終えることができた。</p>	<p>この授業は「働くことの意味」や「会社組織とは何か」が分かっていないと先方に迷惑をかけることになるだけでなく、意味も分からずに不満だけが残ることになりかねない。したがって、事前指導でどこまでこのことを浸透させるかが重要になってくる。今後もこのことを学生たちにはしっかりと伝えながら、充実したインターンシップとしてもらえるよう工夫していきたい。</p>	<p>授業評価4.57 回答率66.7% 科目GPA3.56</p>

令和6年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
D241006 データマイニング I	現在の情報社会においては日々膨大なデータが生み出され処理されている。そのデータ処理を支えるコンピュータや情報処理の基本技術について紹介する。また、データ処理のために必要となる数学やプログラミングの基礎についても学んだ上で実際の処理を体験し、知識の定着を図る。□	情報技術について質の高い講義が提供されているとは言えなかった過去のカリキュラムで教育を受けてきた学生にとっては大変難しい内容の講義に相当するが、今年は多くの学生がしっかりと授業内容について来れるようになった。昨年の状態と比べれば、大いなる改善が見られ、授業アンケートにもそれが現れている。現状のスマートデザイン学科のカリキュラムにおいては、この講義が情報処理技術の中核をなす講義となっており、この講義内容の理解が進んだことはとても喜ばしいことである。	高度な内容の講義であることに変わりはないが、提供する技術範囲を絞るとともに、学生の学力レベルに応じた講義内容へと大幅な変更を行なった。特に、基礎学力不足を補うための補習的な内容の講義回を複数設けるとともに、演習を増やし、理解を助けるようにした。また、講義内容の復習を何度も挟んで重要な内容を繰り返し紹介し、知識の定着を図った。授業評価のスコアは昨年度と比べて相当に改善しており、大いに効果があったと思われる。	授業評価4.0 回答率55.6% 科目GPA
D241005 人間中心デザイン I	3～4年生の専門領域への学びに向け、各領域のデザイン思考や手法を俯瞰的に学ぶ。特に人や社会のためのデザインについて、各教員が示す社会や人、個性を捉える視点や手法と、そこから問題解決の提案や実現まで展開していく考え方を学ぶ。	これまで学科所属教員の研究内容を概観するような講義が存在しなかったため、オムニバス形式で研究紹介を行う形式を試みたが、研究内容についての理解が進み、一定の効果があったと感じている。	教員の研究内容をオムニバス形式で紹介する講義内容とした。授業評価のスコア的にも問題はなく、今後もこの形態で実施したい。	授業評価4.4 回答率57.9% 科目GPA
D241014 人間機械コミュニケーションプロトタイプینگ I	人間機械系の処理を行う上で必要な情報処理の基礎技術について学ぶ。ここでは特にセンサー情報や音声情報を主な対象と想定している。また、これと並行してPythonプログラミングを習得し、応用システムのプロトタイプینگを行うことで知識の定着を図る。	自主性に任せ、指導時間を十分に取れなかった面もあるが、結果的には学生たちのセンサー情報処理やプログラミングにおける理解が大いに進んだと感じている。	ガイダンス内で講義の技術レベルを事前に紹介しておいたことで、知識不足の学生がこの科目を選択することがなくなった。そのため、学生には課題に加えて、目標とヒントだけを与えることで自主的に問題解決を図るように誘導した。当初このやり方に戸惑っていた学生もいたが、最終的にはほとんどの学生が高いレベルで目標を達成することができた。	授業評価4.1 回答率60% 科目GPA
D241021 オープンイノベーション論	産業・地域・生活に存在するさまざまな課題に対し、最先端の情報テクノロジーによる問題解決例を中心に紹介する。その成功の多くは技術や情報のオープン化が関係していることを知った上で、知的財産権で守られたクローズドな技術や情報と、オープンイノベーションの関係についても学ぶ。	様々な課題解決のための情報技術を俯瞰することができ、卒業研究等を進めていく上でも有効な講義となったのではないかと考える。	アンケート評価スコアは高く、特に問題は感じられない。	授業評価4.4 回答率52% 科目GPA
D241027 卒業研究 I	これまで学んできた情報処理技術、人工知能技術を活用して社会の課題解決に取り組む。先行研究を十分に調査した上で研究手法の提案を行い、データ収集、システムの実装、性能評価、そして成果発表及び文書化までを一貫して行うことで、研究開発のプロセスを体験する。	英文論文を含む先行研究を熟読するように指示するとともに、実験環境の構築と整備を進めさせた。前期の研究の中で多くの目標を達成し、研究のスタートラインに立たせることができたと感じている。	この講義の受講者は私が他大学で指導中の学生(大学院生)とともにゼミに参加し、互いに研究の進捗を紹介し合うとともに、疑問点をSlack等で確認するなどして、時間外でも積極的に学習を進めた。結果として、半年という短期間で先輩の研究内容を十分にキャッチアップし、最先端の研究に着手するためのスタートラインに立つことができた。	授業評価4.8 回答率100% 科目GPA
D241034 AI研究専門ゼミナール I	最先端の情報技術を理解し、活用できるデジタル人材を育成する。各学生が主体的に先行研究を調査し、プログラミングを行なって実際にシステムを動作させることで、研究開発のための基本技術とプロセスを学ぶ。	この講義を通じ、学生には先行研究の調査の重要性と、良い研究とはどういったものかを理解させることができたのではないかと考えている。	卒業研究を実施する上で特に重要な、先行研究のサーベイを中心に行なった。学生が調べた論文を紹介し、それに対して教員が適宜質問とアドバイスを与えることで、良い研究と悪い研究の違いを理解させ、また、真に取り組むべき研究課題について考えさせることができた。学生の評価も高く、今後も引き続きこの方法で実施したい。	授業評価4.7 回答率66.7% 科目GPA
U241002 コミュニケーション・スケッチ D	① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。 共通科目として、共通科目の基礎、キャリアに属し、学科を問わず、最終的にインターンシップなどに結びつける。	90分の演習は順調に進み、シラバス通りに展開できた。わかりにくい演習問題に対する質問に直接答えたり指摘が出来るような環境となった。	授業評価もよく、特に問題はない。	授業評価4.575 回答率66.7% 科目GPA2.96
D241003 作るスマートデザインI	①工業製品をデザインするとき起こる事象を定量化する方法を知っている。 ②定量化するためセンサー及び人工的なコミュニケーションの方法を知っている。 ③①、②を活用したプロダクションデザインができる。	演習の作業中も皆集中しており、ほぼシラバス通りに展開ができた。	留学生(中国、ベトナム、ネパール、モンゴル)が多く日本語の伝達が不十分な点(口頭、板書、プリント、スライド)を改善していく。	授業評価4.050 回答率64.0% 科目GPA3.28
U241013 都市と移動手段のデザイン	① 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 ② 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 ③ 新しい移動手段をプランニングすることができる。 共通科目として、市場クリエイションの領域となる。	毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行ったが、内容が新鮮であったためか、評価は良く、大きな問題はなかった。	公欠者に対して、補習課題の方法を検討する。	授業評価62.5 回答率62.5% 科目GPA3.15
D241013 カルチャーメディアプロトタイプینگI	①人間中心デザイン手法により新たなカルチャーのコンセプトメイキングができる。 ②①のカスタマージャーニープランをプレゼンテーションできる。 ③②でプレゼンテーションしたプランの実装を計画できる。	欠席者が多かったが、学生の理解度は高かった。	もう少し難易度を上げて良いと思われる。	授業評価5.0 回答率23.5% 科目GPA2.41

令和6年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
D241035 ICT研究専門ゼミナール I	①ICT技術を知っている。②最新のICT技術によるサービスを知っている。さらにICTプロトコルを知っている。③ICT技術におけるメディアの在り方を知っている。	欠席者は多かったが、ゼミナールとして、順調に研究テーマが進められた。	ゼミナールとしての研究の進め方が受身的であるので、もっと積極的になるように改善する。	授業評価5.0 回答率66.7% 科目GPA1.67
D241040 スマートモビリティ論	①モビリティに必要な要件を知っている。 ②自動運転・自律走行・ドローンの制御技術を知っている。 ③新輸送方法を用いた産業アイデアを提案するためのプロトタイピングができる。	4年生は特に中盤の授業で欠席者が多く、講義内容がうまく連結できなかった点が惜しまれる。	オムニバス形式を強め、欠席者用にUNIPAへのテキスト添付を強化していく。	授業評価5.0 回答率66.7% 科目GPA2.83
D241002 表すスマートデザイン I	①メディアや情報コンテンツをデザインするときに起こる事象を定量化する方法を知っている。 ②定量化するためセンサ及び人工的なコミュニケーションの方法を知っている。 ③①、②を活用したメディアや情報コンテンツを適切なソフトウェアを使ってデザインする方法を知っている。	教員2名で12人の学生を指導した。少人数であったのできめ細かい指導を行うことができた。2名の学生が定期試験を提出することができなかった。学科導入として、アイデア立案の準備を行ったが、脱落者も含め、全員立案することができた。脱落者はプレゼンコンテンツがモチベーションが低かったが、作成できなかったことは残念である。提出者の課題内容は初年度の学生としては満足できるものであった。過年度生が1名受講したが、良好な出席率であった。	アイデア立案のため、段階的な課題制作が必須となるが、脱落者はその段階であきらめることが多く、対応に苦慮している。Iでは準備段階として研究記録を作成しているが、主旨を理解してもらうよう丁寧に指導した。	授業評価4.89 回答率64% 科目GPA2.53
D241007 プレゼンテーション演習	①映像及びデザインオーサリングソフトさらにデスクトップファブリケーション機器の基本的な使い方を知っている。 ②①を使い表現するテーマに向けて言葉、描画、造形のオーサリング計画を立てることができる。 ③①②により課題のアピールポイントを効果的に第三者にいつ何をどのように伝えるかを構成できる。※adobe CCの操作ができる。	プレゼンテーションに対する必修授業。機器の操作方法、データの扱い方、コンテンツの構成までを指導した。各部分で演習課題を出題した。学生は友達同士でグループを結成し、固まったクラスターを形成したが、協力して課題の改善を行う場合と、一緒にさぼる場合が発生した。授業の最後に演習の集大成としてプレゼンテーションの実技指導も行った。	必修授業であったので、学生の取りこぼしがないように注意した。特別な配慮を必要とする学生が何名か受講し、対応に苦慮した。プレゼンコンテンツの題材には各自のデザインアイデアを使ったので、プレゼンのスキルを指導する間にアイデアの指導も行うことができた。	授業評価4.58 回答率52.5% 科目GPA1.98
D241010 メディアデザイン基礎	①視覚体験を中心に据えた五感に訴えるメディア(表現媒体)を知っている。 ②メディアを用いた表現と効果を知っている。 ③①②を各種メディア(媒体)・メソッド(方法)用いて「もの」「こと」を生成・構成するための基礎には文法・デッサンなど「捉え表す根本」があることを知っている。	デジタルメディアについて広く浅く講義と演習を行った。担当者の授業を1年次に受講した経験がある学生にとっては重複する内容となる部分もあるが、未受講者にとって過度に難しくならないように配慮するのに気を使った。他学科からの受講者が大変熱心で、彼のリクエストにより一部内容を再検討した。	授業はメディアデザインソフトをインストールしたコンピューターを設置した教室で行い、すべて同じ環境で演習ができる環境を確保した。毎回デザインスキルに対して演習を設定した。	授業評価4.55 回答率%64 科目GPA2.18
D241016 エンターテイメントプロトタイピング I	①人間中心デザイン手法により新たなエンターテイメントのコンセプトメイキングができる。 ②①のカスタマージャーニュープランをプレゼンテーションできる。 ③②でプレゼンテーションしたプランの実装を計画できる	エンターテイメントコンテンツのプロトタイプを作成するための準備を行った。受講者は21名でアイデア立案からモチベーションを持って授業に参加していたと思う。多くの学生はすでにアイデアを持っており、具体的な制作方法まで深入りすることができたが、アイデアがない学生は実現できるアイデアを立案するまで試行錯誤を重ねることになった。編入生が2名おり、そのうち1名はデザイン、情報技術に対して受動的な留学生で最後まで満足できるアイデアを発見することができなかった。学生による差が大変大きい授業であった。	ひたすら個人対応で指導に当たった。授業担当者は2名で別の視点から有効なコメントを提供してくれた。分担して学生の個別な要求に対応するようにした。時機を見てプレゼンテーションを行い、記録を提出させた。	授業評価4.48 回答率42.9% 科目GPA2.43
D241023 卒業研究 I	①第三者が欲するクリエイションを計画できる。 ②①のためのエビデンスを定量的にプレゼンテーションできる。 ③①②により製品デザインを計画できる	受講者は6名で、きめ細かい指導ができたと考え、留学生4名(ベトナム、ネパール、中国)日本人2名で、日本人のうち1名は過年度生であった。留学生は友好的で語学力も高く、熱心であった。日本人は頑なな人が多く、指導に苦慮した。	各自のテーマ、能力に合わせて学科の卒業研究評価が不透明な部分があったのでそれに対応するようフレキシブルなエビデンス制作を心がけた。	授業評価4.75 回答率67% 科目GPA2.55
D241037 メディア研究専門ゼミナール I	①最新のメディアコンテンツ制作におけるトピックを知っている。 ②①のトピックをメディアに取り込み、コンテンツを設計することができる。 ③②で設計したコンテンツを実現するための方策を調査・立案することができる。	教員3人で27名の学生を指導した。卒業研究の立案からドキュメント制作、プレゼンテーション計画などを指導した。ほとんどの学生は3年次から温めてきたアイデアを持っていたが、一部変更する学生もいた。3年次主に指導に当たっていた教員から引き継いだ学生も多く、研究の方向性を保つのに苦労した。	学生の研究対象は多岐にわたっていたが、統一したプロトタイプソフトを使い情報の共有ができるようにした。全員に対して指導できるよう、教員は卒業研究担当の以外の学生に対しても指導できるようにした。ドキュメント制作に関しては、使用する書類ファイルの統一、書式のテンプレート制作と行った。課題はUNIPAとOnedriveで管理した。	授業評価4.76 回答率52.6% 科目GPA2.37

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
L241003 スタディスキル D1	<p>①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。</p> <p>②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式のつとってそれらを作成することができる。</p> <p>③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。</p>	<p>シラバスに従って、予定していた内容をすべて実施した。</p> <p>目標①ノートテイキングを前期終了時に実行している学生はわずかしかない。しかしその重要性は、視覚教材をアップデットしたこともあり確実に伝えられたと思う。目標②レポート作成は、定期試験レポートを見る限り達成できた学生はおよそ半数程度。例年通り学生間の差がひじょうに大きい。テーマを自ら設定し、リサーチして調べたことをレポートとして構成することは、留学生も多い現在、かなり難しいものになっている。現在は数十年來変わらず人文系のレポートを前提としてきたが、専門科目で実際に応用できる形式も扱う必要があろう。目標③リサーチ方法については、AIによる検索方法や、従来のAND, OR, NOT, フレーズ検索等のキーワード検索も紹介した。今後はA I 活用スキルのアップデートが求められる。</p>	<p>・設問2（達成目標をどの程度達成できたか）が4.2、設問3（授業評価は自分の達成度に合わせていたか）が4.2と低め。定期試験レポートの評価は最終授業で採点基準を明示し、すべてにコメントも入れてフィードバックしている。過程評価対象となる毎回の課題採点が滞りがちであったことが、低めの評価となって表れたのだろう。あるいは他科目と比較して厳しい評価なのかもしれない。計14回の課題は負担が大きいので、次年度は相応のフィードバックをするよう心がける。</p> <p>・学んだ実感を得られるよう、自ら手を動かすワークの時間を毎回確保する。</p>	<p>授業評価4.305 回答率50.0% 科目GPA1.32</p>
L241004 スタディスキル D2	<p>①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。</p> <p>②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式のつとってそれらを作成することができる。</p> <p>③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。</p>	<p>シラバスに従って、予定していた内容をすべて実施した。</p> <p>目標①ノートテイキングを前期終了時に実行している学生はわずかしかない。しかしその重要性は、視覚教材をアップデットしたこともあり確実に伝えられたと思う。目標②レポート作成は、定期試験レポートを見る限り達成できた学生はおよそ半数程度。例年通り学生間の差がひじょうに大きい。テーマを自ら設定し、リサーチして調べたことをレポートとして構成することは、留学生も多い現在、かなり難しいものになっている。現在は数十年來変わらず人文系のレポートを前提としてきたが、専門科目で実際に応用できる形式も扱う必要があろう。目標③リサーチ方法については、AIによる検索方法や、従来のAND, OR, NOT, フレーズ検索等のキーワード検索も紹介した。今後はA I 活用スキルのアップデートが求められる。</p>	<p>・設問3（授業評価は自分の達成度に合わせていたか）が4.2、設問5（授業内容・課題が達成目標に即したもののか）が4.3と低め。定期試験レポートの評価は最終授業で採点基準を明示し、すべてにコメントも入れてフィードバックしている。過程評価対象となる毎回の課題採点が滞りがちであったことが、低めの評価となって表れたのだろう。あるいは他科目と比較して厳しい評価なのかもしれない。計14回の課題は負担が大きいので、次年度は相応のフィードバックをするよう心がける。設問5については、学生がどこをどう判断しているか確認する必要がある。</p> <p>・学んだ実感を得られるよう、自ら手を動かすワークの時間を毎回確保する。</p>	<p>授業評価4.40 回答率63.3% 科目GPA1.73</p>
D241025 卒業研究 I	<p>① 第三者が欲するクリエイションを計画できる。</p> <p>② ①のためのエビデンスを定量的にプレゼンテーションできる。</p> <p>③ ①②により製品デザインを計画できる。</p>	<p>直前の授業「デザインビジネス研究専門ゼミナールI」で他のゼミと合同で、卒業研究の進捗状況発表を行うため、その延長でゼミ生2人それぞれに対し、さらに具体的なアドバイスや質問を受ける時間とした。研究の方法、資料のまとめ方等、基礎的な学びができておらず、基礎から始めた。内定取得のための就職活動に意識が向いているが、前期はそれやむを得ないと判断し、コミュニケーションを上手く取るための関係づくり時間に割いた。</p>	<p>・アンケート未回答については、以降、授業内に目の前でアンケートに回答してもらうこととする。</p>	<p>授業評価不明 回答率0% 科目GPA2.50</p>
D241017 マーケットプロトタイプ ビング I	<p>①人間中心デザイン手法により任意のプロダクトのコンセプトメイキングができる。</p> <p>②①のカスタマージャーニープランをプレゼンテーションできる。</p> <p>③②でプレゼンテーションしたプランの実装計画から得られる便益を試算できる。</p>	<p>齋先生がC#を基礎から教える授業で、林は出欠管理と課題提出管理等、補助的な役割を果たした。</p> <p>コンテンツを最小限に絞って、一から丁寧に教えられているが、一回でも欠席するとわからなくなるため、早々に脱落した学生も若干いた。昨年度、同様の授業でC#を初めて学んだ4年生が卒業研究で利用している様子を見見ると、プログラミング言語をかじる程度でも十分に有効性が感じられる。しかしながら、ステップごとのコードを授業資料として配信する等、欠席した場合のフォローの必要性を感じる。</p>	<p>やや低い評価となった。回答率も低い。授業内での回答を徹底する。授業回ごとの資料（コードを含む）配信を行い、個人で授業時間外に学習できるようもっていきたい。</p>	<p>授業評価41.5 回答率50.0% 科目GPA3.38</p>
L241051 キャリアデザイン I D	<p>①自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。</p> <p>②自分軸を形成することができる。</p> <p>③自己に必要な知識や能力が認識できる。</p>	<p>3人で担当。林はすべての授業回準備と運営実施、講師手配を行った。就職・進学含め卒業後の進路決定をサポートする実践的な時間となるよう各回の授業内容を組み立てた。就職情報会社の派遣講師やキャリアコンサルタントによる講義と3回および4回の模擬面接を含めて、基本的なところは押さえられたと考えている。自己分析の結果を文章と語りでアウトプットする、その表現力のアップと内容の充実が大きな目標であるが、達成度は半分程度といったところ。</p>	<p>評価は良くもなく、悪くもないといったところ。模擬面接の授業回の出席率が例年ひじょうに低く、休んでもよいといった意識をもつ学生も多かったが、今年は必ず参加するよう指導してきた成果があり、出席率が大幅アップした。ESの添削が追いつかないので、他の担当者に割り振る等そこは改善したい。</p>	<p>授業評価4.36 回答率44.8% 科目GPA2.76</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
D241006 データマイニング I	①自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。 ②自分軸を形成することができる。 ③自己に必要な知識や能力が認識できる。	2名で担当する科目。授業計画とスライド作成は情報系専門教員（西村先生）が担当、林は課題提出状況の記録、出欠管理と学生からの質問への対応、そして専門教員がスライド上に作成した問題をUNIPA>小テストに問題として設定、成績管理等のを主に担当した。以上のことは滞りなく遂行できた。 授業後半ではPythonの演習があり、SAとともに、進め方がわからない者の対応に当たった。学生の受講態度も改善し、プログラミングを学びたいと積極的な姿勢を示す学生も出てきた。	3.984, 55.6%, 1.40 低い評価となった。数式も多く出てくるため難しいと感じられ、それが低評価に繋がったように感じる。次年度は予復習をするよう促し、小テストの点数が低い者には個別に声をかけて、学びの意欲を引き出すようにしたい。	授業評価 回答率% 科目GPA
D241036 デザインビジネス研究 専門セミナーI	①Web3時代におけるデザインビジネス事例調査分析を行い、社会実装の背景を理解する。 ②社会実装に必要な動向を踏まえて、将来普及するデザインビジネスの可能性を自身の言葉で語る事ができる。	本講座は「卒業研究I」と連動と連動して、授業担当者2人の教員（齋先生と林）に属するゼミ生計9人がそれぞれの研究の進捗状況を毎回発表するかたちとした。毎回の発表の蓄積が重要であることが学生自身に認識され始めてはいるが、まだ十分ではない。スライド作成の基本から始めた。C#のコーディングを行う学生も出てきて、これまでのデザイン学科とは異なる内容が増え、こちらの知識のアップデートが求められる。留学生が多いが、ひじょうにより雰囲気が進められている。	悪くはないが高くない平均的な評価となった。解答率が低い。23年度より専門が異なる教員が集まった寄合のゼミナールであり、やや緊張感に欠けるゆるい雰囲気形成された。その曖昧さ、ゆるさが学生の意識にも影響したのか、週ごとの進捗が遅かったり、欠席する学生が多かった。もう少し緊張感を出すことを目指す。	授業評価4.20 回答率55.6% 科目GPA3.0
U241006 色彩学 B	①自然科学的な色彩を成り立たせている仕組みや、人間が色彩をとらえる方法を知っている。 ②色彩がもたらす心理的な効果や社会的な効果を知っている。 ③色彩の理論を生かし、配色を計画することができる。	スポーツの部活中心で色彩学の学習内容にまったく興味のない学生も多数おり、その大半が授業最初からイヤホンを付けスマートフォンを見て俯いている。席席指定しており、雑音を発することはないので、穏やかに注意するのみとした。 4301教室はプロジェクタの演色性が低いため、スライド資料を手元のスマートフォンで見る学生もいるので、必ずしもスマートフォンを見ている＝ゲームや動画閲覧とは限らない。昨年に比べて、丁寧にしっかりとした受講ノートを書く学生がいなくなった。それに対し、コメントを書く楽しさもなくなり、やや残念でもある。資料の事前配信と、受講ノートのフィードバックも間を置かずに行えた。	やや低い評価となった。身近な関心ももてる話題を多くし、カラーチップや色紙を使って配色を行うワーク等も考えたいが、現状だとそもそも受講態度が身につけていない、端から学ぶ意欲がない（ように見える）学生もおり、難しい。こちららもそうした学生を放置する姿勢を、図らずも示している可能性があるのでは、まずはそこから改善し、楽しい話題を提供するよう努める。	授業評価4.285 回答率65.0% 科目GPA2.45
U241015 インターンシップ	社会で働くことの意味を考えられるようになる。 自己の職業適性を見つかることができる。 将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。	28人受講者のうち、9人が単位取得諦め、2人がレポート未提出で11人（4割弱）が不合格。 事前指導を3コマ、実習10日間、事後指導2コマをシラバス通りに実施した。25年卒業の彼らから三省合意のもとインターンシップの定義が変化し、意識も変わりつつある。5日間以上の「インターンシップ」よりオープンカンパニーを数多く参加したいという、単位取得の条件に縛られたくない学生が多く、放棄した学生が多かった。大学紹介のインターン先企業の選定はスムーズに行え、事後指導での報告会では、インターンシップの意義は大きかったとの声も多く、一定の成果はあったと考えている。一方で事前指導がやや希薄になった感否めない。	後期開始後1ヶ月も後に定期試験となるイレギュラーな授業故か回答率はかなり低い。次年度は最終授業のプレゼン日に実施することにした。改善点は、事前指導を各個人に向けて行うようにしたい。	授業評価4.371 回答率25% 科目GPA2.0
D241009 造形デザイン基礎	達成目標 ①自己や第三者または集団、社会の様々な領域のニーズを知っている。 ②ニーズに合わせたクリエイション手法を知っている。 ③①②を統合しニーズに応える「ものづくり」を構成できる。	前任者から授業を受け継いで2年目だったので、各課題の時間配分や指導上の注意点を見直して実施したので、昨年よりも学生にとっての目標が明確になり、受講する側としてわかりやすく努力しやすかったと思う。そのため、意欲的な学生にはかなりの成果を感じさせることができたのではないかと。しかし何かに取り組むという姿勢のできていない学生には手付かずの部分があったようだ。特に指示されないと行動できない学生が何人かいた。また、講習会などでコメントされることが受け入れできない学生もいた。大学での授業で「学習する 向上する」ということがわかっていないようだ。	本授業は、2年生前期の開講ではあるが、物理的造形学習は全くの初心者がいいることを認識し、取り組み姿勢から説明と指導をしていく必要があると感じた。	授業評価4.371 回答率53.8% 科目GPA2.04
D241032 卒業研究 I	達成目標 ①本人にとって4年間の集大成として満足ができる。 ②本学科の卒業研究としてふさわしいテーマを選択する。 ③②を形にするための技法・材料の研究を行う。	本年度も論文系の担当者から紹介されてきた学生で、特に今年は実技経験がほぼないので受け入れを拒否しようと思ったが、研究室で泣かれそうになったので受け入れた。①の4年間の集大成とは過去3年で何も解らなかつた、身に付かなかつたという集大成の学生がいるようだ。その初心者に対しその学生の能力を見定め、時間をかけてうまく育てることができた。	個々の学生の能力や志向を見定め、焦らずに対応していきたい。	授業評価4.400 回答率100% 科目GPA.4.00

令和6年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U241003 コミュニケーション・ スケッチ B1	① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。	興味のあるなしで理解度に大きな差が出てくる。80%の学生が理解し興味を示してくれたらというのが目標だったが、およそその目標は達成できたと考えている。	受講する学生が視覚伝達に興味を持っていない事を考えると、それなりにやれた授業だったと考えられる。解説やデモンストレーションの見せ方などは来年度に向けて改善を考えている。	授業評価4.52 回答率73.8% 科目GPA
U241004 コミュニケーション・ スケッチ B2	① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。	興味のあるなしで理解度に大きな差が出てくる。80%の学生が理解し興味を示してくれたらというのが目標だったが、およそその目標は達成できたと考えている。	受講する学生が視覚伝達に興味を持っていない事を考えると、それなりにやれた授業だったと考えられる。解説やデモンストレーションの見せ方などは来年度に向けて改善を考えている。	授業評価4.37 回答率69.7% 科目GPA
D241033 卒業研究 I	①第三者が欲するクリエイションを計画できる。 ②①のためのエビデンスを定量的にプレゼンテーションできる。 ③①②により製品デザインを計画できる。	0	0	授業評価4.60 回答率36.3% 科目GPA
D241001 暮らしのスマートデザイン I	達成目標 ①生活の中の事象を定量化する方法を知っている。 ②定量化するためセンサ及び人工的なコミュニケーションの方法を知っている。 ③ ①、②を活用したプロダクションデザインができる。	受講者数21名、教員2名で実施した。大学図書館の問題解決に取り組む課題を行った。現場調査から市場調査、利用者及び事業者へのインタビュー、インタビュー内容の共有、問題点の抽出、問題定義、アイデアの検討、プロトタイピング、発表までのプロセスを実施した。これにより、ソーシャルデザインのプロセスを体験する機会を提供した。授業では、グループワークと個人ワークを組み合わせたアクティブラーニング形式を採用し、学生同士のブレインストーミングやプレゼンテーションを通して体験的な学びを促進した。また、Illustratorを使用したブックカバーやしおりの制作を通して表現技法の習得も図った。	今後の改善策として、学生の状況に柔軟に対応し、主体的に取り組めるよう指導方法を工夫する。課題の理解度を高めるため、授業ごとに振り返りを行い、取り組む内容の意味を考えさせる機会を設ける。	授業評価4.475 回答率76.2% 科目GPA2.24
D241030 卒業研究 I	達成目標 ①第三者が欲するクリエイションを計画できる。 ②①のためのエビデンスを定量的にプレゼンテーションできる。 ③①②により製品デザインを計画できる。	受講者数は2名。それぞれがテーマの設定から資料収集、調査、コンセプト設定までを行った。授業時間外にはSNSやメールを活用して対応することで、限られた授業時間を効率的に活用することができた。今後も学生が主体的に研究テーマの資料収集や調査、制作を進められるよう支援していきたい。	今後の改善策として、学生の状況に柔軟に対応し、主体的に取り組めるよう指導方法を工夫する。	授業評価5 回答率100% 科目GPA2.5
D241011 共生デザイン基礎	達成目標 ①共生社会の実現に資するユニバーサルデザイン、SDGs、持続可能社会といった概念を理解している ②サイバー空間とフィジカル空間の共生や人とテクノロジーの共生を目指すスマートシティやSociety5.0の概念を理解している ③共生デザインの実践として、スマートシティやSociety5.0のアイデアをまとめるといった机上の演習を経験している	受講者は30名。対面授業形式で実施した。共生社会に関する座学を7回、デザイン思考法に基づくソーシャルデザインの演習課題を7回行った。演習課題では、日本の森林問題に焦点を当て、市場調査からアイデアの検討、プロトタイピング、プレゼンテーションまでを実施した。グループワークと個人ワークを組み合わせたアクティブラーニング形式を採用し、学生同士のブレインストーミングやプレゼンテーションを通じて、体験的な学びを促進することを重視した。	今後の改善策として、グループワークが苦手な学生にも対応できるよう、個人ワーク課題を取り入れる。また、学生が主体的に取り組めるよう、課題の提示方法にさらなる工夫を加える。	授業評価4.621 回答率63.3% 科目GPA2.5
D241015 テラーメイドサービス プロトタイピング I	① 人間中心デザイン手法によりサービスのコンセプトメイキングができる。 ② ①のカスタマージャーニープランをプレゼンテーションできる。 ③ ②でプレゼンテーションしたプランの衣装を計画できる。	複数の教員で協力して取り組む授業（実習）形式で、前任者から引継ぎ、今年度から、新しい授業資料を用意して進化した。前知識がない学生とのやり取り（例：プログラミングや電子回路の予備知識）に最初、苦戦したが、個別質問で学生と相当な回数の対話を重ねていくと、徐々に、学生の理解が深まっていると感じる様子が見ることができた。学生の思考に寄り添って対話を重ね、徐々に、知識の形成を図っていく方法がこの科目には最適だと考える。	学生の自由な発想を生かしつつ、そこでまだ足りない技術を教員が強化していくようなフォロー体制をつくり、今後、取り組みたい。	授業評価4.617 回答率44.4% 科目GPA2.74
D241039 ユーザーインターフェイス論	① 阿咩・相槌・間などコミュニケーションに不可欠なインタラクションを知っている。 ② アフォーダンス（シグニファイア）を知っている。 ③ ①②を理解した上で、人間と機械のインターフェイスをデザインする視点を持つ。	シラバスに記載されている内容の通りに、授業を進行し、おおむね目標を達成することができた。ただし、4年生の学生の授業への出席率は悪く、特に、一部の学生が続いて欠席し、途中でドロップアウトする状況であった。出席率の良好な学生は、本科目の目標を十分に達成していたため、出席ができれば、この授業の内容は学生に教授できると考える。	4年生は研究活動に集中したいため、講義科目を履修するのは、学生にとって不都合なのではないかと考える。3年生のうち本科目を履修できるように来年度の授業配置を変えていただいた。経過を観察する。また、大学に来るモチベーションが高まるような小ネタやコラムを授業内で紹介し、出席率を高めた。	授業評価5.00 回答率60% 科目GPA2.40

令和6年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
D241008 マーケティング演習	達成目標 ① デザインにとってマーケティングの概要と意義を理解する ② 市場やユーザーのトレンドを調査し、ニーズを発見し販売計画を立てる、一連のマーケティング手法を知る	前任者が作成したシラバスの内容と、一般的なマーケティング教育との乖離に非常に苦心した。 講義は、マーケティングを進める上で重要なフレームワークを、身近なマーケティング事例を交えて解説し、就職活動におけるセルフマーケティングを題材とした演習を実施する形式で進めた。実務経験のある教員ならではの地元企業の裏話を紹介したり、マーケティング手法の他職種における有用性が分かるよう、工夫したものの、何故、デザイン系学科でマーケティングの授業が必要なのか、学生からの理解が得られなかったように感じた。 就職活動におけるセルフマーケティングは、実際の就職活動時に非常に有効のだが、2年生ということもあり、あまり身に入らなかったようだった。	授業評価アンケートは、シラバスの内容との整合性であり、乖離がある以上、改善の見込みは乏しい。 何故、デザイン学科系でマーケティングの授業が必要なのかという問いへの答えをしっかりと示し、学生からの理解が得られるよう、努める。	授業評価4.095 回答率52.5% 科目GPA1.60
D241015 テラーメイドサービスプロトタイピング I	達成目標 ① 人間中心デザイン手法によりサービスのコンセプトメイキングができる。 ② ①のカスタマージャーニープランをプレゼンテーションできる。 ③ ②でプレゼンテーションしたプランの実装を計画できる。	内容を刷新したものの、シラバスの達成目標などは変更不可のため、整合性を持たせるために非常に苦心した。 講義は、自身の理想のロボットを制作する過程で、電子回路やプログラムを学ぶ、演習形式で進めた。同様の講義は他大学にもあるが、知識が全くない状態から着手するケースは非常に稀である。そこで、学生のアイデアを実現する方法を教員側で考え、ロボットを完成させるという成功体験により、学生が自分でもできると自信を持たせることに注力した。受講後の感想として、もう少し難しいプログラムに挑戦してみたいという声が多く、成功したと言える。	授業評価アンケートは、シラバスの内容との整合性であり、乖離がある以上、改善の見込みは乏しい。 新目標は達成したため、次年度はより制作自由度の高いキットを導入し、プログラムだけではなく、ロボット開発に挑戦してみたいという学生が現れるよう、努める。	授業評価4.617 回答率44.4% 科目GPA2.74
D241021 オープンイノベーション論	達成目標 ① 個別の知能活用をデザインする方法を知っている（知識の平準化） ② 受動的な情報享受から能動的な知識共有への変革を行う効果を知っている。 ③ ①②により共有化され解決される知識のブロックチェーン社会を理解している。	講義は、4名の教員によるオムニバス形式で実施し、12回から14回の3回を担当した。 本学では、人を対象とした研究が少なからずあるものの、そのような研究の実施には研究倫理審査が必要だという認識が乏しい。卒業研究着手前の時期に、人を対象とした研究倫理審査とELSIに関する教育の機会を持って、良かった。提出されたレポートからも、特に生成AIと関連付けて、重要性を理解できているようだった。	本学でも、人を対象とした研究倫理審査の体制が整う予定である。次年度は、本学での体制も含めて、教育を展開していきたい。	授業評価4.385 回答率52.0% 科目GPA2.28
L241043 デジタルデザイン表現 D	① コンピュータによる画像編集、映像編集等について複数のソフトウェアを操作することができる。 ② 複数のソフトウェアを操作して課題制作に取り組む事が出来る。 ③ リッチメディアの可能性について理解してコンテンツ制作に取り組む事が出来る。 ④ 授業に関する理解度を示した資料を作成し、PDF形式ファイル等のデータ提出をする事が出来る。	達成目標に関連する知識を解説しつつ、知識に関連した演習内容を積み重ねていくことにより、一つのアプリケーションを構築した。 各授業回ごとに、そこまでの学習内容の振り返りと次回までの学習計画を検討しながら課題を進めていくことができた。最終的には一つのアプリケーション課題の提出であるが、様々な表現を組み合わせたリッチメディアコンテンツであるため、各自ができたことや、やったことを自己評価できるよう評価項目を65項目に細分化した。	クラスの大半がスマートデザイン学科であり、そのため学習内容とマッチした学生が多く評価の分布は高い傾向に偏りが生じている。ただし、達成目標にもある様々なソフトウェアを使い分けながら、リッチメディアコンテンツを制作していく過程で積み重ねて進んでいく演習と演習課題の性質上、途中での挫折からの復帰が困難である。そのため復帰できなかった学生の授業評価は反映されていない。資料をわかりやすく改善し、授業時間外でフォローアップできるように工夫したい。	授業評価4.336 回答率54.3% 科目GPA2.30
U241014 市場創成ワーク	消費者の課題や欲求、動向を捉えるAIやIoTの利用方法を知っている。 新しいビジネスの内容と空間・デザイン・マネジメントを提案することができる。 新しいビジネスにAIやIoTを導入した評価・改善方法を提案することができる。	岡崎市の観光やイベント企画をテーマとした調査によって、各自が新しい価値の発見と、それに基づく新しい市場創成の可能性を提案することができた。 プレゼンテーション手法として、各自の提案をポスター（パネル）発表形式にまとめた。	先行事例を吟味する過程が不十分な傾向が見られたため、さらに時間をかけた事例調査によって各自の提案との差異や独自性を明確にするプロセスを充実させる。	授業評価5.00 回答率50% 科目GPA2.00
D241004 知能プロトタイプデザイン I	① ユーザーの状態をデータ化する手法を知っている ② デザインの評価をデータ化する手法を知っている ③ 評価のデータを分析し考察することができる	デザイン事例や課題を用いた演習によって、ユーザーの状態と解決を探索し、可視化していく手法を学ぶことができた。 可視化した結果を自己評価および事例や他者の結果と比較していくことで分析し考察することも経験できたと考えられる。	データを分析するスキルの学習について、内容をさらに充実させる必要がある。	授業評価4.17 回答率60.9% 科目GPA2.13
D241012 知能プロトタイプタイピング I	① 情報技術を活用したデザインのアイデアをプロトタイプできる ② 情報技術を活用したデザインについてプレゼンテーションできる ③ プロトタイピングに必要な情報技術を主体的に学ぶことができる	Pythonプログラムに触れながら、情報技術を活用した画像上の物体検知や生成AIの利用、応用について触れることができた。 事前修得スキルの都合上サンプルプログラムに触れ、手を加える程度になったが、人によってはプログラムを改変してアイデアの実現を目指す姿に今後の期待が持たれた。	今後、プログラミングスキル自体を養う内容を充足させる必要がある。	授業評価4.49 回答率63.0% 科目GPA2.63

令和6年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
D241031 卒業研究 I	①社会や人に求められるデザインを計画できる。 ②定量的、定性的な評価と考察に基づいたプレゼンテーションができる。 ③デザインの社会実装を計画できる。	テーマの決定と先行研究の調査、研究方法を徹底したことで、研究背景と目的を明確にすることができたが、研究結果が無い段階では、先行研究の調査に伴う定量的、定性的な評価と考察について実感させる内容が不十分だった。	先行研究の調査の際に、実験結果と考察の内容を十分吟味させることで、定量・定性評価についての学習を充実させる。	授業評価4.73 回答率50% 科目GPA2.17
D241017 マーケットプロトタイプ ビング I	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価4.150 回答率50% 科目GPA3.38
D241001 暮らしのスマートデザイン I	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価4.475 回答率76.2% 科目GPA2.24
L241051 キャリアデザイン I	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価4.362 回答率44.8% 科目GPA2.81
D241028 卒業研究 I	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価4.200 回答率71.4% 科目GPA3.29
D241036 デザインビジネス研究 専門ゼミナール I	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価4.200 回答率55.6% 科目GPA3.00
D241021 オープンイノベーション 論	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価4.385 回答率52.0% 科目GPA2.39
L241038 スポーツA, A, D	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教科科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、通常出席者の達成目標は達成できたと考える。GPA2.4 (ED6名含む) に比べ、達成評価4.6と高かったのは、振り返りには不可学生が欠席していたためと推測される。技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。決して運動能力の高い学生ばかりではなかったが、楽しみながら学んでもらえたと考えた。	超欠3名のうち2名は10回以上の欠席、不可3名のうち、1名は配慮学生でほぼ公欠で補充課題未提出、残りの2名は留学期間で、再三の注意にもかかわらず時間外課題未提出(欠席5回)という状況。普通に出席した学生は、S9名、A3名、BC各1名という状況 受講ノート、課題、試験レポートで、高い評価を得る学生がほとんどであった。今後も達成目標を達せできる授業プログラムを心がけたい。	授業評価4.60 回答率75.8% 科目GPA2.40
L241048 健康・運動の科学 A, D	達成目標 ①健康に関する様々な知識・考え方を理解できる。 ②自分にあった健康処方・運動処方をデザインできる。	課題は、前回授業の小テストを授業冒頭に行う形で、その内容が成果評価の筆記試験につながる形式としている。一部の学生を除き、普通に取り組んでいる学生は、それなりの評価が得られた。授業を休まず、課題(小テスト)に取り組んだ学生は、評価点も含め、達成目標に近づけたと考える。昨年度と比較して、達成評価も、GPAも高い状況であった。評価全体として、S, Aの比率も造形学部対象の科目としては順当な結果であった。	超欠5名のうち、4名はほぼ全欠。不可3名は再試未提出であった (S15, A9, B11, C8)。 例年、欠席が最も評価に影響することは指導している。次回授業で実施する課題(小テスト)に関して準備しておくこと含め、丁寧に指導していきたい。 欠席した場合でも、全員に補充課題で学修できるように配慮しているが、欠席をしてしまうと、その指導も難しい。 興味を持って受講できるよう配慮していきたい。	授業評価4.48 回答率76.9% 科目GPA2.25
L241020 数学と社会 D	①数学的な手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。 ②現代の社会で用いられている数学的な手法の原理について説明できる。 ③数学的手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	インターネットを使って情報を受発信する際に使用されている暗号を題材に、現実の社会で役立っている数学について説明した。受講生の理解を少しでも深めるため、元の文章を暗号文にする計算と暗号文を元の文章にもどす計算の計算練習を繰り返した。昨年度と比べると、授業を欠席する、あるいは授業にあまり興味を持ってない受講生の人数が増えた。このため、数学と社会Dの科目GPAは昨年度より0.4低下した。	第10週～第13週に出題する計算練習の難易度は変えず、問題数を増やしたい。	授業評価4.34 回答率57.1% 科目GPA1.50
L241022 英語コミュニケーション A1, D1	①英語基礎力を確認することができる。 ②健康4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組み、高等学校までの総復習をおこなない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は総合経営学科1年生49名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題(5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。また、毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験を受験し、約75%が学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。全体として真面目に取り組む学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。	80%以上の学生が高い評価をしてくれた。この科目には、造形学部建築学科とスマートデザイン学科1年生49人のうちで、85%以上の履修学生が合格した。	授業評価4.551 回答率83.7% 科目GPA2.51

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
L241024 英語コミュニケーションA A2, D2	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組めるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は総合経営学科1年生56名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題（5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。また、毎週の学習や課題、宿題に取り組む、定期レポート試験を受験し、約75%が学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。全体として真面目に取り組む学生が多かったので、授業自体は進めやすかった。	60%以上の学生が良い評価をしてくれた。この科目には、造形学部建築学科とスマートデザイン学科1年生58人のうち、70%以上の履修学生が合格した。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できクラスを目指したい。	授業評価4.212 回答率60.7% 科目GPA1.75
L241046 法学（日本国憲法）A, D	日本国憲法における基本的な知識について理解し、法的問題に際し適切な法的思考や解釈をすることができる。日本国憲法の基本精神を学び、条文の趣旨を正しく解釈することを目的とする。	日本国憲法を取り巻く基礎的内容を扱った。造形学部の学生が対象であり、まずは法学の基礎を確認した上で、できるだけ多くの法律と身近な話題を用いて扱うようにした。単なる条文の理解や暗記ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の目的や意義の把握に努めた。具体例を提供して、法的論点の解説にも時間を割いた。毎回学んだことをまとめるべく、コメントをしっかりと記入している学生が多く、その内容からおおむね理解してくれたようである。判例の検討が難しいと思われるため、丁寧な説明を心掛けた。	できるだけわかりやすい具体例を挙げて、広範な日本国憲法の分野につき論点を絞って丁寧な解説を心掛けた。日本国憲法を取り巻く論点の理解を深めるべく、資料や判例を提示しながらそれを分析し、最終的には自分の意見を持てるようにしていきたい。	授業評価4.481 回答率69.8% 科目GPA2.72
L241035 日本語中級	基本的なやりとりを超える程度の日本語を運用することができる。日本語能力試験N2以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たちは中国、ベトナム、ネパール、インドネシア、モンゴル各出身者から構成されていた。特定の国に話題が集中しないように心がけた。また、語彙コントロールにも気を使った。難しいと思われる漢字語にはなるべく、ふりがなをつけた。学生たちの集中力は比較的高く、活気のある和やかな授業の雰囲気だったと思う。	前年度は学生2人だけであり、きめ細かい対応はできた。今年度は18人なので、その点では難しかった。どの国の学生にも達成感が与えられるような話題や例文を準備するように心がけた。	授業評価4.733 回答率66.7% 科目GPA2.44
L241036 日本語上級	日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たちは中国、ベトナム、ミャンマー、インドネシア、カンボジア各出身者から構成されていた。特定の国に話題が集中しないように心がけた。また、語彙コントロールにも気を使った。難しいと思われる漢字語にはなるべく、ふりがなをつけた。学生たちの集中力は比較的高く、穏やかで落ち着いた授業の雰囲気だったと思う。	前年度は学生2人だけであり、きめ細かい対応はできた。今年度は17人なので、その点では難しかった。口数こそ少ないものの意欲的な学生が多かったため、満足度を高められるような話題や例文を準備するように心がけた。	授業評価4.675 回答率47.1% 科目GPA2.94
L241037 現代日本の文化研究	レベルの高い日本語の文章に向き合い、その内容や論理展開についてより深く理解することができる。読解力の基礎となる語彙力と文法力を増強し応用力を養うことができる。現代日本の文化についての理解を深めることができる。以上3点を到達目標としている。上記の目標に沿うべく、現代日本の企業社会で使われる独特の日本語表現を学ぶことを教育効果としている。	学生たちは1年生、3年生、4年生。出身国は中国のみだった。口数の少ないおとなしい学生ばかりだったので、あまりストレスを与えないように心がけた。板書の時間が多くなった。ビジネス関係の日本語、日本と中国とのビジネス習慣の違いなどについて詳しく紹介し、丁寧に解説した。学生たちは全体的に真面目に取り組んでいたと思う。	留学生の出身国が一つだけの場合は、日本とその国のさまざまな違いについて触れると授業が盛り上がる。そのことを体験的に知っている。そのためしっかりと事前準備を行った。	授業評価4.833 回答率60.0% 科目GPA2.50
L221053 中国語A D	中国語の発音、基本的な文法を学習するとともに、実践的な状況、例えば「中華料理を食べる」をテーマに実践的な会話能力を磨きます。語彙力と表現力を養い、基礎会話能力を養成します。同時に、中国社会への理解を深めるとともに、中国語学習への意欲向上を図り、「中国語」の基礎固めを行います。中国語の発音構造や特徴を理解し、簡単な挨拶表現ができる。中国語の基礎的な会話を行うことができる。中国語の側面にある文化を学習し、中国社会への理解を深めることができる。	本講義では中国語の初学者を対象とし、文法の説明は最小限にとどめて、発音練習を中心に、中国語を多く聞き、たくさん話し、中国語への興味を育みながら楽しく学習させた。特に、日常的な身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆっくりとしたペースで進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につけさせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用した。	履修者は60人で、38名は回答してくれた。2名特別配慮申請学生で、昨年での授業改善アンケートの結果より高い評価になり、GPAも高くなったことは喜ばし。昨年度の回答率も科目GPA授業評価4.44 回答率56% 科目GPA2.50すべてアップできたとの結果になった。今後も受講者全員参加型の授業ができるように工夫していきたい。	授業評価4.695 回答率63.3% 科目GPA2.68

令和6年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
Q241002 教育行政 A, SD, B	現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連するさまざまな課題を理解する。 学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。	制度、教育法規の一方的な説明にならないよう、グループ討議、発表というアクティブラーニングを講義に取り入れるように工夫した。毎回の授業課題においては、授業の振り返りとして、200字程度の論述を課した。これらの工夫により、学生の思考、判断、表現力の向上が見られるようになった。	教員採用試験で課される内容が多く、学生に知識をつけさせる必要があることから、じゅうぶんなグループ討議の時間を取れなかったことから、教材の精選と構造化を図りグループ討議の時間を確保していきたい。	授業評価4.4 回答率100% 科目GPA3.1
Q243002 教育実習 A, SD, B	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようにすることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。	教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図っていききたい。	授業評価 回答率0% 科目GPA(通年)
Q243001 事前・事後指導 A, SD, B	教師として振舞い、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にする。外部の学校での実習に臨むために、教育実習生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことも目指す。	学習指導案の作成、模擬授業の実施、担任としてのクラス業務の把握なども高いレベルで実施でき、学生もある程度の自信をもって教育実習の取り組みができた。また、実習中の流れと心得を実務、実践レベルでまとめたパワーポイントの教材の配信は学生に好評であった。	実際の学校現場を想定したロングタイム運営、生徒指導など授業以外の指導場面を取り入れた指導を取り入れていきたい。	授業評価5.0 回答率66.7% 科目GPA(通年)
L241015 心理学 A1, D1	心理学の基礎用語を理解することができる。 自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。 本講義では、幅広い心理学の領域の中から、日常生活に関係するテーマを多く、取り上げながら、心理学的なものの見方を学ぶことを目的として授業を行っています。	受講者62名、このクラスの学生は熱心に関いてくるものも多かった。心理学は分野が広いので、全ての学生に興味ある分野を紹介することができていなかったと反省する。心理学の面白さは目先のことでなく自分で調べていくことが大切である。いろいろな本の紹介していったが、興味を持ってくれた学生もいてやりがいがあった。ただ、留学生は文字が多いと理解ができにくい場所が多かったようである。日常使わない日本語もあり、習得に時間がかかると思われる。	今年度からテキストを変えてみた。昨年までのものはかなり文章が多かったが、視覚情報を多くし、わかりやすいものと考えたが、やはり、心理学用語は覚えてもらえない。このあたりは心して改善していきたい。	授業評価4.41 回答率63.6% 科目GPA0.8
L241016 心理学 A2, D2	心理学の基礎用語を理解することができる。 自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。 本講義では、幅広い心理学の領域の中から、日常生活に関係するテーマを多く、取り上げながら、心理学的なものの見方を学ぶことを目的として授業を行っています。	受講者23名、比較のおとなしい感じのクラスである。自分からの意見をあまり発しないので苦労したが理解力があるのと比較的少人数であったことがよかったと考える。	個々に質問してくれる学生もいたが、うまく学生の関心を引くことはできていなかったと感じた。図表だけでなく動画も取り入れていこうと考えている。	授業評価4.42 回答率58.3% 科目GPA0.8
L241054 倫理学A・D	倫理学の歴史やその思考方法を理解し、倫理的諸課題について思考し、判断し、表現できるようにする。	毎回の授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組む。教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。 受講者から出される意見や感想等から判断し、書物の活字に触れる機会が少ない学生に対して、相当量の文章を読む機会となり、在り方生き方を考える機会とすることが一定程度出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度がかなり高いものがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価4.314 回答率36.4% 科目GPA1.20
L241032 文章表現基本D	①語彙（成句・慣用表現を含む）、語法、文章のアウトラインの作成等の基本的な知識を身に付ける。 ②大学生として求められる日本語力と文章作成力を身に付け、表現できるようにする。 ③大学生活や実社会において円滑で効果的なコミュニケーションを図るために必要な実用的な表現力を身に付ける。	授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組む。教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。 これまであまり経験していない文章の要約や文章の添削を通して、文章表現に対する抵抗感の緩和と言葉に対する感受性の醸成に一定程度の影響を与えることが出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度がかなり高いものがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価3.991 回答率65.7% 科目GPA0.80

令和6年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
Q241003 特別支援教育 A, SD, B	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒が授業において学習活動に参加し、生きる力を身につけることができるよう支援していくための知識や組織として動くことの大切さを学ぶことを目標とします。 特別支援教育の概要をつかみ、特別な支援の必要な幼児児童生徒に対して必要な障がい理解と指導に必要な「個別の教育支援計画」「自立活動」などについて学ぶ。また、特別支援教育は「チーム学校」として対応するため、組織や連携についても学んでいく。あわせてユニバーサルデザインの大切さも学びます。	真面目な学生が多く、各障がいにに対する理解も深まったと感じている。振り返りでは身内に障害がある学生も多く熱心に聞いてくるものもあった。ただ、グループ分けがはっきりしてしまいグループ間の意見交流ができていなかったと反省している。回答率の低さからもこのあたりのことが反映されているのではないかと感じた。	個々の学生への対応は振り返りの課題に対して丁寧に答えていったつもりであるが、かえってこれが授業中の発問に対する答えにつながらなかった。動画を見た後の討論をもっと活発にできるよう工夫していきたい。	授業評価 4.1 回答率36.7% 科目GPA2.0
Q243001 事前・事後指導 A, SD, B	教師として振舞い、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にする。外部の学校での実習に臨むために、教育実習生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことも目指す。	林先生の講義の補助で入った。教育実習に対する心構えはよくできていたと思われるが、自分なりの解釈で行動することも見受けられるので気をつけていきたい。	受講者3名、考え方の違いもあり、個々に話すことで理解を深めようと考えて接した。マナーの違い、教員としての心構えについても次からは積極的に意見交換していきたいと考える。	授業評価 回答率% 科目GPA
Q243002 教育実習 A, SD, B	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。	教育実習の指導内容は実習校の先生にお任せの形となるが、研究授業で参観、反省会を通して、実習校の先生方の思いやご配慮を知ることができた。今後の指導に生かせるよう事前・事後指導の内容に盛り込んでいきたい。	授業評価 回答率% 科目GPA
U231007 インターンシップ A	社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。	事前学習、インターンシップへの参加、事後学習を行った。事前学習では、ビジネスマナー、エントリーシートの書き方などに加え、企業の選定、日程調整などを行った。事後学習では、インターンシップ実習のまとめ、発表などを行った。意欲的に取り組む様子がみられた。	多くの受講生それぞれと面談を進めてゆくことから、待ち時間も多くなる傾向がある。有意義な時間となるよう工夫していきたい。	授業評価4.47 回答率21.4% 科目GPA
U241007 インターンシップ A	目標 社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 教育効果 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。	多くの企業でインターンシップが実施され、学生にとって貴重な体験を得ることができた。企業研究会では、多くの建築関係の企業に参加いただき、スムーズにインターンシップ実習先の決定ができた。	実習先決定後に、学生からインターンシップ担当者に確認の連絡するように周知しているが、「学生からの連絡がこない」とのクレームがあった。今後は連絡完了の報告をさせる必要がある。	授業評価3.978 回答率21.4% 科目GPA2.67
U241008 福祉社会のクリエイション	「福祉社会の構築」という切り口で、福祉社会における現状と問題点、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習・理解し、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることを目標とする。 福祉社会を支える都市的ハードから生活のソフトまでをどのように創造するかについて、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習し、全ての人が過ごしやすい都市、生活空間を創造するための提案ができることが期待される。	課題提出は授業当日までとした。受講生は11名で、1～10回の講義後、11～13回でグループのテーマを決定し発表資料の作成、14回で発表会を実施した。受講生数が少なく、受講学生の学科に偏りがあったため、グループのメンバー構成は学生の話し合いで決定した。5グループ中2グループが異なる学科メンバーであった。 5グループすべてが期日までに発表資料の提出がされ、すべてのグループが発表できた。 他学科学生とのグループワークから学生は様々な考え方があることを学ぶことができたと思える。 また、グループワークでの教員の指導が適切にできたためと思われる。	科目GPAは昨年度の2.23と比較し高かった。授業評価に関しては、昨年度の4.80と同等で高く、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況と考える。 達成目標に対する授業評価を高めるには、グループワークでの教員のかかわりが取容であり、今後も学生の興味に沿ったアドバイスなど工夫したい。	授業評価4.76 回答率45.5% 科目GPA2.45
U241009 地域クリエイションワーク	目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がり、観察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。	藤川学区こどもの家を利用することもたちにお絵描きをしてもらい、それをもとに学生がグループワークで木のおもちゃを制作を行った。またワークショップを実施し、制作した木のおもちゃで子どもたちに遊んでもらった。ワークショップの参加児童も年々増加し、地域交流の場として認知されつつあり、ものづくりに対する理解も深められた。	授業内では、制作時間が足りず、授業外の時間を使い、学生の指導や制作を行っているのが現状である。今後、開講コマを増やすなど制作時間を確保する必要がある。	授業評価4.542 回答率42.4% 科目GPA2.09

令和6年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U241009 地域クリエイション ワーク	達成目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。 地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がり、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。	藤川にある子どもの家に出向き、学生主体で子供たちに描いてもらった絵やアイデアをもとに、学生たちがグループワークで木の玩具を制作する。また、実際につくった玩具を使用したワークショップを実施し、子供たちに遊んでもらうための指導も行った。	モデリングスタジオを使用しての制作となるが、授業時間内での制作時間が確保し辛いのが現状である。制作を進めることが主となり、安全教育が不十分であることは反省点である。課題の改善も含めて制作時間の確保や指導方法の見直しが必要である。	授業評価4.542 回答率42.4% 科目GPA2.09
U241011 日本の産業	日本のさまざまな産業が発展してきた歴史や社会的背景の理解を通して、専門分野と産業、社会との関係における課題発見力を身につけます。また産業が今後どのように変化していくのかを考察します。 □ 日本の産業の発展過程と特徴を理解することができる。 産業と社会との関係を理解することができる。 今後のあるべき日本の産業像を考察することができる。	本年度の学生はモチベーションも高く、内容に対する理解もあり、提案もよくできていた。 今枝先生が加わられたことでわかりやすい内容になっていたように感じた。	学生が自ら提案できる技術について話を進めていきたいと思う。建築やインテリアについては学科の特性がすぎないように気を付けたいと思う。	授業評価4.32 回答率70.2% 科目GPA3.63
U241013 都市と移動手段のデザイン	達成目標 1. 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 2. 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 3. 新しい移動手段をプランニングすることができる。 教育効果 建築学科、スマートデザイン学科、総合経営学科のすべてに関連する内容です。教養の視点だけでなく広域的な視点で捉えながら、各分野との関連性を深めます。	教員2名で、半数回ずつ担当した。 毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行った。 評価は予想より高かった。この選択科目を受講した学生達は意欲的な学生が多く見られた。	授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていた。 今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、対話機会を増やし、授業を通じて、自分の成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価4.61 回答率62.5% 科目GPA3.15
U241012 未来産業ワーク	地域の産業における課題解決のための、ICT（情報通信技術）の新しい動きとの関連性と重要性について理解できるようになります。地域の新しい産業形成についての知識を有し、地域の新しい産業のあり方について提案することができるようになります。	16人が受講。インターネットのアプリケーションを対象とし、3人～5人から成るグループを作り、各グループにおいてディスカッション、調査などを行い、発表する形態をとった。第1回目のグループワークでは、車の自動運転、インスタグラム、X、SNSを取り上げ、第2回目では出会いサイト、生成AI、GPSアプリを取り上げた。各技術の現状、問題点、解決策を議論し、各講義の最初に、各自の調査内容を発表し、それらをもとに議論を進め、次に調査すべきことを明らかにして、分担を決めるようにしながら、進めるようにした。	グループによっては、各学生の負担に偏りがあるように見受けられたので、負担の分担がある程度平等になるように留意するようにした。また、成績にうまく反映するように工夫する必要がある。	授業評価4.733 回答率18.8% 科目GPA2.75
U241016 インターンシップ（集中）B	①社会で働くことの意味を考えられるようになる。 ②自己の職業適性を見つかることができる。 ③将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。	初めて担当する科目であったが、前年度の担当者の協力でスムーズに授業を進めることができた。 先方に迷惑や失礼のないようなインターンシップにするため、それなりに覚悟を持った学生に選択させるよう、授業ガイダンスでは厳しい言葉で説明した。このことが功を奏したのか、特に問題なくすべてを終えることができた。	この授業は「働くことの意味」や「会社組織とは何か」が分かっていないと先方に迷惑をかけることになるだけでなく、意味も分からずに不満だけが残ることになりかねない。したがって、事前指導でどこまでこのことを浸透させるかが重要になってくる。今後もこのことを学生たちにはしっかりと伝えながら、充実したインターンシップとしてもらえるよう工夫していきたい。	授業評価4.57 回答率66.7% 科目GPA3.56
U241010 地域クリエイション基礎 高大連携	三河地域に関する伝統的なものづくり産業と現在の最先端技術の繋がりについて理解することができる。三河地域の伝統的なものづくりとその構造変化について理解することができる。	今年度は姉妹校組が減少してしまったが、その分提携校からの参加者が穴埋めしてくれたので、人数的には昨年度と変わらなかった。昨年度と比べるとおとなしい雰囲気だったが、学外授業のリニア・鉄道館見学は概ね好評だった。	数値的には昨年度とあまり変わりはない。2日目が各学科担当日になってから2年目で、今のところ学科間に人気のバラツキがあるようだが、もう少し回を重ねて熟成させていきたい。	高校生対象の授業のため授業評価アンケートの数値無し。 科目GPA2.76
U221003 コミュニケーション・スケッチA A	物理的、生理的側面から色彩を理解することができる。 色彩の分類、整理、体系化について理解することができる。 色彩の感情効果、生理的作用、配色原理を理解し、作品制作に活用することができる。	様々な平面造形作品から配色をサンプリングさせ、それをテキストの理解に基づき分析、考察させるという学習内容は、知識のみではなく、作品を構想する力を養うのにも有効であると自負しています。当該科目では2016年度から動画教材を作成し副教材として使用しています。 レポートについては、2021年度から内容を充実させ、さらにオンラインでの提出ができるように設定し、学生の利便性を向上させることができました。評価についても評価項目を細かく設定し、これにより学生が自身の達成度を知ると同時に振り返り学習が有効に行われるようになったと考えます。	随時情報発信可能なオンラインの利点を生かし、学生のレポート添削を通じて必要と思われる情報を随時発信していく必要があると考えていますが、現状の通教オンライン（UNIPA）にそうした機能がないため、別の方策を考えざるをえない状況というのが昨年度の改善目標であったが、システムの問題であるため簡単には改善できず本年度に至っています。	授業評価 回答率 科目GPA

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
L221007 スタディスキルB3	大学の授業を学生にとって意味あるものとして生かすために、基本的な学びの(学ぶための)技術であるスタディスキルを身に付けさせるは本授業の目標です。効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになること、レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式にのってそれらを作成することができること、図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができることを授業の達成目標とします。	高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れることをまず、高校とノートの取り方、講義ノートのとり方、レジュメやレポート作成の方法、図書館での情報収集と活用などを大学の勉強方法がよくわかることから授業を進めてまいりました。半年だけでは短くは感じますが、それぞれ課題を自分で調べ、自分なりの答えを出すことができた授業と思います。	昨年度の授業評価4.44 回答率56% 科目GPA2.50今後専門科目、教養科目を学び始める基盤となる授業で、丁寧に、分かりやすく、伝わるように心掛けています。評価も回答率も高い方ですが、まだ満足していない学生があるようなので、今後とも「個々の学生」を視野に、授業改善に努めます。また留学生にも分かりやすい言葉で伝えることに一層留意したい。	授業評価4.489 回収率84.4% 科目GPA2.59
L221052 中国語A B	中国語の発音、基本的な文法を学習するとともに、実践的な状況、例えば「中華料理を食べる」をテーマに実践的な会話能力を磨きます。語彙力と表現力を養い、基礎会話能力を養成します。同時に、中国社会への理解を深めるとともに、中国語学習への意欲向上を図り、「中国語」の基礎固めを行います。中国語の発音構造や特徴を理解し、簡単な挨拶表現ができる。中国語の基礎的な会話を行うことができる。中国語の側面にある文化を学習し、中国社会への理解を深めることができる。	経営学部対象のクラスで、特別配慮希望者でも学びやすいように、本来対面授業で使う予定であったPPT資料をUNIPAの授業資料で配信し、また教科書、付属のCDと併せて学習する方法で実施した。語学では遠隔授業は対面授業にはかなわないことを実感した。本講義では中国語の初学者を対象とし、文法の説明は最小限にとどめて、発音練習を中心に、中国語を多く聞き、たくさん話し、中国語への興味を育みながら楽しく学習させた。特に、日常の身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆっくりとしたペースで進めた。また付録の「決まり文句」を確実に身につけさせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用した。	履修者は73人で、2名特別配慮学生で、昨年度の授業改善アンケートの結果より高い評価になり、回答率もGPA授業評価4.451 回答率72% 科目GPA1.81アップしたとの結果になった。今後も受講者全員参加型の授業ができるように工夫していきたい。	授業評価4.582 回収率71% 科目GPA1.64
L241005 スタディスキル B1	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式にのってそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。	スタディスキルの授業内容は、自己紹介、本学の施設紹介、ノートの取り方、文章の要約、レポートの作成の5つに分けられる。このうち、本学の施設紹介は、経営の基礎Ⅰにおいても似た内容を扱うため、必要なものは両方の授業で扱い、そうでないものに対しては必要な調整を行った。また、レポートの作成は、情報リテラシーにおいても扱うが、大学の低学年のうちに身につけておくべきスキルなので両方の授業で扱った。レポート作成の授業において説明したにもかかわらず、約半数の受講生の前期試験レポートの文献欄に不備があった。	次年度は、レポートの文献欄の作成要領について繰り返し説明を行う。	授業評価4.38 回収率82.4% 科目GPA2.51
L241006 スタディスキル B2	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式にのってそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。	スタディスキルの授業では、自己紹介、本学の施設紹介、ノートの取り方、文章の要約、レポートの作成について学習した。授業内容によっては、総合経営学科の他の科目(経営の基礎Ⅰ、情報リテラシーなど)と重なるところがあるが、学生が今後の学習で必要となるスキルであるので、重複して学習した。文章の要約とレポート作成の授業では動画を視聴させるなど授業内容が単調にならないよう工夫した。授業全体を通して、大部分の受講生は熱心に取り組んでいたと思われる。	ノートの取り方やレポートの作成方法などを身に付けるためには、そうしたスキルが必要となる場面が必要であり、また個別的な細やかな指導が必要であると思われる。個別的な細やかな指導を心がけていきたい。	授業評価4.494 回収率97.0% 科目GPA2.97
L241012 情報リテラシー B1	①情報倫理を身につけることができる。 ②簡単なビジネス文書を作成することができる。 ③簡単な表計算・グラフを作成することができる。	受講生40人程度なのでSA1人がいれば対応できる体制を整えた。コンピュータ実習室が2414になり、学生用のモニターが壊れているところが多い。なのでプロジェクターの画面をみて操作となりみづらかったと思う。高校でPCを習得している学生としていない学生の2分化がみられた。	モニターおよびプロジェクターの改善 自宅での予習復習をほとんどの学生が実施してこない。ゲーム式で改善したい。	授業評価4.4 回収率79.4% 科目GPA2.03
L241013 情報リテラシー B2	①情報倫理を身につけることができる。 ②簡単なビジネス文書を作成することができる。 ③簡単な表計算・グラフを作成することができる。	受講生40人程度なのでSA1人がいれば対応できる体制を整えた。コンピュータ実習室が2405になり、学生用のモニターが壊れているところが多い。なのでプロジェクターの画面をみて操作となりみづらかったと思う。高校でPCを習得している学生としていない学生の2分化がみられた。	モニターおよびプロジェクターの改善 自宅での予習復習をほとんどの学生が実施してこない。ゲーム式で改善したい。	授業評価4.2 回収率91.2% 科目GPA1.65
L241014 情報リテラシー B3	①情報倫理を身につけることができる。 ②簡単なビジネス文書を作成することができる。 ③簡単な表計算・グラフを作成することができる。	受講生40人程度なのでSA1人がいれば対応できる体制を整えた。コンピュータ実習室が2414になり、学生用のモニターが壊れているところが多い。なのでプロジェクターの画面をみて操作となりみづらかったと思う。高校でPCを習得している学生としていない学生の2分化がみられた。	モニターおよびプロジェクターの改善 自宅での予習復習をほとんどの学生が実施してこない。ゲーム式で改善したい。	授業評価4.37 回収率83.9% 科目GPA1.81
L241017 心理学 B1	心理学の基礎用語を理解することができる。自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。 本講義では、幅広い心理学の領域の中から、日常生活に関係するテーマを多く、取り上げながら、心理学的なものを見方を学ぶことを目的として授業を行っています。	受講者46名、賑やかで留学生も多くなるクラスであった。AやDのクラスよりも活気はあったが、理解できていない学生も多かった。留学生の対応は難しいが、なるべく分を理解できるように慣れてもらうようにした。授業中にスマホの翻訳機を使って日本語を理解しようという留学生も多く見かけた。テストではスマホが使えないのでうまく点を取れない学生にもいたが、ここは本人に慣れてもらうしかないか。過年度生も比較的多く、彼らはよく理解しているようであった。	テキストとパワポをもう少しうまくリンクできる工夫をしていきたい。メンタル面や性格判断などの内容に多く興味を持つ学生が多かったが心理学全般を見ていくので興味を引く話題を多く取り入れるようにしておきたい。	授業評価4.42 回収率49.3% 科目GPA0.8

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
L241018 心理学 B2	心理学の基礎用語を理解することができる。自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。	受講者58名、授業中によりそをしている学生も多く見られるクラスであった。指名をして前回の学生と同じ答えを回答する者も多く、やや、さみしいクラスであった。日常で使われていることにも言及したが、関心が薄いかあまり反応を引き出すことができていない。	昨年度よりも難易度を下げた問題を作成したつもりであったが、それでも回答率は他のクラスに比べて低かった。彼らの興味を引くような動画も探しておきたいと感じた。授業評価が低いので内容をわかりやすく説明することも考えていきたい。	授業評価3.87 回収率64.5% 科目GPA0.8
L241021 数学と社会 B	①数学的手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。 ②現代の社会で用いられている数学的手法の原理について説明できる。 ③数学的手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	インターネットを使って情報を送受信する際に使用されている暗号を題材に、現実の社会で役立っている数学について説明した。受講生の理解を少しでも深めるため、元の文章を暗号文にする計算と暗号文を元の文章にもどす計算の計算練習を繰り返した。今年度も、数学と社会Bの受講生には、授業内容に興味を持っていない学生が多かったが、昨年度より再試験で合格した学生が多かったため、わずかであるが科目GPAが上昇した。	第10週～第13週に出題する計算練習の難易度は変えず、問題数を増やしたい。	授業評価4.14 回収率70.4% 科目GPA1.48
L241026 英語コミュニケーションA B1	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニ	履修者数は総合経営学科1年生49名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題(5分以内の小テスト)を授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。また、毎週の学習や課題、	80%以上の学生が比較的良好な評価をしてくれた。この科目には、総合経営学科1年生49人のうち、70%以上の履修学生が合格した。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できクラスを目指したい。	授業評価4.350 回収率831.6% 科目GPA1.59
L241027 英語コミュニケーションA B2	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニ	履修者数は総合経営学科1年生47名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題(5分以内の小テスト)を授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。また、毎週の学習や課題、	75%以上の学生が評価をしてくれた。この科目には、総合経営学科1年生47人のうち、70%以上の履修学生が合格した。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できクラスを目指したい。	授業評価4.139 回収率76.6% 科目GPA1.77
L241030 英語コミュニケーションC B	①英語力(語彙力、文法力、聴解力、読解力)を身につけることができる。 ②情報処理能力(英語を英語のまま早く理解する力)を身につけることができる。 ③試験対策力(時間配分や解答アプローチなど)を身につけることができる。 実用的な英語の学習(語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力)を強化し、TOEIC550点以上をめざし、幅広い総合的な英語力を身につけることができる。	履修者数は経営学部総合経営学科2年生以上の20名を担当した。前期は対面授業(一部の学生はオンライン授業)であった。毎週、テキストの各パートの学習項目に従って、学習を進めた。授業終了5分前に、確認用の演習課題(小テスト)を実施した。また、学習が半分程度進むと課題(まとめの語彙テスト)を配布した。80%以上の学生が毎週の学習やドリルに取り組み、演習課題と定期レポート試験を受験し100%が合格した。途中、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。学生の中には、途中で学習を諦めてしまう学生がいたが、全体として真面目に取り組む学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。しかし、本来の英語の授業は頻りに音声教材を使って、実際に英語を使いながら学習をすることができなかったのは残念であった。全体として真面目に取り組む学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。	このクラスは、履修学生20人中、70%の学生が合格した。また、科目GPAが1.10と低かったのは、定期試験であまり得点が取れなかったためである。しかし、半数以上の学生たちの学習に対する姿勢が良かったと思われる。今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できるようなクラスを目指したい。	授業評価4.173 回収率765.0% 科目GPA1.10
L241033 文章表現基本B1	①語彙(成句・慣用表現を含む)、語法、文章のアウトラインの作成等の基本的な知識を身に付ける。 ②大学生として求められる日本語力と文章作成力を身に付け、表現できるようにする。 ③大学生活や実社会において円滑で効果的なコミュニケーションを図るために必要な実用的な表現力を身に付ける。	授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組み、教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。これまであまり経験していない文章の要約や文章の添削を通して、文章表現に対する抵抗感の緩和と言葉に対する感受性の醸成に一定程度の影響を与えることが出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んでもらうことでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後は現行の形を踏襲していく。	授業評価4.524 回収率76.3% 科目GPA0.80
L241034 文章表現基本B2	①語彙(成句・慣用表現を含む)、語法、文章のアウトラインの作成等の基本的な知識を身に付ける。 ②大学生として求められる日本語力と文章作成力を身に付け、表現できるようにする。 ③大学生活や実社会において円滑で効果的なコミュニケーションを図るために必要な実用的な表現力を身に付ける。	授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組み、教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。これまであまり経験していない文章の要約や文章の添削を通して、文章表現に対する抵抗感の緩和と言葉に対する感受性の醸成に一定程度の影響を与えることが出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んでもらうことでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後は現行の形を踏襲していく。	授業評価4.308 回収率55.3% 科目GPA0.80
L241035 日本語中級	基本的なやりとりを超える程度の日本語を運用することができる。日本語能力試験N2以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たちは中国、ベトナム、ネパール、インドネシア、モンゴル各出身者から構成されていた。特定の国に話題が集中しないように心がけた。また、語彙コントロールにも気を使った。難しいと思われる漢字語にはなるべく、ふりがなをつけた。学生たちの集中力は比較的高く、活気のある和やかな授業の雰囲気だったと思う。	前年度は学生2人だけであり、きめ細かい対応はできた。今年度は18人なので、その点では難しかった。どの国の学生にも達成感が与えられるような話題や例文を準備するように心がけた。	授業評価4.733 回収率66.7% 科目GPA2.44
L241036 日本語上級	日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たちは中国、ベトナム、ミャンマー、インドネシア、カンボジア各出身者から構成されていた。特定の国に話題が集中しないように心がけた。また、語彙コントロールにも気を使った。難しいと思われる漢字語にはなるべく、ふりがなをつけた。学生たちの集中力は比較的高く、穏やかに落ち着いた授業の雰囲気だったと思う。	前年度は学生2人だけであり、きめ細かい対応はできた。今年度は17人なので、その点では難しかった。回数こそ少ないものの意欲的な学生が多かったため、満足度を高められるような話題や例文を準備するように心がけた。	授業評価4.675 回収率47.1% 科目GPA2.94

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
L241037 現代日本の文化研究	レベルの高い日本語の文章に向き合い、その内容や論理展開についてより深く理解することができる。読解力の基礎となる語彙力と文法力を増強し応用力を養うことができる。現代日本の文化についての理解を深めることができる。以上3点を到達目標としている。上記の目標に沿って、現代日本の企業社会で使われる独特の日本語表現を学ぶことを教育効果としている。	学生たちは1年生、3年生、4年生。出身国は中国のみだった。口数の少ないおとなしい学生ばかりだったので、あまりストレスを与えないように心がけた。板書の時間が多くなった。ビジネス関係の日本語、日本と中国とのビジネス習慣の違いなどについて詳しく紹介し、丁寧に解説した。学生たちは全体的に真面目に取り組んでいたと思う。	留学生の出身国が一つだけの場合は、日本とその国のさまざまな違いについて触れると授業が盛り上がる。そのことを体験的に知っている。そのためしっかりと事前準備を行った。	授業評価4.833 回収率60.0% 科目GPA2.50
L241040 スポーツA B	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、達成目標を達成できたと言える。技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。運動能力の高い学生が多かったが、授業内容を楽しみながら学んでもらえたと考える。	超欠2名、評価点不足の不可が4名と例年に比べ多かった（S1, A13, B7, C5）。受講ノート、課題の記述能力に難があり、評価自体は、B, Cが少なくなかった。達成目標は十分に達成できた。次年度も丁寧に指導していきたい。	授業評価4.48 回収率88.7% 科目GPA1.94
L241040 スポーツA B	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索する。	種目としてはバレーボールと硬式テニスを実施した。硬式テニスを担当し、履修者数は21名であり、使用するコート数に対して適正な人数であった。授業方法としては、全ての授業回を対面方式にて実施した。授業時間90分のうち実際に活動するのは60分程度で、残りの30分は本時の説明や移動等となる。対面（実技）では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することを目指し、基本的な技術・理論を解説し、実践した。そして、解説した内容を受講ノートとしてまとめ、毎授業時に対面にて提出することで理解を深めることを目指した。技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、実技時間を配分をより増やすことが、技術の理解と実践には必要であると感じた。ただし、高温となる時期は、屋外での活動については検討が必要である。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、概ね達成目標を達成することができたのではないかと考える。達成目標に対する授業評価を高めるには、実技の時間をより確保することは必要であり、状況に合わせ授業展開できるように工夫していきたいと考えている。	授業評価4.477 回収率88.7% 科目GPA2.14
L241044 デジタルデザイン表現 B2	①コンピュータによる画像編集、映像編集等について複数のソフトウェアを操作することが出来る。 ②複数のソフトウェアを操作して課題制作に取り組む事が出来る。 ③リッチメディアの可能性について理解してコンテンツ制作に取り組む事が出来る。 ④授業に関する理解度を示した資料を作成し、PDF形式ファイル等のデータ提出をする事が出来る。	達成目標に関連する知識を解説しつつ、知識に関連した演習内容を積み重ねていくことにより、一つのアプリケーションを構築した。各授業回ごとに、そこまでの学習内容の振り返りと次回までの学習計画を検討しながら課題を進めていくことができた。最終的には一つのアプリケーション課題の提出であるが、様々な表現を組み合わせたリッチメディアコンテンツであるため、各自ができたことや、やったことを自己評価できるよう評価項目を65項目に細分化した。	GPAは昨年度より低下しているが、評価は上がっている。達成目標にもある様々なソフトウェアを使い分けながら、リッチメディアコンテンツを制作していく過程で積み重ねて進んでいく演習と演習課題の性質上、途中での挫折からの復帰が困難である。そのため脱落してしまった学生の授業評価は反映されていない。資料をわかりやすく改善し、授業時間外でフォローアップできるように工夫したい。	授業評価4.308 回収率55.3% 科目GPA1.68
L241047 法学（日本国憲法）B	日本国憲法における基本的な知識について理解し、法的問題に際し適切な法的思考や解釈をすることができる。日本国憲法の基本精神を学び、条文の趣旨を正しく解釈することを目的とする。	日本国憲法を取り巻く基礎的内容を扱った。経営学部が対象であり、これまで学んでいる法学習の基礎を確認した上で、できるだけ多くの法律と身近な話題を用いて、論点の検討を行うようにした。単なる条文の理解ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の意義の把握に努めた。新聞記事など身近な話題を提供して、法的論点の解説にも時間を割いた。毎回学んだことをまとめるべく、コメントをしっかりと記入している学生が増えており、大半の学生は授業内容を理解してくれたようである。とりわけ判例の検討が難しいと思われるため、丁寧に説明を心掛けた。	できるだけわかりやすい具体例を挙げて、広範な日本国憲法の分野につき論点を絞って丁寧に解説を心掛けた。日本国憲法を取り巻く論点の理解を深めるべく、資料や主要判例を用いながら検討することにより、自分の意見を持てるようにしていきたい。	授業評価4.567 回収率63.6% 科目GPA2.38
L241049 健康・運動の科学 B	達成目標 ①健康に関する様々な知識・考え方を理解できる。 ②自分にあった健康処方・運動処方をデザインできる。	課題は、前回授業の小テストを授業冒頭に行う形で、その内容が成果評価の筆記試験につながる形式としている。一部の過年度生など、きぼってしまう習慣のある学生にとっては、十分に対応できなかったと感じる。逆に、授業を休まず、課題（小テスト）に取り組んだ学生は、評価点も含め、達成目標に近づけたと考える。	例年以上に取り組みが良くなかった。超欠9名に加え、再試未提出者11名を含め、不可が18名と多かった。また、S2, A6と成績上位者も想定外に少なかった（B4, C15）。例年、欠席が最も評価に影響することは指導している。次回授業で実施する課題（小テスト）に関して準備しておくこと含め、丁寧に指導していきたい。欠席した場合でも、全員に補完課題で学修できるように配慮しているが、欠席をしてしまうと、その指導も難しい。興味を持って受講できるよう配慮していきたい。	授業評価4.26 回収率70.4% 科目GPA0.91
L241051 キャリアデザイン I	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価4.362 回収率44.8% 科目GPA2.81
L241052 キャリアデザイン IB	自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。自分軸を形成することができる。自己に必要な知識や能力が認識できる。以上3点を到達目標としている。学科の学びに関係した仕事について理解し、就職活動の準備をすることを教育効果としている。	4年目の担当ということで前年度に比べて技術的な進歩を感じることができた。卒業後の進路として就職以外（大学院進学や起業など）を希望している者のことも考慮した授業内容となった。パワポの写真もかなり差し替えた。前年度と同じく、数多くの外部講師全員を自分一人で手配し、大きなアクシデントもなく順調に授業をこなすことができた。	授業評価4.578は決して低い数字ではない。しかし、これで満足することなく、常に最新のキャリア情報を授業に取り入れるように努力したい。	授業評価4.578 回収率55.2% 科目GPA2.35

令和6年度前期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
L241055 倫理学B	倫理学の歴史やその思考方法を理解し、倫理的諸課題について思考し、判断し、表現できるようにする。	毎回の授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が様々な倫理的課題に関わる文章を読解したうえで、教授者が示した課題に対する意見や感想を、教授者がまとめる。次時の最初に、前時の内容の解説と受講者から出された意見や感想をまとめたものを受講者に示し、さらなる考察を深める形で展開した。 受講者から出される意見や感想等から判断し、書物の活字に触れる機会が少ない学生に対して、相当量の文章を読む機会となり、在り方生き方を考える機会とすることが一定程度出来たとと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度がかなり高いものがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んでもらうワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価4.417 回収率49.3% 科目GPA1.20
Q241002 教育行政 A, SD, B	現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連するさまざまな課題を理解する。 学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。	制度、教育法規の一時的な説明にならないよう、グループ討議、発表というアクティブラーニングを講義に取り入れるように工夫した。毎回の授業課題においては、授業の振り返りとして、200字程度の論議を課した。これらの工夫により、学生の思考、判断、表現力の向上が見られるようになった。	教員採用試験で課される内容が多く、学生に知識をつけさせる必要があることから、じゅうぶんなグループ討議の時間を取れなかったことから、教材の精選と構造化を図りグループ討議の時間を確保していきたい。	授業評価4.4 回収率100% 科目GPA3.1
Q241003 特別支援教育 A, SD, B	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒が授業において学習活動に参加し、生きる力を身につけることができるよう支援していくための知識や組織として動くことの大切さを学ぶことを目標とします。 特別支援教育の概要をつかみ、特別な支援の必要な幼児児童生徒に対して必要な障がい理解と指導に必要な「個別的教育支援計画」「自立活動」などについて学ぶ。また、特別支援教育は「チーム学校」として対応するため、組織や連携についても学んでいく。あわせてユニバーサルデザインの大切さも学びます。	真面目な学生が多く、各障がいに対する理解も深まったと感じている。振り返りでは身内に障害がある学生も多く熱心に聞いてくれるものもあった。ただ、グループ分けがはっきりしてしまいグループ間の意見交流ができていなかったと反省している。回答率の低さからもこのあたりがことが反映されているのではないかと感じた。	個々の学生への対応は振り返りの課題に対して丁寧に答えていったつもりであるが、かえってこれが授業中の発問に対する答えにつながらなかった。動画を見た後の討論をもっと活発にできるよう工夫していきたい。	授業評価4.1 回収率36.7% 科目GPA2.0
Q241006 公民科教育法Ⅱ B	授業の目標としては、学習指導要領に示された公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計や学習評価、授業改善を行う方法を身に付ける。教育効果としては、学習指導案の作成や模擬授業および教材作成などにより指導分野の理解を深め、学校現場で通用する指導力、実践力の育成を目指す。	公民科の授業をする上で、本学の学生が不足している教科の知識を補うことができず、また、指導案の作成および模擬授業では授業の構造化がうまくできずメリハリのない授業が多いのが反省点である。学生の模擬授業で、ICT機器を効果的に使用したり、発問をうまく活用できた点は評価できる。	公民科の基礎的な知識を確認する課題を与えて教科に関する知識を補うことなどを考えていきたい。学生が行う授業で学習目標を明確にするために、その授業に対応する評価問題の作成指導を通じて学生に示していきたい。	授業評価 回収率0% 科目GPA4.0
Q243001 事前・事後指導 A, SD, B	教師として振舞い、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にする。外部の学校での実習に臨むために、教育実習生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことも目指す。	学習指導案の作成、模擬授業の実施、担任としてのクラス業務の把握なども高いレベルで実施でき、学生もある程度の自信をもって教育実習の取り組みができた。また、実習中の流れと心得を実務、実践レベルでまとめたパワーポイントの教材の配信は学生に好評であった。	実際の学校現場を想定したロングタイム運営、生徒指導など授業以外の指導場面を取り入れた指導を取り入れていきたい。	授業評価5.0 回収率66.7% 科目GPA(通年)
Q243001 事前・事後指導 A, SD, B	教師として振舞い、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にする。外部の学校での実習に臨むために、教育実習生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことも目指す。	林先生の講義の補助で入った。教育実習に対する心構えはよくできていたと思われるが、自分なりの解釈で行動することも見受けられるので気をつけていきたい。	受講者3名、考え方の違いもあり、個々に話すことで理解を深めようと考えて接した。マナーの違い、教員としての心構えについても次からは積極的に意見交換していきたいと考える。	授業評価 回収率% 科目GPA
Q243002 教育実習 A, SD, B	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。	教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図っていきたい。	授業評価 回収率0% 科目GPA(通年)
Q243002 教育実習 A, SD, B	授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。	この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。	教育実習の指導内容は実習校の先生にお任せの形となるが、研究授業で参観、反省会を通して、実習校の先生自身やご配慮を知ることができた。今後の指導に生かせるよう事前・事後指導の内容に盛り込んでいきたい。	授業評価 回収率% 科目GPA
S221004 貿易論	貿易の基礎理論、最低限の専門用語や手続きが理解できるレベルを習得すると同時に、最新の話題や事例を用いて中国をはじめとする新興国市場との貿易活動への理解を深めること。貿易・サービス・資本取引の発展によって国際経済の相互依存の度合いはどのように深化し変化しているのかを考察し、その貿易の発生するメカニズムを把握する。	貿易とは何か？なぜ貿易行われるのか？日本は国際経済の相互依存の度合いはどのように深化し変化しているのか？貿易について基礎理論的、政策的、制度的な側面から解明し、さまざまな事例(中国を中心とした)を挙げて海外との商品取引の実態とその決済方法の基礎を学びます。授業中には、ディスカッションを通じて知識の理解と定着をさせるようにしました。	昨年度の回収率56%よりは、回収率は上がりましたが、評価は昨年度の4.44とほぼ同じ結果になった。GPAは昨年度2.50次年度は貿易基礎的な部分の講義回数をもう少し増やして、貿易に関心を引くような現実の話題も取り入れ、学生の理解度を高め行く授業を工夫していきたい。貿易は身近な分野であると思うが、「難しい」という学生の声を聞くので、学生の理解度を質問等を通して把握し、わからない点を明確にして丁寧に説明し理解できるようにしていきたい。	授業評価4.41 回収率66.3% 科目GPA2.36
S221031 専門ゼミナールⅠ	経営上の様々な事象に自ら問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	7名のゼミ生、学生一人一人の関心があること、経営への興味や関心の度合、学生の理解度を確認しながら指導する予定であったが、公欠申請による遠隔授業を受けた学生が使いやすいSNSツールでコミュニケーションを取った。また、個別指導や、退学意向のあるゼミ生も一緒に前期の学習を終えられたことを評価したい。	9名のゼミ生で、残念ながら3名未回答でした。昨年は評価4.05でしたが、今年は回収率も評価も高くなった結果でした。ゼミで専門を学び始める最初のゼミであり、丁寧に、個々の学生に対応できるよう心掛けています。今後も個々の学生へのきめ細やかな指導ができるよう心がけると同時に、授業内でゼミ生全員に疑問を共有し、共に考え、教えることを遠隔授業を希望者でもできるように工夫して行きます。	授業評価4.467 回収率66.7% 科目GPA2.78

令和6年度前期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S221052 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	毎回の授業内容への理解を深めるため、各自が感想を持つテーマについて主体的に調べさせ、考えてきたことを学生同士使いやすいうえ、ゼミツールを使って、ゼミ以外の時間でもゼミ生とのコミュニケーションを取りながら、一人一人が学習面で困っていることに応え、学生生活を少しでも楽しく学習を続けるための意欲を持ってもらえるように、学生に寄り添うことに努めた。	昨年度の授業評価4.6 回収率88.9% 科目GPA3.1と比較すると、ほぼ同じ水準。9名のゼミ生、1名だけは未回答でした。いよいよ3年から「何を卒業テーマにするか」を明確にする時であり、丁寧に、個々の学生に対応するよう心掛けています。まだ満足していない学生があるようなので、今後とも「個々の学生」を視野に、授業改善に努めます。	授業評価5.00 回収率88.9% 科目GPA3.23
S221083 卒業研究Ⅰ	日中間の文化的差異を深く理解し、中国をより深く知るための方法を身につける。自分で選択したテーマの研究を卒業論文にするための準備ができるようになる。ビジネス場面におけるプレゼンの前の段階として様々な前準備のやり方が身につく。	学生に個別指導をした。卒業論文の作成準備が主体となるが、各ゼミ生がこれまで学習してきたことを踏まえ、各自で自分が一番関心のあるテーマを選択、設定させ、卒論の進捗状況の報告と提出をさせ、ゼミ指導以外に時間は、LINEグループ通話でディスカッションを行いながら、研究を進めさせた。ゼミ生一人一人へのきめ細やかな指導には努めた。	履修者は10名で、1名だけは未回答でした。昨年度の授業評価4.93 回収率77.8% 科目GPA3.93 比較すると、ほぼ同じ水準でした。GPAは上がってきた。ゼミ生全員それぞれの卒論研究の進捗状況、就職活動に合わせて授業を進めたつもりだったが、今後よりゼミ生の全員の要望に答えられる授業を進めていく。	授業評価4.489 回収率90% 科目GPA2.80
S241001 経営の基礎Ⅰ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。高校生から(本学)経営学部学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、経営学部学生としてのスチューデント・スキルを身につけるとともに、経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる資質・能力を育成する。	他ゼミとの合同授業による講義がほとんどで、授業課題の添削指導だけに終わり、授業目標を個々の学生が身につけたどうか判断しづらい面もあったが、多くの学生は遅刻、欠席もほとんどなく意欲的に取り組めた。学生の学習の振り返りをする場面で個別に面談などをして指導する機会を持つとさらに効果がでると考える。	添削指導、フィードバックに時間をかけると同時に、ユニバ等を効果的に利用して、きめ細かな指導を図っていききたい。	授業評価4.4 回収率79% 科目GPA2.9
S241002 経営の基礎Ⅰ	①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	他ゼミとの共同授業が多く設定されたことで、学生にとって良い刺激が得られた。学生たちにはまず授業を欠席しないこと、レポートを必ず提出すること、規則正しい生活をおくるよう指示したが、退学者や特別配慮の学生がいたことで、これに流され、欠席が増えたことは残念であった。個人面談を全員に1回ずつ行い、授業欠席が続いた者には、適宜面談を行ったことで、学生の把握ができた。	個人面談は効果があり、学生の把握ができたが、もう少し突っ込んだ内容の把握が必要である。毎年、後半になって気が緩む傾向が出てくるが、欠席が続いた学生にその都度呼び出して面談をしたことは効果があったように思う。	授業評価4.64 回収率67.0% 科目GPA2.86
S241003 経営の基礎Ⅰ	達成目標 他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	実際の授業コンセプトを、達成目標に即したものに担当者の話し合いで改善した。今年度は、1年生全員を大教室で実施した。手書きで提出する課題にはある程度対応できた。記述内容に関しては風聞ではない学生が散見された。個別の対応をしていくには、大教室、全体で実施する授業比率を下げて、少数で指導する必要性を感じた。	超欠1名、不可は0名であった。2名は欠席が多いためCであった。S1名と少なかったのが残念である(A7, B2, C3)。他の科目の成績を鑑みて、全体的に能力が高くない割合が高いと推察される。授業自体、担当教員の持ち回りで行われており、課題の記述の仕方を指導する以外、対応の方法がない。担当教員の授業内容、課題内容については、いくつか、より丁寧な授業が求められる。	授業評価4.58 回収率85.7% 科目GPA2.29
S241004 経営の基礎Ⅰ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	本学の施設等の案内などからなる“大学生入門”から初めて、外部講師によるキャリア形成に関する授業および経営学の入門の授業を行った。第1週の授業において、他の学生と1対1でコミュニケーションをとる機会を設けたが、第2週以降の授業では、他の学生と全く話をしない学生が多かった。	グループワークを含む授業を行う等の方法により、他者とのコミュニケーションをとる機会を増やしたい。	授業評価4.20 回収率100.0% 科目GPA3.07
S241005 経営の基礎Ⅰ	①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。 高校生から(本学)経営学部学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、経営学部学生としてのスチューデント・スキルを身につけます。	履修者数は経営学部総合経営学科1年の日本人学生13名であった。前期は対面授業であったので、毎週の学習内容に従って授業を進めた。課題等の提出状況は、授業の当日提出すべき課題を全学生が提出した。ほとんど学生が毎週の学習に取り組み、課題、および定期レポート試直接、手渡しで提出し、ほとんどの学生がこの科目に合格した。途中、学習意欲が減退し、出席しなくなる学生が数人いた。また、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してくる学生がいたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。全体として真面目に取り組む学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。	80%近くの学生が高い評価をしてくれた。このクラスは、履修学生13人のうち、1名の長期欠席者を除けば、残り全員が合格した。また、科目GPAは2.69と平均的であったが、全体として、学生たちの学習に対する姿勢は良かったと言える。	授業評価4.560 回収率76.9% 科目GPA2.69
S241006 経営の基礎Ⅰ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	本学の施設等の案内などからなる“大学生入門”から初めて、外部講師によるキャリア形成に関する授業および経営学の入門の授業を行った。種々の分野の講師が授業を行うことで、いわゆる経営学だけではなく、様々な側面から学習することができた。大人数での授業であったため、個々の学生に十分に対応することができなかつたように思われる。	次年度は、授業内容や授業の進め方を工夫し、個々の学生に十分に対応する時間を確保するとともに、他者とのコミュニケーションをとる機会を増やしていきたい。	授業評価4.400 回収率100.0% 科目GPA3.31
S241007 経営の基礎Ⅰ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。以上の3点を到達目標としている。高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につけることを教育効果としている。	学生たちは中国、ベトナム、ネパール、インドネシア、ミャンマー各出身者から構成されていた。このほか再履修の日本人学生がいた。名称はないものの、ゼミナールの役割も担っていた。ほとんどが留学生なので、誤解から来るアクシデントが起きないように伝達事項の時間を必ず設けた。学生たちは安心して授業に参加していたと思う。	授業評価4.629は決して低い数字ではない。しかし、これで満足するつもりはない。出席状況には個人差がかなりあるため、その問題を少しでも克服できるように努力したい。	授業評価4.629 回収率43.8% 科目GPA2.88
S241008 現代生活と会計	帳簿記入をする上で簿記一巡(貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ)を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売上の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。 企業は、お金に関する記帳をしています。これが簿記です。この簿記は、複式簿記と呼ばれ、財産やもうけを把握します。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけることを目的とします。	授業内課題の提出率が低く、授業外課題も提出率がさらに低かった。そこで、終了時間の少し前に問題を解く時間を与え、未提出率を減少させたため、授業評価の改善につながった。コロナでの欠席が多くなり、課題提出についても回収が困難だった。大半の学生が理解できたと思われるが、翌年になると忘れていくことが多いので繰り返し、復習できるようにしていきたい。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.495 回収率77.6% 科目GPA2.43

令和6年度前期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S241009 現代生活と会計	帳簿記入をする上で簿記一巡(貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ)を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売上の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。	簿記の経験者も多く、そうした受講生にはたらない授業になるが、他方で留学生や簿記の初学者も多いので、言葉のできる限りははっきりとし、丁寧な説明を心掛けた。簿記は理解するだけでなく、演習問題を繰り返し実施しないと身につかない科目であるが、多人教授業の中で、十分な演習時間を取ることの難しさを感じた。	簿記は、勘定科目を言語として用いている。勘定科目を理解すれば、ほぼ全てのことが理解できる。勘定科目は、漢字を見れば、おおよその意味はわかるものであるが、近年は、非漢字圏の留学生が増えているため、理解が難しくなる。用語の意味の説明等に時間が掛かり、やはり演習問題を解く時間の確保が難しいが、できる限り、時間の確保に努めていきたい。	授業評価4.079 回収率87.9% 科目GPA2.00
S241010 現代生活と会計 再履修	帳簿記入をする上で簿記一巡(貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ)を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売上の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。 企業は、お金に関する記帳をしています。これが簿記です。この簿記は、複式簿記と呼ばれ、財産やもうけを把握します。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけることを目的とします。	最後まで出席した学生は何とか単位取得できたが、欠席した学生をいかに登校されるのが課題である。	再履修クラスのため、欠席者以外でも嫌いになった学生がいるので計算問題に時間をかけていきたい。授業評価に関しては、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.2 回収率75.6% 科目GPA2.25
S241011 経営と情報	ITの技術的基礎について、ITパスポート試験の問題が解ける程度に理解出来ている。経営を行う上でITをどのように使っていくべきかを理解している。	80人が受講。当初は前任者から引き継いだシラバスの通りに講義を実施する予定であったが、最初の講義でシラバスの変更を行い、ITパスポートの教科書で一般的に扱われている内容に変更した。各講義後にレポート課題を課し、その次の講義で解答して理解度を確認するように進めた。また、定期試験では、レポート課題の中から重要な問題を取り上げたが、全体的な理解度は高くなかった。	各講義において行う演習量を増やすことによって、理解度を高める工夫を実施する予定である。また、選択科目ではあるが、ほとんど全員の学生が受講するように、その重要性を伝えるようにしたい。	授業評価4.138 回収率76.3%
S241012 異文化理解	国際ビジネスの素養として、自国の文化とは異なる諸文化についての理解を深めることができる。様々な国・地域の文化の共通点・相違点を把握し、諸文化を尊重する態度を養うことができる。以上2点を到達目標としている。上記の目標に沿うべく、様々な国・地域の文化について学ぶことを教育効果としている。	学生たちは中国、ベトナム、ネパール、インドネシア、ミャンマー各出身者から構成されていた。日本の各地域の文化、世界の文化について基本的な知識を身に付けることができるように努力した。ハングル、アラビア文字、ロシア文字などの読み書きにもチャレンジした。学生たちは一定以上の国際感覚を身に付けたと思う。	一口に文化と言っても、言語、宗教、音楽、美術など多岐にわたる。項目の羅列に終わらせず、どこに焦点を当てるのが大切だと思う。試行錯誤を重ねながら授業準備に取り組んだ。	授業評価4.575 回収率47.1% 科目GPA3.29
S241013 スポーツ科学概論	達成目標 スポーツに関わる者として必要であるスポーツ科学および周辺知識を習得できる。 スポーツ科学全般に加えスポーツ振興政策と社会体育論、スポーツに関する法的知識、スポーツ心理学、スポーツ組織論についても理解できる。 対象者の年齢に合わせたスポーツ指導の方法を理解できる。	概論ということで、スポーツ科学のあらゆる分野の授業を、1回、ないしは2回で、ある程度、その分野の知識、雰囲気を理解してもらうことに主眼を置いている。今年度、5年目、昨年の内容をさらにブラッシュアップして指導した。 90分の対面授業中に授業課題を行う形式で、欠席しなければ、単位の取得は難しくない。	最終的に超欠4名、不可3名であったが、S5, A11に比較して、B13, C20と、成績上位者が少なかった。 B、Cとなった学生が、単純に、ノートテイキングができない、課題を記述する上にあたって、文章が書けないのいずれかであった。1年前期の科目であり、授業内容はもとより、授業の受け方、課題の記述の仕方等を丁寧に指導して、今後に繋げていくことが肝要である。	授業評価4.39 回収率82.1% 科目GPA1.77
S241014 専門ゼミナール I	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	経営上の様々な問題を考えるために必要となる金融経済的な基礎知識を身につけられるよう、自著である『はじめての金融リテラシー』をつかって、テーマごとに担当者を決めて、発表と討論を行った。 基本的な金融経済知識に乏しい学生が多く、この授業を通じて多くの知識を身につけることができたのではないかと考える。	学生のプレゼン能力がより高まるよう工夫していきたい。	授業評価5.000 回収率54.5% 科目GPA3.00
S241015 専門ゼミナール I	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	年々学力が低下している。基礎学力がないのでテキストも把握できない。 自宅学習がないため模擬試験も数が伸びていない。	学生自らの学習が見受けられない。今後資格取得はあきらめた方がよいのでは。	授業評価4.5 回収率50% 科目GPA1.50
S241016 専門ゼミナール I	達成目標 経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	ケースの選択にあたって、誰でも知っている身近で親しみやすい商品や企業を取り上げた。 各自で行ったケーススタディの結果をメンバーで共有し、人の意見を参考にしながら思考する探求力を身につけるように心掛けた。	テーマに対して自主的、能動的に調べる姿勢を身につけながら、経営全般に対する関心を高めていく。 またプレゼンテーション能力の向上を目指したい。	授業評価4.5 回収率90.9% 科目GPA3.27
S241017 専門ゼミナール I	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てます。この関心や興味が履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援します。	コスト管理を理解するために原価計算検定初級に挑戦してもらった。計算するにあたって考えすぎる学生が多く、自信がないように思えた。そこで多くの問題をこなして自信をつけさせ挑戦してもらった。予想より合格者が多く安心した。次年度も同様の対応をしていきたい。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.3 回収率50.0% 科目GPA3.83
S241018 専門ゼミナール I	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てます。この関心や興味が履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援する。	質問はできるだけ積極的にしてもらうようにした。前半は、身近な法律の論点を全員で検討し、発言するように指導した。後半は、公務員試験問題などを利用して、政治の基礎問題を学習した。とりわけ国語の読解問題では、様々なレベルを用意し、学修スキルを高めることができた。論述課題については文を要約する技術を習得させ、論文作成力を身に付けさせたい。与えた課題は、最終的にはそれぞれの学習到達度を把握することができた。ゼミ生全員による発表する機会として、グループ発表も設けていきたい。	学習の進捗を確認して、個別にアドバイスすることができた。法律問題は比較的身近な話題を取り上げ、丁寧に解説することを心がけた。公務員試験対策では、過去問を通じて実力を身に付けた。発表する機会が少なかったため、興味のある話題を設定してグループ発表を設けていきたい。	授業評価4.76 回収率90.9% 科目GPA3.73

令和6年度前期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S241019 専門ゼミナールⅠ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てます。	今年度のゼミ生は5名のみで、昨年度と比べて活気は低下した感否めないが、反面状況によってキメの細かい指導が可能となったとも感じる。1人生活上だらしのないゼミ生がいて、指導上苦慮している。	所属ゼミ生が5名のみということから回答率100%が得られた。昨年度のゼミ生に比べれば素直な者が多いので、ゼミを進めやすくなったとは感じる。ただ再び人数が増えた時に上手く対応出来るかとは思っている。	授業評価4.640 回収率100.0% 科目GPA2.40
S241020 専門ゼミナールⅠ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。主に、読む、書く、まとめる、といった学修スキルに加え、PC等を用いたレポート作成やプレゼンテーション資料の作成を行った。レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。	全ての回について対面形式でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。少人数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択した。PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もある。今後は、難易度の高い課題を取り入れる際には、履修者の思考力や読解力、PCスキルの状況を見極め、解説等の量を増やし、理解度の向上につなげていきたいと考えている。	授業評価4.525 回収率61.5% 科目GPA2.54
S241022 経営管理論	経営管理論の理論的発展過程について体系的に理解できる。 管理者の仕事・役割について理解し、企業や会社で実際にマネジメントできる。 経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報など）を活用し、管理・組織化する方法について総合的に判断できる。 経営学の基本であるヒト、モノ、カネ、情報に関する知識を主体的に学ぶことを通じて、企業や会社で実際にマネジメントできるようになるための管理者の仕事・役割について学習する。	入学者数が少ない学年を担当したことで、必修科目ながら昨年度の100人超から80人以下に履修者数が減少したことで、幾分管理面ではゆとりが取れた感はある。全般的に、静粛に授業を進められた方である。	昨年度より数値的には若干上昇した。現行方式になってから授業の進め方が安定してきたが、授業で取り上げる内容を所々マイナーチェンジする必要を感じているので次年度以降工夫を進めたい。	授業評価4.451 回収率70.5% 科目GPA2.03
S241023 マーケティング論	達成目標 マーケティングの基礎理論について理解することができる。 授業で学んだキーワードを活用して、企業のマーケティング戦略が分析できるようになる。 マーケティングに関する基本的な理論と実態の理解を通して、企業や社会における課題発見力を身につけ、マーケティングを実践的に活用できることを目的とする。	事例と理論を組み合わせ、日常生活に身近な学問であることをわかりやすく説明して理解を促した。 極力具体的に身近なケースを提示して、イメージしやすいように工夫をした。授業を通して身に着けたマーケティングの基本的理論によって、顧客志向や社会志向の知識が身についたと考える。	これまでも増して、マーケティングの理論と話題の新商品やサービスのトピックスを結び付けて理解の促進を図っていききたい。商品の現物の提示や動画による事例紹介を取り入れ、学生が関心を持てるように努めていきたい。	授業評価4.577 回収率73.6% 科目GPA2.85
S241024 IoT社会	IoTの発展の経緯や仕組みを理解し、説明することができる。	PCの基礎、インターネットの基礎、経営の基礎が身につくIoT社会である。学生の生活に沿った授業としても理解しがいがあることが多かった。基礎学習が必要である。普通教室の講義であるが体験させることが必要と思われる。	難しいことはやめ基礎に徹することとしたが、基礎もできていない(分数ができない)。	授業評価4.4 回収率66% 科目GPA1.43
S241024 簿記Ⅱ	会計専門用語や仕訳を理解することができる。 貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書を作成することができる。	日商簿記検定2級の商業簿記レベルの修得を目標とする科目で、1年科目の「現代生活と会計」や「簿記Ⅰ」とは、難易度に各段の差がある。日商簿記検定試験を受験するつもりで受講している学生と1年次の簿記学習が嫌いではないから受講している学生とで2極化が生じているが、学習内容量も多く、個別に対応することが難しい。解説するテーマを絞って、できる限り丁寧な説明を心掛けた。	簿記の習得には、数多くの問題を解くことが必要であるが、多くの学生は、板書を写すことに専念しているようである。学生が自分で問題を解く時間を確保できるよう、工夫をしていきたい。	授業評価4.224 回収率86.2% 科目GPA2.24
S241027 地域産業論 留学生対象	いわゆる地場産業の姿について理解することができる。 地場産業の実践例を通じて、地域の産業振興に必要なことを理解することができる。 他地域の地域産業の振興策を学ぶことを目的とする。	昨年は遠隔授業であったので対面での授業は初めてであった。留学生は、コロナ前にいろんな地域を観光しているのでもさまざまな地域で日本の地域活性化策が講じられていることを伝え、母国に帰っても対応できるように伝えた。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、留学生のため動画を見せるという時間は必要であり、工夫したい。	授業評価5 回収率100% 科目GPA4
S241029 企業法	企業法の中核をなす民法、商法と会社法の基礎知識を活用して、企業における法的トラブルの際し、企業の仕組みや規制を踏まえて正しく行動、対処することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	主に民法、商法及び会社法の分野につき、企業にかかわる法分野を扱った。できるだけ、例や身近な話題を提供し、基礎内容の把握から論点の検討を行うようにした。単なる条文の理解ではなく、立法趣旨を確認しながら、法規制の意義を把握した。ニュースや新聞記事の紹介に加え、主要判例の検討は効果的であった。授業は、おおむね満足して受講してくれたようであるが、専門性が出ると思われる学生も多いので、基礎内容を何度も確認していきたい。	主に2年生が対象の科目であり、昨年度の法学概論とあわせて基礎事項を学ぶ授業である。とりわけ企業にかかわる法を扱っており、やや難しかったテーマもあったが、経営学部学生としてしっかり理解すべき授業である。企業法を取り巻く広範な論点について、できるだけ多くの事例や判例を紹介しながら、実務を把握することも継続していきたい。	授業評価4.575 回収率76.7% 科目GPA2.62
S241030 スポーツ指導論	①スポーツ指導者の立場や役割を理解できる。 ②スポーツ指導者に必要なスポーツ科学の知識を習得できる。 ③スポーツ指導の過程を理解し、その実践方法を習得できる。	可能な限り分かりやすくかみ砕いて説明をしたつもりだが、学生たちは集中が長続きせず、途中で着座した状態で休憩を入れながら授業を進めた。 特にスポーツ指導の現場で実際に起きた事故やけがなどの発生経緯を経験に基づいて説明したことは、学生の心に響くものがあったように思う。 また、試験では各自の意見を盛り込んでの回答を求めたが、それなりに工夫が見られ、効果はあったと思われる。	授業の中で意識して多くの発問を行うようにしたところ、多少緊張感のある授業になったのではないと思う。 しかし、何らかの工夫がないと内容が学生に浸透せず、指導効果は上がらない。ミーティングも試みたが、それだけではモチベーションが保たれず、引き続き自ら学ぶ姿勢を促すため、より興味を持てる内容を工夫していきたい。	授業評価4.56 回収率67.2% 科目GPA1.68

令和6年度前期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S241031 スポーツビジネスとマーケティング	スポーツビジネスへの対応を念頭においたマーケティングのあり方を理解できる。実際に行われているマーケティング活動に対して関心をもち、自分自身でスポーツマーケティング戦略を考えることができる。スポーツ事業を企画・提供する基本的な内容を理解し、実践することができる。	経営分野の中でも、スポーツに関する内容について取り扱う科目となる。主に、ビジネスおよびマーケティングにおける基礎的な内容をスポーツに照らし合わせて内容を構成した。1年次における経営に関する基礎知識を踏まえた内容となるが、それらの理解度により、評価に差が出たと感じている。それまでの他の科目でも取り上げられた内容をスポーツ関連のもので考えることで、一般的な経営とスポーツの経営の共通する点や異なる点など、それらを理解した上で、スポーツの経営を捉えられるように工夫した。これらの点でスポーツに関する経営への理解度は、深まったと感じている。	授業方法として、全ての回を対面とし、希望者には遠隔対応にて実施した。授業資料や課題の内容等について、内容および資料の量を適切に保つことを意識した。達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の講義内容の量と質が必要だと考える。今後は対面授業の内容を工夫し、より理解が深まるようにしていきたいと考えている。	授業評価4.524 回答率67.7% 科目GPA2.02
S241032 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	各自の設定した課題テーマを発表し、討論を行った。学生の調べた内容、解釈レベルには限界があるものの、自ら調査し、考える力を養うことができる程度でよかった。さらに、各自のプレゼン技術もきれいに改善することができた。	今後は、4年生からの卒業研究に向けて、自分の興味のあるテーマの設定と展開について個別に指導していきたい。	授業評価4.700 回答率72.7% 科目GPA3.45
S241033 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	3年生の前期専門ゼミは、女子がMOSのエクセル資格取得につながってきた。合格はよかった。	学生自らの学習が見受けられない。今後課題等に工夫が必要である。	授業評価4.27 回答率100% 科目GPA3.33
S241034 専門ゼミナールⅢ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを目的とする。	各自で行ったケーススタディの要約をメンバーで共有し、人の意見を参考にしながら思考する探求力を身につけるように心掛けた。またグループワークによって他のメンバーとの協働やディスカッションにより成果を出すことで新たな気づきや協調性が身につくように運営した。	各自が取り組んだケーススタディに加え、他の学生の発表や意見からも刺激を受け、新たなテーマに自主的に取り組むように指導を行う。その結果として、広い視野で研究にアプローチできる力が身につくことを目指したい。またグループワークによってコミュニケーション能力の向上も図りたい。	授業評価4.825 回答率80.0% 科目GPA3.7
S241035 専門ゼミナールⅢ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	再履修生3名で、内容的に、専門ゼミナールⅢの内容に到達させるべき工夫をした。厚利修正1名を除いて、課題に真摯に取り組まない傾向が見られ、丁寧にレポートを作成する方法を伝えても、達成目標に近づけるゼミナール授業にはならなかった。	受講者4名のうち、3名は再履修者であった。元々の能力の低さに加え、取り組みが十分ではなく、超欠1名以外の3名が再試で、不可1名、C2名という結果であった。専門ゼミでは、基本的なレポートの書き方を再確認し、レポートとして最低限度のレベルを求めているに過ぎず、レポート作成について、丁寧に指導しているが、今年度も昨年度に引き続き、厳しい状態が続いている。丁寧に、段階を踏んだ指導を継続していく以外に方法はないと考える。	授業評価5.00 回答率75.0% 科目GPA0.50
S241036 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	9人が受講。力覚フィードバックを用いた遠隔ロボットシステム、知の拠点あいち重点研究プロジェクト「多感覚ICTを用いたフレイル予防・回復支援システムの研究開発」で試作した、仮想書道システム、メタバースによる歩行支援システムの3つのシステムを扱い、それらのシステムの立ち上げ方法と、操作方法を学習した。特に、後者の2システムについては、システムの組み立て・分解も可能とし、それらの説明もできるようにした。今後は、その研究の背景、問題点、解決手法、効果、未解決の課題などを勉強し、卒研につなげられるようにする予定である。	各講義において、すべての学生がそろることが少ないため、一度説明したことも、何度も繰り返して説明しないと、聞いていないなどと答えるので、効率が悪く悪い。学生は5回までは休んで良いと考えているため、ゼミや卒研ではこれまでの講義と異なり、受け身ではなく、積極的に自らが学ぶ姿勢を身につけることが必要であるので、卒研に向け、考え方を変えて行くように指導したい。	授業評価4.100 回答率22.3% 科目GPA3.78
S241037 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	今年度は、仮説検定について理解するために必要な統計学の基本事項について、受講生自身が調べ、調べた内容を発表するという形式の授業を行った。二項分布、ベルヌーイ試行、二項分布については多くの受講生が理解していたが、正規分布を理解できた受講生はほとんどいなかった。	抽象度の高い概念を、受講生が自らの力で理解できるようにする授業方法について検討をしていきたい。	授業評価4.28 回答率80.0% 科目GPA2.00
S241038 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	MOS試験のエクセルを受験対策をした。学生は自主的に検定試験を受験して合格したという報告を受けている。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.971 回答率58.3% 科目GPA3.83
S241039 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	履修者数は経営学部総合経営学科3年生6名(全員日本人)であった。前期は対面授業(一部の学生はオンライン授業)であったので、毎週の学習内容に従って授業を進めた。また、演習課題、および宿題等の提出状況は、きちんと提出できた学生がほとんどであった。その結果、ゼミ生全員がこの科目に合格した。全体として真面目に取り組む学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。	履修者6名のうちで、2名しか回答していないので、授業全体像があまりはつきりしない。また、科目GPAは2.17であったので、ゼミの成績評価としてはあまり高くなかったと言える。このクラスは、履修学生が日本人学生であったので、できれば留学生と一緒に授業を進めることができるメリットを認識することができた。	授業評価4.300 回答率33.3% 科目GPA2.17
S241040 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	課題については、毎回全員に発言してもらうようにした。前半は、法律の論点を全員で検討し、コメントするスキルを身につけるようにした。後半は、公務員試験問題などを利用して、法律の基礎問題を学習した。公務員対策では面接対策も盛り込んだ。また、類出のテーマを利用した論文対策では、学修スキルを高めることができた。パワーポイントに関するレポート作成課題を与え、効果的な発表指導につながった。発表する機会に限られたが、必ずコメントを求めることで意見や質問を積極的にすることができるようになった。	学習の進め方については、おおむね満足していたようである。学習の進捗を確認して進めることができた。法律の論点では、判例など具体例を用いて丁寧に解説するように心がけた。公務員試験対策では、解答のみならず、すべての選択肢を分析することで実力がついた。補習も効果的に行うことができた。個人発表する機会を増やしていきたい。	授業評価4.756 回答率81.8% 科目GPA3.91

令和6年度前期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S241041 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできるビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	今年度は2年生から上がってきた者を中心にハンドボール部勢が最多勢力で、これに野球部勢も加わり体育会食が濃くなり、正直なところコントロールが難しい感がある。一応プレゼン類は発表をこなす感じだが、4年時を見据えると不安が残るところ。	回答率が60%に留まっている点からして、特に体育会系ゼミ生の制御に苦慮し続けているのは否めない。ただいずれは卒論を作成しなければならぬので、とにかく今のうちから課題を課しまくる等考えている。	授業評価4.633 回収率60.0% 科目GPA2.20
S241042 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできるビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	上場企業の決算書を読むのに必要な会計知識を補うよう、輪読を行った。学生のプレゼンテーションをもとに、補足説明を行い、理解を深められるよう努めた。発表担当者が当日欠席したり、準備していなかったり、予定通りに学習を進めることができなかった。会計に関心がないにもかかわらず、当ゼミナールに所属したことが原因であろうが、そうした学生の学習意欲を向上させることの難しさを感じた。	ゼミナールのメンバーの関心事にあわせて、授業の進め方を工夫していきたい。	授業評価4.250 回収率80.0% 科目GPA2.00
S241043 専門ゼミナールⅢ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。経営学について多角的な観点から学習し、より専門的な経営学的思考能力を身に付けます。ビジネスパーソンに必要なスキルと知識を理解していく。	教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。主に、読む、書く、まとめる、といった学修スキルに加え、PC等を用いたレポート作成やプレゼンテーション資料の作成を行った。レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。	全ての回において対面形式でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。少人数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択し、卒業論文執筆へと繋がるように課題を設定した。PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もあるが、今後は、これらの課題の成果を活かし、卒業論文執筆につなげていきたいと考えている。	授業評価5.00 回収率60.0% 科目GPA2.60
S241045 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできることを到達目標としている。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを教育効果としている。	学生は4人。2人は日本人学生で野球部所属。2人は留学生で中国出身者とネパール出身者。タイプの異なる学生たちが互いの文化背景や価値観を認め合い、それを経営学の学習にどうやって活かしていくかについて学んだ。人数は少なかったが、活発なやりとりはできたと思う。	出席状況が思わしくなく、回答率が25%にとどまっている。野球、中国、ネパールそれぞれについての最新情報を得るよう心がけ、それを授業に活用する努力を続けた。	授業評価4.000 回収率25.0% 科目GPA1.50
S241046 現代マネジメント講義Ⅰ	現役経営者の講義から、将来自分が経営者・管理者に就任した時に必要な経営実践のヒントを学び取ることができる。講義の内容を理解し、講義内容の要点をノートに的確にまとめることができる。実社会で活躍される現役経営者のお話から、経営という仕事にはどのようなことが求められるのかを学び取り、自らのビジネスパーソンとしての教養及び経営実践能力の向上に反映させることを目的とします。	昨年度と比べると、主観的な印象だが居眠り率が上がってしまった様にも感じた。また時折授業内課題提出の際数名が同じコピーペンを提出してきたりと、再三の注意にも関わらずルール違反を犯す履修者も出てきている。また各課題の提出をサがる履修者も多く出てしまった。	昨年度と比べると数値的にダウンしてしまった。正直なところ受講意欲も昨年度履修者より低めな者も多く、如何に講義への意欲をかき立てていくのが課題である。	授業評価4.446 回収率57.5% 科目GPA1.88
S241047 戦略思考Ⅰ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。担当教員ごとの専門科目において必要な戦略思考能力を身につけ、総合的な視点から判断できる能力を培う。	学生の取り組み具合は人様々であったが、概ねグループ発表としては彼らなりによく取り組んでくれたと感じている。他方でグループに入り込めなかった履修者が早々脱落してしまっただけもあり、最初の頃の対応が肝心とも感じた。	昨年度より数値的には下がってしまったが、履修者達のグループ発表への取り組み具合は昨年度の履修者とさほどの違いは感じられなかったと思う。ただグループからこぼれ気味な履修者のケアをより考える必要があるとも感じた次第である。	授業評価4.480 回収率55.6% 科目GPA2.33
S241048 戦略思考Ⅰ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	テキストをもとに、企業の決算書から、その企業の戦略やビジネスモデルを探る授業を行った。学生が関心をもち、理解が進むよう、学生が日頃利用している企業や認知度の高い企業を選択し、分析を行った。問いかけを行い、自分なりの意見を提示するよう促すことができたが、他者とコミュニケーションを取りながら課題解決に取り組むことはできなかった。	企業の戦略を探るにあたり、認知度の高い企業を対象とすることで、学生の関心と理解を得ることができたように思われる。次年度は、学生同士が自然とコミュニケーションが取れるような場を設けていきたい。	授業評価4.850 回収率100.0% 科目GPA2.75
S241049 戦略思考Ⅰ	①与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 ②他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 ③現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる	スポーツ指導を戦略的な観点から総合的に論じ、思考していく授業を行った。特に「指導下での暴力やハラスメント、ルールとマネー、コーチングであるべき姿とは」など個々で考える設問を多く取り入れて授業を進めた。指導現場で使えるわかりやすい題材を取り入れて進めたことで、活発な議論ができたと思う。	熱心に授業に取り組む学生もいるが、どうしても一部にモチベーションを落とす学生も見られ、納得する授業にはまだまだ及んでいない。グループ分けや題材にもう少し工夫をしてより活発に意見発表ができるよう取り組んでいきたい。	授業評価4.55 回収率74.5% 科目GPA2.27
S241050 戦略思考Ⅰ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。担当教員ごとの専門科目において必要な戦略思考能力を身につけ、総合的な視点から判断できる能力を培う。	前期は、MOS試験のエクセル対策を実施した。就職した後にでも役立ち、実力を発揮できるようにするためである。7月から徐々に学生が試験に挑戦し、合格したと報告を受けている。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考えている。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度、個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.70 回収率64.3% 科目GPA3.39
S241052 経営とソーシャルメディア	ソーシャルメディアの基本を学び、各メディアの特性を知り、企業経営にどのように取り入れていくかを理解することができる。	多くの学生がSNSを使っているが、企業として(店)売り上げにつなげることを知らない。SNSを遊びと思っている節がある。この授業で企業としてのSNSの使用方法が理解できればよい。	SNSは個人々人でやっているのに経営とむつむつつかないのが残念である。各自ショップ経営でもやらせたい。	授業評価4.06 回収率52.8% 科目GPA1.14

令和6年度前期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S241053 金融リテラシー	金融経済に関する基礎的な知識を身に付け、生活に必要なお金に関する情報を正しく理解し、判断することができる。 生涯を通じて「お金を自分の味方につけられる」ようにするために必要な金融リテラシーの習得を目的とする。	金融リテラシーの習得を基本目標として、自著である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2022年）を教科書として、講義形式を基本としながら、学生に問いかけながらわかり易い授業を進めた。 毎授業の感想を出席票に記入させたところ、「授業内容がとてつわり易い」、「将来ためになる内容」といった記述が多くみられた。	使用した教科書は本学の学生に適合させた自著であり、狙い通り授業ができたと考えている。今後は、よりその時の話題を取り入れることで、学生の興味や知識を増やす工夫を続けていきたい。	授業評価4.579 回答率65.1% 科目GPA2.93
S241056 行政法	行政に関連する諸法律に共通する原理や仕組みについて理解し、住民として適切な法的行動をすることができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身に付け、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	行政法にかかわる法分野の基礎的内容を扱った。できるだけ資料を活用して、身近な話題から論点の検討を行うようにした。単なる条文の理解ではなく、立法趣旨を確認しながら、法制度の全体像と意義の把握に努めた。興味を持ってもらうべく新聞記事など身近な話題を提供して、法律関係の理解に努めた。話題が多岐にわたるので、各分野の基礎内容や何度も確認してから説明するようにした。	理解しやすい具体例を挙げて、広範かつ難解な行政法の分野につき、丁寧な解説を心掛けた。行政法を取り巻く論点の理解を深めるべく、今後できるだけ身近な話題や具体例を提供しながら、時には判例を紹介し、何度も繰り返し解説をしていきたい。	授業評価4.754 回答率48.1% 科目GPA2.25
S241057 国際金融論 公教必	国際金融の基礎理論を理解し、為替レートの変動など国際金融に関する新聞記事やニュースを理解できるようになる。 国際金融を体系的に理解できるようになることを目標に、歴史・理論・現実をバランスよく扱う。	自著である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2018年）を用いて、国際金融を理解するための基本知識をおさえたいうえで、『国際金融論をつかむ』（小川英治 有斐閣 2019年）を用いた教材によって、国際収支、外国為替のしくみ、為替決定理論、世界金融危機、世界経済の変化などを扱った。 具体的な事例をとりあげながら、わかり易い授業を心がけたため、毎回の出席票の記述からも、授業内容がよく理解できたとの感想が多くみられた。	授業内容は受講生のレベルに適合した内容であったが、今後はよりその時々の話題にあった内容を多く取り入れることで、より学生の興味をひきつけるよう、改善を続けたい。	授業評価4.584 回答率64.4% 科目GPA2.63
S241058 トレーニング演習	①体力の診断と問題解決の方策を助言できる能力を身につけることができる。 ②身体状況と体力的特性に応じて適切な運動プログラムを作成できる。 ③安全で効果的な運動プログラムの実践に必要な知識と技能を身につけることができる。	「スポーツ科学概論」において習得した知識をベースに、エクササイズや、プログラミングの実践を通して、フィットネス、エクササイズの指導者として必要な技能の習得を目標としたが、基礎的な部分は理解されたものの、実践的にはまだまだ経験が必要である。知識と実践のバランスの比率を考えると実践をより多くしていく必要がある。	運動部の学生が多く、トレーニングに関しては興味をもって受講していた。演習としてはこれまで実際に体を動かす場面でなかなか乗ってこなかったことがあり、健康志向より筋力のパンプアップなど美的な面を強調して授業を進めた。しかし、内容をより工夫し、興味・関心を持てるような内容で取り組む必要がある。	授業評価4.60 回答率74.5% 科目GPA1.74
S241060 卒業研究 I	自分で設定したテーマについての研究成果を卒業論文にすることができる。 専門ゼミナール入門、I、II、IIIで学修したことを卒業論文にまとめるように準備する。	各自が設定したテーマについて個別指導を行った。また、途中経過について、各自で発表させ、問題点をお互いに指摘するよう促し、改善点について指導した。	今後は、各自のテーマ設定と調査開始がより計画的に進むようスケジュール管理を徹底させていきたい。	授業評価4.920 回答率45.5% 科目GPA3.27
S241061 卒業研究 I	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。	学生は、卒論のタイトル決めもなかなか進まず、就活にも力を注いでいないようだ。指導方法の模索。	フォームの作り方、分析方法を理解していない。 授業でクロス集計や、データマイニングを実施しても何もわかっていない。学生のバイト先の実データを使えば規制も興味を持ってくれると思う。	授業評価4.9 回答率40% 科目GPA2.20
S241062 卒業研究 I	達成目標 経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。 ビジネスパーソンとして必要な経営戦略的思考と職業的倫理観を身に付け、社会に出てから活躍できる能力を養うことを目的とする。	事例や先行研究にあたりながら卒論のテーマを絞っていき、各自の報告とフィードバックをメンバー全員で共有した。 その結果として、相互に影響を与え合い、問題意識を高めることができたこととする。	卒論執筆の準備段階として、テーマの選定や研究目的、研究方法の絞り方や選定方法について指導を行う。 その上で、卒論テーマに応じて個別に参考文献の紹介や調査方法などを提示し、テクニカルな指導を段階的に加えるようにしたい。	授業評価4.88 回答率100% 科目GPA3.8
S241063 卒業研究 I	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。	十分に卒業研究を進められる学生が1名、十分に課題をこなせない学生が3名という構成で、思うように進まない状況であった。 結果的に、合格ラインに4名が達してくれたが、卒業研究とするには、まだまだ課題が残っており、丁寧に指導していく必要がある。	本試験での成績が、B1、C0、D3、再試験後、B1、C3、D0という状況。最終学年となっても、十分な取り組みができていない3名は、再試験でなんとか最低レベルをクリアできた。再試によるC3名は、いまだ、論文を作成する下地ができていない状況であり、粘り強く指導していく必要性を感じる。 能力的に厳しい学生が多く、辛抱強く、日々の課題を通じて指導していくしかない。	授業評価4.00 回答率100% 科目GPA1.25
S241064 卒業研究 I	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	今年度は、4年次前期から卒業論文の作成を開始した。具体的には、卒業論文に含めることが必要な事項を提示し、それに沿って毎週原稿を書き進めるという形式の授業を行った。その成果を前期試験レポートとして提出させたが、受講生により完成度に大きなばらつきがあった。	次年度も、4年次前期から卒業論文の作成を開始する予定である。多くの受講生が、原稿作成の際に困難を感じる事項については、より詳細な指示を追加する予定である。	授業評価4.55 回答率53.3% 科目GPA2.93
S241065 卒業研究 I	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 財務会計に関する会計基準や会計の役割、業績評価を理解し、マネジメントに必要な専門的スキルの活用を目的とします。	経営分析に関する論文を作成することにし問題提起ができない状態で作成したため、完成しなかった。よって、次年度は、もう少し早めの対策を講じていきたい。	次年度は、定期試験前までに中身を完成するよう徹底指導していきたい。達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.667 回答率60.0% 科目GPA4
S241066 卒業研究 I	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断するための能力を培う。	履修者数は経営学部総合経営学科4年生9名であった。中国人留学生が5人、日本人学生が4人であった。前期はすべて対面授業であったので、毎週の学習内容に従って進めることができた。ゼミ生が全て授業に出席してくれたので、授業をスムーズに進めることができた。また、課題等の提出状況は、締め切り前に提出する学生がほとんどであった。その結果、9人の学生全員が毎週の学習に取り組む、課題と宿題、および定期レポート試験をウェブ上で提出し、この科目に合格することができた。	9人の履修学生のうち5人しか回答していないので、授業評価はあまりはつきりしないが、このクラスは、履修学生全員が合格した。また、科目GPAが3.33と高かったことは、学生たちの学習に対する姿勢が素晴らしいと言え、一人の脱落者を出さず、全員が高成績で合格したクラスであった。全体として真面目に取り組む学生が多かったため、授業自体は大変進めやすかった。	授業評価4.480 回答率55.6% 科目GPA3.33

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S241067 卒業研究 I	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、将来のキャリアに必要な資格あるいは公務員試験対策を通じて、専門的スキルを培う。	ゼミ生の卒業論文の進み具合を、毎回それぞれ確認しながら指導した。ゼミの前半は、全員に共通する労働法の分野の新聞記事や判例を検討し、後半は個別指導を中心とした。とりわけ最新の判例の調べ方や資料収集方法や論文の書き方を指導した。注の打ち方は何度も繰り返し確認した。次第に、自分のテーマにつき問題点を把握できるようになった。テーマとともに、早めに卒業論文の構成を確定していたことがやる気につながった。これまでの卒業論文を紹介することで、実際の書き方を理解することができた。進捗状況の発表で、完成に向けての進め方を効果的に指導することができた。	それぞれのテーマにつき、まずは理解することから始めた。わからないことや疑問に思ったことを気軽に発言させるようにした。その結果、おおむね卒業論文を実際に書き始めることができることができた。卒業論文の完成に向け、補習を含めて適宜指導することができた。書き方の質問が多かった。有益な文献の収集方法については、随時情報提供を進めていきたい。	授業評価4.636 回収率91.7% 科目GPA3.75
S241068 卒業研究 I	□ 経営学関連の問題に関連したテーマを自ら制定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。 経営学関連の学習の成果として、経営学絡みの分野の範囲内で各自卒業論文を制定し、卒業論文作成への準備を進めることを目的とします。そして社会に真摯に仕える能力を身につけてもらいます。	今年度の4年ゼミ生は割とおとなしく真剣に取り組んでくれる傾向があり、指導面では余り苦勞させられる感じではない。ただ卒論締切時期が早まったことで、指導自体前倒し気味になってきている。	教務的には昨年度より下がったものの、卒論への取り組み具合は昨年度のゼミ生と比べて劣っている訳ではないので、今年度のゼミ生はそれ程不安を感じていない。むしろ現3年生が4年ゼミに上がった際に、果たして無事卒論を仕上げられるのか相当不安に感じている。	授業評価4.650 回収率88.9% 科目GPA3.00
S241069 卒業研究 I	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。 財務会計の基本的な枠組みおよび会計特有の用語や概念を把握・理解すること、また近年の会計制度の変化の主要な流れとその背景を理解し、マネジメントに必要な専門的スキルを身につけることを目的とします。	ウェブ上の資料の切り貼りで論文を作成しようとするので、論文のストーリーの立て方や、資料収集、文献読解について、丁寧な指導を心がけた。時間をかけて、何度もやり直しをさせ、毎週報告するという形式をとった。受講者同志で議論することもできた。	ユニバ等を効果的に利用して、添削指導、フィードバック等、きめ細かな指導を図っていきたい。	授業評価4.714 回収率70.9% 科目GPA3.10
S241070 卒業研究 I	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。 体育・スポーツを経営学、経済学、社会学、健康科学、医学といった様々な視点から捉え、社会における体育・スポーツの意義を考え、問題点を分析し、解決策を探索していく。	前半は卒業論文の各自のテーマに沿った資料収集と資料分析を行った。そして、収集した資料についてまとめ、発表するための資料作成を行った。後半は、収集した資料をもとに、卒業論文のアウトラインを作成し、執筆を開始した。また、定期的に卒論指導や就職活動の状況確認を行った。 資料収集に苦勞する者もいたが、文献検索の方法の指導や参考資料を提供することで、資料収集のスキルはある程度身についたと思われる。しかし、収集した資料を読解し、精査することについては、もう少し時間をかけて取り組めるようにした方が良かったと感じている。また、これまでも繰り返し行ってきたプレゼンテーション資料の作成や、発表については、当初に比べ向上していると感じている。	全ての回において対面でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、卒業論文の執筆を効率良く進めることができるように工夫した。個別に指導する機会を多くし、卒論に関する内容説明を時間をかけて解説することを心がけた。今後も個別指導の機会をできるだけ多くするように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。	授業評価4.867 回収率60.0% 科目GPA2.80
S241072 行政政策	行政権について理解し、国や地方自治体が行う公共政策のうちこれまでの社会政策について正しく認識し、どうあるべきかを判断することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	とりわけ社会政策の分野を中心に、政策を踏まえた法分野の基礎的内容を扱った。できるだけ、身近な話題から論点を検討できるようにした。単なる条文の紹介ではなく、立法趣旨を確認しながら、法制度の意義の把握を中心とした。興味を持たせる意味で、ニュースや新聞記事が身近な話題を活用して、実際の法的問題点の解説にも時間を割いた。4年生対象の授業であり、法学を中心に経済学や経営学との学際的視点も踏まえ、社会に出る前に多角的な視野に立つ学習として有意義な授業に位置付けたい。	資料を活用して、空欄を補充しながら進めていった。今後もデータを基にわかりやすい具体例を挙げて、広範囲で理解な行政政策の分野につき、論点を絞って丁寧な解説を心掛けていきたい。複雑な社会政策を取り巻く論点について整理していきながら、レジュメ及び授業資料を効果的に活用していきたい。	授業評価4.808 回収率57.1% 科目GPA2.67
S241074 国際経済論	貿易について理解し、貿易を通じて世界的な相互依存関係がさらに強まっていること、アジア太平洋地域との一体感がさらに進むことが理解できる。 経営学の基本である経営資源（人、モノ、金、情報）が国際経済の中でどのように活用されているのかを学ぶことで、企業で実際にマネジメントできるようになる。	自著である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2018年）によって基本的な国際経済の知識をおさえたうえで、『貿易論』（小峰隆夫 日経文庫）を使って、国際貿易がどのような流れで行われており、何が問題となっているのかを授業で取り扱った。具体的な事例をあげてわかり易く説明することにより、学生の理解はほぼ目標通り進んだと考えている。	扱っている内容が比較的難しいにもかかわらず、学生の評価は高いと考える。今後は、その時々々の話題をできるだけとりあげること、学生がより具体的に国際経済を理解し、自分の国政経済観を形成できるように務めていきたいと考える。	授業評価4.807 回収率78.4% 科目GPA2.62
S241075 職業指導	授業の目標としては、学校・企業現場における職業指導教育業務に、誇りと自信をもって生徒を指導できるキャリア能力を身につける。 教育効果としては、現在及びこれからの職業指導に必要な基礎的知識や技能を身に付け、実際の教育現場で、担任指導、進路指導できる能力や資質の向上を目指す。	1名の少人数の授業で、職業面談の持ち方の演習、職業指導の学習指導案の作成などにおいて、きめ細かな指導及びフィードバックも効果的にでき、ミニ模擬授業も実践的なものになった。	商業高校をとりまく就職環境の変化、AIを取り入れた業種など目まぐるしく変化する実態を踏まえた実践的な講義を、演習場面に授業に取り入れていきたい。	授業評価 回収率0% 科目GPA4.0
S241076 卒業研究 I	経営学に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営学に関する専門知識を身につけることができることを到達目標としている。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとして視座から判断できるための能力を養うことを教育効果としている。	学生は中国、ベトナム、ネパール、インドネシア出身の留学生のみ。専門ゼミナールⅢ・Ⅳと同じ顔ぶれのため、和やかな雰囲気での授業を進めることができた。卒業論文作成の前段階として、関心があるテーマについて発表し合い、さまざまな注意点について確認し合った。学生たちは出席状況も悪くなく、全体的に意欲的な態度で授業に参加していたと思う。	授業評価は悪くない。しかし、回収率は60%に満たない。これで満足してしまうのではなく、さらなるレベルアップを目指して努力していくつもりである。	授業評価5.000 回収率58.3% 科目GPA2.5
U241010 地域クリエイション基礎 高大連携	三河地域に関する伝統的なものづくり産業と現在の最先端技術の繋がりについて理解することができる。三河地域の伝統的なものづくりとその構造変化について理解することができる。	今年度は姉妹校組が減少してしまっていたが、その分提携校からの参加者が穴埋めしてくれたので、人数的には昨年度と変わらなかった。昨年度と比べるとおとなしい雰囲気だったが、学外授業のリニア・鉄道館見学は概ね好評だった。	教務的には昨年度とあまり変わりはない。2日目が各学科担当日になってから2年目で、今のところ学科間に人気のバラツキがあるようだが、もう少し回を重ねて熟成させていきたい。	高校生対象の授業のため授業評価アンケートの数値無し。 科目GPA2.76

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
U241012 未来産業ワーク	地域の産業における課題解決のための、ICT（情報通信技術）の新しい動きとの関連性と重要性について理解できるようになります。地域の新しい産業形成についての知識を有し、地域の新しい産業のあり方について提案することができるようになります。	16人が受講。インターネットのアプリケーションを対象とし、3人～5人から成るグループを作り、各グループにおいてディスカッション、調査などを行い、発表する形態をとった。第1回目のグループワークでは、車の自動運転、インスタグラム、X、SNSを取り上げ、第2回目では出会いサイト、生成AI、GPSアプリを取り上げた。各技術の現状、問題点、解決策を議論し、各講義の最初に、各自の調査内容を発表し、それらをもとに議論を進め、次に調査すべきことを明らかにして、分担を決めるようにしながら、進めるようにした。	グループによっては、各学生の負荷に偏りがあるように見受けられたので、負荷の分担がある程度平等になるように留意するようにしたい。また、成績にうまく反映するように工夫する必要がある。	授業評価4.733 回収率18.8% 科目GPA2.75
U241016 インターンシップ（集中）B	①社会で働くことの意味を考えられるようになる。 ②自己の職業適性を見つけることができる。 ③将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。	初めに担当する科目であったが、前年度の担当者の協力でスムーズに授業を進めることができた。 先方に迷惑や失礼のないようなインターンシップにするため、それなりに覚悟を持った学生に選択させるよう、授業ガイダンスでは厳しい言葉で説明した。このことが功を奏したのか、特に問題なくすべてを終えることができた。	この授業は「働くことの意味」や「会社組織とは何か」が分かっている先方に迷惑をかけることにならなくて、意味も分からずに不満だけが残ることになりかねない。したがって、事前指導でここまでこのことを浸透させるかが重要になってくる。今後もこのことを学生たちにはしっかりと伝えながら、充実したインターンシップとしてもらえるよう工夫していきたい。	授業評価4.57 回収率66.7% 科目GPA3.56
U231007 インターンシップ A	社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。	事前学習、インターンシップへの参加、事後学習を行った。事前学習では、ビジネススマナ、エントリーシートへの書き方などに加え、企業の選定、日程調整などを行った。事後学習では、インターンシップ実習のまとめ、発表などを行った。意欲的に取り組む様子が見られた。	多くの受講生それぞれと面談を進めてゆくことから、待ち時間も多くなる傾向がある。有意義な時間となるよう工夫してゆきたい。	授業評価4.47 回収率21.4% 科目GPA
U241007 インターンシップ A	目標 社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 教育効果 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。	多くの企業でインターンシップが実施され、学生にとって貴重な体験を得ることができた。企業研究会では、多くの建築関係の企業に参加いただき、スムーズにインターンシップ実習先の決定ができた。	実習先決定後に、学生からインターンシップ担当者に確認の連絡するように周知しているが、「学生からの連絡がこない」とのクレームがあった。今後は連絡完了の報告をさせる必要がある。	授業評価3.978 回収率21.4% 科目GPA2.67
U241008 福祉社会のクリエイション	「福祉社会の構築」という切り口で、福祉社会における現状と問題点、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習・理解し、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることを目標とする。 福祉社会を支える都市的ハードから生活のソフトまでをどのように創造するかについて、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習し、全ての人が過ごしやすい都市、生活空間を創造するための提案ができることが期待される。	課題提出は授業当日までとした。 受講生は11名で、1～10回の講義後、11～13回でグループのテーマを決定し発表資料の作成、14回で発表会を実施した。受講人数が少なく、受講学生の学科に偏りがあつたため、グループのメンバー構成は学生の話し合いで決定した。5グループ中2グループが異なる学科メンバーであった。 5グループすべてが期日までに発表資料の提出がされ、すべてのグループが発表できた。他学科学生とのグループワークから学生は様々な考え方があることを学ぶことができた。また、グループワークでの教員の指導が適切にできたためと思われる。	科目GPAは昨年度の2.23と比較し高かった。授業評価に関しては、昨年度の4.80と同等で高く、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考えられる。 達成目標に対する授業評価を高めるには、グループワークでの教員のかかわりが収容であり、今後も学生の興味に沿ったアドバイスなど工夫したい。	授業評価4.76 回収率45.5% 科目GPA2.45
U241009 地域クリエイションワーク	目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がりが、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。	藤川学区こどもの家を利用することもまたに子供たちに描いてもらった絵やアイデアをもとに、学生たちがグループワークで木の玩具を作った。またワークショップを実施し、制作した木のおもちゃで子どもたちに遊んでもらった。ワークショップの参加児童も年々増加し、地域交流の場として認知されつつあり、ものづくりに対する理解も深められた。	授業内では、制作時間が足りず、授業外の時間を使い、学生の指導や制作を行っているのが現状である。今後、開講コマを増やすなど制作時間を確保する必要がある。	授業評価4.542 回収率42.4% 科目GPA2.09
U241009 地域クリエイションワーク	達成目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がりが、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。	藤川にある子ども家に出向き、学生主体で子供たちに描いてもらった絵やアイデアをもとに、学生たちがグループワークで木の玩具を制作する。また、実際につくった玩具を使用したワークショップを実施し、子供たちに遊んでもらうための指導も行った。	モデリングスタジオを使用しての制作となるが、授業時間内での制作時間が確保し辛いのが現状である。制作を進めることが主となり、安全教育が不十分であることは反省点である。課題の改善も含めて制作時間の確保や指導方法の見直しが必要である。	授業評価4.542 回収率42.4% 科目GPA2.09
U241011 日本の産業	日本のさまざまな産業が発展してきた歴史や社会的背景の理解を通して、専門分野と産業、社会との関係における課題発見力を身につけます。また産業が今後どのように変化していくのかを考察します。 □ 日本の産業の発展過程と特徴を理解することができる。 産業と社会との関係を理解することができる。 今後のあるべき日本の産業像を考察することができる。	本年度の学生はモチベーションも高く、内容に対する理解もあり、提案もよくできていた。 今枝先生が加わられたことでわかりやすい内容になっていたように感じた。	学生が自ら提案できる技術について話を進めたいと思う。建築やインテリアについては学科の特性が出すぎないように気を付けたいと思う。	授業評価4.32 回収率70.2% 科目GPA3.63

令和6年度前期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
U241013 都市と移動手段のデザイン	達成目標 1. 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 2. 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 3. 新しい移動手段をプランニングすることができる。 教育効果 建築学科、スマートデザイン学科、総合経営学科のすべてに関連する内容です。教養の視点だけでなく広域的な視点で捉えながら、各分野との関連性を深めます。	教員2名で、半数回ずつ担当した。毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行った。評価は予想より高かった。この選択科目を受講した学生達は意欲的な学生が多く見られた。	授業評価は高く、受講ノートもよく書かれていた。今後は、学生からの質問や興味に対して、適切なアドバイスを与えながら、対話機会を増やし、授業を通じて、自分の成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価4.61 回収率62.5% 科目GPA3.15
U241002 コミュニケーション・スケッチ D	① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。 共通科目として、共通科目の基礎、キャリアに属し、学科を問わず、最終的にインターンシップなどに結びつける。	90分の演習は順調に進み、シラバス通りに展開できた。わかりにくい演習問題に対する質問に直接答えたり指摘が出来るような環境となった。	授業評価もよく、特に問題はない。	授業評価4.575 回収率66.7% 科目GPA2.96
U241013 都市と移動手段のデザイン	① 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 ② 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 ③ 新しい移動手段をプランニングすることができる。 共通科目として、市場クリエイションの領域となる。	毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行ったが、内容が新鮮であったためか、評価は良く、大きな問題はなかった。	公欠者に対して、補習課題の方法を検討する。	授業評価62.5 回収率62.5% 科目GPA3.15
U241006 色彩学 B	①自然科学的な色彩を成り立たせている仕組みや、人間が色彩をとらえる方法を知っている。 ②色彩がもたらす心理的な効果や社会的な効果を知っている。 ③色彩の理論を生かし、配色を計画することができる。	スポーツの部活中心で色彩学の学習内容にまったく興味のない学生も多数おり、その大半が授業最初からイヤホンをつけてスマートフォンを見て俯いている。座席指定しており、雑音を発生することはないので、穏やかに注意するのみとした。4301教室はプロジェクタの演色性が低いため、スライド資料を手元のスマートフォンで見る学生もいるので、必ずしもスマートフォンを見ている＝ゲームや動画閲覧とは限らない。昨年に比べて、丁寧にしっかりとした受講ノートを書く学生がなくなった。それに対し、コメントを書く楽しさもなく、やや残念でもある。資料の事前配信と、受講ノートのフィードバックも間を置かずに行えた。	やや低い評価となった。身近な関心ももてる話題を多くし、カラーチップや色紙を使って配色を行うワーク等も考えたいが、現状だとそもそも受講態度が身についていない。端から学ぶ意思がない（ように見える）学生もおり、難しい。こちらもそうした学生を放置する姿勢を、図らずも示している可能性があるため、まずはそこから改善し、楽しい話題を提供するよう努める。	授業評価4.285 回収率65.0% 科目GPA2.45
U241015 インターンシップ	社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。	28人受講者のうち、9人が単位取得諦め、2人がレポート未提出で11人（4割弱）が不合格。事前指導を3コマ、実習10日間、事後指導2コマをシラバス通りに実施した。25年卒業の彼らから三省合意のもとインターンシップの定義が変化し、意識も変わりつつある。5日間以上の「インターンシップ」よりオープンカンパニーを数多く参加したいという、単位取得の条件に縛られたくない学生が多く、放棄した学生が多かった。大学紹介のインターン先企業の選定はスムーズに行え、事後指導での報告会では、インターンシップの意義は大きかったとの声も多く、一定の成果はあったと考えている。一方で事前指導がやや希薄になった感は否めない。	後期開始後1ヶ月も後に定期試験となるイレギュラーな授業故か回収率はかなり低い。次年度は最終授業のプレゼン日に実施することにした。改善点は、事前指導を各個人に向けて行うようにしたい。	授業評価4.371 回収率25% 科目GPA2.0
U241003 コミュニケーション・スケッチ B1	① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。	興味のあるなしで理解度に大きな差が出てくる。80%の学生が理解し興味を示してくれたらというのが目標だったが、およそその目標は達成できたと考えている。	受講する学生が視覚伝達に興味を持っていない事を考えると、それなりにやれた授業だったと考えられる。解説やデモンストレーションの見せ方などは来年度に向けて改善を考えている。	授業評価4.52 回収率73.8% 科目GPA
U241004 コミュニケーション・スケッチ B2	① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。	興味のあるなしで理解度に大きな差が出てくる。80%の学生が理解し興味を示してくれたらというのが目標だったが、およそその目標は達成できたと考えている。	受講する学生が視覚伝達に興味を持っていない事を考えると、それなりにやれた授業だったと考えられる。解説やデモンストレーションの見せ方などは来年度に向けて改善を考えている。	授業評価4.37 回収率69.7% 科目GPA
U241014 市場創成ワーク	消費者の課題や欲求、動向を捉えるAIやIoTの利用方法を知っている。新しいビジネスの内容と空間・デザイン・マネジメントを提案することができる。新しいビジネスにAIやIoTを導入した評価・改善方法を提案することができる。	岡崎市の観光やイベント企画をテーマとした調査によって、各自が新しい価値の発見と、それに基づく新しい市場創成の可能性を提案することができた。プレゼンテーション手法として、各自の提案をポスター（パネル）発表形式にまとめた。	先行事例を吟味する過程が不十分な傾向が見られたため、さらに時間をかけた事例調査によって各自の提案との差異や独自性を明確にするプロセスを充実させる。	授業評価5.00 回収率50% 科目GPA2.00
U221003 コミュニケーション・スケッチA A	物理的、生理的側面から色彩を理解することができる。色彩の分類、整理、体系化について理解することができる。色彩の感情効果、生理的作用、配色原理を理解し、作品制作に活用することができる。	様々な平面造形作品から配色をサンプリングさせ、それをテキストの理解に基づき分析、考察させるという学習内容は、知識面のみではなく、作品を構想する力を養うのにも有効であると自負しています。当該科目では2016年度から動画教材を作成し副教材として使用しています。レポートについては、2021年度から内容を充実させ、さらにオンラインでの提出ができるように設定し、学生の利便性を向上させることができました。評価についても評価項目を細かく設定し、これにより学生が自身の達成度を知ると同時に振り返り学習が有効に行われるようになったと考えます。	随時情報発信可能なオンラインの利点を生かし、学生のレポート添削を通じて必要と思われる情報を随時発信していく必要があると考えていますが、現状の通教オンライン（UNIPA）にそうした機能がなく、別の方策を考えざるをえない状況というのが昨年度の改善目標であったが、システムの問題であるため簡単には改善できず本年度に至っています。	授業評価 回収率 科目GPA

令和6年度後期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A242001 力学入門	基本的な静定構造物（片持ち梁、単純梁、静定ラーメン構造物、静定トラス構造物など）の反力と応力（軸力、せん断力、モーメント）を算定することができる。	教科書やプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。演習問題の実施と解説を毎回の授業で実施しており、必要なレベルに達していない場合は再提出を求めた。結果として十分な学習到達度を達成させることができた学生もみられた。	授業課題や定期試験を見直した結果、学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が緩和された。	授業評価 4.578 回答率 74.0% 科目GPA 2.00
A242002 住宅プランニング	住宅建築（主に戸建て住宅）の計画に関した専門用語を理解することができる。住宅建築のプランニングがどのようになされているか理解することができる。住宅建築のオーソドックスなプランを読み書きすることができる。「建築は住宅に始まり住宅に終わる」という言葉が示すように、住宅は建築を学ぶに際して最も身近な建築類型であり、かつ最も難しい対象といえます。本講義では住宅をプランニングする流れや、それに際して必要となる知識、留意すべき諸課題を学習することで、社会に認められ多くの人に受け入れられる建築設計を考えることを目的としています。	教科書を中心に説明し、毎回 プラン作成をしていただいた。しかし、そのフィードバックが人数が多いこと、課題への書き込みのみに終わってしまったことで、各学生が理解ができていたのかを把握することができなかつた。フィードバックについて全体に対して伝える時間を持てばよかつたと反省している。ただ、実務経験時のお客様とのやり取りが多々話ができ、それが楽しいと話してくれた学生がいたことは嬉しく感じた。	個別の指導時間や全体への課題のフィードバックをしていきたいと思う。	授業評価 4.275 回答率 74.6% 科目GPA 1.50
A242003 基礎製図Ⅱ	達成目標□ 建築図面の記号や表記方法を理解できる。 基本的な建築図面の読み書きができる。基本的な住宅建築の設計・製図を行うことができる。	2チームに分かれて前半と後半で2つの課題に取り組む。基本的な図面の読み書きと設計の基礎を教員3名体制で細やかな指導を心掛けた。	3名で2つの課題を担当することになるが、2教室に分かれて行うため、教員間での情報共有が重要である。主に非常勤講師のクラスを担当しながら両クラスの指導を担当したが、両クラスの状況を把握することが難しい場面もあり、より密な情報共有が課題である。	授業評価 4.438 回答率 72.7% 科目GPA1.69
A242004 インテリアエレメント	インテリアを設計するために必要となる基本的な事項について学習するとともに、人の生活におけるインテリア空間の重要性や計画の方法について学びます。インテリアを設計するために必要となるエレメントについて基本的知識を得ることができ、且つそれらの特徴や効果も把握した上で、インテリア空間を評価することができるようになることを目標とします。	インテリアを設計するために必要なインテリアエレメントを項目毎に比較しながら紹介・説明した。それらの知識を使って、インテリアメーカーやマテリアル、インテリアエレメントが使用された特徴的な空間のリサーチなどを通して、知識の実践と行った。	座学としての知識だけでなく、学生がインテリアエレメントを実際に体験できるように、より実践的に授業を進める。	授業評価 4.509 回答率 85.1% 科目GPA 2.21
A242005 建築ものづくり広場	目標 建築や生活をものづくりの視点から見つめなおし、空間づくりに求められるアイテムを構想して製作を行います。自由な着想からこれを展開させる力を身に付け、機材を用いて制作を行うプロセスについて体験的に理解します。 教育効果 自らのものづくりを行うためにどのような、技術、道具があるのかについて理解できる。 自由な発想で、ものづくりを行うことができる。ものづくりを行う上での安全配慮について理解できる。	2グループに分かれ、木工「組立式スツールの制作」と、左官「アートパネルの制作」の2課題を行った。木工の課題では、強度、機能、座りやすさ、美しさがそれぞれ成立するつくりや形態について考えることができた。また左官の課題では、自由な発想を様々な素材と道具で表現することができた。	大学祭で「ひかるどろ団子」のワークショップを行った。急遽、実施したこともあり、事前準備と参加者の確保に苦労した。今後、授業の中でワークショップを行うのであれば、スケジュールを検討する必要がある。	授業評価 4.516 回答率 73.8% 科目GPA 2.36
A242005 建築ものづくり広場	達成目標□ 自らのものづくりを行うためにどのような、技術、道具があるのかについて理解できる。 自由な発想で、ものづくりを行うことができる。 ものづくりを行う上での安全配慮について理解できる。	2チームに分かれて木工と左官の2つの課題に取り組む。私が担当するのは木工課題であり、合板を使用したスツールの制作する。多くの学生が初めての木工制作となり、平面スケッチから立体制作を行なう工程を経験する。機械や工具の使用に抵抗を感じる学生も少なくないなかで、安全かつ正しい道具の使用方法を修得し、ものづくりの基礎として学べるように指導を行なった。	学生にとって、デザインした形から制作内容と制作時間を把握することは困難である。意欲的な学生ほど複雑な構造を考えるが故に、授業時間内での制作時間が不足する例が見受けられた。この課題では設計・デザインの質よりも、スケッチで描いた形を立体に仕上げるまでの一連の工程を経験することが重要と考えるため、学生個々の作業量の管理は教員側でコントロールする必要がある。	授業評価 4.516 回答率73.8% 科目GPA 2.36
A242006 建築構造のしくみ	建築物の構造システム・材料種別を理解できる。 各種構造物の構造計画の手順を理解し、構造設計ができる。	スライドやプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習と併せて問題の解説を行った。学生との質疑応答を授業内で実施することに学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。	学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題や定期試験を含めてこの点を見直す必要がある。	授業評価 4.361 回答率 51.4% 科目GPA 2.70
A242007 建築施工	1. 建築物の構築に関わる人について知る 2. 各種の工法の特徴を理解する 3. 建築物を構築するための計画を練る □ 建築物の構築方法について理解をします。各種工法の特徴を知り、適切な工法を選ぶための合理的な判断が出来るように考えます。	授業内で現場の方にお話をいただく機会がとれず、教科書中心の授業となり、変化や面白さに欠けていたと反省している。 また、施工管理の資格の為の問題への取組みを授業内で解説などしていたが、資格を受験したい学生が少なく、問題への挑戦に対して前向きに学生が取り組めなかつたことも問題だった。	教科書だけでは理解しづらいうえに、体感することが難しい内容だが、現場の方々の話を多く取り入れ 今後は授業内容を編成していきたいと考えている。 施工管理の経験があらわれるシニアブレインの方にもご教示いただき、大きく授業方法を変化させる事を考えている。	授業評価 3.728 回答率 52.9% 科目GPA 2.68

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A242008 建築設計演習Ⅱ	<p>目標 「周辺環境」・「住まい」・「コミュニティー」の関係について考察し、建築設計に反映できることを目的とします。 また、構想した空間を相手に伝えるための図面表現力も養います。 教育効果 店舗空間をもつ集合住宅の設計を計画することができる。 周辺環境や地域と建築との関わりについて考えることができる。設計した計画を図面で表現することができる。</p>	<p>旧藤川宿東海道沿いの敷地に店舗付き学生専用共同住宅を設計する課題である。教員4名により4グループに分かれ、学生一人ひとりの能力や、進捗状況に応じて指導を行った。周辺環境や地域、人と人との関係性について考えることができた。</p>	<p>エスキースにおいて、一方向の指導ではなく、学生同士がディスカッションし、楽しみながら作品のクオリティを高めていく環境づくりをしていきたい。</p>	<p>授業評価 4.365 回答率 50.0% 科目GPA 2.13</p>
A242008 建築設計演習Ⅱ	<p>店舗空間をもつ集合住宅の設計を計画することができる。 周辺環境や地域と建築との関わりについて考えることができる。 設計した計画を図面で表現することができる。</p>	<p>案を決めるにあたって、通常は最も自身が気に入った1案を煮詰めていくのが一般的な方法だが、実際の実務設計では自分の気に入った案が施主に受け入れられることばかりではなく、自身の考えを変えなければならない場面もたくさんある。そのため、本授業では[簡単な配置平面スケッチ+断面スケッチ]を3案考えさせ、その中のどれをなぜ選択して進めるのか、を各学生と打合せしながら設計を進めていった。 <u>1つの課題に対して、なるべく多様なアイデアが思いついた方が素晴らしいので、学生にとって良い訓練になったのではないかと考えている。</u></p>	<p>手書きで図面を仕上げる規定だったので、CAD・Photoshop・イラレ・3DなどのPC作業はできなかったのだが、コンセプトを表す図版の表現方法の指導にもっと時間を使えるようにしていきたい。 また、模型表現をもっと細かく指導できるように、共通事項を決められないかが今後の課題だと思っている。</p>	<p>授業評価 4.365 回答率 50.0% 科目GPA 2.13</p>
A242009 建築CADⅡ	<p>建築CAD・CGソフトの種類や用途、専門用語を理解することができる。 建築CAD・CGソフトによる2次元および3次元作図ができる。 建築CAD・CGソフトによって作図したデータを他のレイアウトソフトに活用できる。</p>	<p>BIMソフトである「ARCHICAD」を操作して設計する授業。平面図と3Dが連動しており、平面図上で作図すると3Dに反映され、3D上で窓やドアを付けると平面図に反映される。立面図は東西南北の4面が自動生成されており、断面図も平面上で断面戦を入れればその断面図を取り出してくれる。 感覚的に設計できるが、非常に高度な設計ソフトなため、操作がとて多様で手順も複雑な面もあり、毎日触っていないと確実に忘れてしまうため、授業用図面には手書きで操作手順をびっしりと書き込み、1年後に思い出せるようにしている。 学生は、このソフトが使えるようになれば図面表現も外観パース・内観パースもかなりの自由な操作とクオリティが担保できると考えられる。レンダリングもでき、世界中の都市の好きな時間の日照を再現してくれる。 なんとか全員が2課題「2階建て切妻屋根住宅」「4層箱型ビル」をそれぞれ平面図、立面図、断面図、外観パース、内観パース、を全てA3用紙数枚にレイアウトし、連ページPDFデータにできた。</p>	<p>来年は室内照明の設置をもっと違う室内照明器具で盛り込みたい。それができれば、夜に室内が光っている外観のレンダリング画像が作れ、ソフトの能力をこれまで以上に学生が体感できるはずだからである。 CADの授業は、どうしても数週間かかって1つの建築を表現するという連続的な講義になるが、だからこそ1回の欠席についていけなくなってしまう難しさがある。受講者数が多いため、個人指導に割く時間も通常は無いのだが、どうにかして大勢に作業を進めさせつつ、後れを取っている学生に個人指導する時間を取る、ということをしなければならない。ソフトの操作が複雑なため、短時間で後れを取り戻すのは難しく、何か良い方法は無いものかと悩ましいところ。</p>	<p>授業評価 4.420 回答率 57.1% 科目GPA 3.20</p>
A242011 インテリアデザインⅡ	<p>住宅における必要な機能やインテリア設計方法を理解することができる。 住空間を構成するエレメントの調整することができる。 住空間についてのインテリアデザインについて理解ができる。 □ 住空間デザインの領域から基本的構成要素・基本的条件まで、社会・生活の多様性と要求に対応するため、具体的な計画・設計に役立てる知識の習得を本講義の目的とします。</p>	<p>インテリアの設計について、住宅メーカーでの新人教育内容をもとに進めた。しかし、もともとインテリアに興味がある学生ばかりではなく、学生が意欲的姿勢になれるアプローチが不足していたと感じた。また、プレゼンテーションに対して弱い学生が多いと感じ、強化したつもりだったが、人前で話すことに抵抗を感じたようだった。 目的についての説明不足だったことと、学生がやりたいことと必要なことのズレを感じた。</p>	<p>課題を絞り、わかりやすい課題に取り組めるように改善したいと考えている。 また、プレゼンテーションの能力向上については見本を提示し、まずはプレゼンテーションの意味を理解できる授業からすすめていきたいと考えている。</p>	<p>授業評価 3.471 回答率 60.7% 科目GPA 3.21</p>
A242012 環境デザインⅡ	<p>省エネに配慮した住宅の計画方法について理解できる。 地域の気候に配慮した建築計画の工夫について理解できる。 自然エネルギー利用の基礎について理解できる。 本講義は、日照と日影、音環境、換気など環境デザインに求められる基礎的事項の習得、環境問題の理解、サステナブルデザインに関する価値観の醸成を目的とします。</p>	<p>日影、音環境、換気など環境工学の基礎的な内容について取り組んだ。計算問題などをふくむ論理的な内容もあることから、積極的に取り組んでくれる学生がいる一方で、難しく感じている学生も一定数存在するものと思われる。 各自地域を設定し、それぞれがエコ住宅を提案する課題では、様々な観点から積極的な提案があった。特に優れたものもあった。</p>	<p>計算問題、図を読み取って算定する課題などについては、積極的に取り組んでくれる学生がいる一方で、難しく感じている学生も一定数存在した。よりわかりやすい説明やフォローなどを心掛けたい。</p>	<p>授業評価 4.138 回収率61.5% 科目GPA 2.38</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A242013 福祉住環境学	高齢者、障害者の住環境整備を福祉、医療、建築の3つの側面から修得するとともに、個別の住環境整備の事例に対して実践的な提案ができるようになります。現在、高齢者・障害者のみならず、すべての生活者が安心して暮らせる生活環境の整備が重要になっており、それらに係わる医療・福祉・建築についての体系的で幅広い知識と福祉用具や諸施策情報など、看護や保健など各種の専門職の内容についての知識も必要です。高齢者や障害者の住環境の整備に必要な医療・福祉・建築の知識について習得することが期待されます。	履修生27名であった。履修者に対して、対面授業15回と定期試験（レポート試験）を実施した。課題はすべてUNIPA提出とした。UNIPAで資料を配布し、授業時にはプレゼンテーション資料も提示し重要事項を説明するとともに、授業後に確認できるようプリントを配布した。授業終了前に○×問題も学生にとらせるなどの工夫した。さらに、予習課題として授業で行う内容について各自で調べることで、授業に臨む準備ができ、ある程度の知識を持ち授業を受講することができたと考える。資格取得を希望する学生には別途対応した。	回収率は5割ほどである。授業評価は2023年度より0.3ポイント低く、2022年度と同程度となっている。科目GPAは0.24ポイント低い。「授業内容・課題は、達成目標に即したものでしたか。」の項目が他の項目と比較し、高い評価となっている以外はほぼ同じ評価であった。医療・福祉・建築の幅広い知識と福祉用具や諸施策情報などに多くの事柄について学習するため、授業での質疑応答を十分に行ったが、学生の理解が不十分であったためと考えられる。学生意見により継続的に改善・対応するとともに、様々な知識をむすびつけるよう工夫したい。	授業評価 4.317 回答率 44.4% 科目GPA 1.59
A242014 建築法規	目標 「建築法規の基礎」を習得の基本とし、建築士の資格取得のほか関連資格(宅地建物取引士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター等)にも対応できる知識の習得を目標とします。 教育効果 建築空間を創り出す上で、不可欠な知識である「建築法規=建築の法律」について学習し、特に建築士の資格取得のための基礎力を養うことができる。	授業担当教員の体調不良により、急遽、オムニバス形式で、教科書3～8章を担当した。一般構造・建築設備、防火・避難、構造強度、都市計画関係などの規定について、図や表を用いてパワーポイントでわかりやすく解説を行った。	筆記による定期試験では再試験者が31名と非常に多くなってしまった。限られた回数で広範囲にわたる解説を行い、知識の定着に至らなかったため、今後はポイントを絞り、演習問題など繰り返し行うなどの対策が必要である。	授業評価 4.110 回答率 29.0% 科目GPA 1.38
A242015 建築実験	1) 実験により実構造物の挙動を体感し、崩壊性状を考えることにより、洞察力を涵養する。 2) レポートを作成することで論理的思考ができる。	本講義は1) 理論的講義、2) 実験、3) レポート作成で構成されます。1) および3) は対面式の講義で、2) は実験室で試験体または載荷・測定装置の準備、載荷実験を行います。従来の画一的な実験ではなく、学生自身がディスカッションを行いながら、実験方法から検討するPBL形式の授業としています。履修者人数の関係上2クラスで実施した。	学生の成績状況と授業評価から判断して、当該授業の学修到達度レベルに十分な授業ができたと言える。今後はさらに授業に工夫を加えて、より深いレベルまで理解できるようにする。	授業評価 4.96 回答率 18.5% 科目GPA 2.48
A242016 建築設計演習Ⅳ	目標 複合施設の構想力と企画力をつけるとともに、外部環境から内部空間における総合的な計画とデザイン力を養います。多用途の構成される施設のコンセプトから建築への提案として、細部のデザインを表現できる力を養います。 教育効果 コンセプトワークから環境を読みとり建築に導く力と、総合的なデザインによるプレゼンテーション力を習得する。	岡崎の魅力を発信し、地域住民や子どもたちに伝え、後世に継承していくための複合施設を提案する課題である。地域の調査から岡崎の魅力を発見し、その魅力をどのように伝えていくのかを考え、建築の提案として表現することができた。	今回、初めてVRゴーグルを使用しバーチャル空間を体験した。しかし自らが設計した空間の中で歩き回るということまでできていない。今後、実用に向けて、システムやスケジュールも含めて検討する必要がある。	授業評価 4.345 回答率 42.3% 科目GPA 2.46
A242017 木造設計演習Ⅱ	達成目標□ 木造建築設計の架構方法について理解できる。 継ぎ手・仕口のつくり方について理解できる。 木を活かした空間デザインについて発想することができる。	前半はBIMによる設計課題に取り組み、後半は軸組模型を制作する。 学生個々の能力に応じて課題の難易度を選択し、木造建築の理解を設計と素材の両方の視点から把握できるように指導を行なった。	軸組模型制作においては、制作作業が主となりがちである。架構についての指導を充実させる必要を感じる。 作業時間短縮のため、木材部材のカット方法について機械加工方法を提示することで作業効率をあげるよう検討する。	授業評価 5.0 回答率 20.0% 科目GPA 1.80
A242017 木造設計演習Ⅱ	木造住宅の設計技法の習得を目指します。 構法的な基礎知識を得るとともに、図面表現方法を習得し、模型制作を通して立体的な理解を深めます。 伝統木造住宅の意匠や地域素材の活用方法、左官など伝統的な技術についてもレクチャーや調べ学習を行います。□ 木造構法の基礎をふまえ、木造住宅の簡単な設計を行うことができる。	BIMを用いた木造軸組みモデルのモデリングを行った。 前期の木工作業課題につづき、建物全体のつくりを解説し、入力作業を行った。 学生の取り組みの意識は高く、積極的に取り組んでいる様子が見えた。 BIMが苦手な学生にとっては、60分授業で説明が行き届かない部分もあり、取り組みにくい部分もあった。	BIMでの軸組みの入力は、模型を制作しなくとも構造の全体を把握でき、教育的な効果は大きいと感じた。 一方、コンピューターでの入力方法の理解がしっくりこない学生には、作業がすまない傾向がみられた。 遅れがちな学生へのフォローをSAなどを活用して行ってゆきたい。	授業評価5.0 回収率20.0% 科目GPA1.80
A242018 現代建築論	達成目標 1. 建築における、デザイン、形態、装飾などに対する知識を広げること 2. 設計製図でのアイデアを考える手がかかりやプロセスを見つけ出すこと 教育効果 日本建築の近代から現代に至るまで、建築家がいかなる建築をデザインしてきたのか、また、その建築が他の建築にいかなる影響をもたらせてきたのかを理解し、自分の設計デザインに生かしてもらいます。	建築家の建築作品について、建築家のデザインの特長、建築作品の空間構成や細部のディテールを分かりやすくするために、映像や写真での解説を主体にしており、学生からの意見はおおむね好評なので、このままの授業スタイルを継続していきながら、建築家の作品紹介でアレンジを加えていきたい。	授業評価は高く、学生の毎週の受講ノートもよく書かれていた。 授業内容として、建築界で活躍している建築家の意図や作品、デザインの特徴について、写真や図を多く使うように心がけ、見た目でもわかりやすいように工夫しました。 今後はさらに、学生からの質問や興味のある内容について、コメントが出せるように工夫していきたい。	授業評価 4.89 回答率 31.3% 科目GPA 3.14

令和6年度後期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A242019 建築CG	建築設計の現場では、様々なCAD・CGソフトが使用され、デザインの発想・検討、イメージの伝達に役立っています。今後もこうした傾向は強まり、より高度な建築CG表現が求められるものと考えられます。本授業では、これまでに学習した建築CADおよびCGの基本的な操作技術を踏まえた上で、社会において求められる高度な建築グラフィック表現を修得することを目的とします。	数年前までは2コマ連続していた授業であったが近年1コマの授業に変更された。1コマ授業が連続して2回あり、それぞれの受講者は異なる別の授業として運用した。昨年度よりは学生を2つに分けて週ごとに交互に登校する規定が無くなったので授業の進みは良くなった。学生1人1人の質疑対応や個別指導を充実させる時間が取れた。	より満足度を確保する策が必要だと考えられる。個別対応の時間を取るだけでなく、ビジュアルやムービーなどを増やし飽きない講義にしていきたい。この授業ではPhotoshopをメインソフトとして運用しているが、今後はソフトの契約更新はしなくなっていくとのことだが、教員席にはadobeソフトはインストールされていないと授業が成り立たなくなってしまう懸念がある。	授業評価 4.475 回答率 50.0% 科目GPA 2.94
A242020 建築CG	建築設計の現場では、様々なCAD・CGソフトが使用され、デザインの発想・検討、イメージの伝達に役立っています。今後もこうした傾向は強まり、より高度な建築CG表現が求められるものと考えられます。本授業では、これまでに学習した建築CADおよびCGの基本的な操作技術を踏まえた上で、社会において求められる高度な建築グラフィック表現を修得することを目的とします。	数年前までは2コマ連続していた授業であったが近年1コマの授業に変更された。1コマ授業が連続して2回あり、それぞれの受講者は異なる別の授業として運用した。昨年度よりは学生を2つに分けて週ごとに交互に登校する規定が無くなったので授業の進みは良くなった。学生1人1人の質疑対応や個別指導を充実させる時間が取れた。	より満足度を確保する策が必要だと考えられる。個別対応の時間を取るだけでなく、ビジュアルやムービーなどを増やし飽きない講義にしていきたい。この授業ではPhotoshopをメインソフトとして運用しているが、今後はソフトの契約更新はしなくなっていくとのことだが、教員席にはadobeソフトはインストールされていないと授業が成り立たなくなってしまう懸念がある。	授業評価 4.760 回答率 52.6% 科目GPA 2.32
A242021 建築と経済	建築と社会環境との関係の特徴づける経済行為を理解することを目的とします。建築を経済の観点から観察することで、建築がどのように経済活動の中に位置づけられるのか、そして、どうしたら効率的な建築生産を実現することができるのかについて理解を深めます。	建築プロジェクト企画、発注と契約、設計と監理、コスト管理、施工の計画と管理などの内容について、実践的な内容も含めて講述した。リノベーションなど、ストック時代の建築生産について、興味をもってくれたようである。	熱心に聴講する学生も多く見られた。自ら考える課題なども取り込めるとよいと感じる。	授業評価 4.822 回答率24.3% 科目GPA 1.59
A242022 居住文化論	達成目標 居住文化に関する専門用語を理解することができる。 居住文化を異なる時代や地域、社会のなかで多面的に理解することができる。 これからの居住文化の可能性と問題点について意見を述べるすることができる。 教育効果 わたしたちにとってとても身近な「住まう」ことは、さまざまな文化や社会背景のもとに成り立っている。この講義では、居住文化の多様な世界を知ること、「住まう」ことに対する意識をたかめるとともに、これからの「住まう」ことを構想するための問題意識と提案力を育むことをことをねらいとする。	教科書が指定されていたため、シラバスの担当回の主題となるべく合わせて、授業資料を作成し、授業内容を構築した。自己評価として、担当回での内容については、大きな問題はなく、授業を運営できたと思ってる。	オムニバスであり、担当回は、途中の6回目から11回目の計6回であったため、細かい評価内容評価は不明であり、授業改善について明快に回答できない状況である。	授業評価 4.169 回答率 28.3% 科目GPA 1.98
A242023 インテリア設計演習Ⅱ	建築の複雑化・多様化・専門化にともない、これからの建築設計はインテリア設計の専門家を必要としています。そのような時代背景の中で、これからのインテリア設計ができる力をつけていきます。具体的には、実務としてのインテリア設計の内容を理解すること、自分の考えを「かたち」にして表現できる力を養うことを目的とします。	大学内施設のリノベーションの提案という課題に対して、現状のリサーチ、ワークショップ、インテリアマテリアル、照明計画など実用的な手続きを通して、学生自身が使用する空間の提案を行った。	設計提案の前にリサーチ・ワークショップの機会を設けたことで設計提案の妥当性は高かったが、その分プレゼンテーションにかけられる時間が不足した印象があるため、時間配分を再検討し進める。	授業評価 4.000 回答率 87.5% 科目GPA 1.68
A242024 卒業研究Ⅱ	達成目標 ・生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。 ・研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。 ・設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。	個々の論文テーマにおける作業状況能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、考えながら、個々の学生に合うように工夫しながら進めた。テーマは、前期を深める内容をベースとし、さらに考察内容を深めるようにし、可能な限り、現地での調査にも同行した。	設定したテーマに即した内容の課題をこなすように工夫をした。また卒業研究の課題内容について、細かく指導した。	授業評価 4.50 回答率 33.3% 科目GPA 3.5
A242025 卒業研究Ⅱ	建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して進める授業です。卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることが目的とします。 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	指導に従って手際よく研究をすすめられる学生の方で、テーマや方向性などをまとめることが困難であったり、作業進行が遅い学生も存在した。授業時間外も含め適宜指導を行いながら最終的などりまとめが行えるようサポートしたい。	授業評価4.6 回収率25.0% 科目GPA 2.78

令和6年度後期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A242026 卒業研究Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。 収集した情報や知見を整理、分析し、とりまとめる力、制作する力を身につける。 	<p>8名の受講者であった。それぞれ生まれ育った街の歴史や河川災害の歴史を追うことで地名と神社の関係を浮き彫りにしたり、改めて自分の住む街の財産を発見したりと今までに気がつかなかったことに気づけたことが彼らの財産になったと考える。また、特異な模型づくりを生かしたプレゼンも自信になったと思う。</p>	<p>乙川の歴史はとても興味深かった。乙川、男川、女川など名前を変える一つの川、そこにあった物語、歴史はとても興味深かった。一畑薬師寺の物語も不思議な魅力があった。また、大山での現地調査も公式パンフにはない実態がありこれも足で稼ぐ調査法の奥深さを感じました。このような地道な調査で、まだまだ新しい発見があることを再確認する研究の数々であった。</p>	<p>授業評価 5.0 回答率 12.5% 科目GPA 2.0</p>
A242027 卒業研究Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。 研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。 設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。 	<p>研究生全員での発表会を中心に進めたが、速度や能力に差が出たため、指導が難しく感じた。途中から個別指導に切り替えて対応するべきだったと感じた。ただ、お互いのことがわかり、友人同士で助け合いをしている学生もいたことは微笑ましく学生同士の関係性はとても良かった。</p>	<p>状況などを考え、個人の対応をとる学生とグループで助け合い進める方がいい学生を別けて対応していきたいと考えている。</p>	<p>授業評価 4.500 回答率 25.0% 科目GPA 3.43</p>
A242028 卒業研究Ⅱ	<p>目標 卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることが目的とします。</p> <p>教育効果 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>卒業設計・制作に取り組み、それぞれのテーマに至った背景とコンセプトを整理し、設計・制作を行い、その内容を説明することができた。ゼミでは、自身のテーマだけでなく、他学生のテーマについても発言する機会を設け、自分の意見が言えるように促した。</p>	<p>設計提案は良かったが、エスキースや作図に時間をかけすぎ、模型の作成やプレゼンボードの完成度が不十分であった学生がいた。スケジュール管理をしっかりとしていきたい。</p>	<p>授業評価 4.000 回答率 12.5% 科目GPA</p>
A242029 卒業研究Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。 研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。 設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。 	<p>授業の性格上、個別指導となる。全体的には、研究成果をレポート化するともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。</p>	<p>研究の進行および達成度にはばらつきが見られた。遠隔授業での研究指導方法を再考する必要がある。</p>	<p>授業評価 - 回答率 0% 科目GPA3.5</p>
A242030 卒業研究Ⅱ	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになることや、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることです。</p> <p>建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して進める授業です。卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などから得られる知見を総合的にまとめあげることが目的とします。</p>	<p>履修者数8名、各自が卒業研究のテーマを選択するため、適正な人数であったことに加え、履修生は積極的に取り組んでくれた。履修生により研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するように心がけた。</p>	<p>今年度は科目GPAは5.0、回収率は87.5%と高いため、受講生の授業に対する評価は良好で目標達成ができたといえると考えられる。研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。</p>	<p>授業評価 5.00 回答率 87.5% 科目GPA 5.00</p>
A242031 卒業研究Ⅱ	<p>卒業研究Ⅰに行ったりサーチをもとに、自身の設定したテーマの課題やポテンシャルを正しく理解し実直に設計提案をすることで、課題の発見から設計提案へと繋げる実用的な設計能力やプレゼンテーション能力の獲得を目的とする。</p>	<p>学生それぞれが自身のテーマに向き合い、設計提案することができた。プレゼンテーションについてもパネル・スライドの完成度は一定の水準にあった。</p>	<p>図面や模型の完成度が低い学生がいたため、スケジュール管理をより細かく行うようにする。</p>	<p>授業評価4.600 回答率 50.0% 科目GPA 2.63</p>
A242032 卒業研究Ⅱ	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。後期では全員が卒業設計を選択した。課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となったと考えている。しかしながら、図面と模型は提出はできたが質が伴っていない学生が多く、スケジュール配分に問題があったものと考えられるため、来年はスケジュール管理を強化していきたい。</p>	<p>達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業での会話は必要であると考えられる。教員も学生側も、毎週対面で会話ができて、安心したと考えられる。来年以降も通常授業に戻っていくことを期待したい。4年生ということもあり、登校の日はこの授業しかない学生が多いため、欠席過多にならないように5回ぎりぎりまで休む学生もいて、他の学年の教科と違い欠席率が高かった。欠席が多いとその分進みが遅い傾向にあり、卒業研究の質の向上に繋がらないので、どうやって登校させたらいのかが今後の課題である。</p>	<p>授業評価 4.800 回答率 37.5% 科目GPA 3.63</p>

令和6年度後期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A242033 卒業研究Ⅱ□	<ul style="list-style-type: none"> 生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。 研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。 設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。 	<p>自身の病気治療と重なったこともあり、受講生の皆さんには多大な迷惑と不便をかけた。本年度も学生個々の関心や進路希望先に沿って課題設定をともにし、情報収集・整理から言語化、図表現などを実践する授業内容としてなんとか展開した。ただ、毎週、進捗報告からの打ち合わせ・指示のサイクルが極めて遅く、なかなか成果が積み上がっていかないのが現状である。さらなる具体的な指示、課題の細切れ化を行うことが肝要だと痛感した。</p>	<p>上記反省を活かしつつ、具体的な指示、課題の細切れ化、スケジュール管理の習得などを個々の学生に応じて対応していきたい。</p>	<p>授業評価 5.000 回答率25.0% 科目GPA2.00</p>
A242034 卒業研究Ⅱ	<p>達成目標□</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。 研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。 設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。 	<p>前期「卒業研究Ⅰ」の調査を踏まえて設計から制作までを行なう。素材の特徴を調べ、それらを活かす形と加工方法を選択しながら取り組めるよう指導した。さらに、完成した作品を当初の目的に応じた使用方法で効果を確認することを重要とし、達成感や反省点を得られるよう指導を心掛けた。</p>	<p>作品の制作段階に入ると、1駒の授業時間では作業効率も悪く改善が必要である。通常の実習授業と違い制作物がそれぞれ異なるため、学生個々の工程管理を意識した指導が制作前段階から必要である。完成後の検証を行なう時間を十分に確保できるように指導を行ないたい。</p>	<p>授業評価4.8 回答率 50% 科目GPA3.33</p>
L242001 プレゼンテーション ツール A1	<ul style="list-style-type: none"> ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 	<p>文章作成・表計算・プレゼンテーションのソフトで例題を講義し、演習問題を毎回提出してもらう形式で行った。</p> <p>学生の能力差が大きいので、標準の課題とは別に、追加の応用課題を出して、能力の高い学生に対応した。</p> <p>一方、日本語の読解にハンディキャップがある留学生や高校で情報を習っていない学生に対しては、標準の課題でも困難なケースがあり、テキストの内容を丁寧に説明したり、個別に対応した。</p> <p>プレゼンテーションツールの使用については、課題だけではなく、自己紹介と題し、実際に学生に発表を行わせた。他の人にわかりやすく伝えるスキルを身に付けさせることを行った。</p>	<p>授業を欠席し、課題を提出しない学生が目立った。提出するようだったが、次の課題もあるので、なかなか取り組む姿勢にはならなかった。自力で取り組むことができない学生をフォローしてきた。</p>	<p>授業評価 4.613 回答率 73.8% 科目GPA 1.78</p>
L242002 プレゼンテーション ツール D、A2	<ul style="list-style-type: none"> ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 	<p>文章作成・表計算・プレゼンテーションのソフトで例題を講義し、演習問題を毎回提出してもらう形式で行った。</p> <p>学生の能力差が大きいので、標準の課題とは別に、追加の応用課題を出して、能力の高い学生に対応した。</p> <p>一方、日本語の読解にハンディキャップがある留学生や高校で情報を習っていない学生に対しては、標準の課題でも困難なケースがあり、テキストの内容を丁寧に説明したり、個別に対応した。</p> <p>プレゼンテーションツールの使用については、課題だけではなく、自己紹介と題し、実際に学生に発表を行わせた。他の人にわかりやすく伝えるスキルを身に付けさせることを行った。</p>	<p>授業を欠席し、課題を提出しない学生が目立った。提出するようだったが、次の課題もあるので、なかなか取り組む姿勢にはならなかった。また、留学生が多いので、分かりやすい日本語での表現を心掛けた。自力で取り組むことができない学生を引き続きフォローしてきた。</p>	<p>授業評価 4.585 回答率 64.3% 科目GPA 2.12</p>
L242006 プレゼンテーション ツール	<p>ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。課題発見、問題解決にICTを活用することができる。社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。以上3点を到達目標としている。コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを教育効果としている。</p>	<p>学生は総合経営学科の中国人留学生、建築学科の日本人学生、スマートデザイン学科の日本人学生。多様な文化背景の持ち主たちを相手にしての授業展開には苦労を感じたが、指定教科書のとおり授業を進めたことも功を奏して、比較的スムーズな授業運営ができた。授業内課題を必ず時間内に完成するように指示したのもよかったと思う。</p>	<p>授業評価で満点を得ることができた。しかも学生たち全員からであった。授業運営にさらに磨きをかけるために改善点を探し、更なる努力を続けていきたいと思う。</p>	<p>授業評価 5.000 回答率 75.0% 科目GPA 3.25</p>
L242009 統計学 A	<ul style="list-style-type: none"> 標本調査等の統計的な手法について理解できる。 現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。 	<p>学習過程評価は3回の宿題(満点の合計が50点)、学習成果評価は50点満点の筆記試験である。</p> <p>正規分布の説明に正規分布発見の経緯、母集団・標本の説明に20世紀の初め頃までは母集団と標本の区別が明確でなかった等の歴史的な説明を加え、少しでも正規分布、母集団・標本等の初出の用語に親しめるようにした。</p> <p>履修登録した70名中、15名が不合格(D,E評価)であった。</p>	<p>統計学は、建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3つのクラスを開講している。</p> <p>建築学科用クラス的不合格率(DおよびE評価)の学生数を受講者数で割った値は2022年度14%、2023年度15%、今年度22%と悪化した。推測統計についての授業を減らすなど、授業内容の見直しを検討したい。</p>	<p>授業評価 4.322 回答率65.7% 科目GPA1.87</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L242014 英語コミュニケーションB	①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。	履修者は16人で、基本的に英語を使っでの対面授業を行った。毎週、ユニットの教材や資料をPPの画面に映し出したり、CDプレーヤーを活用したりして、授業を進めた。また、授業終了前に、ユニットの演習課題（授業内課題）を配布し、次週、その課題を提出するよう求めた。その後、学生が提出した課題（授業内課題）を点検し、個々の学生に評価フィードバックを記入し、授業開始前、全学生の机の上に返却した。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、ある程度高度で生きた英語の授業を展開することができた。	16人の履修者のうち10人が授業アンケートに回答してくれた。また、合格率（合格者÷履修者）は56.3%で、目標75%以上としている中で、かなり低い数値であった。欠席過多者が多かったことが原因であると考えられる。英語を80%以上使って対面授業をなんとか進めることができたが、英語の発音練習やペア練習などをする時間があまり取ることができなかった。今後は、学習意欲の高い留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語コミュニケーション力を伸ばすことを目指したい。	授業評価 4.720 回答率 55.6% 科目GPA 1.18
L242015 英語コミュニケーションB	①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。	履修者は53人で、基本的に英語を使っでの対面授業を行った。毎週、ユニットの教材や資料をPPの画面に映し出したり、CDプレーヤーを活用したりして、授業を進めた。また、授業終了前に、ユニットの演習課題（授業内課題）を配布し、次週、その課題を提出するよう求めた。その後、学生が提出した課題（授業内課題）を点検し、個々の学生に評価フィードバックを記入し、授業開始前、全学生の机の上に返却した。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、ある程度高度で生きた英語の授業を展開することができた。	53人の履修者のうち33人が授業アンケートに回答してくれた。GPAがほぼ2.00と好成绩を修めた学生が多かったようだ。また、合格率（合格者÷履修者）は67.9%で、目標75%以上には届かず、少し低い数値であった。欠席過多者が多かったことが原因であると考えられる。英語を80%以上使用して、対面授業をなんとか進めることができたが、英語の発音練習やペア練習などをする時間をあまり取ることができなかった。今後は、学習意欲の高い留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語コミュニケーション力を伸ばすことを目指したい。	授業評価 4.600 4.535 回答率 62.3% 63.0% 科目GPA 1.94
L242016 文章表現応用A	文章の主旨を的確に読み取り、自分の言葉で要約するとともに、自らの考えを文章表現する力を身につける。	授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組む。教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。これまであまり経験していない文章の要約や文章の添削を通して、文章表現に対する抵抗感の緩和と言葉に対する感受性の醸成に一定程度の影響を与えることが出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価 4.546 回答率 63.4% 科目GPA 1.10
L242020 日本語上級	日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	学生は全員留学生。国籍は中国・ベトナム・ネパール・モンゴル・インドネシアと多国籍だった。日本語中級の授業に好感を持ってくれた学生たちが大半を占めていて、授業態度がとてよく、授業運営はスムーズだった。折りに触れて、出身国の事情について質問したので盛り上がりもあった。日本語教育には学習者の国に対する関心と愛着が必須であり、その知識を活かした授業となった。	多くの学生たちから高い授業評価を得た。比較のおとなしい学生たちから発話を引き出すという点ではまだ課題を残している。引き続き努力を続けたいと思う。	授業評価 4.886 回答率 63.6% 科目GPA 2.18
L242021 スポーツB A、D	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、達成目標を達成できたと考える。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。決して運動能力の高い学生ばかりではなかったが、楽しみながら学んでもらえたと考えた。	担当種目の履修生25名中、S12名、A9名と良好で、B3名D1名と、十分でない学生最小限に抑えられたと考える。楽しみながら学べた部分と、技術が十分に身につかず、達成目標を十分に達成できなかった学生が存在するのは、ある程度致し方ない。 達成目標を達成できるよう、丁寧な指導を心がけたい	授業評価 4.878 回答率 87.8% 科目GPA 3.00
L242021 スポーツB A、D	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、達成目標を達成できたと考える。	担当種目の履修生25名中、S12名、A9名と良好で、B3名D0名、D1名と、十分でない学生最小限に抑えられたと考える。楽しみながら学べた部分と、技術が十分に身につかず、達成目標を十分に達成できなかった学生が存在するのは、ある程度致し方ない。 達成目標を達成できるよう、丁寧な指導を心がけたい	授業評価 4.678 回答率 87.8% 科目GPA 3.00

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U242001 世界の美術 A, 過年度生	① 日本と世界の代表的な美術の様式について知っている。 ② 日本と海外の美術と社会のかかわりについて説明できる。 ③ 美術作品を鑑賞し、評価することができる。	今年度6年目の開講となる共通科目である。授業内容は、世界の美術に関して、絵画や彫刻作品についての識を得ることに加えて、人間の歴史や世界のなかで宗教や政治と密着して重要な機能を果たしてきた美術が各時代や地域に固有な社会的・文化的状況の中で、どのような意味と価値をもっていたのかを考え、美術を通して人間のあり方を学ぶことにある。授業方法は、パワーポイントで作成した高精細な画像と解説をまとめた資料をUNIPAで配信し、個人がしっかりと主体的に作品を鑑賞し、解説を行い、授業の最後に簡単な課題提出により、集中力を高めるように配慮した。毎回の課題に取り組むことで理解度を深めるようにした。質問等をフィードバックすることで双方向型の学びとなるように配慮した。	履修者72人、回答者53人であった。昨年度と同じ科目・クラスの評価4.033から今年度は4.463と上昇した。アンケート項目のうち、設問1, 4, 5は平均4.5、設問2は4.3、設問3は4.4であった。設問2は、シラバスの達成目標に対する達成度を測る内容であることから、達成度の向上に留意したい。授業資料の充実と毎回の課題によって、一定の評価につながるよう配慮したい。できる限り質疑応答や発表の時間を設け、自ら主体的に学び、考える工夫をさらにしていきたい。	授業評価 4.463 回答率 76.1% 科目GPA 2.42
U242003 アート表現演習	①モチーフを画材を用いて描写することができる。 ②配色や平面や立体の構成によって感情を表現することができる。 ③計画性をもって作品の制作を遂行することができる。	デザイン教育の基本として、指示されたモチーフ(対象物)を各自が、鉛筆や絵具で画用紙に描写する実習を通し、色や形、材料や技法について段階的に学習できるように複数の課題を設定し、各課題の導入ではデモンストレーションや作例紹介を行い、制作途中では各自の能力に応じた助言を通して、観察力と表現力の向上を促した。	履修者115人、回答者65人であった。昨年度の評価4.303から僅かに上昇した。回答率も49.4%であった昨年度から7ポイント近く上昇し、一定の評価を得られたと考える。提出課題に対する効果的なフィードバックにより、教育効果を高められるよう、次年度以降も工夫を重ねたい。	授業評価 4.385 回答率 56.5% 科目GPA 2.31
U242005 三河のまちづくりと観光	観光とは社会的、文化的現象のひとつであり、現代観光の仕組みや役割・影響・特長、観光を支える事業活動である観光事業を含め、観光に関する基礎的な知識を幅広く習得し、その全体像をつかむことを目的とします。観光産業の構成と特徴を理解することができる、観光政策と観光行政を理解し、観光と地域社会との関係性を理解することができる。三河地域のまちづくりと都市再生のアイデアを提案できる。	教員2名による授業で、3学科共通科目であり、それぞれが学習する専門分野の素材としてまちづくりに関心を持たせ、各学科における専門分野を踏まえたうえで、それぞれの学科の特徴を開ける授業である。建築だけではなく、経営も、デザインも勉強できる科目として、ゲストスピーカーの先生方(地域で活躍する方から直接話を開ける)ことに大変関心を示していた。また三河地域の一つの観光地或いは公共施設、商店街、一つの店などの現状について調べ、調べた内容に基づいて提案をし、発表できたことにより、今後社会人となってから必要となるプレゼンテーションについても取り組むことが出来てよかった。	昨年度の評価結果を振り返ると、アンケートの回答率は前年に比べて上がったものの、評価自体はほぼ同水準であった。履修登録者は34名で、4年生の学生も含まれており、学年や学科が異なる中で合同プレゼンテーションを通じて、学生同士の相互理解と協働が促進されました。その成果もあり、授業全体としては概ね良好な評価を得ることができました。今後は、授業アンケートの結果を参考にしながら、3学科の学生がそれぞれ満足できる授業の提供を目指していきたいと考えています。また、各学科の学生が関心を持つテーマを柔軟に取り入れながら、学科を越えた交流や協働が生まれるような授業の工夫も進めてまいります。	授業評価 4.278 回答率 52.9% 科目GPA 1.88
U242006 三河のものづくり	①三河地方のものづくり産業に関する歴史を理解している。 ②三河の地域活性化に対する、ものづくり産業の現況を理解している。 ③岡崎市および岡崎商工会議所との連携を視野に入れた活動に取り組むことができる。	今年度は建築学科の過年度生の履修が多く、また1年生はスマートデザイン学科生がほとんど見当たらなかった。昨年度多かった留学生の過年度生は1人のみ。概して1年生の方が成績が良かった。積み上げ科目なので、過年度生が多い状況は科目の趣旨には合わなかったと言える。	共通科目としては今年度が最後となる。授業評価や科目GPAの数値は昨年度より向上した。次年度以降は科目名も変更の上建築学科専門科目となるため担当からは外れるが、新科目としての充実化を祈念したい。	授業評価 4.404 回答率 64.8% 科目GPA 2.28
U242006 三河のものづくり	①三河地方のものづくり産業に関する歴史を理解している。 ②三河の地域活性化に対する、ものづくり産業の現況を理解している。 ③岡崎市および岡崎商工会議所との連携を視野に入れた活動に取り組むことができる。	今年度で6年目の開講となる共通科目である。三河地方の「ものづくり」に関する講義に加えて、「ものづくり」の一線で活躍している方々としてお招きしたゲストスピーカーが、ものづくり産業の具体的戦略の立案・実施に関するレクチャー、および受講生の地域活性化のための提案作成についてのアドバイスをを行った。さらに、受講生が主体的に調べ、考えたことを、発表資料としてまとめ、毎回、課題を作成することで理解を深めることができた。	履修者54人、回答者35人であった。昨年度の4.348から僅かに評価の平均値が上昇した。カリキュラム改訂により、次年度には開講されない予定であるが、地元である三河地域のものづくりに関する知識を涵養する科目として、一定の効果があったと思われる。	授業評価 4.406 回答率 64.8% 科目GPA 2.88
U242007 マーケティングと広告	①マーケティングと広告の関係を理解することができる。 ②広告の媒体と表現について、現在の動向を理解することができる。 ③商品やサービス、企業を想定して、広告制作のプランニングをすることができる。	事例と理論を組み合わせ、マーケティングと広告が日常生活に身近で、かつ3学科の専門領域と密接に関係している学問であることをわかりやすく説明するように心掛けた。広告賞を受賞するなど評価の高い広告の事例を紹介し、関心を高めると同時に、理解を促すよう工夫をした。	現在の潮流に合わせ、デジタルマーケティングやインターネット広告の説明をより詳しく行う。また紹介する事例は鮮度を重視し、学生が関心を持てるようにタイムリーで最新のものに更新する。価格戦略では、ダイナミックプライシングやサブスクリプションなど、新しい取り組みを紹介する。	授業評価 4.529 回答率 65.0% 科目GPA 2.45

令和6年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
D242001 暮らしのスマートデザインⅡ	①前期スマートデザインⅠで行った内容を生活分野のテラーメイドプロダクトに落とし込むことができる。 ②前期スマートデザインⅠで行った内容をユニバーサルプロダクトに落とし込むことができる。 ③①、②で行ったプロダクトを生活分野の領域においてプレゼンテーションする方法を知っている。	受講者は22名。前期の授業内容を基盤に、事例調査やコンセプト設定、画像生成AIを活用した表現方法の習得を通して、岡崎の地域情報を発信するキャラクターデザインの制作に取り組んだ。授業内ではアンケート調査を実施し、学生自身によるデザインの評価とその分析・まとめを行った。プロセスごとに発表や調査資料の提出を行い、グループでの話し合いや個人での調査など、課題に応じて適切な方法を選択する姿勢が見られた。最終的には、各自が自身のアイデアを集約し、発表に至るまで一連の流れを完遂した。制作を通じて、表現力だけでなく、調査・分析・発信力など多面的な学びが得られたと考える。	調査や発想に個人差が見られたため、段階的な指導と参考資料の提示を強化する。画像生成AIの活用に関しては、基本操作と活用の意図を明確にするための導入説明を充実させる。また、アンケート評価の質を高めるため、評価基準やフィードバックの書き方について事前に共有するなど、学び合いを促す仕組みを工夫したい。	授業評価 4.587 回答率 65.2% 科目GPA 2.17
D242002 表すスマートデザインⅡ	①前期スマートデザインⅠで行った内容をメディア分野の各テラーメイドプロダクトに落とし込むことができる。 ②前期スマートデザインⅠで行った内容を産業分野のユニバーサルプロダクトに落とし込むことができる。 ③①、②で行ったプロダクトをメディア分野の各領域においてプレゼンテーションする方法を知っている。また表現技術(描画、造形、撮影、デジタルやAIによるデジタルツールも含む)を会得できる。※MicroSoft office, adobe CC, の操作ができる。	この授業では「表す」ことからコミュニケーションデザインを実際に立案する方法を学んだ。今年度もFigmaを使いプロトタイプ制作を通してアイデア醸成を行った。多くの学生はアイデアを育てていく過程を体験できたと思っている。過年度生が5名ほど参加しており、1年生とうまく刺激があったと思う。一部授業にあまり積極的でない学生もいたが、多くの学生は積極的に参加し、良好な成果を上げることができた。	前年度から教室が変わり、操作画面が小さくなったがだんだん対処できるようになった。受講生は13名でおおむね4つのグループに分かれており個別に突っ込んだ指導を行うことができた。過年度生の一部の作品は1年次作品のレベルを大きく超えるものだったが、それにも対応するようにした。こうした幅広い受講生に対応するため、プレゼンテーションの指導は特に入念に行った。	授業評価 4.371 回答率 50.0% 科目GPA 2.36
D242003 作るスマートデザインⅡ	①前期スマートデザインⅠで行った内容を産業分野の各テラーメイドプロダクトに落とし込むことができる。 ②前期スマートデザインⅠで行った内容を産業分野のユニバーサルプロダクトに落とし込むことができる。 ③①、②で行ったプロダクトを産業分野の各領域においてプレゼンテーションする方法を知っている。また表現技術(描画、造形、撮影、デジタルやAIによるデジタルツールも含む)を会得できる。	課題を主体的に取り組む学生が多かった。全般的に課題の内容を消化することができ、適切な量であった。	板書、プリント、UNIPAなどで課題違反を防ぐ工夫が必要である。	授業評価 4.80 回答率45.8% 科目GPA2.5
D242004 わかりあうスマートデザインⅡ	①ユーザーの状態をデータ化する手法を知っている ②デザインの評価をデータ化する手法を知っている ③評価のデータを分析し考察することができる	マスコットキャラクターデザインの事例調査と企画、画像生成AIによる試作、そして、デザインに対する印象要素評価のためのアンケート調査、調査結果に基づくキャラクターデザイン案毎の印象の違いを明らかにするための比較検定を行った。デザイン評価の定量評価について比較する手法について伝えることはできたと思うが、時間の都合で比較検定手法についての詳細な説明ができなかった。	2024年度で閉講となるが、デザインの定量的評価の指導方法として、調査方法の立案と統計的手法の選択についての解説を重視した指導方法に改善し、他の科目に活かしていきたい。	授業評価 4.4 回答率 80% 科目GPA 2.20
D242005 工業概論	工業の各分野に関する基本的な知識、技術、考え方を総合的に修得する。	履修者が1名であったのコミュニケーションをとることができた。授業計画では、学生自身が体験した高校時代の授業をもとに、かなり具体的な指導案が作成できたと思う。受講生は昨年と同じ高校出身者であった。	担当者がそれぞれのテーマをもとに、「工業」についてレクチャーを行った。また教職科目であるので、指導要領や高校授業の設計について講義も行った。指導要領作成では、出身高校で行われた研究授業の資料を教材として使用した。	授業評価 5.000 回答率 100% 科目GPA 4.0
D242006 人間中心デザインⅡ	① デザイン領域ごとのひと・もの・ことの捉え方と考え方を知っている ② デザイン領域ごとの人との関係性や問題を捉える手法と解決提案へと展開していくための手法とプロセスを知っている ③ デザイン領域ごとの問題発見、解決策、評価方法について利用者と設計者の両視点からデザインの在り方を述べることができる	2024年度からオムニバス形式で行った。オムニバスにより各教員の担当分野における人間中心デザインの視点を知らることができたと考えられる。現状のスマートデザイン学科を構成する要素と、3年次のプロトタイピング授業、卒業研究の研究室選択するための理解が得られる気概になったと考えられる。その一方で、必修科目にもかかわらず課題の未提出者が目立っていた。	教員ごとの提出課題の提出徹底のために、課題の在り方、受講者への周知含めた方策を検討し、改善したい。	授業評価 4.62 回答率 52.6% 科目GPA 2.05
D242007 データマイニングⅡ 【工教必】	コンピュータによるデータマイニング・データ分析を実践するため、統計分析や機械学習についての知識を身につける。また、実際にプログラミングを行ってデータ処理が行えるようになる。	2名で担当する科目。授業計画とスライド作成は情報系専門教員が担当、私は課題提出状況の記録、出欠管理と学生からの質問への対応、そして専門教員がスライド上に作成した問題をUNIPA>小テストに問題として設定、成績管理等のを主に担当した。以上のことは滞りなく遂行できた。授業後半ではPythonの演習があり、1人のSAとともに、進め方がわからない者の対応に当たった。	昨年度は授業評価 3.52 回答率 51.7% 昨年度より評価は大幅にアップした。専門科目のなかで相対的に評価が高いとは言えないのは、おそらく授業内容が難しいと感じる学生が多いからだろう。しかし入学時から、この学年は数学とプログラミングの必要性を折に触れ耳にしており、学ぶことへの抵抗(反発)はない。問題は、小テストの配点をかなり高くしているため、欠席がやや多いと単位取得が困難になる点だろう。それでも欠席する者をどうするか改善策が必要(この科目は今年度で終了)。	授業評価 4.39 回答率 51.2% 科目GPA 1.85

令和6年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
D242007 データマイニングⅡ	現在の情報社会においては日々膨大なデータが生み出され処理されている。そのデータを適切に処理・分析するため、確率統計の基礎に加え、機械学習やニューラルネットワークといった様々なデータ処理技術についても紹介する。これらの手法に関する知識を十分に獲得した上でプログラミングによるデータ処理・分析を行い、知識の定着を図る。	前年（初年度）の講義で本学学生のレベルを把握できたので、昨年度と比較すると、遙かに順調に講義を進行することができた。特に、情報科学、数学、プログラミングの基礎といった内容を前期の講義に配分することで、これまで情報科学に一切触れたことのなかった学生にもある程度の基礎知識を身につけさせた。その結果として、後期の講義では、本来の目的であるデータ分析や機械学習といった専門的な内容も扱うことが可能となり、演習を通して知識の定着を図ることもできた。	スマートデザイン学科ではこれまで情報科学の基礎や数学の基礎の教育がおろそかにされていたが、R7年度からのカリキュラム変更に伴い、これらが大きく改善されている。本講義は旧カリキュラムの学生を対象としていたため、基礎の教育・復習に重点を置く緊急措置的な対応を行なってきたが、R7年度で開講終了となる。	授業評価 4.39 回答率 51.2% 科目GPA 1.8
D242008 プランニング演習	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価 4.313 回答率 43.2% 科目GPA 182
D242009 AIデザイン基礎	①AIプロダクトを作り出せる。 ②①を用いたサービスを作り出せる。 ③①②の進化の過程をデザインできる。 AI（人工知能）に関する基本用語を確認しながら、現在用いられている主なAI技術の特徴を理解するとともに、国内外で近年提供されたAIプロダクトやAIサービスの分析を通して、AI技術を今後いかに活用するかイメージできるようにします。	専任教員1名で担当して2年目。本科目は今年度が最終なので、これまで同様に緊張感をもって臨んだ。IT分野の実務家に関与しない唯一の専門科目として、教養としてのAIを語るるとどうなるのかを常に考え、文献から学ぶ視点を常に示すよう努めてきた。生成AIを巡る状況は1年で激変しており、知識のアップデートをして、ある部分に関しては最新情報を紹介できた。 授業後半はグループによるリサーチとプレゼンテーションを課し、それによって、学生たちはそれぞれがもつAIに関する情報を拡大、思考を深化させられたと思う。5種類の生成AIとの対話を1週間続けて対話を比較したユニークなプレゼンテーションは、クラス全員の喝采を浴びて盛り上がった。新鮮な学びの時間がわずかだが共有できた点は評価できると思う。	前回（4.22、41.7%） 昨年度よりアップしたのはよかった。昨年度の反省から改善したことが功を奏したかもしれない。昨年は、プレゼンテーションのテーマを例示し、大半がそれに従ったためか、一様に浅いリサーチで終わり、他者から学ぶ刺激が少なかった。今年度はテーマ例示は控えてトピックの提供に留め、前半の講義時からグループワークの時間を確保し、テーマ決定とリサーチを進めた点が功を奏したのかもしれない。生成AIを巡る情報のアップデートも行った。	授業評価 4.693 回答率 45.5% 科目GPA 2.12
D242010 システムデザイン基礎	①システムの構成要素である基礎技術（プログラミング言語やデータベース、クラウドサービスの基礎的なしくみ）を理解する ②システムとユーザインタフェース間でやりとりされるデータの種類や構造と基礎的なしくみを理解する ③社会におけるインタラクティブシステムの事例とそのデザインの概要を理解する	履修者数は32名。基礎科目としての位置づけではあるが、基礎的すぎると内容をすでに理解している学生には物足りなく感じられることや、ほかの科目で既に取っている話題と重複することもありえるため、授業内容の構成が難しい。非常勤講師として担当したこともあり、当該年度の学生がどのような傾向にあるのかといった状況を事前に把握できる範囲に限られ、各回で様子を見ながら内容の調整をしていく状況が発生した。事前に用意した講義資料をもとに、実際の授業では個々の学生の状況を見て回り、学生間で演習の進捗に差が開かないように努めた。	前述のとおり、基礎科目としての位置づけではあるが、授業内容のバランス調整が求められる。導入部分では幅広い学生が理解しやすい基礎知識を丁寧に解説するといった、そのあとには専門的な応用例を紹介し、それらを踏まえたうえで学生が実際に手を動かして実践的な課題に取り組む時間を設けることなどにより、多様な学生の関心に対応できるような工夫をさらに充実させていくことが有効と考える。	授業評価 4.400 回答率 46.9% 科目GPA 2.00
D242011 知能プロダクトプロトタイプングⅡ	①情報技術を活用したデザインをプロトタイプングできる ②情報技術を活用したデザインについてプレゼンテーションできる ③プロトタイプングの動作テストと改善に必要な情報技術を主体的に学ぶことができる ④情報技術を活用したデザインを評価するためプロトタイプを用いた実験を計画することができる	画像の骨格検出手法について先行研究を調査発表し、Pythonプログラムによる画像の骨格検出手法の実装と実行、精度評価（F値）の演習。そして、先行研究に基づいて、各自アイデアの展開と評価までを行った。各自アイデアの展開については、演習内容の応用も許容した。半数以上の受講者は演習内容の一部を変えた内容であったが、テスト用画像の撮影、プログラム実装と実行、精度評価を体験することができていた。	使用する技術を限定したことにより、一律の授業を一定程度達成できたものの、受講者が次年度行う卒業研究を目前とした授業としての役割という意味では、次年度への繋がり薄い内容になったと考えられる。受講者数にもよるが、4年次の卒業研究に継続していく内容を扱えるようにしたい。	授業評価 4.346 回答率 89.7% 科目GPA 2.17
D242012 カルチャーメディアプロトタイプングⅡ	前期Ⅰで計画したプランの実装を行う。 ①計画したプロダクトをプロトタイプングする。 ②プロトタイプングしたプロダクトやサービスを実行し設定したカスタマージャーニーを確認する。 ③②で確認した効果をもとに、アニメーション、ポスター、キャラクターデザイン、映像、ブランディング、家具などのクラフトテストの作品を制作する。	学生の課題に対する取り組み方は熱心であった。	プロトタイプング力が不足しているので強化する必要がある。	授業評価 4.72 回答率 26.3% 科目GPA2.84
D242012 カルチャーメディアプロトタイプングⅡ	前期Ⅰで計画したプランの実装を行う。 ①計画したプロダクトをプロトタイプングする。 ②プロトタイプングしたプロダクトやサービスを実行し設定したカスタマージャーニーを確認する。 ③②で確認した効果をもとに、アニメーション、ポスター、キャラクターデザイン、映像、ブランディング、家具などのクラフトテストの作品を制作する。	受講者は19名。前期授業の内容を踏まえ、学生がより主体的に取り組めるよう課題内容を一部変更して実施した。個人ワークでは、表現方法の習得を目的とした演習に取り組み、基礎的な表現力を養った。グループワークでは、発想法やスケッチを用いてアイデアを広げ、協働で考察を行った上で、成果をまとめた資料を作成した。個人とグループの両面から表現力と構想力を高める構成とした。	4年次の卒業研究に活かせるよう、課題内容を再検討する。あわせて、学生が主体的に取り組めるよう、適切なサポート体制を整えながら授業を進めていく。	授業評価 4.72 回答率 26.3% 科目GPA 2.84

令和6年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
D242013 人間機械コミュニケーションプロトタイピングⅡ	人工知能や情報処理の応用技術について広く理解する。また、それらの技術を活用するためのプログラミングの応用能力を身につける。	この科目を履修したのは、情報科学についての基礎知識をある程度持つ学生であったので、予定していた講義・演習を概ね問題なく実施することができた。とは言え、高度な人工知能技術の応用を考えるにはまだまだ学生の知識・技能が不足している。旧カリキュラムではやむを得ない面もあるため、R7年度からの新カリキュラムに期待したい。	ガイダンスをより適切なものとし、情報科学について十分な事前知識を持った学生のみの対象とした高度な演習授業とすることで卒業研究に繋げたい。	授業評価 4.6 回答率 50% 科目GPA 3.0
D242014 テラーメードサービスプロトタイピングⅡ	①卒業研究Ⅰで行った計画を実行し、プロトタイピングができる。 ②①でプロトタイピングしたプロダクトおよびサービスをモニターを用いてモニタリングを行うことができる。 ③②によりモニタリングした結果を用いて計画をエンハンスすることができる。	「テラーメードサービスプロトタイピングⅠ」で制作したロボットを題材として、心理学統計法の基礎を、3つの方法で学ぶ実習形式で行った。 人間行動や主観評価の収集を問題なく取り組めるが、その結果を論文やレポート、エクセルに整理する段階になると、作業が止まってしまう学生がいた。とくに、統計的検定は、基礎知識がないと難しかった。学生の能力差や興味関心がこの要因と考える。その場合、個別に説明し、次の操作を促すなど、対応した。	提示した実習課題が難しかった。次年度は、学生の能力別に、通常課題と応用課題の2通りを提示したい。学ぶ意欲の高い学生、基礎的な知識・スキルの高い学生には、持っている能力をさらに高めさせたい。一方、基礎的な知識を習得したい学生には、通常の課題でも付けてくれるよう、取り組みやすい演習を用意したい。	授業評価 4.53 回答率 21.4% 科目GPA 2.71
D242015 エンターテインメントプロトタイピングⅡ	①前期Ⅰで計画したプランの実装を行う。計画したプロダクトをプロトタイピングする。 ②プロトタイピングしたプロダクトやサービスを実行し設定したカスタマージャーニーを確認する。 ③ゲーム性を付加するエンハンスを行う。※オーサリングツールによるプロトタイピングを行う。	エンターテインメントコンテンツとしてプロトタイピング作成を中心に授業を行った。この授業は各自の選んだメディア今回履修者数が34名ですべての学生について個別指導を行うのが困難であった。中間層以下の学生を重点的に指導した。この授業の目的として上欄のもの以外に4年時の卒業研究のテーマを検討することを設定しているが、設定が難しい学生も何人かは存在したと思う。上層部の学生にとってももう少し専門的なことや、テーマの意義についての議論をしたかったと思う。授業は円満に遂行でき、学生と意思疎通をすることができたのは収穫であったと思う。	エンターテインメントプロトタイピングで行った学修をもとに、各自の目標に対してなるべく具体的な達成目標を設定させた。一部生成AIによるデザインも取り入れた。上層部の学生は生成AIについて試行錯誤をすることができた。	授業評価 4.52 回答率 57.1% 科目GPA 2.09
D242016 マーケットプロトタイピングⅡ	①前期Ⅰで計画したプランの実装を行い、計画したプロダクトをプロトタイピングとしてアウトプットできる。 ②プロトタイピングしたプロダクトやサービスを実行し、設定したカスタマージャーニーを確認できる。 ③プロトタイピングのユーザビリティや有用性などを分析ができる。	2名で担当する科目。Pythonを使ってITサービスの開発方法の基礎を理解する内容で、授業は情報系専門教員が実質的に担当、私は課題提出状況の記録、出欠管理と学生からの質問への対応を主に担当した。教室内でTeamsを使い、教員がPythonのコードを入力する様子をPC画面で共有し、参照できるようにしている。学習内容は基礎的なものなので、ゆとりをもって学べたと思う。	回答者1名のみ。授業終盤は欠席者も多く、アンケート回答を授業時間内に組み込めなかった。 この科目も次年度は担当者が代わる可能性があり、授業内容も大幅に見直される予定。	授業評価 5.00 回答率 16.7% 科目GPA 3.83
D242016 マーケットプロトタイピングⅡ	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価 5.00 回答率 16.7% 科目3.83
D242017 こころのデザイン学	視覚を通して知ること気づくこと考えること、そのきっかけにする授業。	授業中に学生から聞いた声からするとそのきっかけにはなっていると思われる。	視覚がもたらす心的影響についての説明のバリエーションを増やす必要があると感じている。	授業評価 4.507 回答率 46.9% 科目GPA 2.47
D242018 デザインマネジメント論	①デザインによって付加価値が付与される事象を理解できる。 ②マーケティングやブランディングを適切に行う方法を知っている。 ③自己及び第三者のアイデアのプロダクト化のプロセスを理解している。	2名で担当する科目。授業計画とスライド作成は情報系専門教員が担当、私は課題提出状況の記録、出欠管理と学生からの質問への対応を主に担当した。前半はデジタルマネジメントの考え方（デジタル社会、DX、ツールの長所・短所等）について学び、後半はWebフロントエンド開発およびWebバックエンド開発を実際に体験させるものであった。	昨年度は授業評価 4.38 回答率 35.5% 評価と回答率ともにわずかにアップした。 区切りごとに確認させる小テストを課す等の工夫が必要、プログラミングを扱う授業回ではPCを持ってこさせ、実際にワークをするとよい等、昨年度の改善方法を提案したが、実際に授業を進めるのは専門教員であり、なかなか実現には至らなかった。来年度限りでこの科目は終了する。科目の目標に即した授業内容に入れ替えるのがよい。	授業評価 4.380 回答率 35.7% 科目GPA 2.68
D242018 デザインマネジメント論	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価 4.380 回答率 35.7% 科目GPA
D242020 映像視覚表現論	①映像を成立させるメカニズムと映像作成のプロセスを知っている。 ②有効な映像コンテンツを設計する方法を知っている。 ③社会や文化の視点から映像コンテンツを評価することができる。	映像についての専門的な授業であるが、学生の興味は個人差が大きかった。初心者対象としながらも、マニアックな部分、スマートデザイン的なテーマを盛り込んだ。ポストプロダクション、VFXについては進歩の速度も速く、今後の対応を検討したい。SNSについては映像の作り方自体がまったく違うメンタリティで行われているので、次年度はもう少し取り上げていきたい。	スマートデザイン学科の嗜好に合った題材を集めるようにしたいと考えている。 昨年と同様、授業後半で扱う映画作品を学生から募った。その結果「ジョーカー」を扱ったが、マイノリティを扱う題材で、昨年に増して学生に様々な問題を考えさせるきっかけを与えることができたと思う。	授業評価 4.513 回答率 47.1% 科目GPA 2.50
D242022 卒業研究Ⅱ	①卒業研究Ⅰで行った計画を実行し、プロトタイピングができる。 ②①でプロトタイピングしたプロダクトおよびサービスをモニターを用いてモニタリングを行うことができる。 ③②によりモニタリングした結果を用いて計画をエンハンスすることができる。	すべての学生が予定のスケジュールで研究を進め、発表をすることができた。本年度は発表を口頭発表とポスター発表から選択できるようになったが、すべての学生が最適な発表方式を選択したとは考えにくく、次年度の指導では的確な選択ができるようにしたい。	卒業研究Ⅰで積み重ねた成果をもとに、最終発表まですべての学生が遂行できるよう個別指導を行った。一部留学生在が家族の問題で日本国内にいないことがあったが、遠隔授業で対応した。中間発表も遠隔でアメリカから行った。	授業評価 5.000 回答率 33.3% 科目GPA 2.67

令和6年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
D242024 卒業研究Ⅱ	① 卒業研究Ⅰで行った計画を実行し、プロトタイプができる。 ② ①でプロトタイプしたプロダクトおよびサービスをモニターを用いてモニタリングを行うことができる。 ③ ②によりモニタリングした結果を用いて計画をエンハンスすることができる。 卒業研究Ⅰで進めた成果をもとにより完成度の高いプロトタイプと、エビデンスの実効性を高めることを目的とします。	スマートデザイン学科学生の卒業研究を指導するのは3年目で、2人の論文指導を担当した。「デザインビジネス研究専門ゼミナールⅡ」のすぐ後の時間なので、そちらで出された2人の発表に対する他者の感想、指摘等を確認し、それらを起点に次のステップを話し合うかたちで進めた。2人と少ない人数なので、十分、時間をかけられる状況だったが、学生のやる気を引き出せないまま終わった感が強い。	4年生の指導は、就職・進学活動を優先せざるを得ないこともあり、追い込み加減が難しい。また文章を正しく書けない学生が論文を書く場合は、論文作成のマニュアルを購入させ、前期中に自主学習して身につけてもらうようにする。	授業評価 不明 回答率 0% 科目GPA 3.0
D242026 卒業研究Ⅱ	「卒業研究Ⅰ」で得られた成果をもとに、研究の質をさらに高めるための手法の提案、実装、評価までを行い、研究発表を実施する。また、一連の研究内容を卒業論文としてまとめる。	共同研究先の大学院生と合同でゼミを実施した。学生本人の努力もあったが、互いに協力し合うことで、卒業研究の質を相当に高めることができた。実際、東海地区音声関連研究室卒研中間発表会においてポスターによる対外発表を実施し、学生研究賞を受賞した。	対象学生が優秀であったため、研究らしい研究が実施でき、対外発表での受賞など、良い成果も得られた。ただ、対象学生のレベルによっては指導法を変える必要があると考えられる。	授業評価 4.800 回答率 100% 科目GPA 4.0
D242029 卒業研究Ⅱ	①卒業研究Ⅰで行った計画を実行し、プロトタイプができる。 ②①でプロトタイプしたプロダクトおよびサービスをモニターを用いてモニタリングを行うことができる。 ③②によりモニタリングした結果を用いて計画をエンハンスすることができる。	受講者は2名。学生は毎回の授業で進捗状況を報告しながら課題に取り組んだ。制作が始まると、授業時間外での対応が必要となる場面も多く、SNSを活用して個別にサポートを行った。制作における進行状況や課題への向き合い方には個人差が大きく、一人で判断が難しい学生や、作業に時間がかかる学生など、それぞれ異なる課題が見られたため、個々の状況に応じた対応に苦慮する場面もあった。	改善策としては、各学生の状況に応じたきめ細やかな対応を行う。大学に来られない学生に対しては指導が難しいが、SNSを活用して状況を把握し、作業の遅れが生じないようにサポートを継続していく。	授業評価 5 回答率 100% 科目GPA 3
D242030 卒業研究Ⅱ	①卒業研究Ⅰで行った計画を実行し、研究成果を発表することができる。 ②実験結果を分析し考察を行うことができる。 ③実験と考察結果から改善点を明らかにすることができる。	制作で終わらず、効果について評価を行うことを徹底したことで、各自の制作とその評価をまとめることを達成することができた。ただし、評価方法が妥当かどうかの検討が不十分なところもあった。	研究目的と評価方法について、さらに十分な検討を加え、評価の妥当性を担保できるよう改善する。	授業評価 4.933 回答率 75.0% 科目GPA 2.5
D242031 卒業研究Ⅱ	①本人にとって4年間の集大成として満足ができる。 ②本学科の卒業研究としてふさわしい制作をする。 ③②を形にするための技法・材料を使いこなす。	春には完全な初心者だったが、真剣な取り組みにより9月の中間発表では10枚中の5枚に手を入れて発表することができた。そして8枚目は本人も驚くほどの出来栄になり、より加速がついた。11月には10枚全てに手が入ったので修正に取り掛かり、1月には資料集とキャプションに取りかかった。最終審査2週間前には展示も終了し、なんと最終審査前に北海道旅行をするゆとりさえ持つことができた。最高の指導ができたと思う。	技法の選択やスケジュール、修正のコツなどは教えたが、それにもまして早い理解と熱心な取り組みができたことは本人の能力である。長い指導経験から適切な指導をしたつもりだが、それを形にしてくれる学生に巡り合ったことは私にとっても幸せだった。しかし今回の成果を見て誰でも指導できると思われては困る。理解力と意欲的な取り組みができる学生でなければ、私の指導力も成果を見ない。最終審査から卒業式まで1ヶ月半もある。審査終了後に予定通りに片付けて作品は持ち帰り、16週目はラインで意見交換をした。そして早々に帰国した。	授業評価 5 回答率 100% 科目GPA 4.0
D242032 卒業研究Ⅱ	学生本人の研究内容とその進度に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしていく。	特にありません。	授業評価 4.600 回答率 15.4% 科目GPA 2.85
D242033 AI研究専門ゼミナールⅡ	①情報技術を活用したデザイン研究の方法とプロセスを理解し実践できるようにする。 ②実験と評価に基づいた課題発見と改善提案ができるようになる。 ③デザイン研究の記録や概要、成果発表ができるようになる。	先行研究の調査とまとめの発表、そして、各自の研究内容との関係についての発表と指導を繰り返した。回数をこなすごとに調査対象の課題や発表のポイントが精査されていき、研究発表としての体裁が整う様子が見られた。	学生の発表回数は2回程度であった。発表のサイクルの間隔が大きかったためである。もう少し間隔を狭め、3回以上は発表とフィードバックの機会が得られるように運営方法を厳正化して改善したい。	授業評価 4.850 回答率 80.0% 科目GPA 2.20
D242033 AI研究専門ゼミナールⅡ	機械学習、データ分析、センサー情報処理、ユーザーインターフェース等の技術を活用した研究開発を実施するため、担当教員の研究専門分野を中心に基本技術の学習を行う。また、各自が関連先行研究の文献調査を行うと共に、プログラミングによる実装といった研究基礎能力も身につける。先行研究調査結果のプレゼンテーションと議論を通して各学生が自分の研究課題を見つける。	先行研究を多数読み込み、グループ内で発表と質疑を行うことで、良い論文の探し方から、研究の実施の仕方やまとめ方までしっかりと学ぶことができた。学生自身が研究論文を書く上で大いに役立ったと感じている。	学生の成長を感じられた。また、十分高い評価も得られており、現在のやり方を続けたい。	授業評価 4.850 回答率 80.0% 科目GPA 2.2
D242035 デザインビジネス研究 専門ゼミナールⅡ	1、目標に達成した。 2、教育効果が良好である。	非常に良かった。	授業評価高く、今後も引き続き学生たちに優良な教育を提供する。	授業評価 5.000 回答率 11.1% 科目GPA 3.33
D242036 メディア研究専門ゼミ ナールⅡ	①社会から支持されるメディアコンテンツを立案し、説明することができる。 ②立案したメディアコンテンツを作成することができる。 ③立案したメディアコンテンツを発信する方法を知っている。	学生の個別な研究内容に対応できるよう、教員間で様々な意見が出せるようにした。授業後半では、スマートデザイン学科卒業審査に対応できるよう、発表方法の検討を行った。不確定なところが多く、誤解もあって確固とした態度で授業に臨めなかったところもあったことを反省している。	学生の個別な研究内容に対応できるよう、教員間で様々な意見が出せるようにした。すべての学生に中間報告をさせ、研究の進行状況を確認するようにした。発表資料の作成時間を多めにとるために、提出時期を年内に設定した。	授業評価 4.880 回答率 25.0% 科目GPA 2.00

令和6年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L242002 プレゼンテーション ツール D、A2	①ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。	文章作成・表計算・プレゼンテーションのソフトで例題を講義し、演習問題を毎回提出してもらう形式で行った。 学生の能力差が大きいため、標準の課題とは別に、追加の応用課題を出して、能力の高い学生に対応した。 一方、日本語の読解にハンディキャップがある留学生や高校で情報を習っていない学生に対しては、標準の課題でも困難なケースがあり、テキストの内容を丁寧に説明したり、個別に対応した。 プレゼンテーションツールの使用については、課題だけではなく、自己紹介と題し、実際に学生に発表を行わせた。他の人にわかりやすく伝えるスキルを身に着けさせることを行った。	授業を欠席し、課題を提出しない学生が目立った。提出するようながしたが、次の課題もあるので、なかなか取り組む姿勢にはならなかった。また、留学生が多いため、分かりやすい日本語での表現を心掛けたい。自力で取り組むことができない学生を引き続きフォローしていきたい。	授業評価 4.585 回答率 64.3% 科目GPA 2.12
L242006 プレゼンテーション ツール	ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。課題発見、問題解決にICTを活用することができる。社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。以上3点を到達目標としている。コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを教育効果としている。	学生は総合経営学科の中国人留学生、建築学科の日本人学生、スマートデザイン学科の日本人学生。多様な文化背景の持ち主たちを相手にしての授業展開には苦労を感じたが、指定教科書のとおり授業を進めたことも功を奏して、比較的スムーズな授業運営ができた。授業内課題を必ず時間内に完成するように指示したのもよかったと思う。	授業評価で満点を得ることができた。しかも学生たち全員からであった。授業運営にさらに磨きをかけるために改善点を探し、更なる努力を続けていきたいと思う。	授業評価 5.000 回答率 75.0% 科目GPA 3.25
L242010 統計学 D	①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	学習過程評価は3回の宿題(満点の合計が50点)、学習成果評価は50点満点の筆記試験である。 正規分布の説明に正規分布発見の経緯、母集団・標本の説明に20世紀の初め頃までは母集団と標本の区別が明確でなかった等の歴史的な説明を加え、少しでも正規分布、母集団・標本等の初出の用語に親しめるようにした。 履修登録した33名中、10名が不合格(D,E評価)であった。	統計学は、建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3つのクラスを開講している。 スマートデザイン学科用クラスの不合格率(DおよびE評価)の学生数を受講者数で割った値は2022年度22%、2023年度29%、今年度31%と改善には至っていない。推測統計により重点を置くなど、授業内容の見直しを検討したい。	授業評価 4.376 回答率78.1% 科目GPA2.15
L242014 英語コミュニケーション B	①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。	履修者は16人で、基本的に英語を使っている対面授業を行った。毎週、ユニットの教材や資料をPPの画面に映し出したり、CDプレーヤーを活用したりして、授業を進めた。また、授業終了前に、ユニットの演習課題(授業内課題)を配布し、次週、その課題を提出するよう求めた。その後、学生が提出した課題(授業内課題)を点検し、個々の学生に評価フィードバックを記入し、授業開始前、全学生の机の上に返却した。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、ある程度高度で生きた英語の授業を展開することができた。	16人の履修者のうち10人が授業アンケートに回答してくれた。また、合格率(合格者÷履修者)は56.3%で、目標75%以上としている中で、かなり低い数値であった。欠席過多者が多かったことが原因であると考えられる。英語を80%以上使って対面授業をなんとか進めることができたが、英語の発音練習やペア練習などをやる時間があまり取ることができなかった。今後は、学習意欲の高い留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語コミュニケーション力を伸ばすことを目指したい。	授業評価 4.720 回答率 55.6% 科目GPA 1.18
L242015 英語コミュニケーション B	①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。	履修者は53人で、基本的に英語を使っている対面授業を行った。毎週、ユニットの教材や資料をPPの画面に映し出したり、CDプレーヤーを活用したりして、授業を進めた。また、授業終了前に、ユニットの演習課題(授業内課題)を配布し、次週、その課題を提出するよう求めた。その後、学生が提出した課題(授業内課題)を点検し、個々の学生に評価フィードバックを記入し、授業開始前、全学生の机の上に返却した。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、ある程度高度で生きた英語の授業を展開することができた。	53人の履修者のうち33人が授業アンケートに回答してくれた。GPAがほぼ2.00と好成绩を修めた学生が多かったようだ。また、合格率(合格者÷履修者)は67.9%で、目標75%以上には届かず、少し低い数値であった。欠席過多者が多かったことが原因であると考えられる。英語を80%以上使用して、対面授業をなんとか進めることができたが、英語の発音練習やペア練習などをやる時間をあまり取ることができなかった。今後は、学習意欲の高い留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語コミュニケーション力を伸ばすことを目指したい。	授業評価 4.535 回答率 63.0% 科目GPA 1.94
L242018 文章表現応用D	文章の主旨を的確に読み取り、自分の言葉で要約するとともに、自らの考えを文章表現する力を身に付ける。	授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組む。教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。あまり経験していない文章の要約や文章の添削を通して、文章表現に対する抵抗感の緩和と言葉に対する感受性の醸成に一定程度の影響を与えることが出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価 4.567 回答率 54.5% 科目GPA 1.10

令和6年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L242020 日本語上級	日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	学生は全員留学生。国籍は中国・ベトナム・ネパール・モンゴル・インドネシアと多国籍だった。日本語中級の授業に好感を持ってくれた学生たちが大半を占めていて、授業態度がとてもよく、授業運営はスムーズだった。折りに触れて、出身国の事情について質問したので盛り上がりもあった。日本語教育には学習者の国に対する関心と愛着が必須であり、その知識を活かした授業となった。	多くの学生たちから高い授業評価を得た。比較のおとなしい学生たちから発話を引き出すという点ではまだ課題を残している。引き続き努力を続けたいと思う。	授業評価 4.886 回答率 63.6% 科目GPA 2.18
L242021 スポーツB A、D	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、達成目標を達成できたと考える。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。決して運動能力の高い学生ばかりではなかったが、楽しみながら学んでもらえたと考えられる。	担当種目の履修生25名中、S12名、A9名と良好で、B3名C0名、D1名と、十分でない学生最小限に抑えられたと考える。楽しみながら学べた部分と、技術が十分に身につかず、達成目標を十分に達成できなかった学生が存在するのは、ある程度致し方ない。 達成目標を達成できるよう、丁寧な指導を心がけたい	授業評価 4.678 回答率 87.8% 科目GPA 3.00
L242021 スポーツB A、D	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、達成目標を達成できたと考える。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。決して運動能力の高い学生ばかりではなかったが、楽しみながら学んでもらえたと考えられる。	担当種目の履修生25名中、S12名、A9名と良好で、B3名C0名、D1名と、十分でない学生最小限に抑えられたと考える。楽しみながら学べた部分と、技術が十分に身につかず、達成目標を十分に達成できなかった学生が存在するのは、ある程度致し方ない。 達成目標を達成できるよう、丁寧な指導を心がけたい	授業評価 4.678 回答率 87.8% 科目GPA 3.00
L242041 キャリアデザインII D	自己の将来についてのビジョンが描けるようになる。 自分軸に基づくキャリアプランニングができる。 就職活動に必要な能力や技術を身につけることができる。 就職活動が実践段階に入るため、企業研究、応募書類作成と模擬面接をより実態に即したかたちで体験し実際の就職活動に応用すること、また卒業後の社会人としてのキャリア形成に必要な知識を身につけることを目的とします。	キャリアデザインとしてのこれまでの学習成果を総括し、志望する職種・業種に対する具体的なキャリア活動のために、就職活動のための書類作成、模擬試験、社会人マナー・ルール、プレゼンテーション等を指導した。また企業就職の他に、公務員、自営、大学院進学、教職などの選択肢をもつ学生に対しても、そのための直前指導を個別に実施した。企業研究としてIT業界で先端研究に従事する講師2名による特別講義も実施できた点はよかった。 また例年通り、キャリアファシリテーターともうまく連携し、エントリーシートの作成指導は昨年度より効果的に進められたと思う。	昨年度の授業評価 4.71 回答率 26.1% 評価は下がったが、回答率はかなりアップした。 2024年度は新しいメンバーで3人体制となったため、よりきめ細かな指導ができるはずであったが、コミュニケーション不足で負担が偏り、十分に3人態勢のメリットを活かせなかった。その点を改善する必要がある。	授業評価 4.346 回答率 45.6% 科目GPA 2.67
L242043 現代文化論	現代社会における文化の諸相に触れながら、文化と社会との関わりを考察するための基礎的な概念及び視点を獲得する。	毎回の授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が現代文化に関する様々な課題に関わる文章を読解したうえで、教授者が示した課題に対する意見や感想を、教授者がまとめる。次時の最初に、前時の内容の解説と受講者から出された意見や感想をまとめたものを受講者に示し、さらなる考察を深める形で展開した。 受講者から出される意見や感想等から判断し、書物の活字に触れる機会が少ない学生に対して、相当量の文章を読む機会となり、現代文化を考える機会とすることが一定程度出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価 4.664 回答率 37.3% 科目GPA 1.20
L242044 中国語B AD	中国語の発音構造や特徴を理解し、よく使われる基本的な表現ができる。 中国語の文法の基本知識を応用できるようになることを目的とします。 中国語のそのものを勉強するだけでなく、中国語という言葉の側面にある文化や考え方についてもさらに深く理解することができる。	ほとんど中国語Aの単位を取得した受講生で、より日常の身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆっくりとしたペースで進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につかせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用したことで、授業で練習できなかった分をカバーすることができた。	昨年と比較すると、アンケートの回答率は低下しましたが、授業への評価は高い結果となりました。 現在、中国語Aを未履修の学生が多く、授業を難しく感じる学生もいる状況です。 そこで、具体例を交えた解説を増やすなどの対応を行い、今後の授業改善に努めていく予定です。 また、将来的に中国語Aの履修を授業参加の必須条件とするべきかについても、現在検討しています	授業評価 4.637 回答率 51.9% 科目GPA 2.42

令和6年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
Q242009 教育実践演習	①教員としての使命感や愛情をもって、生徒の指導に携わることができる ②適切な生徒理解のもとに、教育環境に配慮し学級経営の見通しを持つことができる ③教科の基礎から発展・活用までを意識して指導することができる	3名の受講者。教育の最新情報と特別支援学校の訪問を行っているが、学校訪問は少人数が少なかった。最新建築設計を駆使した岡崎特別支援学校の訪問であったのもう少し多くの学生にも見て欲しかった。岡崎の教頭先生の丁寧な説明を受け、前年に訪れたにしろ特別支援学校よりも工夫がなされていると感じた、これは設計者が肢体不自由者の特性をよくわかっているからだとして強く感じた。最新情報ではOECDで進められているラーニングコンパス2030が今後の、学習指導要領に強く反映されることを中心に考えた。教育の本質に迫りたいと考える。	次年度も岡崎特別支援学校の学校訪問を考えていきたいと考える。次年度は建築学科の学生も多く他学科の学生にとっても参考になることが多いと考える。教育の最新情報では大きな目新しさはないが、ラーニングコンパス2030を元に教育の本質について話し合っていきたいと考えている。途中で1名が離脱し、最終的に2名の履修者になってしまったことが残念でならない。	授業評価 5.00 回答率 50.0% 科目GPA 2.0
Q243001 事前・事後指導	教育実習をスムーズに行いことができるように授業事例や指導案の書き方、実習中の姿勢などを事前に学ぶ。実習後の反省に基づき教師という職業の魅力や大変さを再確認する場とする。	後期は教育実習の該当者がいないため、レポート提出者での判断となった。教育実習は学生意識と社会人としての自覚の違いを実感するよい機会となった。ただ、学生の意識の違いにより取り組む内容が浅くなってしまいうことも課題として浮き上がってきた。3年生までの間に気持ちの持ち方のモチベーションが持てるような指導ができていけるとよいが・・・。	少し、社会人としてのマナーも取り入れておきたいと感じた。教育実習は当外交の先生方の優しさにより何とかなったが、出身校であるがゆえの甘えも感じられた。高みを目指す人間性も養ってほしい。	授業評価 5.00 回答率 33.3% 科目GPA 2.0
U242002 世界の美術 D,B	① 日本と世界の代表的な美術の様式について知っている。 ② 日本と海外の美術と社会のかかわりについて説明できる。 ③ 美術作品を鑑賞し、評価することができる。	今年度6年目の開講となる共通科目である。授業内容は、世界の美術に関して、絵画や彫刻作品についての識を得ることに加えて、人間の歴史や世界のなかで宗教や政治と密着して重要な機能を果たしてきた美術が各時代や地域に固有な社会的・文化的状況の中で、どのような意味と価値をもっていたのかを考え、美術を通して人間のあり方を学ぶことにある。授業方法は、パワーポイントで作成した高精細な画像と解説をまとめた資料をUNIPAで配信し、個々人がしっかりと主体的に作品を鑑賞し、解説を行い、授業の最後に簡単な課題提出により、集中力を高めるように配慮した。毎回の課題に取り組むことで理解度を深めるようにした。質問等をフィードバックすることで双方向型の学びとなるように配慮した。	履修者92人、回答者59人であった。2024年度後期の共通科目の中では第1位の評価となった。同じ科目・クラスの評価は、2021年度4.331、2022年度4.271、2023年度4.521となっているが、2024年度はそれらをいずれも上回る結果となった。継続的な授業改善が奏功したと考えられる。学部の科目では、毎年受講生の多い科目であるが、学生主体に自ら学び、考える工夫をさらにしていきたい。	授業評価4.600 回答率 64.1% 科目GPA 2.52
U242003 アート表現演習	①モチーフを画材を用いて描写することができる。 ②配色や平面や立体の構成によって感情を表現することができる。 ③計画性をもって作品の制作を遂行することができる。	デザイン教育の基本として、指示されたモチーフ(対象物)を各自が、鉛筆や絵具で画用紙に描写する実習を通し、色や形、材料や技法について段階的に学習できるように複数の課題を設定し、各課題の導入ではデモンストレーションや作例紹介を行い、制作途中では各自の能力に応じた助言を通して、観察力と表現力の向上を促した。	履修者115人、回答者65人であった。昨年度の評価4.303から僅かに上昇した。回答率も49.4%であった昨年度から7ポイント近く上昇し、一定の評価を得られたと考える。提出課題に対する効果的なフィードバックにより、教育効果を高められるよう、次年度以降も工夫を重ねたい。	授業評価 4.385 回答率 56.5% 科目GPA 2.31
U242005 三河のまちづくりと観光	観光とは社会的、文化的現象のひとつであり、現代観光の仕組みや役割・影響・特長、観光を支える事業活動である観光事業を含め、観光に関する基礎的な知識を幅広く習得し、その全体像をつかむことを目的とします。観光産業の構成と特徴を理解することができる。観光政策と観光行政を理解し、観光と地域社会との関係性を理解することができる。三河地域のまちづくりと都市再生のアイデアを提案できる。	教員2名による授業で、3学科共通科目であり、それぞれが学習する専門分野の素材としてまちづくりに関心を持たせ、各学科における専門分野を踏まえたうえで、それぞれの学科の特徴を聞ける授業である。建築だけではなく、経営も、デザインも勉強できる科目として、ゲストスピーカーの先生方(地域で活躍する方から直接話を聞ける)ことに大変関心を示していた。また三河地域の一つの観光地或いは公共施設、商店街、一つの店などの現状について調べ、調べた内容に基づいて提案をし、発表できたことにより、今後社会人となってから必要となるプレゼンテーションについても取り組むことが出来てよかった。	昨年度の評価結果を振り返ると、アンケートの回答率は前年に比べて上がったものの、評価自体はほぼ同水準であった。履修登録者は34名で、4年生の学生も含まれており、学年や学科が異なる中で合同プレゼンテーションを通じて、学生同士の相互理解と協働が促進された。その成果もあり、授業全体としては概ね良好な評価を得ることができた。今後は、授業アンケートの結果を参考にしながら、3学科の学生がそれぞれ満足できる授業の提供を目指していきたいと考えています。また、各学科の学生が関心を持つテーマを柔軟に取り入れながら、学科を越えた交流や協働が生まれるような授業の工夫も進めてまいります。	授業評価 4.278 回答率 52.9% 科目GPA 1.88
U242006 三河のものづくり	①三河地方のものづくり産業に関する歴史を理解している。 ②三河の地域活性化に対する、ものづくり産業の現状を理解している。 ③岡崎市および岡崎商工会議所との連携を視野に入れた活動に取り組むことができる。	今年度は建築学科の過年度生の履修が多く、また1年生はスマートデザイン学科生がほとんど見当たらなかった。昨年度多かった留学生の過年度生は1人のみ。概して1年生の方が成績が良かった。積み上げ科目なので、過年度生が多い状況は科目の趣旨には合わなかったと言える。	共通科目としては今年度が最後となる。授業評価や科目GPAの数値は昨年度より向上した。次年度以降は科目名も変更の上建築学科専門科目となるため担当からは外れるが、新科目としての充実化を祈念したい。	授業評価 4.404 回答率 64.8% 科目GPA 2.28

令和6年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U242006 三河のものづくり	<p>①三河地方のものづくり産業に関する歴史を理解している。</p> <p>②三河の地域活性化に対する、ものづくり産業の現況を理解している。</p> <p>③岡崎市および岡崎商工会議所との連携を視野に入れた活動に取り組むことができる。</p>	<p>今年度で6年目の開講となる共通科目である。三河地方の「ものづくり」に関する講義に加えて、「ものづくり」の一線で活躍している方々としてお招きしたゲストスピーカーが、ものづくり産業の具体的戦略の立案・実施に関するレクチャー、および受講生の地域活性化のための提案作成についてのアドバイスをを行った。さらに、受講生が主体的に調べ、考えたことを、発表資料としてまとめ、毎回、課題を作成することで理解を深めることができた。</p>	<p>履修者54人、回答者35人であった。昨年度の4.348から僅かに評価の平均値が上昇した。カリキュラム改訂により、次年度には開講されない予定であるが、地元である三河地域のものづくりに関する知識を涵養する科目として、一定の効果があつたと思われる。</p>	<p>授業評価 4.406 回答率 64.8% 科目GPA 2.88</p>
U242007 マーケティングと広告	<p>①マーケティングと広告の関係を理解することができる。</p> <p>②広告の媒体と表現について、現在の動向を理解することができる。</p> <p>③商品やサービス、企業を想定して、広告制作のプランニングをすることができる。</p>	<p>事例と理論を組み合わせ、マーケティングと広告が日常生活に身近で、かつ3学科の専門領域と密接に関係している学問であることをわかりやすく説明するように心掛けた。</p> <p>広告賞を受賞するなど評価の高い広告の事例を紹介し、関心を高めると同時に、理解を促すよう工夫をした。</p>	<p>現在の潮流に合わせて、デジタルマーケティングやインターネット広告の説明をより詳しく行う。また紹介する事例は鮮度を重視し、学生が関心を持てるようにタイムリーで最新のものに更新する。</p> <p>価格戦略では、ダイナミックプライシングやサブスクリプションなど、新しい取り組みを紹介する。</p>	<p>授業評価 4.529 回答率 65.0% 科目GPA 2.45</p>

令和6年度後期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S242002 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	全国の有名企業家の「20代をどう生きるか」というテーマで書かれたエッセイを読んで、感想文を構築するためのテンプレートを事前に作成し、それも基に感想文を書いた。感想文を書く要領はかなり身についたと思われるが、踏み込んだ内容には程遠く、物足りなさを感じている。次年度はディスカッションを取り入れていくことを考えている。	大学での課題提出、また社会に出てからの報告ほかの文書作成に必要となるスキルの基本について学ぶため、テキストをもとに実践練習を行った。今年度の書き方が十分練習されていない者が多く、格差が目立つた。一部の学生にとっては文字の読み書き訓練が必須であることがわかった。	授業評価 4.236 回収率 84.6% 科目GPA 3.00
S242003 経営の基礎Ⅱ	達成目標 他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	実際の授業コンセプトを、達成目標に即したものに担当者の話し合いで改善した。後期経営の基礎Ⅱでは、ゼミ単位の少人数での授業を実施した。少人数のゼミナール形式での授業が実施できたため、個別の指導はある程度できていて、12名の履修者で、S4名A5名と今年度は良好であった。	経営の基礎という授業科目で、授業内容はゼミ任せという部分があり、他のゼミの内容がほとんどわからず、毎年、手探りの中で授業を進めている。同じ科目の授業でありながら、授業内容、課題が担当者によって異なる(わからない)ことは、大きな改善点であると考えている。今年度も改善できなかった。	授業評価 4.800 回収率 91.7% 科目GPA 2.83
S242004 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	2024年度の授業も、ある人物の伝記を読み、その人物が組織の中でどのように生きたかについて受講生と話し合うという形式に進めた。ここ数年松本清の伝記を扱っている。松本清という人物について知っている受講生はいないが、薬局マツモトキヨシについては知っているためある程度興味を持って授業に取り組んでいると思う。履修登録した15名中、4名が欠席過多で不合格になった。	2024年度の授業では、小泉信三、松本清、藤原銀次郎の3人を扱った。次年度は、松本清の授業の回数を増やしたいと思う。	授業評価 4.55 回収率 64.3% 科目GPA 2.27
S242005 経営の基礎Ⅰ	①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。 ④高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につける。	履修者は13人で、全員日本人学生であった。毎週、対面授業を行った。毎回の演習課題(授業内課題)に学生は取り組み、きちんと提出してくれた。途中で、欠席する学生が出てきたので、電話連絡したところ、出席するようになった。また、2年次のゼミ選択や大学生活上の不安や悩みの相談役としてコミュニケーションを取ることができた。	毎回、履修した日本人学生とのコミュニケーションは、対面授業でよく取れていたため、特に改善すべき点はないと思われる。履修者13人のうちで9人がアンケートに回答してくれた。また、合格率(合格者÷履修者)は92.3%で、目標90%以上をクリアすることができた。比較的授業アンケートの評価は高く、GPAが2.31と平均以上であったことは良かった。	授業評価 4.400 回収率 69.2% 科目GPA 2.31
S242006 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	テーマ設定、資料収集、発表を行った。個人作業の間は、机間指導ができ、学生が質問しやすい雰囲気をつくることができた。また、学生同士のコミュニケーションの機会も得ることができた。経営学の基本的考え方、専門用語等について、自分で調べて考察し、発表する機会を得られたように思われる。	現在の環境として、他者とコミュニケーションをとる機会が減っているため、授業を通して学生同士で相談する機会を増やしていきたい。また、設定したテーマにそって、資料を収集し、考察し、その結果を発表するという機会をつくり、今後の学習の基礎が身につけられるよう心掛けたい。	授業評価 4.145 回収率 78.6% 科目GPA 2.31
S242007 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。以上3点を到達目標としている。高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につけることを教育効果としている。	学生は全員留学生。国籍は中国・ベトナム・ネパール・ミャンマー・インドネシアと多国籍だった。愛知県の老舗企業、有名飲食店などの基礎知識をまずしっかり習得させ、安藤百福を始めとする外国ルーツの創業者の経営理念をテーマに授業を進めた。留学生に特化した授業展開を心がけ、少しでも経営学に興味を持ってもらえるように情熱を持って指導した。	授業評価は相当高いが、決して満足できる数字でもない。日本企業の経営方式に対して留学生たちが強い関心を抱くよう工夫していきたいと思う。	授業評価 4.633 回収率 80.0% 科目GPA 3.07
S242008 経営と流行	過去から今日に至るまでの経営手法を理解することができる。時代に適応したビジネスモデルを理解することができる。	明治時代から今日に至るまでの企業経営において、各時代における中心的な経済・産業政策や事業運営の手法を解説することができた。ワークライフバランスやICT・DX、企業と社会の共通価値創造、SDGs、ESG経営など、現在の経営課題も織り込むことで、将来を考え、未来へとつながる経営の視点を考えることができたと思える。	取り上げる事案について、経営に対する影響力や価値が可視化できるように現在の時流に合致した事例の充実を図る。またキーワードの理解が促進できるように、受講者の反応を見ながら丁寧な解説を心掛ける。	授業評価 4.524 回収率 74.0% 科目GPA 2.52
S242009 簿記Ⅰ【開放】 商教必	□「現代生活と会計」で学習した内容を基礎とし、さまざまな取引(株式会社の会計処理を含む)を理解することができる。試算表および精算表を作成し、勘定式の貸借対照表および損益計算書を作成することができる。	総合問題を最後に行い、1冊の簿記全体の流れを理解してもらうために授業時間内に評価テストなどを行った。全体の意味が理解できたと考えている。ただ、理解した学生と理解していない学生が極端だったので理解していない学生の状況把握をして今後の対策に予定である。	人の答えを写した学生が判明したため、写した学生と写させた学生の評価を減点した。これによって成績が大幅に下がった。今後は、そのようなことが無いように対策を講じる。	授業評価 3.914 回収率 57.8% 科目GPA 1.21
S242010 簿記Ⅰ	「現代生活と会計」で学習した内容を基礎とし、さまざまな取引(株式会社の会計処理を含む)を理解することができる。試算表および精算表を作成し、勘定式の貸借対照表および損益計算書を作成することができる。	簿記の経験者も多く、そうした受講生にははるい授業になるが、他方で留学生や簿記の初学者も多いので、言葉でできる限りはっきりとし、丁寧な説明を心掛けた。簿記は理解するだけでなく、演習問題を繰り返し実施しないと身につかない科目であるが、多人数授業の中で、十分な演習時間を取ることに難しさを感じた。	簿記は、勘定科目を言語として用いている。勘定科目を理解すれば、ほぼ全てのことが理解できる。勘定科目は、漢字を見れば、おおよそその意味はわかるものであるが、近年は、非漢字圏の留学生が増えているため、理解が難しそうである。用語の意味の説明等に時間がかかり演習問題を解く時間の確保が難しいが、できる限り時間の確保に努めていきたい。	授業評価 4.278 回収率 78.8% 科目GPA 1.04
S242011 企業とCSR	企業が発展するにつれて、自らの社会的責任を果たす必然性が出てくることを理解することができる。企業の社会的責任(CSR)の内容について理解することができる。企業が発展するにつれて、社会的責任を果たす必然性がどの様に生じていくかを理解する。企業の社会的責任の内容はどの様なものであるかを理解する。企業の社会的責任の源流について理解する。	特に昨年度とやり方において大きく変更したは無かったが、昨年度の受講生よりは真面目に受講する学生が増えた印象がある。単純に受講生が増えた影響もあろう。	昨年度と比べると評価値としてはダウンしてしまった。回答率は昨年度の50%台より増加しているが、内容的に物足りないと感じているのか、逆に難しいと感じているのか何とも言えない。ただ学生としては経営学の知識として初めて学ぶ概念が多いようなので、そのような概念をより平易に解説することを心掛けていきたい。	授業評価 4.464 回収率 61.7% 科目GPA 2.11
S242012 日本の経営文化	日本企業の経営にはどのような文化的背景があるのかを理解できる。日本の経営文化がビジネスにもたらす影響を理解できる。	日本企業の事例をもとにして授業を進めたことで、経営学の基礎用語や日本の企業経営について関心をもち、理解が深まったと思われる。	日本の企業経営の歴史を説明するため、とりあげた日本企業の事例が限定的だった。(留学生の)受講生世代でも知っているような、今時の事例を増やし、学生が関心をもてるよう工夫していきたい。	授業評価 4.573 回収率 93.8% 科目GPA 2.81

令和6年度後期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S242013 法学概論	法の解釈など、法学学習の基本的取り組み方やリーガルマインドについて理解することができる。 遭遇するであろう様々な法的局面で適切に対応することができる。 ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	法学概論は、1年生の選択科目であり、今後法律科目を学習していく上で重要な科目に位置づけられる。授業は、おおよそ計画通り比較的円滑に進めることができた。資料やレジュメを活用して、来年度開講される企業法や法学に結び付く内容も扱った。企業にかかわる法律を学習していくための法学の基本を学ぶことを目的とし、ある程度実現できた。法律用語が難しく、理解しにくいところは、何度も説明するように心掛けた。法学を概観して、様々な法律の論点を把握することができ、一定の法的思考力が身に付いたと思われる。	民法や商法、会社法を中心として、学生が法律問題をより身近に感じられるよう、最新の新聞記事や判例を講義により取り入れていきたい。事例が効果的であったため、実際起こりうる問題点も紹介していきたい。	授業評価 4.570 回答率 61.4% 科目GPA 2.87
S242014 スポーツ経営管理論	達成目標 スポーツ経営・管理の基礎理論を身につけることができる。領域に応じたスポーツ経営・管理の実践スキルを身につけることができる。 スポーツにおける「戦略・マーケティング・組織・管理、ビジネスの仕組み」の基礎段階として、本講義では経営管理の基礎的な内容から、スポーツの特殊性を考慮した内容まで論理的に理解する。	経営分野の中でも、スポーツに関する内容について取り扱う科目となる。主に、経営学の基礎的な内容をスポーツに照らし合わせ内容を構成した。1年次開講科目であることから、経営に関する基礎知識をまず取り上げ、それらの解説を多く取り入れた。他の科目と重複する内容を踏まえたものとなるが、履修者にとっては繰り返しのとなり、復習となっていたようである。また、それらの理解度により、評価に差が出たと感じている。一般的な経営とスポーツの経営には共通する点も多数あるが、それらを理解した上で、スポーツの経営を捉えられるよう、授業内容を構成した。これらの点でスポーツに関する経営への理解度は、ある程度深まったと感じている。	授業評価回答率が83.3%であり、おおよそ全体の評価を反映したものと考えられる。回答した者については、概ねよい評価であったと考えている。 今後も、一般的な経営に関する内容を織り交ぜ、スポーツに関する経営について、昨今の事情も踏まえつつ授業内容を構成していきたいと考えている。また、何らかの企画や運営に関する実践的な内容も取り入れていきたい。	授業評価 4.605 回答率 83.3% 科目GPA 2.58
S242015 体力とトレーニング	体力の概念・測定方法・評価方法を習得できる。 健康と体力の関係について理解できる。 ライフステージに応じた健康問題と運動の視点についての知識を習得できる。	昨年度に比べ受講人数は少なくなったが、受講人数が67名と依然として多く、教室形状からしてもディスカッションするには厳しいものがあり、講義主体の授業とした。D.E評価が12名と厳しいものがあつたが、1年生科目ということだけでできるだけわかりやすい内容を心がけたが、より身近なトピックを使った授業を心掛ける必要があると感じている。	比較的大人数でしかもオープン科目であることから、学力的に格差が見られ、対応が難しい面があつた。専門的な語彙を用いて授業を行う必要がある場面でも、その説明に時間をかけ理解可能な状況を作る必要があると感じた。時間的に足りなくなることも考えられるが、次年度は内容が薄くならない範囲でスライド内容の工夫により分かりやすい授業を心掛けていきたい。	授業評価 4.520 回答率 83.3% 科目GPA 1.93
S242016 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	金融経済の基礎知識について、文献を読んで、各担当ごとに発表し、討論を行った。このことにより、問題理解と解決提案をプレゼンテーションする能力と、意見や批判を受け止め、考える能力がある程度養われたと考える。	学生がより主体的にリサーチ、プレゼンできるよう指導していききたい。	授業評価 4.95 回答率 72.7% 科目GPA 3.55
S242017 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援します。	ITパスポート試験の学習を行い、それぞれの単元を反転授業として行った。発表がいやでいやで発表しなかった学生もいたが、大学生としては与えられた単元は発表しなければならず減点の対象となった。その分が減点され単位が与えられなかった学生もいた。学生にとってはつまらないゼミナールになったと思う。	ITパスポート合格者は0名となり、成果を出せていなかった。 授業方針をかえ楽しいゼミナール運営にしなければならないのか。	授業評価 4.50 回答率 33.3% 科目GPA 1.67
S242018 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	ケース分析の結果を、相互に意見交換をしながらプレゼンテーションすることで、プレゼン能力を向上すると共に、他者の意見を受け止め、思考力を身につけることができたと考え。 身近で具体的な企業の事例を扱うことで、現実の企業活動に関心を持てるよう意識づけを心掛けた。	ケーススタディの鮮度を意識し、データやトピックスを都度更新していく。 学生の関心の高い事例を発掘し、マーケティング、さらに経営学に対する知識と関心が持てるように工夫していききたい。	授業評価 4.35 回答率 72.7% 科目GPA 3.00
S242019 専門ゼミナールⅡ (新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	MOS試験のワード対策を実施した。個々の学生対応も実施したため、できる学生は試験に合格した。できない学生は過去に学んだ方法を使用して減点されるケースが目立った。	授業評価に関しては、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫していきたい。	授業評価 4.92 回答率 83.3% 科目GPA 3.5
S242020 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。この関心や興味が履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援する。	企業法の分野の中で、とりわけ労働法の専門知識について、判例集を活用して争点を議論することで、その論点を掘り下げることができた。一連の学習を通じて、レジュメ作成、プレゼンテーション資料作成のスキルをあげることができた。ときには主要判例に対する批判的な意見にも触れることで、多少は問題の本質に触れることができた。また、就職のためのビジネス実務マナーについても、2級検定試験問題集を通じて学ぶことができた。	判例研究や論点整理において、学生がより主体的に取り組み、プレゼンテーションできるように指導方法をより工夫したい。就職のためのビジネス実務マナー検定対策について興味をもって取り組んでいたことから、継続して指導していききたい。	授業評価 4.911 回答率 81.8% 科目GPA 3.73
S242021 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。	今年度は履修者が6名(うち1名再履修者)と少なく、問題児といえるゼミ生はいたものの昨年度よりは指導しやすかった。少人数指導というゼミナール本来の指導方式らしかった反面、活気は少なめだった様に思う。	ゼミナールはメンバーに左右される感が否めないが、その意味で昨年度よりは真面目なメンバーが多く指導はしやすい方であった。授業評価・科目GPAの数値が向上したことは無理も無いと考える。	授業評価 4.729 回答率 83.3% 科目GPA 2.67

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S242022 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	ゼミナール形式で、前半は教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。後半は、学生が各自で検索した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルに加え、PCを用いたレポート作成やプレゼンテーションを行った。レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。今後は、基本的な内容だけでなく、応用的な内容も取り入れ、PCスキルや読解力をより向上させることを実践していきたいと考えている。	全ての回において対面形式でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。少人数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択した。PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もある。今後は、難易度の高い課題を取り入れる際には、履修者の思考力や読解力、PCスキルの状況を見極め、解説等の量を増やし、理解度の向上につなげていきたいと考えている。	授業評価 4.778 回収率 81.8% 科目GPA 3.36
S242023 専門ゼミナールⅡ	ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	対面60分・オンデマンド30分で授業を実施した。コロナ禍により学生同士の交流が減っていた状況で、学生のグループワークの時間をより多く取るようにした。ゼミ生一人一人が学習した経営学的観点から、関心のあるテーマを選び、指導中はディスカッションを取り入れ、互いが興味をひく発問にペアワークで答えさせる機会を設け、議論した内容を発表させた。最終的には個人発表をするテーマに繋ぎ、ゼミ生が自主的に学習できるように工夫した。	昨年の評価結果と比較すると、アンケートの回答率は同水準だったが、やや評価が下がる傾向も見られた。 今年度は8名のゼミ生のうち6名から回答がありましたが、内容は概ね良好な評価を得ることができました。 今後もこれまでと同様の方針を基本としつつ、授業アンケートの結果も参考にしながら、よりきめ細かな対応を進めてまいります。 具体的には、SNSなども活用しながら、受講生一人ひとりの状況に応じたフォローを行っていく予定です。 また、ゼミ全体で議論を深められるようなテーマ設定の工夫を通じて、学生たちの学習への興味と理解をさらに促進していきたいと考えております。	授業評価 4.600 回収率 75.0% 科目GPA 2.25
S242024 経営戦略論	経営戦略に関する基礎的な知識を習得し、優れた戦略とそうでない戦略の違いを見分ける「戦略審美眼」を身につける。	経営戦略論は、2年後期の必修科目であり、経営学を学ぶうえで、中核に位置づけられる。これまで学生が学んできたマネジメントに関する知識を体系化して理解させることができたと考えている。対面授業においても、コロナ回避を目的としてオンライン授業を選択した者も概ね予定通りの教育効果が得られたと考える。	今後もより学生が経営戦略を身近な問題として感じられるよう、最新の事例を取り入れて紹介していきたい。	授業評価 4.51 回収率 63.6% 科目GPA 2.71
S242025 経営組織論	人と組織のマネジメントの手法について理解することができる。 組織と戦略とのかかわりについて理解することができる。 組織と人との関係を通して企業の経営活動について理解することができる。 組織と人との関係を考察することを通して組織マネジメントに必要な知識を習得することを目的とする。	履修者が昨年度の141名と比べて2桁に激減したことで、授業自体は進めやすくなった感はない。また授業内課題の方式を筆者の他科目と同様に、授業内容のメモ欄と感想欄に分けて学生としては点を取りやすい方式に変更した（感想欄の割合を増やした）。それ故以前よりは単位が取りやすくなったのではと考える。	授業評価値及びGPA値が昨年度よりも向上した。自己評価欄でも記述したように、授業内課題の方式を変更したことが少しは反映していると考えられる。授業構成面ではしっかりとない回数もあるので、次年度マイナーチェンジを予定。	授業評価 4.540 回収率 53.4% 科目GPA 2.18
S242027 コンピュータ会計 商教選	証憑などの領収証や納品書などで仕訳をして、会計ソフトに表示される財務諸表のデータを読み取り、問題点を解決できる。企業の現状分析や、短期利益計画、資金繰り表の作成まで理解し、会計ソフトを活用できる。	パソコン操作の授業は、個々の理解度が異なるので1年次に簿記の授業をさぼった学生は、苦労したようだ。これらの学生に時間を費やしてしまっただけで、次年度は事前に宿題を提示していく。	科目GPA2.96あったが、F以外は3.21であった。授業評価に関しては、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考えられる。ある程度の個別指導の時間は必要であったので授業時間以外に実施した成果があった。	授業評価 4.564 回収率 63.5% 科目GPA 2.96
S242028 ショップ経営論	商店の設立や運営に関する知識を理解することができる。 商店の多様な形態を理解することができる。 簡単なモデルの商店の設立や運営をすることができる。	事例紹介を充実させることで理解促進を図った。開店準備や集客方法、雇用、経理など、実際に店舗を開店、運営する上での知識を学ぶことで、店舗経営に関する課題発見力や実践的な力を身につけることができたと考えられる。	店舗を開店、運営するという視点から、より実践的な内容を充実する。身近な店舗の事例を取り上げ、学生が関心を持てるように工夫したい。	授業評価 4.705 回収率 70.0% 科目GPA 2.58
S242029 財務会計論	財務会計の基本的な枠組みおよび会計特有の用語や概念を把握・理解することができる。 近年の会計制度の変化の主要な流れとその背景を理解することができる。	テキストを使用しない授業であるため、対面授業出席者の授業資料を作成する必要があり、スライドを用いて対面授業を行い、そのスライドを対面授業出席者の授業資料とした。対面授業出席者は、映し出されたスライドの写真を撮ることで満足してしまい、授業内容の理解が進まなかったように思われる。	スライドを用いた授業では、なかなか受講生の集中力を維持できないので、今後は、できるだけ板書を用いて、問いかけを多くいれながら授業を進めていきたい。	授業評価 4.557 回収率 73.7% 科目GPA 1.84
S242030 国際社会論	国際社会を取り巻く主要な問題について理解し、それぞれの問題について自分なりの意見を持ち、他者に伝えることができることを目標としている。国際社会を巡るさまざまな問題について自分なりの考えを養い、それを他者に伝えられるようにすることを教育効果としている。	学生は中国出身の留学生一人のみ。しかも比較のおとなしい学生であった。お互いに話し合うことにより、講義に集中させるよう心がけた。長年にわたって積み上げた知識と体験が引き出しとして存在しているため、授業展開に困難を感じることはほとんどなかった。学生が中国出身だけなので、中国とそれ以外の国との関係についても何度となく言及した。自身中国語を解することもあり、スムーズな授業ができたと思う。	授業評価は不明だが、手ごたえは感じている。今後は学生が複数になり多国籍化した場合の授業展開を心がける必要がある。	授業評価 不明 回収率 0% 科目GPA 4.00
S242031 労働法	労働法の知識を活用して、遭遇するであろうさまざまな職場のトラブルに際して、リーガルマインドをもって、冷静に法的対処をすることができる。 ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	労働法は、2年生の選択科目であり、企業経営あるいはこれから就職する者にとって重要な科目である。授業は、おおよそ計画通り比較的円滑に進めることができた。資料やレジュメを活用して、基礎事項は概ね予定通りの教育効果が得られた。労働問題の本質を考察することを目的とし、学説や判例の検討などを多く取り入れたが、専門的知識の理解があまりできていなかった学生が多かった。アルバイトや新聞記事での実情を踏まえて、問題点や争点を認識でき、法的な解釈力は一定レベル得たようである。	学生が労働問題をより身近に感じられるよう、最新の新聞記事や判例をより講義に取り入れていきたい。厚生労働省の最新データをより活用していく。	授業評価 4.626 回収率 64.8% 科目GPA 2.61

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S242032 個人スポーツ演習	個人スポーツに必要な基本的技能を身につけることができる。 個人スポーツにおけるルールとマナーを身につけることができる。 個人スポーツにおける戦略や戦術を工夫し、各自の技術を駆使して試合のレベル向上のための方法を考える事ができる。	スポーツ種目の中の主に個人種目について学ぶ演習形式の科目である。個人スポーツとして、バドミントンと卓球を展開した。個人やグループでの練習活動における基本的な技術を身につけ、戦略や戦術を工夫してその成果をゲームの中で確認しながら個人技術、戦略・戦術の理解、向上を目指した。実際に活動する回数は多くはないが、基本的な技術を身につけることを中心に、それらを活かした戦術や戦略を駆使することで、より高いレベルのゲームを追求することに繋がったと考えている。実際に受講者は技術的にも向上した印象があり、より個人スポーツの特性にふれた楽しさを味わい、理解することができたのではないかと考えている。	授業評価回答率が52.5%であり、おおよそ全体の評価を反映したものと考えられる。回答した者については、概ねよい評価であった。比較的容易に実施することができる個人スポーツのうち、バドミントンと卓球を展開した。受講者の中には経験の浅い者が多く、基本的な技術を身につけることでゲームの中での楽しさを実感できていたと思われる。今後は、基本的な技術や戦術をより理解しやすい内容にし、加えて応用技術や戦術についても多く取り入れた内容を構成していきたいと考えている。	授業評価 4.733 回答率 52.5% 科目GPA 2.33
S242033 球技スポーツ演習 【開放】	球技スポーツに必要な基本的技能を身につけることができる。 球技スポーツにおけるルールとマナーを身につけることができる。 球技スポーツにおける戦略や戦術を工夫し、試合のレベル向上のための方法を考えることができる。	専門科目としてのスポーツ演習であるが、教養のスポーツ科目を履修するイメージで受講する学生が多く、取り組みの甘さが目立つ。実際にシラバスの達成目標も、教養のスポーツの達成目標と大差なく、位置づけが難しい授業である。 今年度、履修者が18名、取り組みの悪い学生に多く、Dが2名、Eが5名であった。真面目に取り組んだ学生の評価は、悪くなかった。	演習科目であるため、より専門的な内容とすること、グループワーク等で学生自身が考えることなどを考える必要がある。 なによりも、取り組みの悪い学生の欠席が課題である。	授業評価 4.657 回答率 77.8% 科目GPA 1.56
S242034 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業で実際にマネジメントできる。	ICTの進展に伴う最新の金融ビジネスに関する文献を担当別にプレゼンするかたちで演習を行った。金融に関心を持つ学生が多く、やや難解な内容であったにもかかわらず、事前によりサーチして、意欲的な報告と討論が行われた。演習を通じて、経営的な思考能力と判断能力が養われたと考える。	今後は、学生が興味を持つテーマを自ら設定して、報告できるように指導していきたい。	授業評価 4.867 回答率 54.5% 科目GPA 3.64
S242035 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	ITパスポート試験の学習を行い、それぞれの単元を反転授業として行った。2年生まではコンピュータの学習をしてこなかったため、このクラスからは合格者が出なかった。また、学生にとっては発表だけのつまらないゼミナールになったと思う。	全員インゼミの発表が出来良かった。	授業評価 4.00 回答率 33.3% 科目GPA 3.0
S242036 専門ゼミナールⅣ	事例研究（ケーススタディ）と理論を紐づけし、興味のある研究テーマを段階的に絞り、卒業論文のテーマ選定につながるようにしたい。 最新の事象や変化をトピックスとして紹介し、研究テーマの検討にあたって質量ともに充実した情報提供を心掛けたい。	専門ゼミナールⅢで取り組んだ内容、考え方を土台とし、取り上げたマーケティング理論やビジネスモデルから、それに適合するケースを自分で探すことで考察力の強化を図った。 またグループワークによって他のメンバーとの協働やディスカッションにより成果を出すことで新たな気づきや協調性が身につくように運営した。 それに加え、関心のあるテーマを選択の上、調査や分析を行った。その成果をパワーポイントで発表することでプレゼン能力が向上し、さらに他者の意見や助言を基にステップアップすることができた。と考える。	事例研究（ケーススタディ）と理論を紐づけし、興味のある研究テーマを段階的に絞り、卒業論文のテーマ選定につながるようにしたい。 最新の事象や変化をトピックスとして紹介し、研究テーマの検討にあたって質量ともに充実した情報提供を心掛けたい。 自ら文献を選択し、マーケティングと関連づけられる思考力を育成する工夫をしたい。	授業評価 4.844 回答率 90.0% 科目GPA 3.80
S242037 専門ゼミナールⅣ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	再履修者4名中2名は、卒業研究と並行しての受講であり、卒業研究の課題を安易に転用して提出する傾向があり、必ずしも、課題内容に沿った課題をこなし切れていなかった。1名は全欠、1名はようやく課題に取り組んでくれた。 現役生1名は、本人の希望を聞きつつ、取り組む課題を指示してきたが、まともに取り組むことができなかった。 最終的には、全欠席の1名、課題を提出しない1名の評価不可が2名、再履修者の3名合格という状況であった。	欠席少なく、それなりに授業課題を提出すれば、過程評価7割～8割は難しくない設定であり、いかに授業課題に取り組みさせるかが大きな課題である。 2名は翌年度前期に、卒業研究に取り組みせることになるため、レポートレベルの授業課題をこなせるよう辛抱強く指導していく。 1名は修学継続が難しい状況である	授業評価 4.067 回答率 60.0% 科目GPA 0.6
S242038 専門ゼミナールⅣ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	9人が受講。力覚フィードバックを用いた遠隔ロボットシステム、仮想書道システム、メタバースによる歩行支援システムの3つのシステムを扱った。そして、それらの研究の背景、問題点、解決手法、効果、未解決の課題などを学習した。また、新たに追加された機能を体験し、改善点を検討して、開発にフィードバックさせた。この他、豊丸産業が開発したオンライントレパチというシステムをお借りし、体験することによって、そのシステムの改善点などを検討した。	公休や病欠以外の理由で授業を休んでも、前期とは異なり、何度も繰り返し説明せず、資料などを見たり、友人に聞いたりして、自分で解決するようにした。 ゼミや卒研ではこれまでの講義と異なり、受け身ではなく、積極的に自らが学ぶ姿勢を身につけることが必要であるので、卒研に向け、考え方を改めて行くように指導する。 科目GPAは、前期の専門ゼミナールⅢでは3.78であったが、後期の専門ゼミナールⅣでは2.22に下がった。厳しく指導・評価するようにしたためであり、授業評価も4.1から3.533に下がった。しばらく様子を見て対応を決める予定である。	授業評価 3.533 回答率 33.3% 科目GPA 2.22
S242039 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	今年度も、卒業論文を作成するために必要となる統計学の用語・定理等を理解することを目標にした授業を行った。具体的には、偶数回の授業では、統計学の用語を指定し、受講生にその用語について調べさせた。奇数回の授業では、前回の授業で調べた内容を発表させた。授業に熱心に取り組む受講生とそうでない受講生に大きく分かれた。	次年度は、受講生に調べさせる用語・定理等の見直しを検討したい。	授業評価 3.50 回答率 22.2% 科目GPA 1.78
S242040 専門ゼミナールⅣ（新カリ）	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	ユーチューブの動画配信方法やPPTの自己紹介動画作成を行った。まじめに取り組んだ学生は、早く就職内定をも両親からお礼の連絡をもらった。	まじめに取り組む学生が多く、今年度のやり方を次年度も実施していく予定である。	授業評価 4.667 回答率 60.0% 科目GPA 4

令和6年度後期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S242041 専門ゼミナールⅣ	①経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ②ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	本ゼミナールでは、ビジネスにおいて不可欠である異文化コミュニケーションとは何かについて調査・研究を行い、グループで口頭発表することをメインの学習内容としている。履修者6人のゼミ生は、全員日本人学生であった。その結果、学生たちそれぞれの国のビジネス上の文化的特徴を見つけ出し、それが他の国の文化的比較をすることで、どんなことに注意をすればコミュニケーション力が身につけられるかについて発表できたように思われる。	ゼミ生は毎週の授業に皆出席して、演習課題（授業内課題）や宿題（授業外課題）を提出し、プレゼンテーションも比較的満足できるレベルであった。授業アンケートに関しては、回答率が80%以上と高く、満点の高評価をしてくれた。また、合格率（合格者÷履修者）は100%で、目標90%以上をクリアすることができた。今後も引き続き高い評価を得られるよう努めたい。	授業評価 4.920 回答率 83.3% 科目GPA 2.00
S242042 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	民法、商法、会社法を中心とした企業法の論点を題材にして、資料を活用することで、具体的な論点を掘り下げることができた。こうした学習を通じて、レジュメ作成、プレゼンテーション資料作成の基礎を学ぶことができた。各法分野の様々な論点に触れることで、一定程度の問題の本質に触れることができたようである。また、就職のためのビジネス実務マナーについても、2級検定試験問題集を通じて学ぶことができ、興味をもって取り組んでいた。	就職のためのビジネス実務マナー検定対策について興味をもって取り組んでいたようなので、希望者には2級合格に向けてより対策を強化していきたい。公務員希望者には、政治・経済の分野の基礎問題をより提示していきたい。	授業評価 4.943 回答率63.6% 科目GPA4.00
S242043 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	今年度のゼミ生は問題児が揃っており、如何にゼミの課題に取り組ませるかという点で昨年以上に苦心しているのが現状である。気が早いと言われそうであるが、来年度の卒論指導が今から気掛かりである。	昨年度は真面目なメンバーが揃っていたのに対し、今年度は問題児だらけなので当然ながら数値的にダウンしているが、その割には踏みとどまったといえるのか。ただ回答率は半分しか無い。翌年度は卒論を作成しなければならぬ訳で、例年以上に指導を口酸っぱくする必要があると考えている。	授業評価 4.600 回答率 50.0% 科目GPA 2.10
S242044 専門ゼミナールⅣ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	実際の企業の財務諸表をもとに財務分析を進めようとしたが、ゼミメンバーの会計知識の差が大きく、進められなかったため、上場企業の決算書を読むのに必要な会計知識を補うよう、輪読を行った。学生のプレゼンテーションに関する補足資料を用意し、時間をかけて解説をし、理解を深められるよう努めた。	企業戦略に関する著書をもとに輪読を行った。認知度の高い企業事例の中から、各自が関心をもつ企業を選択し、発表を行ったことで、企業戦略について理解することができたように思われる。また、学生とのコミュニケーションおよび学生同士のコミュニケーションが取れたことで、学習理解が進んだように感じた。次年度においても、意見をいえる雰囲気づくりに努めたい。	授業評価 3.920 回答率 100.0% 科目GPA 2.00
S242045 専門ゼミナールⅣ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできることを目標としている。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを教育効果としている。	学生は中国とネパール出身の留学生、それに野球部所属の日本人学生。多様な文化背景の持ち主たちを相手にしての授業展開には苦労を感じたが、学生たちの好奇心を刺激することには成功したと思う。	回答率は25%だが、授業評価で満点を得ることができた。しかし、学生たちの出席状況は決して満足いくものではなく、更に工夫する点が数々あることを自覚している。慢心することなく、努力を続けていきたいと思う。	授業評価 5.000 回答率 25% 科目GPA 2.00
S242046 専門ゼミナールⅣ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	ゼミナール形式で、前半は教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。後半は、学生が各自で検索した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルに加え、PCを用いたレポート作成やプレゼンテーションを行った。レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していったと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。今後は、基本的な内容だけでなく、応用的な内容も取り入れ、PCスキルや読解力をより向上させることを実践していきたいと考えている。	対面でのゼミナールと言うことで、解説と課題作成、次年度の卒業論文の執筆につなげていくことができるように工夫した。個別に指導する機会を多くし、卒論に関する内容説明を時間をかけて解説することを心がけた。今後は個別指導の機会をできるだけ多くするように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。	授業評価4.800 回答率 50.0% 科目GPA 2.90
S242047 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	10人のゼミ生ほぼ全員100%の出席率で、3年生から卒業論文のテーマを決めるための準備という位置づけだった。それぞれが関心のある事柄について情報収集し、まとめ、発表を行った。それぞれの関心事について調べ、まとめ、パワーポイントを使用して発表させるという方式で進めた。発表内容について、質問し話し合い、レクチャーしていった。学生自身の良く知っている分野を扱うように取り組んだので、積極的に取り組んでいたと思う。	昨年度の評価結果を振り返ると、アンケートの回答率も、評価も前年に比べて上がった。今後も一人ひとりの状況に合わせて進めることができるため、今後もこの点は続けていきたい。ゼミ全体で議論するようなテーマ設定も多くなり、より学習を深めるようになっていきたい。みんなで議論する場があまり持たず、なかなかテーマを決めることができない学生もいたので、日頃意識して指導していきたい。	授業評価5.000 回答率88.9% 科目GPA2.78
S242048 現代マネジメント講義Ⅱ	現役経営者の講義から、将来自分が経営者・管理者に就任した時に必要な経営実践のヒントを学び取ることができるようになる。講義の内容を理解し、講義内容の要点を授業時間内課題に的確にまとめられることができるようになる。実社会で活躍される現役経営者のお話から、経営という仕事にはどのようなことが求められるのかを学び取り、自らのビジネスパーソンとしての教養及び経営実践能力の向上に反映させることを目的とする。	昨年度に比べてC評価が相当多くなってしまった（再試験合格者含む）。この学年は例年よりも取り組み具合に問題の多い傾向があるようだ。また課題を期限内に提出しないままの者も多く、課題として残ったままである。	授業評価値は若干の低下であるのに対し、科目GPAが昨年度1.96だったことから相当ダウンしてしまった。授業への取り組み具合の姿勢に問題のある学生が今年度は多かったが、課題提出率が低いままであることが頭痛の種である。課題提出率の向上策を考えていきたい。	授業評価 4.608 回答率 46.9% 科目GPA 1.81
S242049 戦略思考Ⅱ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	日本スポーツ協会の指導者資格獲得のための基礎知識を戦略的な思考の観点から捉え、授業を実施した。昨年と同じく、コーチングや、トレーニング、ジュニア育成に関しては実際の現場での事例を示すことで、活発な議論ができたものの、地域のスポーツ振興やスポーツプロモーションなど地域スポーツやマネジメント的な分野に関しては、実感がわかなかったようで、より多くの現場の事例を示すことなど、より突っ込んだ工夫を凝らす必要がある。	昨年の反省をもとに事例を多く用いて興味の向上を図ったが、説明に關してもう少しわかりやすく内容が抽象的にならないようにすべきであると感じた。次年度は学生がより興味・関心を示すように事例を多く示し、より分かりやすく、関心をもって臨めるようにしていきたい。	授業評価 4.52 回答率 72.9% 科目GPA 1.73
S242050 戦略思考Ⅱ	各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けたい。前で発表できない学生の対応に追われ、今後は、授業以外の時間に個別対応する。	ユーチューブの動画配信や自己紹介動画の作成、編集を行った。興味のある内容は真剣に取り組んでくれることが分かった。	科目GPA3.82であった。ユーチューブの動画配信限定で実施したので取り込みやすかった。楽しんで実施していたのでスマホなどの動画なども取り入れて実施していきたい。	授業評価 4.420 回答率 52.6% 科目GPA 3.84

令和6年度後期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S242051 戦略思考Ⅱ	①与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 ②他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 ③現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	履修者は12人で、毎週、対面式授業を行った。毎回、学生は単元の授業内容を理解しながら、各単元にある役に立つ英語表現をCDについて発音練習をした。ただ、ペア練習やグループ練習は、コロナ禍の状況では行うことができなかった。授業最後に配布した演習課題（授業内課題）や宿題（授業外課題）を、期限の次週までに提出してくれた。また、毎週の対面授業には、ほとんどの学生が出席して、受講した3年生は真剣に取り組んでいた。	12人の履修者のうちで8人が授業アンケートに回答してくれた。アンケート評価は4.975とほぼ満点に近いぐらい高く、科目GPAが2.00を越えていたので、充実した授業を展開することができた。また、合格率（合格者÷履修者）は91.7%で、目標90%以上をクリアすることができた。さらに、日本人学生と留学生とのコミュニケーション活動が行うことができると学習効果が高められるので、今後も、1時間半の授業で実施できるといえると思われる。	授業評価 4.850 回答率 66.7% 科目GPA 2.08
S242052 戦略思考Ⅱ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	テキストをもとに、企業の決算書から、その企業の戦略やビジネスモデルを探る授業を行った。受講者が、会計に関心をもっており、また少人数であったこともあり、お互いにコミュニケーションを取りながら授業を進めることができた。	企業の戦略を探るにあたり、認知度の高い企業を対象とすることで、学生の関心と理解を得ることができたように思われる。また、学生とのコミュニケーションおよび学生同士のコミュニケーションが取れたことで、学習理解が進んだように感じた。次年度においても、意見をいえる雰囲気づくりに努めたい。	授業評価 4.320 回答率 100.0% 科目GPA 2.70
S242053 企業データ分析と活用 商 教選	経営比率分析の手法と意味・意義を理解し、企業の財務状況の判断ができる。 企業経営の診断の基礎を学習し、マネジメントに必要な基礎的スキルを身に付けることができる。	起業評価の分析手法を説明した。学生は最後に自分の興味を持った企業の財務諸表を調べ、どのような状態なのかを知ることができたと考えている。	科目GPA1.85であったが、F以外は2.05であった。 学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題の未提出者を減らす必要がある。また、簿記で学習した勘定科目を正しく理解していなかったので間違った報告が一部見られたので、次年度は事前学習される予定である。	授業評価 4.519 回答率 60.7% 科目GPA 1.85
S242055 ヒット商品企画論	世の中のヒット商品を基に、その成功要因を論理的に理解できる。 商品が生み出されるプロセスを理解することを通じて、企業で実際に商品企画やその過程のマネジメントを行うことができる。 現代企業のビジネスモデルについて、その全体像を把握することができる。	事例と理論を組み合わせ、問いかけをしながら、双方向的な講義を行うよう心がけた。また、事例として取り上げた商品の写真や企業のHPなどの紹介を通して、学生の関心を得られるよう心がけた。 現代企業によるヒット商品が生み出されるプロセスについて、概ね理解されたように思われる。	学生がよく利用するであろう企業（店）、商品、およびサービスを事例として取り上げることで、学生の関心が得られるように思われる。また、問いかけを多く行い、考えを設けることで、学生の理解が深まったように思われる。今後も、事例と理論を組み合わせ、問いかけをしながら、双方向的な講義を行うよう心がけたい。	授業評価 4.557 回答率 87.5% 科目GPA 2.88
S242057 国際関係法	主に条約について理解し、専門用語を把握することができる。 遭遇するであろう様々な法的局面で適切に対応して、企業で実際に商品企画やその過程のマネジメントを行うことができる。 ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身に付け、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	本講義は、条約を中心とした国際法の分野として、これまでの法学習に国際法的観点を組み込んで思考する重要な科目に位置付けられる。国際慣習法を含めて、国と国または国際社会の合意について、ときには新聞記事に見られる時事問題に触れながら、国際法や国際連合のような国際組織について理解を深めていくことができた。とりわけ、国際連合の役割について、具体的な問題の基礎を取り扱うことができ、一定の知識を得られたようである。	本年度も国際情勢により戦争をめぐる国際連合の役割の話題が多かったので、ニュース記事など多くの話題が提供できた。国際関係をめぐって、学生がより身近に感じられるよう、あるべき国際連合の在り方を探るべく、最新の論説や判例をより取り入れていきたい。	授業評価 4.645 回答率 51.3% 科目GPA 2.18
S242059 スポーツチーム経営論 【開放】	スポーツチーム経営の基礎理論を身に付けることができる。 領域に応じたスポーツチーム経営の実践スキルを身に付けることができる。	スポーツチーム経営論という授業では、達成目標からは、チーム（メンバー）のマネジメントなのか、アマチュアチームのチーム経営なのか、プロチームの収支まで含めたビジネスマネジメントなのか、明確でないため、授業内容の構成に苦労している。 学生自体の興味も、前者、後者、それぞれに分かれているようで、興味を継続させるという点に苦労した。 履修生の2分の1が4回以上の欠席数で、授業内容が飛んでしまうため、十分な理解をするのが難しくなっていると感じる。	履修者61名中、D,Eが10名、Cが21名と欠席が多いのに比例して、成績も低調であった。授業内容の構成には苦労しているが、年々、内容的に、こなれていっているため、学生にはわかりやすくなっているものとする。 チーム（メンバー）のマネジメントでは、具体的な事例やスライドの工夫を、プロチームのビジネスマネジメントでは、経営学の視点から整理することで、よりわかりやすい内容に再編していく。	授業評価 4.360 回答率 73.8% 科目GPA 1.59
S242060 スポーツ社会学	達成目標 社会におけるスポーツの役割や価値・意義について理解できる。 私たちが生きる社会とスポーツとの関わりを学ぶ。スポーツの肯定的な部分だけでなく、否定的な部分についても言及し、社会におけるスポーツの役割や価値・意義について社会学的な視点で考察していく。	3年次開講科目であることから、スポーツと社会との関わり、社会におけるスポーツの在り方、それらに関する歴史や制度等について取り扱う内容とした。これまでの経営に関する科目の内容、およびスポーツに関連する科目の内容を随所に織り交ぜた内容を構成した。 内容としては、社会学であるため、多少難解な部分もあるが、受講生にわかりやすく理解できるように構成や資料の作成を心がけた。 履修者自身が置かれている状況やこれまでの経験などと照らし合わせることで、現在までのスポーツと社会との関わりについて理解が深まったのではないかと考えている。	授業方法として、全ての回を対面授業とし、希望者には遠隔対応にて実施した。授業資料や課題の内容等について、難解な内容が含まれることから、図や表といった視覚的にわかりやすいものを取り入れることを意識した。達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の難易度は必要だと考える。今回は履修者が57名であり、対話を実施する回数はいくらでも取ることはできなかった。今後は履修者数が増えた際の授業内容や方法について再考し、より理解が深まるようにしていきたいと考えている。	授業評価 4.497 回答率 57.9% 科目GPA 1.40
S242062 卒業研究Ⅱ	学習から得られた問題意識に基づいて、その内容を卒業論文にまとめる。グラフ、図、フローチャートを用いて、自分の主張をより効果的に示すことができる。	これまでの学習の集大成として、各学生が興味をもつテーマを設定し、適切な参考文献による先行研究のリサーチと、リサーチクエストに対する自分なりのアプローチの結果を卒業論文にまとめる指導を行った。卒業論文の出来栄には、ややばらつきがあるものの、いずれも合格点には到達することができた。	締め切り間際に、切迫した状況で卒業論文を仕上げる学生が散見されたため、今後は全員が計画的に進められるよう、スケジュール管理を厳格化していきたい。	授業評価 5.000 回答率 18.2% 科目GPA 3.18
S242063 卒業研究Ⅱ	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身に付け、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	卒業論文の作成は毎年切羽詰り論文を書く学生が多い。中間発表は11月だが、夏休み前にもう一回発表する機会が必要である。	学生が論文を書くようになるにはどうすればよいか？長年の課題である	授業評価 5.0 回答率 50.0% 科目GPA 2.67
S242064 卒業研究Ⅱ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを卒業論文という形式で調査・研究し、解明していくことによって、調査能力を身に付けることができる。	卒業論文の作成を個別指導し、文献調査やインタビュー調査の手法の基本を指導した。その結果、個人差はあるものの課題発見力や論理的思考力が身についた。 また論文執筆や報告会でのプレゼンテーションを通じ、文章表現力や口頭表現力を養うように心掛けた。その成果としてゼミ生全員が一定レベルの卒論を完成することができたと考える。	卒業論文執筆の指導において、各自のテーマに応じて個別に調査方法の指導や参考文献の紹介を積極的に行いたい。 また各人の能力に応じ、よりきめ細かく個別対応を図り、特に留学生のサポートに力を入れたい。	授業評価 4.98 回答率 100.0% 科目GPA 4.00

令和6年度後期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S242065 卒業研究Ⅱ	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。	十分に卒業研究を進められる学生が2名、なんとか課題をこなせる学生が2名という状況であった。 結果的に、本試験までに十分なレベルに達した学生が2名、その後も粘り強く指導を続け、4名全員がなんとか卒業研究のレベルに達した。	15回目、4人とも出席しているため、授業評価はされているはずですが、集計データには存在しませんでした。 UNIPA確認では、4.65 100%です。 ゼミ内の学生レベルが高くなかったが、最後はギリギリ全員合格レベルには達した。 卒業研究として、一定レベルを求めるとであれば、インゼミ等、他のゼミの学生の進捗状況などを、お互いに把握できる機会を設けたい。	授業評価 4.650 回答率 100% 科目GPA 1.25
S242066 卒業研究Ⅱ	論理的な思考ができるようになる。数学的に問題を解決することができる。	学習過程評価は3回の宿題(満点の合計が50点)、学習成果評価は50点満点の筆記試験である。 正規分布の説明に正規分布発見の経緯、母集団・標本の説明に20世紀の初め頃までは母集団と標本の区別が明確でなかった等の歴史的な説明を加え、少しでも正規分布、母集団・標本等の初出の用語に親しめるようにした。 履修登録した70名中、15名が不合格(D,E評価)であった。	次年度は、中間発表会とは別に卒業論文の進捗状況を確認することを目的としたゼミ内の発表会を実施したい。	授業評価 4.657 回答率 46.7% 科目GPA 3.47
S242067 卒業研究Ⅱ	□ 経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	論文のテーマ設定、情報収集、論文構成の作成、発表の仕方等について指導した。個人差はあるが、各自が設定したテーマについて、収集した資料から考察を行い、その結果を他者に伝える力が身についたように思われる。	各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けた。前で発表できない学生の対応に追われ、今後は、授業以外の時間に個別対応する。授業評価アンケートを卒業式前日に実施していたがこの年度には実施されていなかったため授業最終日に実施する予定である。	授業評価 4.267 回答率 66.7% 科目GPA 4
S242068 卒業研究Ⅱ	①企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ②ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断するための能力を培う。	毎回テキストに基づいて、論文作成のステップ・バイ・ステップ方式で授業を展開した。受講生は9人、その内訳は、日本人学生5人と中国人学生4人であった。毎週書き足した論文を受講者全員の前で読みながら、修正すべき箇所を述べた。それを持ち帰って、次週、修正した論文を添付ファイルで送信して、再度受講生の前で読み上げ、修正箇所が本当に修正されているのかを確認するという一連の作業を繰り返し行った。 ただ、中間発表会はゼミ内で行い、また、コロナ禍の影響で審査審査発表会もゼミ内で行った。中間発表会に際しては、事前にも何度かリハーサルを行い、パワーポイントのスライドの修正を行い、時間内に発表できるようになるまで、繰り返し練習をさせた。また、卒論審査発表会では、全員が十二分に準備し、予定時間内で発表することができた。	ゼミ生は毎週の授業にほとんど出席して、演習課題や宿題を提出し、プレゼンテーションもある程度満足できるレベルであった。授業アンケートの授業評価と回答率に関しては、今回データ結果がないものの、昨年度の「専門ゼミナールⅣ」で満点に近い高評価をしてくれたので、今後も引き続き学生から高評価を得られるよう努めていきたい。また、科目GPAが3.67と極めて高かったことが良かった。また、合格率(合格者÷履修者)は100%で、目標90%以上をクリアすることができた。今後も効果的なゼミ指導を続けていきたい。	授業評価 4.680 回答率 55.6% 科目GPA 3.67
S242069 卒業研究Ⅱ	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、将来のキャリアに必要な資格あるいは公務員試験対策を通じて、専門的スキルを培う。	昨年度からのゼミナールの学習の集大成として、前期からの各学生が選択した労働法のテーマについて、それぞれのペースに合わせて研究を進めていった。主要な参考文献と最新判例の選定をもとに、効果的な論文構成を目指して指導を重ねた。卒業論文は、最終的に全員が合格点には到達することができたが、完成予定日より時間もかかった学生も複数いた。書式面を重視して細かく指導したこともあり、内容としては卒業論文にふさわしい論文に到達したものと考える。	卒業論文審査会に向けて、卒業論文の内容を効果的にプレゼンテーションできるように、文献を活用して指導方法をより工夫したい。アンケート回答の実施に努めたい。	授業評価 4.925 回答率 66.7% 科目GPA3.67
S242070 卒業研究Ⅱ	経営学関連の学習の成果として、経営絡みの分野の範囲内で各自卒業論文を制定し、そのテーマを解明すべく卒業論文を作成することを目的とする。そして社会に真摯に仕える能力を身につけてもらう。 経営学関連の問題に関連したテーマを自ら制定し、そのテーマを卒業論文という形式で調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	昨年度に比べると突出して優秀なメンバーは少なかったものの、真面目なメンバーが揃っていたので指導はやりやすかった。卒論も全員期限内に提出できており、最終的に全員A以上の評価をつけることができたので、一定の仕事は果たせたかと考える。	昨年度より授業評価値は向上し科目GPA値は下がっている。昨年度はS評価が多かったのに対してそこまですべて突出したメンバーが多かったことが事情としてあるが、科目としての満足度が高かったとすれば素直に嬉しいことである。ただ次年度のメンバーは問題児揃いなので、例年のやり方が通用しなさそうなものが懸念材料。	授業評価 4.767 回答率 66.7% 科目GPA 3.33
S242071 卒業研究Ⅱ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	論文のテーマ設定、情報収集、論文構成の作成、発表の仕方等について指導した。個人差はあるが、各自が設定したテーマについて、収集した資料から考察を行い、その結果を他者に伝える力が身についたように思われる。	各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けた。	授業評価 4.775 回答率 72.7% 科目GPA 3.55
S242072 卒業研究Ⅱ	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。 体育・スポーツを経営学、経済学、社会学、健康科学、医学といった様々な視点から捉え、社会における体育・スポーツの意義を考え、問題点を分析し、解決策を探索していく。	ゼミナール形式で、前期の専門ゼミナールⅣから引き続き、前半は卒業論文の各自のテーマに沿った資料収集と卒業論文の執筆を行った。そして、収集した資料および卒業論文についてまとめ、発表することを繰り返し行った。後半は、執筆している卒業論文の完成に向けて、添削と修正を繰り返し行った。 資料収集に苦勞する者もいたが、文献検索の方法の指導や参考資料を提供することで、資料収集のスキルはある程度身についたと思われる。しかし、収集した資料を読解し、精査することについては、もう少し時間をかけて取り組めるようにした方が良かったと感じている。また、これまでも繰り返し行ってきたプレゼンテーション資料の作成や、発表については、当初に比べ向上したと感じている。 今後は、資料の読解と、卒業論文の執筆方法について、早い時期から取り組むことができるよう、前期から構成を検討していきたいと考えている。	対面でのゼミナールと言うことで、解説と課題作成、卒業論文の執筆を効率良く進めることができるように工夫した。個別に指導する機会を多くし、卒論に関する内容説明を時間をかけて解説することに心がけた。今後も個別指導の機会をできるだけ多くとるように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。	授業評価 4.600 回答率 20.0% 科目GPA 3.40

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S242073 卒業研究Ⅱ	いままでゼミで習得してきたことをもとに、各自研究や課題となるテーマを見出し、研究テーマを選定し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながら、文章をまとめる力を身につける。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を身につける。	授業の前半は就職活動でゼミ生が全員揃うことがなかなか難しい状況だったため、個人指導が多かった。ゼミ生それぞれの卒業論文の進捗状況、就職活動に合わせて授業を進めた。学生の就職活動の時間を調整して授業以外の個別指導の時間を設けるようにした。各ゼミ生の進度に合わせた指導を心掛けた。	回答率も、評価も、GPAも上がった傾向。今年度は10名のゼミ生がそれぞれ就職活動を行っており、全員が同時に揃うことが難しい状況でした。そのため、個別指導を中心とした対応が多くなりました。授業は、各ゼミ生の卒業論文の進捗状況や就職活動のスケジュールに合わせて柔軟に調整しながら進めてまいりました。また、授業外の時間を活用して個別指導の機会を設け、進度や課題に応じた丁寧な指導を心がけました。今後も、学生一人ひとりの状況に寄り添いながら、卒業論文の完成に向けて必要な支援を続けていきます。	授業評価 4.850 回収率 80.0% 科目3.20GPA 3.2
S242074 比較思想論	歴史上有名な様々な思想の概略を理解している。近年の経営や情報（IT）に関する様々な思想の概略を理解している。それらを比較して考える事が出来る。	2024年度から受け持った科目であり、哲学という分野は研究したことがなかったため、非常に苦慮した。抽象的な表現が多く、学生にとっても理解が難しかったのではないかと感じている。思想を比較する観点から、身近な題材を哲学に絡めてよりわかりやすい内容で比較できるように時度度は進めていきたいと思っている。	専門外とはいえ、もう少ししっかりと勉強をして内容を把握しておかないと授業としては学生に理解を浸透させることは厳しいと思われる。次年度は少し研究をしながら、より踏み込んだ内容の授業を展開していきたい。特にディスカッションを多く取り入れ、活発な意見交換の場ができればと思っている。	授業評価 4.500 回収率 57.1% 科目GPA 1.86
S242075 卒業研究Ⅱ	経営学に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことにより、経営学に関する専門知識が身につけられることを到達目標としている。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を養うことを教育効果としている。	卒業研究Ⅱの担当は初めての経験だった。学生たちの卒業研究が少しでも質の高いものになるように指導に力を入れたが、経験不足を感じる場面が珍しくなかった。	提出された数々の卒業論文を改めて見直すこと、そのたびに改善点が見つかる。この事実から目をそらすことなく、反省から得た学びを将来に活かすために努力を続けていきたいと思う。	授業評価 4.371 回収率 58.3% 科目GPA 2.75
L242003 プレゼンテーションツール B1	①ICTの光と影を認識し、主體的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。	教科書の例題を中心に解説し学生に対して授業内課題を求め、授業外課題も求め毎回課題提出がある科目である。プレゼンテーションの発表はクラス全員に行わせ審査の一部も学生に担ってもらった。発表する形も学修したが学生はそれなりに楽しんでいるように見られた。 授業のビデオをユーチューブにアップし、unipaにリンクを張っているが利用する学生は小教であった。	アンケートからは、学生に満足されている。発表の機会が限られ、1人3分程度なのでせめて2回は発表させたい。	授業評価 4.50 回収率 57.1% 科目GPA 1.29
L242004 プレゼンテーションツール B2	①ICTの光と影を認識し、主體的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。	教科書の例題を中心に解説し学生に対して授業内課題を求め、授業外課題も求め毎回課題提出がある科目である。プレゼンテーションの発表はクラス全員に行わせ審査の一部も学生に担ってもらった。発表する形も学修したが学生はそれなりに楽しんでいるように見られた。 授業のビデオをユーチューブにアップし、unipaにリンクを張っているが利用する学生は小教であった。	アンケートからは、おおよそ学生に満足されている。オンラインの学生は自宅で動画を作成させ教室で放映した。これが学生から人気が高かった。	授業評価 46.77 回収率 72.2% 科目GPA 2.28
L242005 プレゼンテーションツール B3	①ICTの光と影を認識し、主體的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。	教科書の例題を中心に解説し学生に対して授業内課題を求め、授業外課題も求め毎回課題提出がある科目である。プレゼンテーションの発表はクラス全員に行わせ審査の一部も学生に担ってもらった。発表する形も学修したが学生はそれなりに楽しんでいるように見られた。 授業のビデオをユーチューブにアップし、unipaにリンクを張っているが利用する学生は小教であった。	受講人数が少ない分、予定より早く授業が進みいろんなことを教えることができた。学生も余裕があり喜んでいたりと思う。他のクラスも適正な受講人数にすべきである。	授業評価 4.31 回収率 72.2% 科目GPA 1.72
L242006 プレゼンテーションツール	ICTの光と影を認識し、主體的に判断して行動することができる。課題発見、問題解決にICTを活用することができる。社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。以上3点を到達目標としている。コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを教育効果としている。	学生は総合経営学科の中国人留学生、建築学科の日本人学生、スマートデザイン学科の日本人学生。多様な文化背景の持ち主たちを相手にしての授業展開には苦労を感じたが、指定教科書のとおり授業を進めたことも功を奏して、比較的スムーズな授業運営ができた。授業内課題を必ず時間内に完成するように指示したのもよかったと思う。	授業評価で満点を得ることができた。しかも学生たち全員からであった。授業運営にさらに磨きをかけるために改善点を探し、更なる努力を続けていきたいと思う。	授業評価 5.000 回収率 75.0% 科目GPA 3.25
L242011 統計学 B	①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	学習過程評価は3回の宿題（満点の合計が50点）、学習成果評価は50点満点の筆記試験である。正規分布の説明に正規分布発見の経緯、母集団・標本の説明に20世紀の初め頃までは母集団と標本の区別が明確でなかった等の歴史的な説明を加え、少しでも正規分布、母集団・標本等の初出の用語に親しめるようにした。履修登録した81名中、26名が不合格（D,E評価）であった。	統計学は、建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3つのクラスを開講している。総合経営学科用クラス的不合格率（DおよびE評価の学生数を受講者数で割った値）は2022年度19%、2023年度17%、今年度33%と大幅に悪化した。記述統計の授業に特化するなど、授業内容の見直しを検討したい。	授業評価 4.310 回収率 72.5% 科目GPA 1.51
L242013 英語コミュニケーションB	①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。	履修者は40人で、基本的に英語を使った対面授業を行った。毎週、ユニットの教材や資料をPPの画面に映し出したり、CDプレーヤーを活用したりして、授業を進めた。また、授業終了前に、ユニットの演習課題（授業内課題）を配布し、次週、その課題を提出するよう求めた。その後、学生が提出した課題（授業内課題）を点検し、個々の学生に評価フィードバックを記入し、授業開始前、全学生の机の上に返却した。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、ある程度高度で生きた英語の授業を展開することができた。	45人の履修者のうち35人が授業アンケートに回答してくれた。また、合格率（合格者÷履修者）は77.5%で、目標75%以上をクリアすることができた。英語を80%以上使用して、対面授業をなんとか進めることができたが、英語の発音練習やペア練習などをする時間をあまり取ることができなかった。今後は、学習意欲の高い留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語コミュニケーション力を伸ばすことを目指したい。	授業評価 4.303 回収率 77.8% 科目GPA 1.58

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
L242017 文章表現基本B	文章の主旨を的確に読み取り、自分の言葉で要約するとともに、自らの考えを文章表現する力を身に付ける。	授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組む。教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。これまでもあまり経験していない文章の要約や文章の添削を通して、文章表現に対する抵抗感の緩和と言葉に対する感受性の醸成に一定程度の影響を与えることが出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価 4.271 回収率 58.6% 科目GPA 1.10
L242020 日本語上級	日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	学生は全員留学生。国籍は中国・ベトナム・ネパール・モンゴル・インドネシアと多国籍だった。日本語中級の授業に好感を持ってくれた学生たちが大半を占めていて、授業態度がとてもよく、授業運営はスムーズだった。折りに触れて、出身国の事情について質問したので盛り上がりもあった。日本語教育には学習者の国に対する関心と愛着が必須であり、その知識を活かした授業となった。	多くの学生たちから高い授業評価を得た。比較的小さな学生たちから発話を引き出すという点ではまだ課題を残している。引き続き努力を続けたいと思う。	授業評価 4.886 回収率 63.6% 科目GPA 2.18
L242024 スポーツB B	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	技術指導、戦術指導は、的確に行えるが、学生の理解度によって、習得度が異なる。理解度を高めるためには、細やかなコミュニケーションが必要だと感じる。	履修生が26名と少なかったため、前半バドミントン、後半卓球を履修してもらった。受講ノートをしっかり書ける学生と、そうではない学生で、評価に差があった。ノートテイキングができない学生の指導が課題である。	授業評価 4.458 4.484 回収率 72.0% 73.1% 科目GPA
L242024 スポーツB B	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	受講者は27名で授業を展開した。実技を行う上で適正な種目として、バドミントンと卓球を選択した。授業前に、予習課題として、授業で行う技術や戦術について、各自で調べることで、授業に臨む準備ができ、ある程度の知識を持ちながら、調べただけでは理解不足点を、授業の中で学ばせることができたのではと考える。学んだことをゲームで発揮してみることで、新たな課題や、課題解決を模索させられたと考える。技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、時間的な配分も学生の状況に合わせて実施した。	実際の成績に比例はしているが、成績評価以上に、授業評価が高かった。授業評価回収率が72.0%で、多少、授業評価が高い(達成目標の達成度が高い)学生に回答が偏った可能性も否定できない。スポーツが不得意な学生もいるため、技術練習において、より適切なアドバイスを与えながら、自身で成長を実感させられるよう工夫していきたい。	授業評価 4.484 回収率 73.1% 科目GPA1.96
L242043 現代文化論	現代社会における文化の諸相に触れながら、文化と社会との関わりを考察するための基礎的な概念及び視点を獲得する。	毎回の授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が現代文化に関する様々な課題に関わる文章を読解したうえで、教授者が示した課題に対する意見や感想を、教授者がまとめる。次時の最初に、前時の内容の解説と受講者から出された意見や感想をまとめたものを受講者に示し、さらなる考察を深める形で展開した。受講者から出される意見や感想等から判断し、書物の活字に触れる機会が少ない学生に対して、相当量の文章を読む機会となり、現代文化を考える機会とすることが一定程度出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価 4.664 回収率 37.3% 科目GPA 1.20
L242045 中国語B B	中国語の発音構造や特徴を理解し、よく使われる基本的な表現ができる。中国語の文法の基本知識を応用できるようにすることを目的とします。中国語のそのものを勉強するだけではなく、中国語という言葉の側面にある文化や考え方についてもさらに深く理解することができる。	ほとんど中国語Aの単位を取得した受講生で、より日常の身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆっくりとしたペースを進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につかせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用したことで、授業中に練習できなかった分をカバーすることができた。	昨年と比較すると、アンケートの回答率は低下しましたが、授業への評価は高い結果となりました。現在、中国語Aを履修の学生が多く、授業を難しく感じる学生もいる状況です。そこで、具体例を交えた解説を増やすなどの対応を行い、今後の授業改善に努めていく予定です。また、将来的に中国語Aの履修を授業参加の必須条件とするべきかについても、現在検討しています	授業評価 4.509 回収率 88.0% 科目GPA 2.12
Q242009 教育実践演習	①教員としての使命感や愛情をもって、生徒の指導に携わることができる ②適切な生徒理解のもとに、教育環境に配慮し学級経営の見通しを持つことができる ③教科の基礎から発展・活用までを意識して指導することができる	3名の受講者。教育の最新情報と特別支援学校の訪問を行っているが、学校訪問は少人数が少なかった。最新建築設計を駆使した岡崎特別支援学校の訪問であったのもう少し多くの学生にも見て欲しかった。岡崎の教頭先生の丁寧な説明を受け、前年に訪れたにしろ特別支援学校よりも工夫がなされていると感じた、これは設計者が肢体不自由者の特性をよくわかっているからだと感じた。最新情報ではOECDで進められているラーニングコンパス2030が今後の、学習指導要領に強く反映されることを中心に考えた。教育の本質に迫りたいと考える。	次年度も岡崎特別支援学校の学校訪問を考えていきたいと考える。次年度は建築学科の学生も多く他学科の学生にとっても参考になるところが多いと考える。教育の最新情報では大きな目新しさはないが、ラーニングコンパス2030を元に教育の本質について話し合っていきたいと考えている。途中で1名が離脱し、最終的に2名の履修者になってしまったことが残念でならない。	授業評価 5.00 回収率 50.0% 科目GPA 2.0
Q243001 事前・事後指導	教育実習をスムーズに行いことができるように授業事例や指導案の書き方、実習中の姿勢などを事前に学ぶ。実習後の反省に基づき教師という職業の魅力や大変さを再確認する場とする。	後期は教育実習の該当者がいないため、レポート提出者での判断となった。教育実習は学生意識と社会人としての自覚の違いを実感するよい機会となった。ただ、学生の意識の違いにより取り組む内容が浅くなってしまいうことも課題として浮き上がってきた。3年生までの間に気持ちの持ち方のモチベーションが持てるような指導ができていけるとよいが・・・	少し、社会人としてのマナーも取り入れておきたいと感じた。教育実習は当外交の先生方の優しさにより何とかなったが、出身校であるがゆえの甘さも感じられた。高みを目指す人間性も養ってほしい。	授業評価 5.00 回収率 33.3% 科目GPA 2.0

令和6年度後期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
U242003 アート表現演習	①モチーフを画材を用いて描写することができる。 ②配色や平面や立体の構成によって感情を表現することができる。 ③計画性をもって作品の制作を遂行することができる。	デザイン教育の基本として、指示されたモチーフ（対象物）を各自が、鉛筆や絵具で画用紙に描写する実習を通し、色や形、材料や技法について段階的に学習できるように複数の課題を設定し、各課題の導入ではデモンストラーションや作例紹介を行い、制作途中では各自の能力に応じた助言を通して、観察力と表現力の向上を促した。	履修者115人、回答者65人であった。昨年度の評価4.303から僅かに上昇した。回答率も49.4%であった昨年度から7ポイント近く上昇し、一定の評価を得られたと考える。提出課題に対する効果的なフィードバックにより、教育効果を高められるよう、次年度以降も工夫を重ねたい。	授業評価 4.385 回答率 56.5% 科目GPA 2.31
U242002 世界の美術 D,B	① 日本と世界の代表的な美術の様式について知っている。 ② 日本と海外の美術と社会のかかわりについて説明できる。 ③ 美術作品を鑑賞し、評価することができる。	今年度6年目の開講となる共通科目である。授業内容は、世界の美術に関して、絵画や彫刻作品についての識を得ることに加えて、人間の歴史や世界のなかで宗教や政治と密着して重要な機能を果たしてきた美術が各時代や地域に固有な社会的・文化的状況の中で、どのような意味と価値をもっていたのかを考え、美術を通して人間のあり方を学ぶことにある。授業方法は、パワーポイントで作成した高精細な画像と解説をまとめた資料をUNIPAで配信し、個人がしっかりと主体的に作品を鑑賞し、解説を行い、授業の最後に簡単な課題提出により、集中力を高めるように配慮した。毎回の課題に取り組むことで理解度を深めるようにした。質問等をフィードバックすることで双方向型の学びとなるように配慮した。	履修者92人、回答者59人であった。2024年度後期の共通科目の中では第1位の評価となった。同じ科目・クラスの評価は、2021年度4.331、2022年度4.271、2023年度4.521となっているが、2024年度はそれらをいずれも上回る結果となった。継続的な授業改善が奏功したと考えられる。学部の科目では、毎年度受講生の多い科目であるが、学生主体に自ら学び、考える工夫をさらにしていきたい。	授業評価 4.600 回答率 64.1% 科目GPA 2.52
U242005 三河のまちづくりと観光	観光とは社会的、文化的現象のひとつであり、現代観光の仕組みや役割・影響・特長、観光を支える事業活動である観光事業を含め、観光に関する基礎的な知識を幅広く習得し、その全体像をつかむことを目的とします。観光産業の構成と特徴を理解することができる。観光政策と観光行政を理解し、観光と地域社会との関係性を理解することができる。三河地域のまちづくりと都市再生のアイデアを提案できる。	教員2名による授業で、3学科共通科目であり、それぞれが学習する専門分野の素材としてまちづくりに関心を持たせ、各学科における専門分野を踏まえたうえで、それぞれの学科の特徴を開ける授業である。建築だけではなく、経営も、デザインも勉強できる科目として、ゲストスピーカーの先生方（地域で活躍する方から直接話を開ける）ことに大変関心を示していた。また三河地域の一つの観光地或いは公共施設、商店街、一つの店などの現状について調べ、調べた内容に基づいて提案をし、発表できたことにより、今後社会人となってから必要となるプレゼンテーションについても取り組むことが出来てよかった。	昨年度の評価結果を振り返ると、アンケートの回答率は前年に比べて上がったものの、評価自体はほぼ水準でした。履修登録者は34名で、4年生の学生も含まれており、学年や学科が異なる中での合同プレゼンテーションを通じて、学生同士の相互理解と協働が促進されました。その成果もあり、授業全体としては概ね良好な評価を得ることができました。今後は、授業アンケートの結果を参考にしながら、3学科の学生がそれぞれ満足できる授業の提供を目指していきたいと考えています。また、各学科の学生が関心を持つテーマを柔軟に取り入れながら、学科を越えた交流や協働が生まれるような授業の工夫も進めてまいります。	授業評価 4.278 回答率 52.9% 科目GPA 1.88
U242006 三河のものづくり	①三河地方のものづくり産業に関する歴史を理解している。 ②三河の地域活性化に対する、ものづくり産業の現状を理解している。 ③岡崎市および岡崎商工会議所との連携を視野に入れた活動に取り組むことができる。	今年度は建築学科の過年度生の履修が多く、また1年生はスマートデザイン学科生がほとんど見当たらなかった。昨年度多かった留學生の過年度生は1人のみ。概して1年生の方が成績が良かった。本来は1年向けの積み上げ科目なので、過年度生が多い状況は科目の趣旨には合わなかったと言える。	共通科目としては今年度が最後となる。授業評価や科目GPAの数値は昨年度より向上した。次年度以降は科目名も変更の上建築学科専門科目となるため担当からは外れるが、新科目としての充実化を祈念したい。	授業評価 4.404 回答率 64.8% 科目GPA 2.28
U242006 三河のものづくり	①三河地方のものづくり産業に関する歴史を理解している。 ②三河の地域活性化に対する、ものづくり産業の現状を理解している。 ③岡崎市および岡崎商工会議所との連携を視野に入れた活動に取り組むことができる。	今年度6年目の開講となる共通科目である。三河地方の「ものづくり」に関する講義に加えて、「ものづくり」の一線で活躍している方々としてお招きしたゲストスピーカーが、ものづくり産業の具体的な戦略の立案・実施に関するレクチャー、および受講生の地域活性化のための提案作成についてのアドバイスを行った。さらに、受講生が主体的に調べ、考えたことを、発表資料としてまとめ、毎回、課題を作成することで理解を深めることができた。	履修者54人、回答者35人であった。昨年度の4.348から僅かに評価の平均値が上昇した。カリキュラム改訂により、次年度には開講されない予定であるが、地元である三河地域のものづくりに関する知識を涵養する科目として、一定の効果があったと思われる。	授業評価 4.406 回答率 64.8% 科目GPA 2.88
U242007 マーケティングと広告	①マーケティングと広告の関係を理解することができる。 ②広告の媒体と表現について、現在の動向を理解することができる。 ③商品やサービス、企業を想定して、広告制作のプランニングをすることができる。	事例と理論を組み合わせ、マーケティングと広告が日常生活に身近で、かつ3学科の専門領域と密接に関係している学問であることをわかりやすく説明するように心掛けた。広告賞を受賞するなど評価の高い広告の事例を紹介し、関心を高めると同時に、理解を促すよう工夫をした。	現在の潮流に合わせ、デジタルマーケティングやインターネット広告の説明をより詳しく行う。また紹介する事例は鮮度を重視し、学生が関心を持っているようにタイムリーで最新のものに更新する。価格戦略では、ダイナミックプライシングやサブスクリプションなど、新しい取り組みを紹介する。	授業評価 4.529 回答率 65.0% 科目GPA 2.45

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
G242001 日本の造形B	日本の現代的な造形行為への関心と理解を深め、受講生が現代社会の新しいニーズに応える造形行為に関して自立的に考察できることを目指す。	大学院1年生の選択科目である本授業の内容および方法は、人と人との関係に係る社会造形として成立してきた日本の伝統的なコトを対象に、それら社会造形の作法、礼儀、しきたり、行事、担い手等への関心を惹起し、意味や意義を再発見すべき造形の発見・発掘から、それらが生まれた社会背景や生産技術、時代評価等のサーベイを通して、社会造形に対する自らの造形評価をプレゼンテーションやディスカッションによって伝達・交換・発展できる資質を修得するものである。14回の授業のうち10回、授業内容に関する課題を設定することで、知識の定着に加えて、受講生自身の専門領域との関わりの中で考察する姿勢を身に着けるように工夫した。目標に対する一定の教育効果があったと考えられる。	履修者45人、回答者26人であった。2021年度秋学期に授業評価アンケートの高評価により表彰をいただいた科目であり、今年度も設問1,4,5の平均は満点(5.0)、設問2,3の平均が4.9となり、今期は受講生が45人と大学院授業の中で比較的多い中、高い水準を維持している。今後も、今年度の授業方法を踏襲し、さらに、討論等、考察力を高める工夫を図りたい。	授業評価 4.9 回答率 57.8% 科目GPA 3.64
G242002 造形特論	造形行為の本質と可能性、および造形をとりまく現代の状況について理解し、受講生自身が自然や文化の感性的な側面について自立的に考察できるようになることを目標とする。	大学院2年を対象とした本授業は、人間の感性、ならびに造形を巡って、これまでどのような問いと考察が重ねられてきたのかを学び、西洋と東洋の表象世界におけるさまざまな事例を通して、古今東西で描かれた世界がいかなるものか、また、それらを造形の担い手である芸術家や職人たちが、どのように捉えて造形行為にいたったのかを考えるものである。オンデマンド授業を主とした形式を採用し、受講生の興味関心を引く資料作成を心掛けた。10回の課題を通して、理解を深化させ、自省的に考察する力を身に着けられるよう工夫した。	回答者がなかったため、評価の結果は不明であるが、受講態度や提出課題の内容からは、一定の教育効果があったと考えられる。カリキュラム改訂により、この科目は今期で終了となる予定である。	授業評価 * 回答率 0% 科目GPA4.00
G242003 デザイン学特別講義	視覚伝達デザインを中心としたデザイン事例をもとに、デザインに関する総合的な知識と技術を学び、現代社会に存在する問題を解決するための企画・調査・設計・監理のための方策を計画することができるようになる。	本年度は履修者42名と大変大人数で、すべてオンデマンドで行う授業で授業実施を担保するのにかなりの労力が必要とした。レポートには学科や個人の興味対象の違いからかなり多様な内容となったので担当者の評価に違いが出たかもしれない。	毎回授業レスポンスを求めている。オンデマンド配信では動画とPDFを使っている。昨年のコンテンツをもとに新たなトピックも盛り込むようにした。4名の教員で対応したが、連絡はサイボウズで行った。	授業評価 4.8 回答率 63.2% 科目GPA 3.07
GA24203 都市設計論	達成目標 1. 都市に関する基礎的な歴史、必要性、目標、手法、法制度、課題について把握する。 2. 様々な時代や地域における都心のあり方に関心をもち、都市の歴史や、都市形態の変容などについて理解する。 3. 現代の都市を観察し、問題点を発見でき、その解決案を提案できる。 教育効果 修士研究の内容に合うように考察・分析力を高める。	資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように資料を手直した。また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫した。学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきた。	授業評価4.98と高いため、特に授業の進め方に問題はないようであった。今後は、与えるだけの授業にならないように、適宜コミュニケーションも取りながら、適切な意見や質疑をしながら、学生自分自身で成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価 5.0 回答率 69.2% 科目GPA 4.00
GA24204 都市環境論	都市環境に関する基礎的な知識を得るとともに、都市が抱える課題の把握、魅力の抽出などを演習やディスカッションを通して身につけ、未来のあり様について考える力を高めることを目的とします。魅力的で持続可能な都市の在り方について、各自が調べ、考え、提案することを通じて、都市の課題解決に資する総合的な力を養います。	都市課題を取り上げ、各回で異なる小テーマについて調べてもらい、発表をするという課題を重ねながら、積み上げたものを最終提案に結びつけた。学生それぞれが、都市課題に対しての建築的解決手法について提案を行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。	授業評価5.0 回答率 62.5% 科目GPA3.25
GA24205 インテリア実務論	インテリアに対する社会的要求の高度化・多様化に対し、機能性・安全性・快適性等を備えた質の高いインテリアを日頃から考察し、住宅・オフィス、商業施設等の領域において、インテリアの計画・設計から工事監理までを行う専門的知識・教養を身に付けることを目的としています。	インテリア実務に関する基礎知識や実際の業務などについて適宜資料を配布しながら、実用的な学びを行った。	日本語が得意でない留学生もいるため、スライド表現などコミュニケーション方法を工夫して、学習環境を整えていきたい。	授業評価 5.000 回答率 77.8% 科目GPA 2.78
GA24206 材料設計論	1. 建築物の材料設計を理解する 2. 建築材料の設計の評価法について理解する 3. 建築材料の設計の今後の展開について理解する □ 建築材料設計に求められる内容を理解する。具体的には無垢材、木質材料、石材、コンクリート、ガラス、金属、プラスチック、接着剤・塗料、焼成材料、エコ材料などは、質のいい建築を設計するために、建築材料の評価をし、特性を理解しそれぞれの材料を組み合わせるべくかを学び今後の展開となる研究に結び付ける。	受講生は3人だったが、1人は日本語が理解できず、理解してもらったための時間に授業時間を割くことになり他の2人に迷惑をかけたことと反省している。しかし、2人はどうしたら理解できない学生が理解できるかを一緒に考え、学びを深めてくれたことは良かった。	日本ができない学生にとって材料と建築を深く学ぶことは難しく、課題を2種類作成するなどの対応をしていく必要性を感じた。	授業評価 5.00 回答率 66.7% 科目GPA 3.67

GA24208 建築学ゼミナールB	達成目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。 教育効果 修士研究の内容に合うように考察・分析力を高める。	大学院生なので個人の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、あと1年半のスケジュールを見ながら、工夫しながら進めた。	修士研究の内容に相応しいように、設定したテーマに即した内容の課題をこなすように工夫をした。 論文の書き方指導や、内容について、細かく指導した。 遠地での建築調査にも同行し、建築の見方・調べ方を指導し、調査成果をどのようにまとめてくか、自分でも考えさせるように工夫しながら、指導した。	授業評価 5.00 回答率 100% 科目GPA 4.00
GA24210 建築学ゼミナールB	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をおとして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。	授業評価 - 回収率0% 科目GPA 3.0
GA24214 建築学ゼミナールB	自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をおとして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	大学院2年時に行う修士設計へと繋がるリサーチとテーマの設定、課題の整理を行った。	日本語が得意でない留学生もいるため、成果のプレゼンテーションの方法の重要度を高められるように指導を行う。	授業評価 5.000 回答率 75.0% 科目GPA 3.50
GA24214 建築学ゼミナールB	目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。 教育効果 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から、研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をおとして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。	修士設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、問題提起、コンセプトを整理し、研究計画の作成を行った。情報収集と分析を行い、テーマを設定することができた。	日本語が得意でない留学生もいるため、コミュニケーションをとりながら、日本語能力を高め、ディスカッションできる環境を整えていきたい。	授業評価 5.000 回答率 75.0% 科目GPA 3.50
GA24216 建築学ゼミナールB (集中) 遠隔授業可能	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	大学院生なので個人の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、あと1年半のスケジュールを見ながら、工夫しながら進めた。	修士研究の内容に相応しいように、設定したテーマに即した内容の課題をこなすように工夫をした。 論文の書き方指導や、内容について、細かく指導した。 遠地での建築調査にも同行し、建築の見方・調べ方を指導し、調査成果をどのようにまとめてくか、自分でも考えさせるように工夫しながら、指導した。	授業評価 5.000 回答率 33.3% 科目GPA 3.67
GA24222 建築学ゼミナールE	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をおとして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。	授業評価 5.0 回収率 100.0% 科目GPA 3.0
GA24228 建築学ゼミナールE (集中) 遠隔授業可能	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	大学院生なので個人の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、あと1年半のスケジュールを見ながら、工夫しながら進めた。	修士研究の内容に相応しいように、設定したテーマに即した内容の課題をこなすように工夫をした。 論文の書き方指導や、内容について、細かく指導した。 遠地での建築調査にも同行し、建築の見方・調べ方を指導し、調査成果をどのようにまとめてくか、自分でも考えさせるように工夫しながら、指導した。	授業評価 0 回答率 0% 科目GPA 4.00

GA24229 建築学ゼミナールE 集中	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。	MIから継続してきた文献・資料分析の蓄積に基づき、研究成果として一定水準の修士論文を完成することができた。	修士論文の作成においてスケジュール管理を厳密に行い、後半に負担が集中しないように注意したい。調査結果から考察へのプロセスをより重視した指導を行う。	授業評価 5.00 回答率 100.0% 科目GPA 3.00
GA24234 建築学ゼミナールF	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をおとして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。	授業評価 5.0 回収率 100.0% 科目GPA 3.0
GA24240 建築学ゼミナールF (集中) 遠隔授業可能	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	大学院生なので個人の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、あと1年半のスケジュールを見ながら、工夫しながら進めた。	修士研究の内容に相応しいように、設定したテーマに即した内容の課題をこなすように工夫をした。論文の書き方指導や、内容について、細かく指導した。遠地での建築調査にも同行し、建築の見方・調べ方を指導し、調査成果をどのようにまとめてくか、自分でも考えさせるように工夫しながら、指導した。	授業評価 0 回答率 0% 科目GPA 4.00
GA24241 建築学ゼミナールF 集中	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	MIから継続してきた文献・資料分析の蓄積に基づき、研究成果として一定水準の修士論文を完成することができた。	修士論文の作成においてスケジュール管理を厳密に行い、後半に負担が集中しないように注意したい。調査結果から考察へのプロセスをより重視した指導を行う。	授業評価 5.00 回答率 100.0% 科目GPA 3.00
GD24201 デザイン演習B	領域の実践的デザイン能力の向上を図るため、研究を実現するために必要となるプロセス及び検討手法と実施スキルを獲得することが目標である。研究コンセプトを具現化するための検討手法の修得において、デザイン分野全体を視野に入れた実践的なデザイン能力の向上を図ることを目的としている。	学部で習得した内容と重複せずさらに学ぶべき内容の授業であり、その目的は達成されたと考える。	留学生は、専門知識・技術の前に日本語の能力向上が不可欠である。課題違反を防ぐために板書やUNIP等工夫する。	授業評価 4.9 回答率 50.0% 科目GPA 3.5
GD24203 情報デザイン論	情報デザインの手法を理解し、現存する情報の評価や問題点の抽出を行います。また、メディアの特性を活用したコンテンツの構成方法を立案できるようにします。	履修者は6名で、担当者のゼミに参加する3名と、そのほかのゼミ3名であった。それぞれが大変まじめに授業に取り組んでいたと思う。授業でもそれぞれの研究内容に沿った突っ込んだ議論ができたと思うが、語学の問題もありどこまでできたかは疑問がこった。提出されたレポートは良好であった。	情報デザインで扱うトピックに対し、担当者が講義を来ない、問題提起をして授業で討論を行った。そのあと、講義の内容も踏まえて各自の研究内容を情報デザインの観点から説明するレポートを課した。授業では経過発表と討論を行った。本年度は受講者が少なかったので講義内容を拡充した。	授業評価 4.7 回答率 83.3% 科目GPA 3.50
GD24204 空間デザイン論	人が認知する空間を分析的に把握することで、より美的な空間を演習できる能力の向上が目標です。	多様な領域の学生31名が対面で参加した。双方向の意見交換を重視しながら講義を進め、日本の住まい方と学生の母国の住まい方を比較する課題に変更し、学生の興味・関心を引き出す工夫を行った。プロセスごとに課題を設定し、プレゼンテーションを実施することで、授業内容の理解を深め、能動的な学びにつなげることを目指した。	改善点として、専門的すぎる内容は他分野の学生の興味を損ねる一方、基礎的すぎると製品空間領域の学生には物足りなく感じられるため、授業内容のバランス調整が求められる。そこで、導入部分で幅広い学生が理解しやすい基礎知識を丁寧に解説し、その後専門的な応用例や実践課題を取り入れることで、多様な学生の関心に対応する工夫を進めていく。また、グループワークやディスカッションを通じて異分野の視点を共有し、互いの理解を深める機会を設けることも有効と考える。	授業評価 4.9 回答率 54.8% 科目GPA 2.85
GD24205 IoTデザイン論	I o Tに関する知識と人との関わり方を理解し、デザイン開発に適用できる基本的知識と能力を付けることが目標です。	I o Tに関する知識と人との関わり方に対して、特に人との関わり方についてのメディア事例や関連研究を収集し、調査した後に、個別の応用案を考案することができた。しかし、学生間の議論についてはうまくできていなかった。	2024年度で閉講となる科目であるが、新しい技術の利用について学生間の議論が活性化するファシリテーションの工夫について改善の余地がある。	授業評価 5.0 回答率 25.0% 科目GPA 2.00
GD24206 デザイン学ゼミナールB	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自持の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめる。	IIに続いて行った科目で、学生は進め方が理解して順調に研究が行われた。	留学生は、専門知識・技術の前に日本語の能力向上が不可欠である。	授業評価 4.9 回答率 25.0% 科目GPA 3.88
GD24221 デザイン学ゼミナールE	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とする。研究テーマの成果に向けての整理作業と成果が社会に及ぼす効果を検討しながら、研究成果を最終研究報告書としてまとめることを目的とする。ここではモデルの制作を行う。	順調にモデルの作成が行われた。	特に問題はない。	授業評価 5.00 回答率 100% 科目GPA 4.0

GD24207 デザイン学ゼミナールB	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自持の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。	学生間に表現に対する意識の違いがあったが、わりと円満に授業を行うことができたと思う。	履修者の中にインスタレーションを研究対象とする学生がいたので、インスタレーション検討用に教室を1か所確保した。他に2名の動画作成の学生がおり、コンテンツ設計、作成方法を指導した。	授業評価 5.0 回答率 66.7 % 科目GPA 4.00
GD24208 デザイン学ゼミナールB	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自持の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。	留学生も入学して半年も経つと、この授業が集中講義で出欠が入れられないことが分かり、欠席が目立つ者が出てきた。また、一人暮らしで同級生が中国人だけのため、日本語能力が日に日に低下する。日本での就職に不利だし、研究指導も伝わりづらい。本人の意見や発表などもおぼつかなくなる。授業ではできる限り日本語のコミュニケーションを増やす必要があった。すでに中国で一つ大学を出ており、修了条件や提出物などを明確にすれば、各自のペースで研究は進むようだ。それ以上に日本での2年間を充実したものにするため、懇親会や旅行の相談に積極的に乗ってあげた方が良さそうである。	修了条件や提出物については明確に伝え、標準的なスケジュールは伝えるものの、各自のペースを尊重してもいいかと思う。そして日本人として日本の紹介と学生生活の意義深さと楽しさを伝えるコミュニケーションを大切にしたい。	授業評価 5.0 回答率 42.9% 科目GPA 2.71
GD24211 デザイン学ゼミナールB	学生本人の研究内容とその進捗に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしている。	特にありません。	授業評価 5.0 回答率 42.9% 科目GPA 4.0
GD24212 デザイン学ゼミナールB	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自持の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。 専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて十分に理解することを目的とします。	受講生6名(全員留学生)を対象に対面で実施した。毎回の授業で進捗状況の報告を行い、実制作段階では迅速な対応が必要となるため、授業時間外にはSNSを活用してきめ細かくサポートした。	少人数であるため、留学生それぞれの能力や個性に応じた対応を心がける。学生が主体的に学習を進められるよう適切にサポートするとともに、授業アンケートへの回答も積極的に促す。	授業評価 4.9 回答率 100.0% 科目GPA 3.33
GD24221 デザイン学ゼミナールE	これまでの一連の研究内容と社会との関連を検討し、成果の補完を行い修士研究として相応しい内容と体裁を完成させることを目標とする。研究テーマの成果に向けての整理作業と成果が社会に及ぼす効果を検討しながら、研究成果を最終研究報告書としてまとめることを目的とする。ここでは文章作成を行う。	留学生の日本語の文章作成は難儀であった。	日本語能力が付いていないと文章作成が難しいので、訓練が必要である。	授業評価 5.0 回答率 100.0% 科目GPA 4.0
GD24222 デザイン学ゼミナールE	これまでの一連の研究内容と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。	デザイン学ゼミナールFと連携して授業を行った。履修者は2名であったが、一人はやや研究が遅延気味で、発表まで気をもんだ。家庭の問題も起こり、修了直前に帰国する事態も発生し、ずいぶん心配した。履修者全体を通じて、生成AIを研究の各所で使用したが、ずいぶん新しい試みも行うことができ、大きな収穫だったと思う。	1名はメディアインスタレーションを研究しており、担当者研究室横の空き室を確保して空間の検討を行った。もう1名はキャラクターデザインで、コンテンツ制作にかなり多くの生成AIを使用した。	授業評価 5.0 回答率 50 % 科目GPA 4.00
GD24223 デザイン学ゼミナールE	これまでの一連の研究内容と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。	この授業では修了研究の作品指導を主とした。2名中1名は就職活動に追われてなかなか作品が形にならなかった。もう1名はPC上や計画ばかりの机上の空論の時間が長く、実物を見ての調整、修正の時間が少なかった。しかし最終的には素晴らしい作品を発表できた。各自が選んだテーマの奥深さとそれを伝えるための熱意のこもった発表は、担当である私の心さえ打つものだった。	初めての修了研究の指導でバタバタしていたが、学生らの努力により高い評価を得ることができた。今後は、中国で一つ大学を卒業したものに対する指導として、ある程度本人のペースに任せるとともに、日本での大学院生活をより意義のあるものになるように助言していきたい。	授業評価 なし 回答率 0% 科目GPA 4.0
GD24226 デザイン学ゼミナールE	学生本人の研究内容とその進捗に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしている。	特にありません。	授業評価 5.0 回答率 33.3% 科目GPA 4.0
GD24227 デザイン学ゼミナールE	これまでの一連の研究内容と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。 研究テーマの成果に向けての整理作業と成果が社会に及ぼす効果を検討しながら、研究成果を最終研究報告書としてまとめることを目的とします。	受講生2名(留学生)を対象に対面で実施した。学生は毎回の授業で必ず進捗状況を報告し、締め切りが近づくにつれて迅速な対応が必要となるため、授業時間外はSNSを活用してこまめにサポートした。	少人数であるため、留学生の能力や個性に合わせて対応する。学生が主体的に進められるよう、サポートしていく。	授業評価 - 回答率 -% 科目GPA 2.5
GD24230 デザイン学ゼミナールE	これまでの一連の研究内容と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。	一通りの研究プロセスを経て、成果をまとめることができた。発表資料のまとめと発表ポスター制作が難航し、発表と質疑対応の練習量が不足していた。	発表と質疑応答の機会を増やすことで、研究内容の充実と発表時の対応力の向上を目指す。	授業評価 - 回答率 0% 科目GPA 2.75
GD24235 デザイン学ゼミナールF	これまでの一連の研究内容と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。	デザイン学ゼミナールEと連携して授業を行った。それでも時間が足りなかったところがあった。	修士研究発表に向かって研究を進める支援を行った。1人1人の学生に十分な対応ができるよう、連絡を取り合う仕組みを構築した。コンテンツ指導のため、中国語を学習した。	授業評価 5.0 回答率 50 % 科目GPA 4.00

GD24236 デザイン学ゼミナールF	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。	この授業では主に修士研究の料集の制作を指導している。留学生には資料集の必要性が理解できないようではなかなか進まない。特にPC世代にとっては手書きのアイデアスケッチなどなく、メモ書きすら存在しなく、途中経過を残すとかという意味が理解し難いようだ。しかし合格の条件として必要だと明確に伝え、3週おきにチェックするなどすることにより、最終的にはまずまずのものができた。	結果としては提出し合格になったが、最終審査において合否判定する教員は形式的にでもきちんとチェックする姿を学生に見せるべきであったと思う。	授業評価 なし 回答率 0% 科目GPA 4.0
GD24239 デザイン学ゼミナールF	学生本人の研究内容とその進捗に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことを行っている。	特にありません。	授業評価 5.0 回答率 33.3% 科目GPA 4.0
GD24243 デザイン学ゼミナールF	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い修士研究として相応しい内容と体裁を完成させることを目標とします。	研究における制作物の実装が進まず、実験と結果のまとめに関する検討や考察が浅い状態となった。スケジュール管理の徹底が必要。	スケジュールの明確化を図り、受講者が常に状況を把握しつつ研究を進行できるようにサポートする必要がある。	授業評価 - 回答率 0% 科目GPA 2.0

令和6年度通信教育部建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03108 造形学原論	全ての造形作品は、主に形体や色彩といった造形的な要素を何らかの意図をもって空間の中に構成したものである。造形作品理解の基本は、その作品において「どのような要素が用いられているか」「どのように構成されているか」このふたつである。この科目では、基本的な構成原理を応用し実際の造形作品がどのような構成に基づいてどのような要素を配置し、組み合わせているのか、さらにはそれがどのような意図に基づくものであるのかを分析的に考察できる力の習得を達成目標とする。	当該科目は、通信教育部通信科目の中では他教科に先駆け、2016年度から主教材として動画教材を中心としたデジタル教材による授業を実施しています。造形作品の構図、構造分析という抽象的で難易度の高い課題に、対面の指導ではない通信授業で取り組ませるものであるが、提出されたレポートの質を見ると動画教材による学習が功を奏していることがうかがえます。造形に対する考察は抽象度が高く何がともすると正解が不明瞭になりがちな分野である。これを補うため評点のための評価シートを作成し評価項目ごとに丁寧にコメントを記すことで、より具体的に評点の基準、根拠を伝えることができるようになりました。	本科目では学習内容をより効果的に理解し、学習成果を高めるために考察対象の作例を選択することがポイントとなります。ポイントをまとめた授業資料作成の必要を感じています。
03151 デッサン基礎	作品発想の手法、伝達の手法として、頭の中で造形を思い描く力、それを表現できるデッサンの技術、考え方を習得する。	対象を観察し正確に再現的描画をするという一般的なデッサンの授業ではなく、築学という分野における造形基礎力養成のためのデッサンのあり方を独自に考案した授業です。対象再現的な表現ではなく、造形物を構想するためのデッサンと建築の実務の中でコミュニケーションのために必要なデッサンというふたつの力を養成するための独自の課題を実践しています。また透視図法を理解させるため糸を使ってデッサンさせる手法もオリジナルの教授法も取り入れています。建築学科に特化したデッサン教育としており、その有効性については受講生からの満足度が得られていると考えます。 対面授業に加えオンデマンド授業も実施し、対面授業に出ることが困難な学生にも受講することができるようにしています。オンデマンド学習にあたっては昨年度の改善課題であったteamsを活用した学習指導を取り入れました。	学生に提出させたレポートは使い方を考えることで以後の学生の学習教材としても有効活用できます。その点を中心に改善、工夫をしていきたいと考えています。
03152 立体造形基礎	・素材の特性を活かした造形表現ができるようになる。 ・発想の手法を理解し多様な造形を表現できるようになる。 ・テーマ、目的、表現意図に応じた立体造形表現ができるようになる。 ・今後の建築造形学習の基礎となる発想法や技法を習得する。 ・自身の作品について発表できるようにする。	当該科目は創造的発想のプロセスを理解し経験させることに重点を置いた科目であり、概ねその目的は達成できていると考えます。作品の良さ、味わいについても指導していますが、これは頭で理解するだけではなく造形作品を多く味わうことによって感性を磨くことが必要になってきます。これを3日間の短い期間の中でどう身につけさせるかという点についての指導方法について検討してきました。 学習内容は立体構成における造形発想の手法が中心となります。多くの学生はこれまで考えたことも学んだこともない発想法を体験しその活用の仕方を習得することで造形活動に対し前向きに取り組んでいます。	昨年度より毎日の授業の最後に振り返りレポートを書かせることにしています。学生からはレポートの制作が学習の上でとても有意義である、という意見を聞くことができました。これを受けレポート項目をよりきめ細かく設定することで、学生からはレポート作成を通じ日々の学びを整理し理解し、気づきを得られるようになりました。学生に提出させたレポートは使い方を考えることで以後の学生の学習教材としても有効活用できます。その点を中心に改善、工夫をしていきたいと考えています。
03153 デザイン基礎	・素材の特性を活かした造形表現ができるようになる。 ・発想の手法を理解し多様な造形を表現できるようになる。 ・テーマ、目的、表現意図に応じた立体造形表現ができるようになる。 ・今後の建築造形学習の基礎となる発想法や技法を習得する。 ・自身の作品について発表できるようにする。	当該科目は創造的発想のプロセスを理解し経験させることに重点を置いた科目であり、概ねその目的は達成できていると考えます。多くの学生ははじめて学ぶ発想法の有効性を実感していると考えます。毎日の授業の最後に振り返りレポートを書かせることにした。学生からも、文章化することでその日1日の学びを整理し、身につけることができるので良い、という意見を聞くことができました。 対面授業に加えオンデマンド授業も実施し、対面授業に出ることが困難な学生にも受講することができるようにしています。オンデマンド学習にあたっては昨年度の改善課題であったteamsを活用した学習指導を取り入れました。	学生に提出させたレポートは使い方を考えることで以後の学生の学習教材としても有効活用できます。その点を中心に改善、工夫をしていきたいと考えています。
03281 環境造形基礎A	デッサンを学習する目的を理解する。デッサンで使用する用具を理解する。線、面、明暗といった基本的な要素の描写のしかたを理解する。平面の紙の上に立体感、空間感を表現できるしくみを理解する。形体や明暗、位置関係の観察方法を理解する。	デッサン本制作に至るまでの基礎的な技術、理解を高めることに重きをおき、初学者でもステップバイステップでデッサン表現に臨めるように工夫した課題構成となっています。実技は文字や図表よりも実際にやってみせることのできる動画教材が有効であると考え通信教育部通信科目の中で最も早い。 学生の大部分はデッサンの未経験者。自宅を取り組む中で自身の到達度や欠点、不十分な点など理解するのが難しいです。まず基礎課題を提出し学習の理解度や修正ポイントなど指導する。基礎課題に合格した後応用課題に取り組むというように課題提出を二段階に設定して丁寧に指導している。	添削の中で気づいた多くの学生に共通する欠点に関するフィードバックを行うなど、随時情報発信できるオンライン学習の利点を生かした授業を行なっていきたいと考えます。造形の学習はひとつの答えに辿り着くようなものではなく、多くの事例にあたり多様な考え、感じ方を身につけさせる必要があります。そのため学生の作例とそれに対する教員のコメントなど紹介することがフレキシブルにできる学習プラットフォームが求められます。
03282 環境造形基礎B	美しい造形物とは何かを理解・制作でき、将来のデザイン・造形活動に生かすことが出来る。	デザイン学科募集停止に伴い様々な授業を前担当者から受け継ぎ、自身の教育理念に基づき新しい授業内容に改定してきたが、当該科目だけはいまだに前担当者の実施した内容のままを担当している。通信科目において直接対面で指導することができない状況で作品を政策させることは簡単ではありませんが、特に立体造形物や材料や道具の使い ^方 など初めて取り組む学生には困難が伴っていると考えます。現段階でもそのあたりの指導には不足を感じていることについて昨年度述べたが、本年度まだ改訂ができていない状態です。	造形の学習はひとつの答えに辿り着くようなものではなく、多くの事例にあたり多様な考え、感じ方を身につけさせる必要があります。そのため学生の作例とそれに対する教員のコメントなど紹介することがフレキシブルにできる学習プラットフォームが求められます。

令和6年度通信教育部建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03283 環境色彩学	物理的、生理的側面から色彩を理解することができる。色彩の分類、整理、体系化について理解することができる。色彩の感情効果、生理的作用、配色原理を理解し、作品制作に活用することができる。	実際に様々な平面造形作品から配色をサンプリングさせ、それをテキストの理解に基づき分析、考察させるという学習内容は、知識面のみではなく、作品を構想する力を養うのと同時に作品を鑑賞したり参考にしたりにする場面にも資する有効な学習体験を与えていると自負しています。当該科目では2016年度から動画教材を作成し副教材として使用しています。評価についても評価項目を細かく設定し評点と同時に教員からの具体的なフィードバックコメントを記載、これにより学生が自身の達成度を知ると同時に振り返り学習が有効に行われるようになったと考えます。	随時情報発信可能なオンラインの利点を生かし、学生のレポート添削を通じて必要と思われる情報を随時発信していく必要があると考えていますが、現状の通教オンライン（UNIPA）の使用ルールではそれが自由に行えないため、別の方策を考えるざるをえない状況です。ひとつの答えがある学習ではないため多くの事例に触れさせ多様な考え方を身につけさせたいと考えています。
03284 サイン・グラフィックデザイン概論	空間や建築デザインの中でサイン・グラフィックデザインが果たす役割について学習し、グラフィックデザインの基礎知識を習得することを目標とする。中でもフォントやロゴデザインについて理解を深め、ピクトグラムやサインとして、視覚的な情報を効果的に伝える方法について学習する。	レポートの題材として取り上げられるサインデザインやロゴタイプに多くのパリエーションが見られ、受講生が本授業を通してサイン・グラフィックデザインへの興味や知識を広げることが出来ていると評価しています。	デザインを論理的に分析することができていない提出物が多いので、取り上げているサインデザインや学生の制作物について、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03344 卒業研究 I	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛けています。	卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い傾向があります。メモリングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えるよう工夫しています。
03344 卒業研究 I	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	テーマ設定から学生一人一人に寄り添い、それぞれの経験や課題設定を尊重しながら、最終的なアウトプット（建築の卒業設計）に結びつくよう指導しています。最後の最後までこだわられるように、紙面レイアウトも含めたプレゼンの指導も行なっています。	卒業設計は、学生自身がテーマを設定し、設計し、プレゼン（表現）する約半年間にわたる科目です。学生にとっては、スケジュール管理がとて難しい科目なので、タイミングを見て、次のステップに移行し、出戻りしないように、できる限り検討してきたことを積み上げて進むように指導しています。
03345 卒業研究 II	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛けています。	卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い傾向があります。メモリングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えるよう工夫しています。
03345 卒業研究 II	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	テーマ設定から学生一人一人に寄り添い、それぞれの経験や課題設定を尊重しながら、最終的なアウトプット（建築の卒業設計）に結びつくよう指導しています。最後の最後までこだわられるように、紙面レイアウトも含めたプレゼンの指導も行なっています。	卒業設計は、学生自身がテーマを設定し、設計し、プレゼン（表現）する約半年間にわたる科目です。学生にとっては、スケジュール管理がとて難しい科目なので、タイミングを見て、次のステップに移行し、出戻りしないように、できる限り検討してきたことを積み上げて進むように指導しています。
03351 建築造形A	建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことだろうか。雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。	丁寧なヒアリング・指導を心掛け、かたちをつくる楽しさを感じてもらえるように努めております。	学生が造形のアイデアの動所を理解できるよう、既存の建築作品の造形のプロセスを整理した教材を用意することで改善を試みます。
03351 建築造形A	建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことだろうか。雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。	設計系科目やCAD系科目に入る前の導入として位置付けられているため、建築のデザインや設計に興味を持つように、わかりやすく丁寧に指導することを心掛けています。「かたち」がどのようにしてつくられているか、鳥の目線や人の目線など様々な角度から建築を見て感じる楽しさを伝えられるように努めています。	美しい「かたち」をつくることに難しさを感じる学生も多く、ラフな模型のつくり方を教えて、模型をつくりながら「かたち」を考えるように指導しています。その上で、スケール（縮尺）感も大切な要素であるため、人や動物などの基準になる模型も制作させて、模型を通して実感できるように心掛けています。

令和6年度通信教育部建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03354 建築設計 I - a	住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。	数回の対面のエスキスをを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けております。	建築の基礎的な表現方法を理解してもらうために、図面の描き方、模型の作り方を指導します。
03354 建築設計 I - a	住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。	設計系科目の1つ目であることもあり、設計のプロセスを実感してもらうよう心掛けています。エスキスの場面では、まずは視野を広げるために（他の学生のアイデアにも触れられるように）、グループでのエスキスを取り入れています。設計提案の密度が高くなるにつれ、個別指導を行うようにしています。	イメージした建築物を具体化するための図面を描く力を身につけてほしいので、設計図の基礎的な作図・表現方法など、伝わる図面の描き方、模型のつくり方を指導しています。
03356 建築設計 II - a	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	数回の対面のエスキスをを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けております。	建築を3次元的に検討する方法を理解してもらうために、スケッチ、模型、3D CADを用いた検討方法を指導します。
03356 建築設計 II - a	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	設計系の2つ目の科目であるため、施設の複合化も含めた機能面、構造や設備といった技術面についても理解できるように、身近な施設に置き換えより具体的にイメージできるように指導しています。エスキスの場面では、まずは視野を広げるために（他の学生のアイデアにも触れられるように）、グループでのエスキスを取り入れています。設計提案の密度が高くなるにつれ、個別指導を行うようにしています。	街中の環境に立地することもあり、周辺景観に調和した建築を考えられるように、エスキス段階からスケッチ、模型、CADなど、多様なツールを活用して検討できるように指導しています。
03358 建築設計 III - a	計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の設計課題に取り組む。「建築設計 II-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的な条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。	数回の対面のエスキスをを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けております。	敷地や、既存の建築作品のリサーチを行い、作品に適切にフィードバックを行うことができるよう、重点的に指導します。
03363 建築マネジメント概論B	地域の中で建築が果たす役割を理解し、地域の環境を維持形成していくマネジメントを習得することを目標としています。建築物は環境の中に立地し、地域の生活の場や仕事の拠点となります。地域と建築との関係を考え、建築が地域社会の形成や運営に果たす役割に着目し、住環境マネジメント、エリアマネジメントを中心に学習します。	住環境マネジメントやニュータウン（団地）再生をテーマにしたレポート課題では、取り上げる事例が多岐にわたり、建築マネジメントに対する興味関心を喚起できていると感じています。身近な住環境へ目を向け、「ものづくり」だけでなく、「ことづくり」の視点へも広げることができていると評価しています。	文章だけでなくまとめているレポートが多く、図や写真、表やグラフなどのビジュアルに補完する資料を引用して、読み手の理解を促進するように指導しています。学生の興味関心をより広げられるように、レポートの返却時に様々な情報をコメントするよう意識しています。
03364 卒業研究 I	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をおして卒業設計・論文にまとめる。建築、造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言、指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の展示作品として優秀作品を輩出できている。通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールなどネット環境をうまく活用できている。Zoomを活用したオンラインゼミや卒研審査会は抵抗感なく活用することができるようになった。卒研審査においては名古屋や東京また福岡など複数会場を同時につなげて行うことができ、オンラインの良さを活かすことができるようになってきた。	約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られる。併修生においては卒研ゼミ担当と定期的な連絡をとり、学生の状況を確認するようにしている。今後も学生が途中であきらめないように教員や併修校担当者とも連携し学生サポートを行う。
03365 卒業研究 II	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をおして卒業設計・論文にまとめる。建築、造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言、指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の展示作品として優秀作品を輩出できている。通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールなどネット環境をうまく活用できている。Zoomを活用したオンラインゼミや卒研審査会は抵抗感なく活用することができるようになった。卒研審査においては名古屋や東京また福岡など複数会場を同時につなげて行うことができ、オンラインの良さを活かすことができるようになってきた。	約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られる。併修生においては卒研ゼミ担当と定期的な連絡をとり、学生の状況を確認するようにしている。今後も学生が途中であきらめないように教員や併修校担当者とも連携し学生サポートを行う。

令和6年度通信教育部建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03367 構造力学Ⅰ演習	<p>建築構造力学の基礎的な計算ができるようになる。テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、説明を聞きながら理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。</p> <p>「構造力学Ⅰ」の学習内容を補完する科目として、面接授業によって講義を行い、構造力学の基礎的な知識を修得する。力学の基礎的な考え方、静定構造物と不静定構造物の違い、各種静定構造物の反力・応力の計算方法、断面の力学的性質、さらに部材の断面設計法や梁の変形について、テキスト等の演習問題を通して解説する。手計算による様々な解法を学ぶことで、構造物に働く力の流れや大きさ、変形状況を論理的かつ感覚的に理解し、構造設計を行う際に必要となる力学の素養を身につける。</p>	<p>構造力学Ⅰ演習は面接科目であり、直接、学生へ説明することができる。計算が苦手な学生もいるが、3日間の集中授業を通して分かりやすい授業を心がけている。対面授業後には復習用のオンデマンドコンテンツが視聴できるように設定を行っている。対面授業と復習用のオンデマンドコンテンツの両方で学生が理解しやすい授業を今後も工夫していきたい。</p>	<p>授業がとてもしっかりやすかったというアンケート評価もあるが、最終の課題を行うと結果に大きな差がみられた。授業を聞いていなくても理解できているようだが、課題を行うと途中でつまづいているケースがある。どこで間違えているかをしっかりと確認できるように復習用のオンデマンドコンテンツを視聴できるように設定している。オンデマンドコンテンツを今後も活かしながら、コンテンツの改善や新規コンテンツ作成も行っていきたい。また質問等は通信科目と同様に通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで丁寧に対応していく。</p>
03371 建築計画学Ⅱ	<p>本科目では公共的な施設についての建築計画を学習する。地域や社会に開かれた、公共性を持った建築物としては、学校、図書館、美術館、博物館、病院、福祉施設、コミュニティ施設、事務所などの施設がある。また複数の用途・機能を併せもった複合施設もある。これらの施設は建築単体として成立するものではなく、社会のしくみの中で計画されるものである。そのため、周辺環境に対する配慮や社会的寄与が求められる。こうした建物の計画の理論と方法論を代表的な事例などを参照しながら学習する。</p>	<p>レポート作成時に学習した建築計画の基礎知識が、終末試験の答案に反映されており、レポートの添削が適切に行われていると評価しています。</p>	<p>調べたことなどのまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や計画手法に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。</p>
03376 構造力学Ⅰ	<p>建築構造力学の基礎的な計算ができるようになる。テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。</p> <p>建築物は、自重以外にも風や地震、積雪などといった自然の外力を受ける。これらの外力に対して建築物は安全である必要があり、それを確かめるために行われるのが構造設計である。本科目は、その構造設計を行う上で必要となる構造力学について学ぶ。力のつり合いや静定構造物と不静定構造物の違い、構造骨組・荷重の種類から始まり、静定構造物の反力・応力計算へと学習を進める。さらに部材断面形状における力学的特性や応力度、各種部材の設計、梁の変形そして基本的な不静定構造物の計算についても理解する。</p>	<p>面接科目である構造力学Ⅰ演習と連携して学習が進められるように工夫している。また学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。</p>	<p>レポート添削や試験採点を見ると理解度に差がみられた。計算が苦手な学生がいるので、分かりやすい教材作成が必要である。どこでつまづいているのかも今後確認していきたい。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。</p>
03377 構造力学Ⅱ	<p>実際の建築物に近い不静定構造物についてたわみ角法や固定モーメント法などの各種解法を用いて応力計算方法を習得することを目標とする。</p> <p>不静定構造物の応力算定について高度な計算知識と理論の修得を必要とするたわみ角法や固定モーメント法などの解法により計算する。また構造物の塑性変形や崩壊メカニズム、保有水平耐力について理解する。</p>	<p>構造力学Ⅰに比べて難解な内容であるが、レポートや試験結果をみるとおおむねテキスト学習ができているようである。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。</p>	<p>テキストから学習はできているようであるが、構造力学Ⅰのような学習指導書があればより理解が深まると思われる。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。</p>
03384 建築法規	<p>建築物をつくる上で必要となる建築関係法規の基礎知識を習得し、建築設計や施工、監理などで活用できる能力を身につけること、さらには将来、建築士試験の資格取得のベースとなる法令知識を養成することを目標とする。</p> <p>わが国で建築物を建てる場合には、様々な法律が関わりますが、建築物自体の基準を定めた基本的な法律として建築基準法がある。本科目では建築基準法を中心として、都市計画法、建築士法、その他の関連法令を体系的に学び、主要となる法令の目的や制限内容を理解する。図解テキストを用いながら法令の要点をおさえ、法令集より関連法令を調べる力をつける。そして建築士等の問題に取り組み、法令の理解をより深める。</p>	<p>学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。</p>	<p>レポート内容や試験結果をみると学生の理解度に差がみられるため、学習指導書の内容をさらに工夫していきたい。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。</p>
03388 CADⅠ	<p>CADとは何か。建築のみならず多くの産業分野に始まり、あらゆるところで利用されるようになった2次元、3次元の描画ツールである。1970年代後半に考案されてより目覚ましい発展を遂げてきている。建築分野では正確性が重要視され、Computer Aided Drafting の位置づけであったが、近年はComputer Aided Design という本来的な使われ方がなされるようになり、ツールとして一般的に欠かせないものとなった。CADの基本操作の修得のみに留まらず、立体的思考に基づく設計課題に対して各自のアイデアを2次元CADでまとめたい。</p>	<p>設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができている。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。</p>	<p>学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。</p>
03388 CADⅠ	<p>CADとは何か。建築のみならず多くの産業分野に始まり、あらゆるところで利用されるようになった2次元、3次元の描画ツールである。1970年代後半に考案されてより目覚ましい発展を遂げてきている。建築分野では正確性が重要視され、Computer Aided Drafting の位置づけであったが、近年はComputer Aided Design という本来的な使われ方がなされるようになり、ツールとして一般的に欠かせないものとなった。CADの基本操作の修得のみに留まらず、立体的思考に基づく設計課題に対して各自のアイデアを2次元CADでまとめたい。</p>	<p>設計課題に取り組みながら、ル・コルビュジエ設計のユニテ・ダビタシオン(マルセイユ)と、CAD(AutoCAD)の操作を学ぶ科目で、効率的に学習に取り組むことができている。CAD系科目の1つ目であることもあり、学生それぞれのスキルや理解度を考慮しながら、それぞれの設計提案に対し、わかりやすく丁寧に指導することを心掛けています。</p>	<p>学生は教員の操作解説をスクリーンや大モニターで見た上で、自分のパソコンで操作をしますが、パソコン操作に慣れている学生もいれば、不慣れた学生もいるため、全ての学生が理解できるように、少しずつ操作解説や実演をするように心掛けています。</p>

令和6年度通信教育部建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03389 CAD II	「CAD I」で学んだ2次元CADは平面的な図面作成が主たる目的であるが、3次元CADは模型を作るように立体的表現に適している。2次元CADの操作・作図方法との違いを確認しながら、3次元CADならではのモデリング(形を作る)、テキストチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な3次元CADの操作方法を修得する。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができています。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03390 CAD III	「CAD I」で学んだ2次元CADは平面的な図面作成が主たる目的であるが、3次元CADは模型を作るように立体的表現に適している。2次元CADの操作・作図方法との違いを確認しながら、3次元CADならではのモデリング(形を作る)、テキストチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な3次元CADの操作方法を修得する。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができています。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03398 現代建築論	現代建築のデザインは多様であり、一瞥で把握できるものではない。これを理解するために必要な、建築に関する広範な知識を身に付けることが第一の目標である。基礎を身に付け建築を見る目が養われれば、現代建築が分かるようになり、楽しく感じられるようになる。日常的に最新の建築デザインに触れる習慣を身に付け、その中で興味を持った建築について調査研究を行なうのが、第二の目標である。	レポートの題材として取り上げる建築作品や建築家に多くのバリエーションが見られ、受講生が本授業を通して現代建築への興味や知識を広げることが出来ていると評価しています。	調べたことまのめ的な記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や建築家に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03399 都市計画学	おもに20世紀の近代都市計画の流れを学んだ上で、我が国の都市計画の制度や役割、技術を理解することを目標としています。日本および欧米の都市計画の系譜をたどり、都市の要素としての建築を制御し、望ましいとされる都市の姿を実現するために考え出された、土地利用や交通計画、各種建築・都市施設の計画について学習します。	レポート課題では、自分が居住している都市あるいは取り上げたい都市(市、町、区レベル)を選び、都市計画マスタープランなどを参照して、その都市の抱える課題や将来都市像、都市計画制度などについて学習していますが、身近な都市を扱うことで、建築を規定する大きな枠組み(都市計画制度)への興味関心が喚起できていると評価しています。	文章だけでまとめているレポートが多く、図や写真、表やグラフなどのビジュアルに補完する資料を引用して、読み手の理解を促進するように指導しています。学生の興味関心をより広げられるように、レポートの返却時に様々な情報をコメントするよう意識しています。
03289 リサーチ演習	建築計画や都市計画のための適切な情報や資料を探ることができる。量的研究と質的研究のために大量統計調査と少数精密調査を理解し使い分けができる。目的に応じた調査方法と分析方法を用いることができる。	比較的好くできたレポートが多かった。難易度の高い科目であるが、頼りになる参考文献も多いので学習の姿勢がそのままレポートに直結する科目でもあり、そのように指導することができた。	専門性の高い内容となっている為かよくできたレポートが多い一方で基本的な質問も散見された。何かしらの補助教材が必要かも知れない。
03388 CAD I (面接)	立体的なインフィル空間に与条件を満たし提案性のある設計として2次元作図により建築図面として表現できること。	ユニテ・ダビタシオンをテーマとした課題の設定を行うことで学生が課題に興味を持ちやすい工夫を行いました。事前学習として、お越し絵図の要領で組み立てられるペーパークラフトのユニテ・ダビタシオンを用意し、居室の空間的理解をしてからスクーリングに臨めるよう工夫しました。配布資料としてユニテ・ダビタシオンの概要を示したものの、1/100でCADでトレースした図面、エスキス用紙を配布し、取り組みやすい工夫をしました。	テキストを独自のものを作成しeラーニングを通じて学生に配信しました。予習・復習にも使える新たな教材も用意しスムーズな進行を目指せればと思います。受講者過多で運営が困難な回がありました。年間を通じて平準化した受講機会が提供できることが望まれます。
03389 CAD II (面接)	建築を構成する主要素である「壁・柱・階段・フリップ」を用いて、奥行や高さに関する領域を、認識・操作できるようになること	抽象的な建築条件を設定し、造形的な条件を設定することで、既成概念の外へ向かわせる実践を行なった。事前学習として半野外空間を有する建築の事例調査を課すことで、スクーリングでの取り組みに行かせる工夫を行なった。また事前学習を授業の中で互いの調査結果を発表し情報を共有することで多くの建築事例を知る機会を設けた。予習復習しやすいうようCAD操作のオンデマンド教材をeラーニングに用意した。	CADのバージョンアップや機能の変更、追加に伴って知識情報のアップデートと、eラーニングコンテンツのアップデートについてさらなるスピード感が求められる。
03390 CAD III (面接)	3次元CADによる立体的な建築表現に加え、マテリアルによるリアリティある表現ができること。与条件を読み解き、複数階の建築としてまとめて提案できること。	3次元CADを用いた設計と表現の応用としてCAD II から発展的な内容を盛り込むことを工夫した。事前学習では平面図及び断面図を読み解いて外部空間との一体感を設計に取り込む工夫について学ぶこととした。またCAD I 及び CAD II のスクーリングを受講してから時間が経っていたり、スケジュールの都合でCAD II を受講できずにCAD III の受講に臨む学生の為にCAD I 及び CAD II の振り返りも触れていながら応用までできるよう時間の配分に気を遣った。	内容が盛りだくさんで時間が不足しがちである科目となるので、復習もしやすいようさらなるeラーニングのオンデマンドコンテンツの充実が望まれる。
03344 卒業研究 I	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少しeラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。今年度においてもZoomなどの活用があった。
03345 卒業研究 II	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少しeラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。今年度においてもZoomなどの活用があった。
03379 設備計画学	到達目標 給排水衛生・防災設備、空調調和・換気設備、電気・通信設備について、現在の設備だけでなく、これまでの変遷、建築基準法との関わり等を含め理解する。そのために、必要な書籍等を探し、調べた内容について自分なりに理解し、まとめ順序立ててレポートできる	比較的好くできたレポートが多かった。図表のないレポートやインターネットのみで教科書を読まずにレポートを作成しているものが多いことが見られた。4設題のうち2設題のレポートで良いのに4設題提出しているなど、問題を良く読まずに進めている学生が数名見られた。	教科書が古いので、新しいものに変更することを検討したい。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03388 CAD I (面接)	立体的なインフィル空間に与条件を満たし提案性のある設計として2次元作図により建築図面として表現できること。	近代巨匠の1人の代表的な作品を題材とし、学生が興味を持って取り組めるよう工夫をした。 事前学習として、ペーパークラフトのユニテ・ダビタシオンを用意し、居室の空間的理解をしてからスクーリングに臨めるよう工夫しました。 配布資料としてユニテ・ダビタシオンの概要を示したものの、1/100でCADでトレースした図面、エスキス用紙を配布し、取り組みやすい工夫をしました。	市販のテキストは使用せず独自のものを作成している。Eラーニングにて基本操作等が学べるようにしている。予習・復習にも使える新たな教材も用意しスムーズな進行を目指せればと思います。CADの動画が音声なしなので字幕をつけて欲しいといった学生からの要望があったため、改善が必要だと感じている。
03389 CAD II (面接)	建築を構成する主要素である「壁・柱・階段・ブリッジ」を用いて、奥行や高さに関する領域を、認識・操作できるようになること	事前学習として半野外空間を有する建築の事例調査を課すことで、スクーリングでの取り組みに行かせる工夫を行なった。 また事前学習を授業の中で他の学生が提出したレポートを紹介し、情報を共有することで多くの建築事例を知る機会を設けた。 予習復習しやすいようCAD操作のオンデマンド教材をeラーニングに用意した。	CGベースのレンダリングにTwimotionを使用している。AIを使ったレンダリングもできるので今後検討も必要だと考えています。
03344 卒業研究 I	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中の学びを活かして、その集大成として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	前回からzoomを活用して学生が受講しやすいような体制にする方向に向かっている。
03345 卒業研究 II	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	前回からzoomを活用して学生が受講しやすいような体制にする方向に向かっている。
03354 建築設計 I-a (面接)	課題を読み解き、空間や造形を模型で表現し、デザインの趣旨をまとめ発表する能力の習得。	3つの課題に取り組んでもらい、それぞれ異なるスケールで作成することにより縮尺について理解してもらおうという狙いがある。固定概念にとらわれず発想したものを形にする訓練として設計の前段階の科目として取り組んで貰っている。	一人一人に丁寧な指導ができた。発表や講評もじっくり行うことができた。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03395 防災と建築	<p>建築には人命や財産を保全するという役割がある。東日本大震災やそれに伴う津波、阪神・淡路大震災などの巨大災害、あるいは都市型洪水などを事例に出すまでもなく、建築の歴史を振り返れば、地震や大火、風水害との戦いの積み重ねであったと言っても過言ではない。本科目では広く建築に係わる災害や事故を未然に防止する方策や、被害を軽減する方法について学ぶ。</p>	<p>レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。</p>	<p>授業評価： レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで関連する情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。</p>
03386 建築デザイン論	<p>近代以降、デザインは「製造に先立ち形を造ること」と定義されている。これに従えば、建築デザインとは「施工に先立ち建築空間の形を造ること」と言えるだろう。建築デザイン論では、この「形」という面から建築を考えてみる。建築空間とそれを構成する建造物の形態について学び、どのようなデザイン手法によってこれらが造り出されていくのかを習得しよう。達成目標は、 (1) テキストを通読し建築デザインの手法についての基本概念を学ぶ。 (2) 建築を形態によって分析し、建築デザインの手法についての理解を深める。 (3) 建築デザインの持つ広範な可能性や問題点について考察する。</p>	<p>レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。</p>	<p>授業評価： レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで全国の著名建築施設情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。</p>
03354 建築設計Ⅰ-a	<p>建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。 雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態を決定する」ということと比べると建物は建</p>	<p>一人一人に丁寧にヒアリング・指導を心掛け、モノを作る意欲・楽しさを感じてもらうように努めている。受講生に不合格者が居ない。</p>	<p>授業評価： 製作する量が多いことから、制作意欲が低減する傾向にある。早期に最終成果物イメージの掲示、アイデアを導くでいしゅカッションの増加に努める</p>
03356 建築設計Ⅱ-a	<p>住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。 この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザイ</p>	<p>エスキスの回数を増やし、全受講生に対しこちらから席に向かい指導している。受講生に不合格者はいない。3日間で、学力が伸びていることを実感する。</p>	<p>授業評価： 作図の基礎・建築知識の少ない受講生が多く、授業内で、作図・スタディーの進め方、模型の作り方を講義する</p>
03358 建築設計Ⅲ-a	<p>地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。</p>	<p>最終成果物には、着色すること、スケッチベース・ダイアグラムの提出を義務付けているが、全員工夫をして提出している。授業中の講義・エスキス回数を増やす工夫による効果である。</p>	<p>授業評価： 構造・エスキスの進め方に、弱いところがあり、わかりやすい講義の工夫、パワーポイントなど教材の工夫で改善を試みる。</p>
03344 卒業研究Ⅰ	<p>計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の設計課題に取り組む。「建築設計Ⅱ-I」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的な条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。</p>	<p>ワークショップ、現地調査により、共同作業・敷地・都市構造を読む力を養うことに成功している。</p>	<p>授業評価： 施設の複合化に対し戸惑う学生が多く、どのように取り組むか、わかりやすい教材を製作し、授業で使用する。</p>
03345 卒業研究Ⅱ	<p>在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。</p>	<p>ゼミでは、丁寧な指導に心掛け、指導担当学生は、S評価、卒業研究展出展に選ばれた。</p>	<p>授業評価： 丁寧に指導を行うが、長期戦の為、途中何度か、ベースが極端に落ちる傾向にある。いかに持続的に研究活動を促すかが課題であり、ゼミの回数を増やすことと、毎回ゼミの課題が提出図書に何らか関連するよう努める。</p>